清水遺跡

第8次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 224 集



2016

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター



清水遺跡

第8次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 224 集

平成 28 年 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター





調査区近景(北から)



D区完掘全景(南西から)



G 区完掘全景(北から)

本書は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、清水遺跡の調査成果をまとめたものです。

清水遺跡は、山形県のほぼ中央に位置する村山市にあります。村山市は、東西に広く、東を 奥羽山脈、西を出羽丘陵に囲まれ中央には最上川が北流しています。遺跡は、最上川が蛇行す る右岸のなだらかな山麗部に立地します。その範囲は南北約 1.3km、東西約 150 ~ 380m を 測り、清水集落の大半を含む広大な遺跡です。

この度、一般県道村山大石田線村山北 IIC 設置工事に伴い、事前に工事予定地内に包蔵される、清水遺跡の発掘調査を実施しました。調査では、縄文時代の陥穴や奈良・平安時代の竪穴住居跡と区画施設と考えられる屈曲する溝跡に囲まれた、主軸方向がほぼ一致する掘立柱建物群などの遺構が検出され、土師器、須恵器、黒色土器、墨書土器など多くの遺物が出土し、当時のこの地域の様相を知る多大な成果を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター 理事長 菅野 滋

凡 例

- 1 本書は、一般県道村山大石田線村山北 1 IC 設置工事に係る「清水遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課の委託により、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 本書の執筆は、第Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ章を氏家信行、第Ⅱ章を森谷康平が担当し、三浦秋夫、黒坂雅人、伊藤邦弘、 斉藤敏行、須賀井新人が監修した。
- 5 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系(世界測地系)により、高さは海抜高で表す。方位は座標北を表す。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

ST…竪穴住居跡 SB…掘立柱建物跡 SK…土坑・陥穴 SD…溝跡

SP…ピット SX…性格不明遺構 EP…遺構内柱穴 EK…遺構内土坑

 ED…遺構内溝跡
 EL…カマド跡
 EB…建物跡柱穴

 RP…登録土器
 RO…登録石器・石製品
 RM…登録金属製品

7 遺構・遺物実測図の縮尺は各図に示した。また、遺構実測図中の遺物は 1/12 の縮尺で採録した。なお、遺構実測図の網点の用法は下記のとおりである。

:遺物:柱痕跡

- 8 墨書・刻書土器の「□」は解読不明文字を示す。
- 8 遺物実測図の断面黒塗りは須恵器を表す。また、拓影断面図の配置は、縄文土器は左から外面・断面とし、他の 土器は内面・断面・外面の順に掲載した。
- 9 遺物観察表において、()は石器・石製品は残存値を、土器は図上復元による推計値を示す。
- 10 基本層序および遺構覆土の色調記載については、2008 年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

調查要項

遺跡名 清水遺跡 遺跡番号 208—114

所在地 山形県村山市大字名取字清水北

調查委託者 山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課

調査受託者 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

受託期間 平成26年5月7日~平成27年3月31日

平成 27 年 4 月 30 日~平成 28 年 3 月 31 日

現地調査 平成26年6月2日~12月3日

調查担当者 平成 26 年度 調查課長 斉藤敏行

課長補佐 須賀井新人

専門調査研究員 氏家信行(調査主任)

調査研究員 尾形知哉

調查員 森谷康平

平成 27 年度 整理課長 伊藤邦弘

調查研究専門員 氏家信行(調査主任)

調查員 森谷康平

調查指導
山形県教育庁文化財・生涯学習課

調查協力 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所

東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所

村山市教育委員会

山形県教育庁村山教育事務所

村山東根土地改良区

業務委託 地形・遺構測量(俯瞰撮影)業務 株式会社ワクニ(平成26年度)

基準点測量業務 株式会社三和技術コンサルタント (平成 26 年度)

理化学分析業務 パリノ・サーヴェイ株式会社(平成26年度)

遺物保存処理業務 公益財団法人山梨文化財研究所(平成27年度)

発掘作業員 相原繁雄 阿曽吾郎 阿部保子 石井敏巳 石川政治 伊藤久美 伊藤耕平

井上耕一 大場耕一 大場信行 大類千代子 大類彦一郎 尾崎たつ子 海藤三男 工藤秀昭 笹崎莉奈 笹原功 笹原庄司 柴田みよ江 鈴木千秋 須藤美知子

縄正治 西塚勉 原田幸三 星川正和 堀澄雄 松坂英勝 松田義洋

(五十音順)

整理作業員 井上和誉 大場美香 鏡幸枝 齋藤佳奈 鈴木美香 布川絢美 (五十音順)

目 次

1 調査に至る経過・・・・・ 1

I 調査の経緯

	2 調査の	方法と経過	<u>1</u> ···· 1
П	遺跡の立地と環	境	
	1 地理的	環境	5
	2 歴史的	環境・・・・・	6
Ш	遺跡の概要		
	1 遺構の	分布	11
	2 遺物の	分布	11
IV	遺構と遺物		
	1 縄文時	代	24
		代	
V	理化学分析		
		炭素年代測	定∵115
	2 テフラ		
		定········	
VI	まとめと考察	, _	
,,		まとめ・・・	· · · · · 125
		性格と年代	
		HILL III	120
却	·書抄録······		券本
	 		
X25 (11*	工件四		1.3 kg
	1	E C	
表 1 遺跡地名表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10	表 4 放射	性炭素年代測定結果・・・・・・116
表 2 掘立柱建物観察表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	102	表 5 テフ	7ラ分析結果・・・・・・118
表 3 遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	105	表 6 樹種	同定結果・・・・・・122
	义	版	
第 1 図 調査区概要図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4	第 10 図	遺構配置図 5 · · · · · 18
第 2 図 地形分類図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8	第 11 図	遺構配置図 6 · · · · · 19
第 3 図 遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9	第 12 図	遺構配置図 7 · · · · · 20
第 4 図 遺構配置図の割付図 1 · · · · · · · · · ·	12	第 13 図	遺構配置図 8 · · · · · 21
第 5 図 遺構配置図の割付図 2 · · · · · · · · · · · ·	13	第 14 図	遺構配置図 9 · · · · · 22
第 6 図 遺構配置図 1 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	14	第 15 図	遺構配置図 10 23
第 7 図 遺構配置図 2 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		第 16 図	SK1145・1911・縄文時代の遺物 (1) · · · · 33
第 8 図 遺構配置図 3 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		第 17 図	縄文時代の遺物 (2) 34
第 9 図 遺構配置図 4 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	17	第 18 図	ST1818、SK1819 • 2162 (1) · · · · · 35

第 19 図	ST1818、SK1819・2162(2)······	36	第 56 図	SK1904、SP2219、SK2019・2036・
第 20 図	ST1818、SK1819 • 2162(3)·····	37		2037 • 2129 · · · · · 73
第 21 図	ST1818、SK1819・2162 遺物分布図······	38	第 57 図	SK2164、SP2168、SK391 • 392 • 395 • 396 · · · · 74
第 22 図	ST381 • 382 • 386 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	39	第 58 図	SD1029 • 1142 · · · · · 75
第 23 図	ST381 • 382 • 386 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	40	第 59 図	SD1054 • 1857 · · · · · 76
第 24 図	ST381 • 382 • 386 (3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	41	第 60 図	SD1061 • 1062 · · · · · · 77
第 25 図	ST381・382・386 遺物分布図・・・・・・・・・・・・・	42	第61図	SD1750 · · · · 78
第 26 図	ST383 • 384 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	43	第 62 図	ST1818 出土遺物(1)····· 79
第 27 図	ST478、SK510 (1)	44	第 63 図	ST1818 出土遺物(2)・・・・・ 80
第 28 図	ST478、SK510 (2) ······	45	第 64 図	ST381 出土遺物(1) · · · · · 81
第 29 図	SB1820 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	46	第 65 図	ST381 出土遺物(2) · · · · · 82
第 30 図	SB1820 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	47	第 66 図	ST382 出土遺物 · · · · · 83
第 31 図	SB1820 (3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	48	第 67 図	ST386 出土遺物 · · · · · 84
第 32 図	SB1953 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	49	第 68 図	ST383・384 出土遺物、ST478 出土遺物(1) · · · · 85
第 33 図	SB1953 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	50	第 69 図	ST478 出土遺物(2) · · · · · 86
第 34 図	SB2151 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	51	第 70 図	ST478 出土遺物(3) · · · · · 87
第 35 図	SB2151 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	52	第71図	ST478 出土遺物(4) · · · · · 88
第 36 図	SB2152 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	53	第72図	SB1953 • 2151 • 2160 •
第 37 図	SB2152 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	54		1038、SK2144 出土遺物 · · · · · 89
第 38 図	SB2154、SK2144(1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	55	第 73 図	SK2162 出土遺物、SK1819 出土遺物(1)・・・・・ 90
第 39 図	SB2154、SK2144(2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	56	第74図	SK1819 出土遺物(2)・・・・・・ 91
第 40 図	SB2160、SK2156 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	57	第 75 図	SK1819 出土遺物(3)・・・・・ 92
第 41 図	SB2160、SK2156(2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	58	第 76 図	SK1446 出土遺物(1)・・・・・ 93
第 42 図	SB1038 • 2176 • 2186 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	59	第77図	SK1446 出土遺物(2)・・・・・・ 94
第 43 図	SB2176 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	60	第 78 図	SK1446 出土遺物(3)・・・・・・ 95
第 44 図	SB2176 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	61	第 79 図	SK1446 出土遺物(4)、SK2185 出土遺物(1)・・・・ 96
第 45 図	SB2186 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	62	第80図	SK2185 出土遺物(2)、SK1872 出土遺物 · · · · · 97
第 46 図	SB2186 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	63	第81図	SK2036 · 2129 · 392 · 395 · 396、SD1142 ·
第 47 図	SB1038 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	64		1054・1857・1061・1750、SP 出土遺物 ・・・・・ 98
第 48 図	SB1038 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	65	第82図	遺構外出土遺物(1) · · · · · 99
第 49 図	SB1038 (3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	66	第83図	遺構外出土遺物(2) 100
第 50 図	SB1038 (4) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	67	第84図	遺構外出土遺物(3) 101
第 51 図	SB1697 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	68	第 85 図	暦年較正結果(1 σ)・・・・・・・117
第 52 図	SB1697 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		第 86 図	火山ガラス屈折率・・・・・・119
第 53 図	SB1697 (3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	70		テフラ・・・・・・120
第 54 図	SB469····	71		生材・炭化材(1) ・・・・・・123
第 55 図	SK1446 • 1872 • 2185 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	72	第89図	生材・炭化材(2) ・・・・・・124
	5	真	図版	
巻頭写真		- •	写真図版	4 ST1818 完掘・土層断面
巻頭写真 2	2 D 区完掘全景 G 区完掘全景		写真図版:	5 ST1818-EL•EK•RP•RQ
写真図版	1 調査区全景		写真図版 6	5 ST381・382 完掘・土層断面
写真図版	2 D~G区完掘全景		写真図版 7	7 ST381 • 382-EL • RP • RQ
写真図版:	3 SK1145・1911 完掘・土層断面		写真図版 8	3 ST383・384 完掘・土層断面

写真図版 9	ST383 • 384-EP • EK • RP	写直図版 40	SD1750 土層断面・完掘状況・RP 出土状況
写真図版 10	ST386 土層断面・遺物出土状況	写真図版 41	
写真図版 11	ST478 土層断面・完掘		ST1818 出土遺物(1)
写真図版 12	ST478-EL • EP	写真図版 43	ST1818 出土遺物(2)
写真図版 13	SB1820 検出・完掘		ST381 出土遺物(1)
写真図版 14	SB1953 検出 SB1953-EB 土層断面	写真図版 45	ST381 出土遺物(2)
写真図版 15	SB1953-EB 土層断面 SB1953 完掘	写真図版 46	ST382 出土遺物(1)
写真図版 16	SB2151 完掘・EB 土層断面	写真図版 47	ST382 出土遺物(2)
写真図版 17	SB2152 検出・EB 土層断面	写真図版 48	ST386 出土遺物(1)
写真図版 18	SB2152 完掘・EB 土層断面	写真図版 49	ST386 出土遺物(2)
写真図版 19	SB2154 検出・EB 土層断面	写真図版 50	ST383・384 出土遺物
写真図版 20	SB2154 完掘・EB 土層断面	写真図版 51	ST478 出土遺物(1)
写真図版 21	SB2160 検出・EB 土層断面	写真図版 52	ST478 出土遺物(2)
写真図版 22	SB2160 完掘・EB 土層断面	写真図版 53	ST478 出土遺物(3)
写真図版 23	SB1038・2176・2186 精査状況・EB 土層断面	写真図版 54	ST478 出土遺物(4)
写真図版 24	SB2186-EB 土層断面	写真図版 55	SB1953・2151・2160・1038 出土遺物
写真図版 25	SB1038-EB 土層断面	写真図版 56	SK2144 出土遺物
写真図版 26	SB1038-EB 土層断面	写真図版 57	SK2162 出土遺物、SK1819 出土遺物(1)
	SB1038・2176・2186 完掘	写真図版 58	SK1819 出土遺物(2)
写真図版 27	SB1697 検出・EB 土層断面	写真図版 59	SK1819 出土遺物(3)
写真図版 28	SB1697 完掘・EB 土層断面	写真図版 60	SK1446 出土遺物(1)
写真図版 29	SB469 完掘・EB 土層断面	写真図版 61	SK1446 出土遺物(2)
写真図版 30	SK1446・2185 遺物出土状況・土層断面	写真図版 62	SK1446 出土遺物(3)
写真図版 31	SK1872 遺物出土状況・土層断面	写真図版 63	SK2185 出土遺物(1)
写真図版 32	SP2219、SK1904・2019・2036・2037・2129	写真図版 64	SK2185 出土遺物(2)、SK1872 出土遺物
	土層断面・完掘状況	写真図版 65	SK2036・2129・392・395・396 出土遺物
写真図版 33	SK2164、SP2168、SK395・396・391・2162	写真図版 66	SD1142 · 1054 · 1857 · 1061 · 1750,
	土層断面・完掘状況		SP 出土遺物
写真図版 34	SK1819 土層断面・完掘状況・RP 出土状況	写真図版 67	遺構外出土遺物(1)
写真図版 35	D 区 -SD1029・1142 土層断面・完掘状況	写真図版 68	遺構外出土遺物(2)
写真図版 36	E 区 -SD1029 土層断面・完掘状況	写真図版 69	遺構外出土遺物(3)
写真図版 37	SD1054・1857 土層断面・完掘状況	写真図版 70	遺構外出土遺物(4)
写真図版 38	SD1061 土層断面・完掘状況・RP 出土状況	写真図版 71	遺構外出土遺物(5)
写真図版 39	SD1062 土層断面・完掘状況		

I調査の経緯

1 調査に至る経過

遺跡は、村山市のほぼ中央に所在し、最上川が蛇行する右岸のなだらかな山麗部に立地する。

今回の調査は、東北中央自動車道(東根~尾花沢間) に接続する一般県道村山大石田線村山北1インターチェンジ設置工事に伴う緊急発掘調査として実施した。

東北中央自動車道の東根~尾花沢間(延長 23km)は、 東根市羽入~尾花沢市尾花沢に至る高速道路で、平成 14年に開通した上山~東根間と事業継続中の尾花沢新 庄道路に接続し、並行する国道 13号の渋滞緩和や信頼 性の高いネットワークの充実を図るうえで重要な区間で ある。

一般県道村山大石田線村山北1インターチェンジは 主要地方道新庄次年子村山線のインターチェンジが地形 の制約からハーフインターとせざるを得ないため、 東 北中央道を村山大石田線へ接続させることでフルインタ ーとしての機能が確保できる。また、村山市金谷工業団 地と村山北1インターチェンジを結ぶ東北中央自動車 道が供用開始されることで、村山市北部から高速道への アクセス性が向上し、北村山地域の産業振興などの強化 が期待されることから、新直轄方式で計画された。

清水遺跡は、東北中央自動車道の建設計画に伴い、平成11年に山形県教育委員会により遺跡の有無と範囲を確認する表面踏査(A調査)により発見され、その範囲は、東西380m、南北1,300mで多数の平安時代の土器が散布する大規模な遺跡として登録された。その後、東北中央自動車道の建設に先立ち事業に係る遺跡の範囲内について、平成22年度に記録保存を目的として、遺跡の南端を清水遺跡(1)、市道清水北線の南側及び北の一部を清水遺跡(2)として国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託を受け、財団法人山形県埋蔵文化財センター(平成24年4月1日から公益財団法人に移行)が緊急発掘調査(第1・2次調査)を行った。同年12月には市道清水北線の北側の範囲を確認するための試掘調査(B調査)が山形県教育委員会によって実施さ

れている。その結果、設定した5本のトレンチのうち3本から縄文時代の遺物を含む遺構やピット、溝跡が検出され、縄文土器、赤焼き土器が多数出土したことから、この地区も発掘調査が必要と判断された。

その結果を受け、平成23年度には市道北側を清水遺跡(3)、さらに、県道村山大石田線の北側を清水遺跡(4)として、前年度の2つの地区を加えた4地区について緊急発掘調査(第3~6次調査)を行い、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・区画施設などの遺構が確認され、石器・縄文土器・土師器・須恵器・墨書土器・石製品などの遺物が多く出土している。

今回の一般県道村山大石田線村山北1インターチェンジ設置工事に係る事業範囲が、平成22・23年度に清水遺跡(2)・(3)地区として調査を行った東北中央自動車道本線の東と西に当たることから、記録保存のための緊急発掘調査が必要と判断された。

これにより、山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、山形県教育委員会などで遺跡の取り扱いに係る協議が行われた。その結果、山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課から公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが委託を受け、平成26年度に第8次の緊急発掘調査を行うこととなった。

なお、同年に東北中央自動車道の事業範囲に係る未調査部分であった、清水遺跡(1)の農道部分、清水遺跡(2)と(3)の間にある市道清水北線、東北中央自動車道本線の未調査部分を国土交通省からの委託を受けて第7次調査として、第8次調査と並行して行っている。

2 調査の方法と経過

調査に先立ち、平成 26 年 2 月 19 日に国土交通省東 北地方整備局山形河川国道事務所の会議室において、平 成 26 年度の清水遺跡の発掘調査について国土交通省 山形河川国道事務所、村山総合支庁北村山道路計画課、 NEXCO 東日本山形工事事務所、山形県教育委員会、山 形県埋蔵文化財センター間による、工事と発掘調査の工 程についての調整を図る協議を行った。その結果、埋文 センター側が複数の調査工程(案)を提示して最善とな る工程を決めることで合意した。その際に、県の北村山 道路計画課から諸事情により、調査開始は6月以降にし て欲しいとの要望が出された。

その後、埋文センター・国交省・山形県で工事と発掘 調査の工程を調整する協議を重ね、5月7日に埋蔵文化 財センターにおいて、関係機関と山形県埋蔵文化財セン ターによる「平成26年度国土交通省山形河川国道事務 所・山形県県土整備部関係遺跡発掘調査事前打ち合わせ」 を開催して、工事用道路の付け換え・迂回路設置時期と 発掘調査工程の最終調整と確認を行った。以下に調査の 概要を述べる。

<発掘調査>

現地での発掘調査は、6月2日から開始した。調査区は、過年度の調査区の続きで、市道北の西をD区、東をE区そして、市道南の西をF区、東をG区、第7次調査区となる市道及び隣接する南側をH区とした。

最初に市道北側の調査予定地の草刈を行った。その後、D・E 調査区の範囲を設定し、それに沿って周縁の線掘りを行い、遺構と遺物の検出できる深さを確認した。一部を手掘りで拡張して掘り下げ、遺構・遺物の検出を行った。それと併行して6月16~19日の期間で重機により遺構の確認面までD・E区の表土を除去した。

D・E 区の面整理及び遺構検出作業を 6 月 18 日から 開始し、7 月 16 日まで行った。その際に、D 区に残っ た木根の撤去も進めた。

6月25・26日には D・E 区に委託業務による基準点を調査区内に設置し、それを基に 4m×4mを1単位とする調査用方眼(グリッド)釘を設定した。グリッドは、第1~6次調査の設置方法に準拠し、山形県全域を囲むように南北をX軸、東西をY軸として、1グリッドあたり40km四方の大グリッドを設定。さらに、大グリッド1つを南から北へ00~99、西から東へ00~99と400m四方の中グリッド、さらに中グリッド1つを4m四方の小グリッドに分割した。そのため、グリッド番号は「大グリッド南北・東西、中グリッド南北・東西、小グリッド南北・東西」の順で表すためAA0000-0000の10桁のアルファベットと数字で示すこととした。その基準を基にグリッド名を基準杭に付した。本報告書で

は、大中グリッドの表記は省略し、小グリッドのみ表記 している。

遺構検出終了後は、D・E 区の全景写真撮影を行い、 遺構に登録番号を付した後に遺構配置図の作成と共に遺 構精査作業を開始した。市道清水北線の調査の工程から、 先に迂回路を設置する必要があるので、D・E 区の南側 約1/3(市道側)から先行して行った。 遺構の精査は覆 土をベルト状に残す、又は半截して掘り下げ、土層の写 真撮影、断面図作成、覆土観察の後に完掘した。

遺物は、完形品及び一括土器などについて登録番号 を付し、他は遺構毎またはグリッド毎に取り上げた。

8月19日に D・E 区の南側迂回路設置部分の調査を終了し、21日に図化のための空中写真撮影業務委託を行い、26・27日に重機で迂回路部分を埋め戻した。

当初 F・G・H 区を同時に表土除去する計画であったが、 市道の迂回路設置工事が遅れるとのことから、D・E 区 の残り約 2/3 の精査作業を進めると共に、先行して F・ G 区の重機による表土除去を 9 月 17・18 日に行った。 そして、市道の迂回路完成後の 9 月 25~ 29 日に H 区 の表土除去を行った。

10月3日に $F \sim H$ 区に委託業務による基準点を調査 区内に設置し、それを基に $4m \times 4m$ を1単位とする 調査用方眼(グリッド)釘を設定した。

H区の市道部分は表土を除去した結果、アスファルトの直下から約 1.4m の深さまで山砂利が盛られており、当時の市道を造る道路工事の際に遺構も遺物も削平されていたことが判明した。そこで、この市道部分は面整理、平面図作成、写真撮影を終了した後の 10 月 22・23 日に危険防止のために埋め戻しを行った。

F~ H 区も遺構検出終了後、全景写真撮影を行い、遺構に登録番号を付した後に、遺構配置図の作成と共に遺構精査作業を進めた。遺構精査と併行し、平・断面図の作成、写真撮影を行い完掘した。

調査も終盤に近づいた 11 月 8 日には、調査の成果を 広く公表する発掘調査説明会を羽黒神社西遺跡と合同で 開催し、多くの参加者を得た。

11月21日に委託業務である図化のための調査区全体の空中写真撮影を行い、28日に機材の撤収をした。 12月1~3日にD~H区の埋め戻しを行って現地

での発掘調査を終了した。

現地の調査は6月2日から12月3日までの実働123日間実施した。

< 整理作業 >

整理作業は、平成 26 年度と 27 年度に行った。 平成 26 年度は 12 月 1 日から開始した。最初に出土した遺物を水洗いする洗浄作業と、その後に遺物に遺跡名と出土地点などを書く注記作業の基礎整理を行った。

洗浄は、遺物を水に浸けながらブラシを使って表裏面 や割れた面の土を落として、すすぎを行い綺麗にしていった。

注記は、遺物を乾燥させた後に白のポスターカラーで細い筆を使用して遺跡名と出土地点などを遺物に書いていった。遺跡名は「シズ8次」、出土地点は「遺構名やグリッドなど」を明記し、現場で登録したものには登録番号を付した。記名後はラッカーを塗り消えるのを防ぐ処置を施した。但し、金属製品については水洗いは行わず、乾いた土をブラシや竹串で落とし、登録番号や出土地点を明記した袋に入れた。

遺物の基礎整理と併行して現場で作成した平面図と断面図、撮影した遺構の写真などの整理を進め、併行して地形・遺構測量業務の委託図面の校正も行っている。また、今回の調査で出土した生木、炭化材のうち遺構から出土したもので、状態の良いものを抽出して樹種同定と年代測定を、火山灰はテフラ検出同定を行うための理化学分析を業務委託した。

接合作業は、遺物を登録遺物、遺構、調査区毎に分け、

土師器、須恵器、黒色土器、石製品などに分類した後、登録遺物と遺構ごとに接合を行い、さらに遺構周辺のグリッド出土遺物の接合を進め、平成26年度の整理作業は終了した。

平成27年度の整理作業は6月1日から開始した。前年度からの続きで遺物の接合作業から始めた。

接合が終了した後は、遺構出土遺物と登録遺物を中心に状態の良いものを抽出した。

抽出した遺物は実測を行い図面を作成した後に、底部 や表裏面の拓本を採り、遺物観察表の作成を行った。金 属製品は業務委託をした保存処理後に、実測図を作成し 写真撮影を行った。

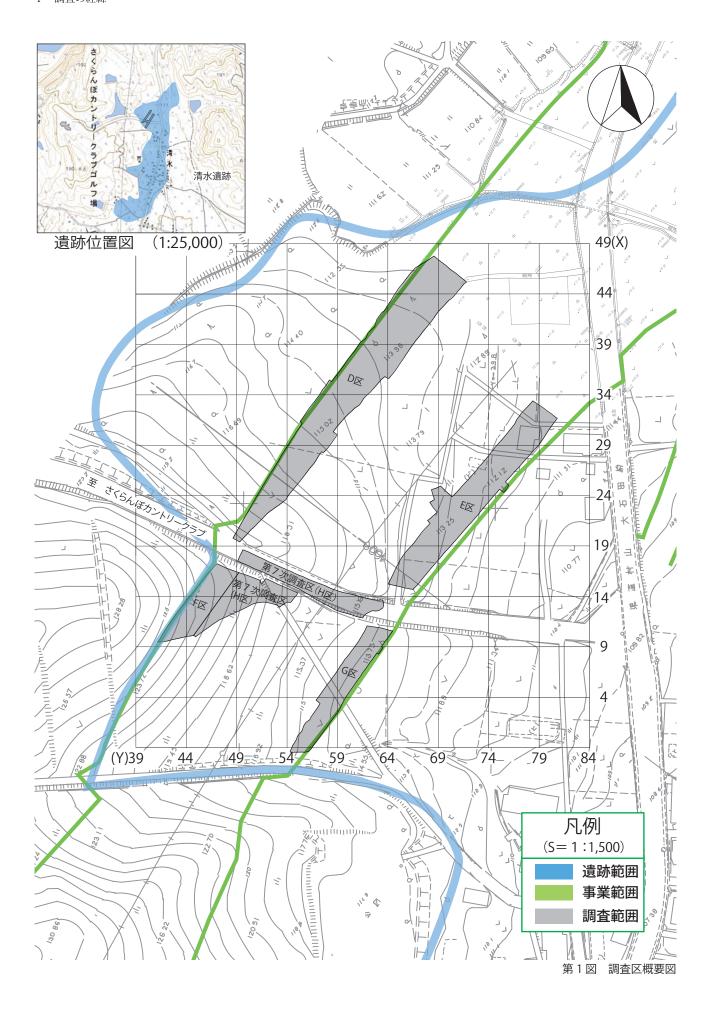
遺物の整理作業と併行して、遺構図の作成を進めた。 遺構の平面図と断面図を整合させ、デジタルトレースを して遺構の個別図を作成し、断面の土層注記と共に編集 を行った。

遺物実測図はデジタルトレースを行い、拓本と組み合わせて編集を行った。

遺構の写真は現場で撮影した中から、報告書に掲載するものを抽出した。

遺物は、欠損箇所を補填する復元作業をした後に、単体または集合での写真撮影を行い、報告書に掲載する写真を選別した。

個別に作成した遺構図版・遺物図版・観察表・写真図版の版組・編集作業と併行して本文の執筆を行った。その後、原稿の校正を行い、報告書を印刷・刊行した。



Ⅱ 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

清水遺跡は村山市大字名取字清水北(北緯 38 度 31 分 10 秒、東経 140 度 22 分 23 秒)に位置し、標高は 110m 前後を測る。

遺跡の所在する山形盆地は東を奥羽山脈、西は朝日連峰に挟まれ、盆地のほぼ中央を最上川が北流する。そこに東西の丘陵に源を発する中小河川が流れ込み、乱川扇状地などの地形を形成する。南北約 40km、東西約20km 船底型を呈する広大な盆地である。

当遺跡の所在する村山市はこの盆地の北部に位置し、 東西を最上川によって二分する。東側には低地と奥羽山 脈の甑岳などの山々がそびえ、そこから源を発する大沢 川、大旦川により楯岡扇状地が形成される。この扇状地 と最上川沿岸部の丘陵地帯に挟まれるように、河間低地 や後背湿地などの平地が形成される。

最上川より西側は、東側より標高が高くなる傾向にある。最上川の旧河床が隆起して台地となった河岸段丘が多数形成され、周辺に多数の遺跡が見られる。この地域の地形は、葉山の側火山である大高根山東部丘陵、最上川の下刻や側刻による最上川河岸段丘、東流して最上川に注ぐ富並川河岸段丘からなる。

東西を山に挟まれたこの地域は、冬の北西季節風や梅雨季の「ヤマセ」が遮られ、他地域と比べ比較的温暖な気候となっている。そのため、稲作やさくらんぼ、ラ・フランス、桑などの栽培が盛んな地域として知られている。地形により栽培される作物は変化し、河間低地・後背湿地では稲作が活発に行われ、最上川などにより形成された河岸段丘・自然堤防上では果樹栽培が行われているという傾向がある。

一方、当地域は豪雪地帯としても知られる。冬になると盆地特有の冷え込みと日本海から流れ込む湿った空気が奥羽山脈にぶつかり、多量の雪を降らせるため厳しい気候となる。これにより、夏冬の温度差は50℃前後と

非常に大きくなる。

村山市の面積は約196km²を測る。地形区分としては、山地・火山地が117km²、丘陵地が9km²、台地段丘が41km²、低地が29km²となる(山形県企画調整部土地対策課1981)。

表層地質は、凝灰質砂岩、シルト岩および礫岩である。この地質は、尾花沢盆地南東の荒町から峯岸に至る朧気川南岸を模式地とする凝灰質砂岩・硬質頁岩の互層を主とする地層である。尾花沢盆地を大きく取り囲むように、西の舟形町松橋峠から、葉山の東側、袖崎、鶴子、田沢を経て福原北部にかけて広く分布する。下半部は凝灰質砂岩と頁岩の互層、上半部は砂質頁岩であり、黒色頁岩で代表される古口層に相当するものである。層厚は150~300mである(山形県企画調整部土地対策課1981)。

調査区の大部分を占める土壌は、表層腐植質黒ボク土 壌に属する。この土壌は非固結火成岩を母材とし、堆積 様式は風積で、主に段丘・台地に分布し、畑地として利 用されている。土性は強粘〜粘質で、有効土層は 1m と 深い。また、強酸性で、りん酸の固定力が大で、塩基、 有効りん酸などの養分の少ない生産力の低い土壌であ る。調査区の一部では表層多腐植質多湿黒ボク土壌に属 する。この土壌は黒色の多腐植層で、強酸性で、りん酸 の固定力が大きく、塩基・有効りん酸などの養分の少な い生産力の低い土壌である(山形県企画調整部土地対策 課 1979)。

当遺跡は河島山段丘の北麓部に囲まれた低位段丘上に位置し、村山市の8地区(大倉、袖崎、西郷、大久保、冨本、戸沢、大高根、楯岡)の西郷地区に属する。調査区周辺は、かつて雑木林であったものを戦後に桑畑として切り開き、その後に耕地整理を行い畑地に改修された。その際に調査区の一部が削平されている。現在でも遺跡周辺は田畑として多く利用されている。

2 歷史的環境

清水遺跡は、最上川右岸の河島山丘陵南麓に広がる河島山段丘に囲まれた低位段丘上に位置する縄文・奈良・ 平安時代の集落跡である。

東根市から大石田南部にかけて、清水遺跡と同時期の 遺跡はおよそ57箇所存在し、その多くは縄文時代の遺跡と重なって存在している。村山市全体の遺跡数を見る と、その数は150以上に及び、近隣の大石田町、東根 市などに比べても遺跡が豊富に認められる市域である。 特に縄文時代の遺跡が多く見られ、市域の西側、最上川 左岸の段丘、富並川左岸の河岸段丘、大高根南麓の山裾 部に集中して分布する。これに対し、奈良・平安から中 世の遺跡はその多くが平地に所在する傾向にある。

以下に、清水遺跡周辺に所在する遺跡について、時代 別に概観する。

旧石器時代の遺跡は、本遺跡の西側に隣接する清水西 遺跡と河島山遺跡などが挙げられる。

清水西遺跡は当センターが平成24年度に発掘調査を行っている。台形石器及び平坦打面で剥離された厚手石刃を素材にしたナイフ形石器群などが出土している。遺跡の性格としては、キャンプサイトもしくは一定期間の居住域として利用されていたことが明らかになっている(山形県埋文2015a)。

河島山遺跡は、最上川右岸に張り出した出羽丘陵の突端、河島山から南斜面に位置している。杉久保型ナイフ、石刃、彫刻刀、掻器などの石器群が出土している。また、河島山は旧石器時代をはじめ、縄文時代(早期~中期)、弥生時代、古墳時代及び中世などに属する遺構・遺物が確認される複合遺跡である。なお、昭和26年(1951)4月1日に城館跡、1号墳、板碑群が県指定史跡となった(村山市史編さん委員会編1981)。

縄文時代の遺跡は、早期から晩期に至るまで各時期の 遺跡が確認されている。その中でも代表的な遺跡として、西海渕遺跡があげられる。最上川の支流である富並 川によって形成された河岸段丘上に立地し、ロングハウス型竪穴住居跡や複式炉を伴う住居跡などが発見されている。墳墓を円形に配置し、それを住居で囲むといった 環状集落構成も見られ、大規模な集落跡であったことが わかる。土器形式としては、大木8a~大木9式期前半 の特徴を有する土器が主体となる。その他にも、器台形 土器や皮袋形土器、赤彩された土器なども出土している。 土偶も 44 点とややまとまって出土している。石器は石 鏃、石匙、石錐などの定型石器のほか、掻器、削器、二 次調整のある剥片が相当数出土している。

弥生時代の遺跡は、他の時代に比べ確認数は少ない。 当センターでは平成23年度に作野遺跡(山形県埋文2011)の第2次調査を行っている。この遺跡では県内で数少ない弥生時代初頭のものと考えられる竪穴住居が発見され、竪穴住居内からは弥生時代初頭の土器が多く出土している。塩川前山遺跡は、河島山の南東斜面に位置し、後期の天王山式に並行する土器とアメリカ式石鏃が出土している。稲下遺跡は、最上川左岸、北側に最上川支流の樽石川が流れる河岸段丘上に位置する。遺構は被熱した集石遺構のみである。土器は包含層より中期~後期に属するものが出土しており、中でも中期中葉の高坏などが注目される(小関1995)。

古墳時代の遺跡は、河島山古墳群、名取古墳が挙げられる。河島山古墳群は、河島山1号墳・2号墳からなる。1号墳は、河島山山頂付近の東斜面に位置する。円墳で墳丘頂部は径約8m、墳丘の底径は約24m、高さ約4m、墳丘周辺には幅約4mの周溝を有している。凝灰岩製の箱型石棺で、副葬品は確認されておらず、また埴輪・葺石も確認されていない。2号墳は、同山の南西にある丸森山山頂付近に位置する。1号墳同様、円墳で周囲に周溝を有する。両古墳とも本格的な発掘調査は行われていない。名取古墳は、河島山から北に3km、河島山に連なる丘陵の西側で最上川の自然堤防上に位置する。河島山1・2号墳と同様、円墳で墳丘頂部は径約10m、墳丘の底径は約36m、高さ約2.4m、墳丘全周に周溝をめぐらす(伊豆田1990)。

奈良・平安時代の遺跡は、本遺跡のほか、松橋遺跡、 蝉田遺跡、経塚森遺跡、田向2遺跡、西原C遺跡など が挙げられ、平成22~25年度に当センターが行った 発掘調査によって、村山市の古代の様相が明らかになり つつある。松橋遺跡では、掘立柱建物跡、井戸跡などが 検出され、遺物は土師器・須恵器・磁器が出土し、9世 紀後半から10世紀前半頃を主体とする集落跡である。 当遺跡と同時期で、区画溝と思われる溝跡も検出され、 関連性が示唆される。経塚森遺跡では、平安時代と考え

られる掘立柱建物跡などを検出した。蝉田遺跡では、掘 立柱建物跡、河川跡などが検出され、出土遺物は土師器 坏体部に「定」と書かれた墨書土器、木製の斎串、人 形や鳥形などの祭祀儀礼に使われたと考えられる遺物な どが出土している(山形県埋文2013)。田向2遺跡は、 平安時代と考えられる竪穴住居跡と掘立柱建物跡から構 成される集落跡である。掘立柱建物跡は、主軸方向の 違いから時期差が想定される。集落は、9世紀後半から 10世紀後半の約100年前後の間営まれていたと推定さ れる。また溝跡や土坑から県内でも出土例の少ない10 世紀中葉から後葉に比定される土師器が出土し、今後村 山地方の10世紀代を解明する上で良好な資料と言える (山形県埋文 2015b)。西原 C遺跡は、平成 7年に村山 市教育委員会による発掘調査が行われ、掘立柱建物跡、 竪穴住居などが検出され、中でも掘立柱建物跡は広範囲 にわたり20棟以上検出されている。出土遺物には、土 師器・須恵器のほか、須恵器坏底部に「石」と書かれた 墨書土器、土製紡錘車や砥石などの石製品がある(村山 市教委 1996)。

中世は、河島山館跡、楯岡城などが挙げられる。河島 山館跡は、山頂と東側の山腹と2箇所に分かれ、山頂 はチャシ址一の丸と呼ばれる鉢巻式山城で、空堀と土塁 に囲まれた円形の曲輪である。チャシ址二の丸は二重の 空堀で曲輪は削平されず、自然地形のままである(山形 県教委 1996)。両者の築城年代は異なる解釈が出され ているが、詳細は不明である。また、河島山からは多数 の板碑・五輪塔などが完形・破片を合わせ70基以上確 認されている。同山を開墾した際に出土したとされてい るが、現在は山頂の一隅にまとめられている。板碑の石 材は、凝灰岩で様式はいずれも成生型を呈し、大きい もので、約90cmを測る。明確な時期は不明であるが、 様式から室町時代末頃から桃山時代初めと考えられてい る。楯岡城は、村山市街地の北東に隣接する楯山に築か れた連郭式の山城で、別名舞鶴城とも呼ばれている。南 側の山裾に館があり、館を中心に城下町が開けていた。 楯山は、甑岳の西側に伸びる台地で、その先端の西楯山・ 中楯山から構成される。西楯山は、標高約 209m で山 腹は急斜面である。三方に伸びた尾根に大小の曲輪を 段々と連続的に配置する。頂上の曲輪も平坦で、櫓など の建造物が築かれていたと考えられている。頂上からは 近隣の市町村が一望できる。中楯山の頂上曲輪も平坦で 南東部に建物跡が確認されているが、詳細は不明である。 曲輪の東西は堀切で区切られており、楯岡城の沿革につ いて『最上楯岡元祖記』には、承元2年(1208)に櫤 山月楯に開城したが4代にして没落、弘長元年(1261) に奥州より里見氏が入部して楯岡に開城、本城と名付 けたとあり、5代144年続いたとされる(山形県教委 1996)。室町時代に入り、山形城主斯波兼頼の孫、最上 満直の四男最上伊予守満国が応永13年(1406)に入部、 楯岡氏を名乗って満国以後7代約190年間続く。楯岡 城は、最上氏にとって北進における重要な拠点であった とされる。

7代満茂・8代光直が活躍した近世紀に両楯山が城下と共に整備された。満茂は、秋田県南部攻略の中心となって活躍し、後に秋田湯沢城に移った。以後、楯岡城は最上家家臣が交代で勤番するが、元和2年(1616)、最上義光の実弟で最後の城主である楯岡光直が封じられた後は、最上氏家中でも重要な地位を築く。光直は1万7千石を拝領し、領地は楯岡・湯野沢(現湯沢)・櫤山及び大石田・井出・深堀(現大石田町)の各村で、最上川を抑える要地であった(小関1995)。元和8年(1622)に最上氏が改易になったことにより、楯岡城は廃城となった。また同年の名取村(現在の村山市名取・一部の楯岡地区)は、最上氏領から山形藩領になる。名取村は浮沼・中原・清水・境ノ目の枝郷がある。寛永20年(1643)からは幕府領、安政2年(1855)以降は松前藩領と移り変わり、明治期を迎える。

明治維新後の村山市は、行政区画の変遷に伴い旧幕府領は明治2年(1869)に酒田県、また翌年には山形県に編入された。近現代における名取村は、明治11年(1878)に北村山郡に属し、明治22年(1889)には名取・大淀・長島・河島が合併し、西郷村の大字となり、昭和29年から村山市の大字名となった(佐藤2011)。

8

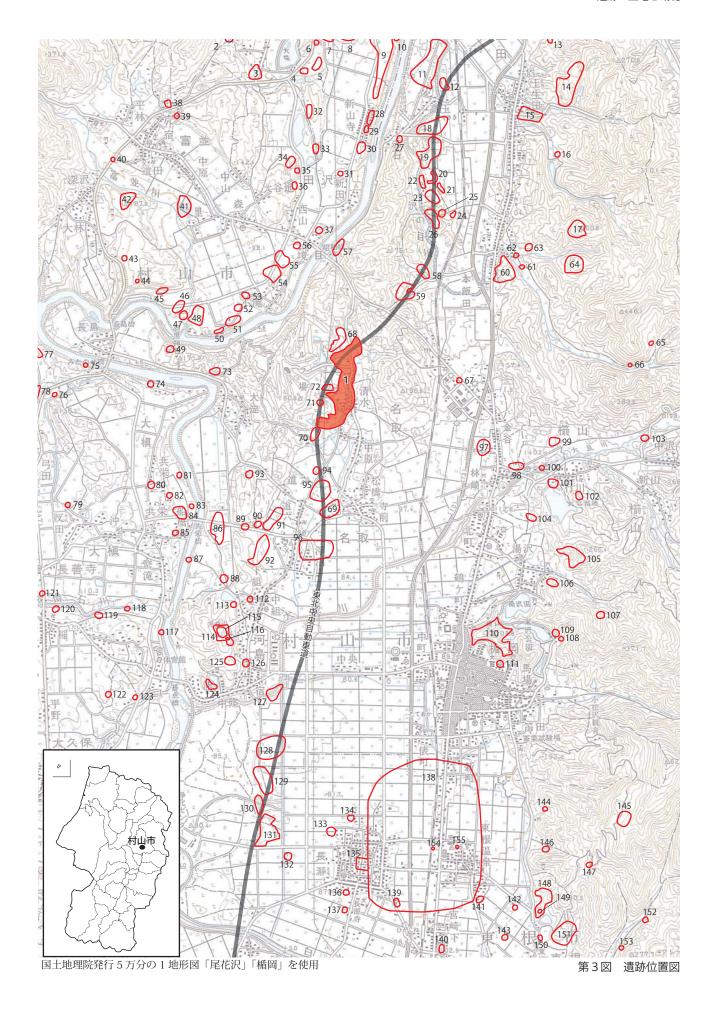


表 1 遺跡地名表

 縄・平 縄・・ 縄・ ・ ・<th>集落路跡 集集落路跡 集集落路跡 集集落路跡 集集落路跡 集集落路跡 集城路館館 城集城館館 下 城城集城館 下 城 東城城 東城城 東城城 東城城 東城城 東城城 東城城 東城城 東城城</th><th>56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73</th><th>小滝 C 遺跡 本飯田赤石遺跡 大原口遺跡 東熊野苗畑遺跡 飯田楯跡 高来沢 B 遺跡 高来沢 B 遺跡 十字山遺跡 十字山遺跡 大山 B 遺跡 入山 A 遺跡 第二農場遺跡 清水北遺跡 経塚森遺跡 清水市遺跡 羽黒神社西遺跡</th><th>村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村</th><th>縄文縄・平縄・平縄文縄文縄文縄文地縄文中世縄文・世縄文縄文縄文縄・平平・中平安</th><th>散布地 散布地 集落跡 媒落跡 集落跡 集落跡 散布地 城館跡 集落跡 集落跡 有力 東落跡 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大</th><th>111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122</th><th>楯岡小学 何島山口 河島山口 河島山口 河島山口 河島山口 河島山店 前週島山古地 河島山店地 川口遺跡 山の外遺跡 稲下遺跡 水口道 が 水口道 が 小 子 の 森 が 河島・丸 河島・丸 河島・丸</th>	集落路跡 集集落路跡 集集落路跡 集集落路跡 集集落路跡 集集落路跡 集城路館館 城集城館館 下 城城集城館 下 城 東城城 東城城 東城城 東城城 東城城 東城城 東城城 東城城 東城城	56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73	小滝 C 遺跡 本飯田赤石遺跡 大原口遺跡 東熊野苗畑遺跡 飯田楯跡 高来沢 B 遺跡 高来沢 B 遺跡 十字山遺跡 十字山遺跡 大山 B 遺跡 入山 A 遺跡 第二農場遺跡 清水北遺跡 経塚森遺跡 清水市遺跡 羽黒神社西遺跡	村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村	縄文縄・平縄・平縄文縄文縄文縄文地縄文中世縄文・世縄文縄文縄文縄・平平・中平安	散布地 散布地 集落跡 媒落跡 集落跡 集落跡 散布地 城館跡 集落跡 集落跡 有力 東落跡 大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122	楯岡小学 何島山口 河島山口 河島山口 河島山口 河島山口 河島山店 前週島山古地 河島山店地 川口遺跡 山の外遺跡 稲下遺跡 水口道 が 水口道 が 小 子 の 森 が 河島・丸 河島・丸 河島・丸
 縄文 縄・平 縄文 縄文 不明 縄文 旧・縄・平 縄・平 縄・平 縄・中世 中世 縄・平 単・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 	集落跡 集落路跡 集落路跡 集落路跡 集落路跡 集落布路跡 集城館館跡 集城館館跡 集城館市 城城東城館市 城城市 城城市	58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71	大原口遺跡 東熊野苗畑遺跡 飯田楯跡 高来沢 B 遺跡 高来沢 A 遺跡 北沢遺跡 十字山遺跡 入山 B 遺跡 入山 B 遺跡 清水北遺跡 松橋遺跡 経塚森遺跡 清水也遺跡	村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村	縄文縄文中世縄文縄文縄文地縄文縄文縄文縄文縄文縄・平平・中	集落跡 集落跡 集落跡 散布地 城館跡 集落跡 集落跡 集落跡 集落跡 集落跡 集落跡	113 114 115 116 117 118 119 120 121 122	河島山口河島山館 河島山古河島山館 河島山古河島山館 川口遺跡 山の外遺跡 稲下遺跡 水口遺跡 水口遺跡 小谷橋跡 一木の森
 縄・平 縄・ 縄・ 木明 縄・ 縄・ 縄・ ・縄・ ・縄・ ・ 縄・ ・ 単 ・ ・	集落跡 集落路跡 集落路跡 集落路跡 集落路跡 集城市路地 集城 城縣路 城城等 城城市 城城市 城城市 城城市	59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71	東熊野苗畑遺跡 飯田楯跡 高来沢 B 遺跡 高来沢 A 遺跡 北沢遺跡 十字山遺跡 入山 A 遺跡 第二農場遺跡 清水北遺跡 松橋遺跡 経塚森遺跡 清水西遺跡	村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村	縄文 中世 縄文 縄文 神世 縄文 縄文 中世 縄文 縄文 平世 縄文 縄文	集落跡 城館跡 集落跡 集落跡 散布地 城館跡 集落跡 集落跡? 集落跡	114 115 116 117 118 119 120 121 122	河島山館 河島山古 河島山館 川口遺跡 山の外遺跡 州前遺跡 水口遺跡 小谷橋跡 一木の森
 縄文 縄文 不明 縄・甲 縄・平 縄・平 縄・甲 地文 中世 神世 神世 郷・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 	集落跡 集落跡 集落路跡 集落路跡 集落路跡 集落布地 集務館館跡 集務館館跡 集務館跡 集務館跡 集務館跡 集務館跡 集務館跡 集務	60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71	飯田楯跡 高来沢 B 遺跡 高来沢 A 遺跡 北沢遺跡 十字山遺跡 入山 B 遺跡 入山 B 遺跡 第二農場遺跡 清水北遺跡 松橋遺跡 経塚森遺跡 清水西遺跡	村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村	中世 縄文 縄文 縄文 中世 縄文 縄文 縄文 	城館跡 集落跡 散布地 城館跡 集落跡 集落跡? 集落跡?	115 116 117 118 119 120 121 122 123	河島山古山 河島山館 川口遺跡 山の外遺跡 稲下遺跡 水口遺跡 水口遺跡 小谷楯跡 一木の森込
 縄文 不明 縄文 旧・縄・平 縄・平 縄・平 縄・中 中世 中世 4 中世 4 4<td>集落跡 集落跡 集落跡 集落跡 集落布地 集落布地 集落布地 線 城館跡 城館跡 城館跡 板倉跡 城館跡</td><td>61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71</td><td>高来沢 B 遺跡 高来沢 A 遺跡 北沢遺跡 十字山遺跡 入山 B 遺跡 入山 A 遺跡 第二農場遺跡 清水北遺跡 松橋遺跡 経塚森遺跡 清水西遺跡</td><td>村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村</td><td>縄文縄文縄文中世縄文縄文縄文縄·平平・中</td><td>集落跡 集落跡 散布地 城館跡 集落跡 集落跡? 集落跡</td><td>116 117 118 119 120 121 122 123</td><td>河島山館設 川口遺跡 山の外遺跡 稲下遺跡 川前遺跡 水口遺跡 小谷楯跡 一木の森)</td>	集落跡 集落跡 集落跡 集落跡 集落布地 集落布地 集落布地 線 城館跡 城館跡 城館跡 板倉跡 城館跡	61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71	高来沢 B 遺跡 高来沢 A 遺跡 北沢遺跡 十字山遺跡 入山 B 遺跡 入山 A 遺跡 第二農場遺跡 清水北遺跡 松橋遺跡 経塚森遺跡 清水西遺跡	村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村	縄文縄文縄文中世縄文縄文縄文縄·平平・中	集落跡 集落跡 散布地 城館跡 集落跡 集落跡? 集落跡	116 117 118 119 120 121 122 123	河島山館設 川口遺跡 山の外遺跡 稲下遺跡 川前遺跡 水口遺跡 小谷楯跡 一木の森)
 不明 縄文 旧・縄・平 縄・平 縄・平 縄・中 地文 中世 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 	集落跡 集落跡 集落跡 集落跡 集落跡 集落跡 城館跡 城館跡 城館跡 板館跡	62 63 64 65 66 67 68 69 70 71	高来沢 A 遺跡 北沢遺跡 十字山遺跡 入山 B 遺跡 入山 A 遺跡 第二農場遺跡 清水北遺跡 松橋遺跡 経塚森遺跡 清水也遺跡	村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村山市村	縄文地文中世縄文縄文縄文縄文縄・平平・中	集落跡 散布地 城館跡 集落跡 集落跡? 集落跡 散布地	117 118 119 120 121 122 123	川口遺跡 山の外遺詞 稲下遺跡 川前遺跡 水口遺跡 小谷楯跡 一木の森)
縄文 縄・平 縄・平 縄・平 縄文 中世 縄文 中世 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄文	集落跡 集落跡 集落跡 集落跡 城館跡 城館跡 城館跡 城館跡	63 64 65 66 67 68 69 70 71	北沢遺跡 十字山遺跡 入山 B 遺跡 入山 A 遺跡 第二農場遺跡 清水北遺跡 松橋遺跡 経塚森遺跡 清水西遺跡	村山市 村山市 村山市 村山市 村山市 村山市 村山市	縄文中世縄文縄文縄文縄・平平・中	散布地 城館跡 集落跡 集落跡? 集落跡? 集落跡	118 119 120 121 122 123	山の外遺跡 稲下遺跡 川前遺跡 水口遺跡 小谷楯跡 一木の森
間・縄・平 縄文 縄・平 縄・平 縄文 中世 縄・中世 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平	集落跡 散布地 集落跡 散布地。 集落跡 城館跡 集落跡 城館跡 集落跡 城館跡	64 65 66 67 68 69 70 71	十字山遺跡 入山 B 遺跡 入山 A 遺跡 第二農場遺跡 清水北遺跡 松橋遺跡 経塚森遺跡 清水西遺跡	村山市 村山市 村山市 村山市 村山市 村山市	中世 縄文 縄文 縄文 縄・平 平・中	城館跡 集落跡 集落跡? 集落跡 散布地	119 120 121 122 123	稲下遺跡 川前遺跡 水口遺跡 小谷楯跡 一木の森)
縄文縄・平縄・平縄・中世粗・中世縄・平縄・平縄・平縄・平縄・平	散布地 集落跡 散布地 集落跡? 城館跡 城館跡 集落跡 城館跡	65 66 67 68 69 70 71 72	入山 B 遺跡 入山 A 遺跡 第二農場遺跡 清水北遺跡 松橋遺跡 経塚森遺跡 清水西遺跡	村山市 村山市 村山市 村山市 村山市	縄文 縄文 縄文 縄・平 平・中	集落跡 集落跡? 集落跡 散布地	120 121 122 123	川前遺跡 水口遺跡 小谷楯跡 一木の森泊
縄・平縄・平縄・中世棋文中世縄・平縄・平縄・平縄・平縄・平	集落跡 散布地 集落跡? 城館跡 城館跡 集落跡 城館跡	66 67 68 69 70 71 72	入山 A 遺跡 第二農場遺跡 清水北遺跡 松橋遺跡 経塚森遺跡 清水西遺跡	村山市 村山市 村山市 村山市 村山市	縄文 縄文 縄・平 平・中	集落跡? 集落跡 散布地	121 122 123	水口遺跡 小谷楯跡 一木の森;
縄・平縄文中世中世縄文中世縄・平縄・平縄・平縄・平	散布地 集落跡? 城館跡 城館跡 集落跡 城館跡 也蔵地	67 68 69 70 71 72	第二農場遺跡 清水北遺跡 松橋遺跡 経塚森遺跡 清水西遺跡	村山市村山市村山市村山市	縄文 縄・平 平・中	集落跡散布地	122	小谷楯跡 一木の森
縄文中世縄文中世縄・平縄・平縄・平縄・平縄・平	集落跡? 城館跡 城館跡 集落跡 城館跡 散布地 包蔵地	68 69 70 71 72	清水北遺跡 松橋遺跡 経塚森遺跡 清水西遺跡	村山市村山市村山市	縄・平平・中	散布地	123	一木の森
中世 中世 縄文 中世 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平	城館跡 城館跡 集落跡 城館跡 散布地 包蔵地	69 70 71 72	松橋遺跡 経塚森遺跡 清水西遺跡	村山市村山市	平・申			
中世 縄文 中世 縄・平 縄・平 縄・平	城館跡 集落跡 城館跡 散布地 包蔵地	70 71 72	経塚森遺跡 清水西遺跡	村山市		散布地	404	河島・丸
縄文 中世 縄・平 縄・平 縄・平	集落跡 城館跡 散布地 包蔵地	71 72	清水西遺跡		平安		124	
中世 縄・平 縄・平 縄・平 縄・平	城館跡 散布地 包蔵地	72		村山市		散布地	125	河島山遺
縄・平 縄・平 縄・平	散布地 包蔵地		羽黒神社西遺跡		旧・縄・平	包蔵地	126	塩川前山
縄・平 縄・平 縄文	包蔵地	73	1	村山市	縄文	集落跡	127	八反稲千
縄・平縄文			浦遺跡	村山市	縄文	散布地	128	河島八反
縄文	散布地	74	鹿の子沢 A 遺跡	村山市	縄文	集落跡	129	八反遺跡
		75	小国沢遺跡	村山市	縄・奈	集落跡	130	沼袋遺跡
縄文	散布地	76	長峯遺跡	村山市	縄文	集落跡	131	長瀞本楯
	散布地	77	アコウギ2遺跡	村山市	縄文	散布地	132	月山堂遺
縄・平	散布地	78	念仏壇 A 遺跡	村山市	縄文	集落跡	133	扇田遺跡
縄・近	生産跡	79	北原遺跡	村山市	奈良	集落跡	134	北方遺跡
縄文	集落跡	80	鹿の子沢 B 遺跡	村山市	縄文	集落跡	135	長瀞城跡
縄・平	散布地	81	棚子遺跡	村山市	縄・平	集落跡	136	南方遺跡
縄文	集落跡	82	袋遺跡	村山市	縄・奈	集落跡	137	軍町遺跡
縄文	集落跡	83	川口 A 遺跡	村山市	縄・奈	集落跡	138	本郷条理
縄文	集落跡	84	船橋遺跡	村山市	縄文	集落跡	139	白金遺跡
不明	散布地	85	鹿の子沢 C 遺跡	村山市	縄文	集落跡	140	宮崎遺跡
縄文	集落跡	86	後原遺跡	村山市	中世	墳墓	141	本郷遺跡
縄文	集落跡	87	川口 B 遺跡	村山市	縄文	集落跡	142	上江B遺
縄文	集落跡	88	後久保遺跡	村山市	縄・奈	集落跡	143	上江A遺
縄文	集落跡	89	西原 A 遺跡	村山市	縄文	散布地	144	荷渡し遺
縄文	散布地	90	西原 B 遺跡	村山市	平安	集落跡	145	上山遺跡
縄文	集落跡	91	西伊賀 B 遺跡	村山市	平安	集落跡	146	たきの遺
縄文	集落跡	92	西原 C 遺跡	村山市	縄・奈・平	集落跡	147	小池山遺
縄文	集落跡	93	西伊賀遺跡	村山市	縄文	集落跡	148	兵備山楯
縄文	集落跡	94	田向2遺跡	村山市	平安	集落跡	149	兵備山遺
縄・平・中	集落跡	95	田向遺跡	村山市	縄文	集落跡	150	堂の前遺
縄文	集落跡	96	蝉田遺跡	村山市	平安	散布地	151	堂の前楯
中世	城館跡	97	位碑田遺跡	村山市	縄文	集落跡	152	津河 C 遺
縄文	集落跡	98	矢島遺跡	村山市	縄文	集落跡	153	津河 B 遺
縄・弥	集落跡	99	向山道遺跡	村山市	縄文	集落跡	154	仙台原遺
縄文	集落跡	100	大倉小学校遺跡	村山市	縄文	集落跡	155	大塚古墳
縄文	散布地	101	見附楯跡	村山市	中世	城館跡		
縄文	散布地	102	勝負平遺跡	村山市	弥生?	集落跡		
縄文	集落跡	103	道玄遺跡	村山市	縄文	集落跡		
	集落跡	104	当岳遺跡	村山市	縄・奈・平	集落跡		
縄文	集落跡	105	櫤山遺跡	村山市	中世	城館跡		
縄文縄文	集落跡	106	ハバ遺跡	村山市	縄・奈	集落跡		
	散布地	107	作野遺跡	村山市	縄文	集落跡		
縄文	集落跡	108	東沢公園遺跡	村山市	平安	窯跡		
縄文縄文		109	東沢遺跡	松山市	縄士	生 数		
	細文 縄文	縄文 集落跡 縄・弥 集落跡 縄文 東布地 縄文 散布地 縄文 集落跡 縄文 集落跡 縄文 集落跡 縄文 集落跡 縄文 集落跡 縄文 散布地	細文 集落跡 縄・弥 集落跡 縄文 集落跡 縄文 散布地 組文 散布地 組文 集落跡 組文 散布地 組・弥 集落跡 108	細文 集落跡 細·弥 集落跡 細文 集落跡 細文 散布地 細文 散布地 細文 散布地 細文 集落跡 細文 集落跡 細文 集落跡 細文 集落跡 細文 集落跡 細文 集落跡 細文 東落跡 細文 東落跡 北京 105 協山遺跡 北京 107 作野遺跡 北京 108 東沢公園遺跡	縄文 集落跡 縄・弥 集落跡 縄・弥 集落跡 縄文 集落跡 北文 散布地 北文 散布地 北文 散布地 北文 大倉小学校遺跡 村山市 北文 東花跡 北文 集落跡 北文 集落跡 北文 集落跡 北文 集落跡 北京 北京 北京 大山市 北京 北京 北京 大山市 北京 東次公園遺跡 北京 大山市 北京 東沢公園遺跡 北京 大山市 北京 東沢公園遺跡 北京 大山市 北京 東沢公園遺跡 北京 大山市 北京 東沢公園遺跡 大山市 北京 大山市 北京 東京公園遺跡 大山市 北京 東京公園遺跡 大山市 北京 東京公園遺跡 大山市 東京公園遺跡 大山市 東京 北京 東京 北京 東京公園 北京 東京 北京 東京 北京 東京 北京 東京 北京 東京 北	縄文 集落跡 98 矢島遺跡 村山市 縄文 縄、弥 集落跡 100 大倉小学校遺跡 村山市 縄文 縄文 散布地 101 見附楯跡 村山市 弾生? 縄文 散布地 102 勝負平遺跡 村山市 弾生? 縄文 集落跡 103 道玄遺跡 村山市 縄文 縄文 集落跡 104 当岳遺跡 村山市 縄・奈・平 縄文 集落跡 105 縮山遺跡 村山市 縄・奈 縄文 散布地 107 作野遺跡 村山市 縄文 縄・弥 集落跡 108 東沢公園遺跡 村山市 平安	縄文 集落跡 98 矢島遺跡 村山市 縄文 集落跡 縄・弥 集落跡 99 向山道遺跡 村山市 縄文 集落跡 縄文 集落跡 100 大倉小学校遺跡 村山市 縄文 集落跡 縄文 散布地 101 見附楯跡 村山市 中世 城館跡 縄文 集落跡 103 道玄遺跡 村山市 縄文 集落跡 縄文 集落跡 104 当岳遺跡 村山市 縄・奈・平 集落跡 縄文 集落跡 105 櫛山遺跡 村山市 縄・奈・平 集落跡 縄文 集落跡 106 ハバ遺跡 村山市 縄・奈 集落跡 縄文 散布地 107 作野遺跡 村山市 縄・奈 集落跡 縄、弥 集落跡 108 東沢公園遺跡 村山市 平安 窯跡	細文 集落跡 98 矢島遺跡 村山市 縄文 集落跡 153 細文 集落跡 100 大倉小学校遺跡 村山市 縄文 集落跡 縄文 散布地 101 見附楯跡 村山市 中世 城館跡 縄文 集落跡 102 勝負平遺跡 村山市 湖文 集落跡 縄文 集落跡 103 道玄遺跡 村山市 縄・奈・平 集落跡 縄文 集落跡 104 当岳遺跡 村山市 細・奈・平 集落跡 縄文 集落跡 105 櫛山遺跡 村山市 理・奈・平 集落跡 縄文 東落跡 106 バン遺跡 村山市 縄・奈 集落跡 縄、弥 東落跡 108 東沢公園遺跡 村山市 平安 窯跡

番号	遺跡名	市町村	時代	種別
111	楯岡小学校遺跡	村山市	奈良	集落跡
112	河島山口 A 遺跡	村山市	縄文	集落跡
113	河島山口 B 遺跡	村山市	縄文	集落跡
114	河島山館跡	村山市	中世	城館跡
115	河島山古墳群	村山市	古墳	墳墓
116	河島山館跡	村山市	中世	城館跡
117	川口遺跡	村山市	縄文	集落跡
118	山の外遺跡	村山市	縄文	集落跡
119	稲下遺跡	村山市	先・縄・弥	集落跡
120	川前遺跡	村山市	縄文	集落跡
121	水口遺跡	村山市	縄文	集落跡
122	小谷楯跡	村山市	奈良	集落跡
123	一木の森遺跡	村山市	縄文	集落跡
124	河島・丸森遺跡	村山市	縄文	集落跡
125	河島山遺跡	村山市	旧石器	集落跡
126	塩川前山遺跡	村山市	弥生	集落跡
127	八反稲千原遺跡	村山市	縄・平	散布地
128	河島八反遺跡	村山市	平安	散布地
129	八反遺跡	東根市	平安	集落跡
130	沼袋遺跡	東根市	平安	集落跡
131	長瀞本楯跡	東根市	中世	城館跡
132	月山堂遺跡	東根市	平安	集落跡
133	扇田遺跡	東根市	弥・古	集落跡
134	北方遺跡	東根市	平安	集落跡
135	長瀞城跡	東根市	中世	城館跡
136	南方遺跡	東根市	平安	集落跡
137	軍町遺跡	東根市	平安	集落跡
138	本郷条理制跡	東根市	=	条里制跡
139	白金遺跡	東根市	平安	集落跡
140	宮崎遺跡	東根市	平安	集落跡
141	本郷遺跡	東根市	縄・平	集落跡
142	上江 B 遺跡	東根市	縄・平	集落跡
143	上江 A 遺跡	東根市	縄文	集落跡
144	荷渡し遺跡	東根市	平安	集落跡
145	上山遺跡	東根市	縄文	集落跡
146	たきの遺跡	東根市	縄文	集落跡
147	小池山遺跡	東根市	縄・平	集落跡
148	兵備山楯跡	東根市	中世	城館跡
149	兵備山遺跡	東根市	縄文	集落跡
150	堂の前遺跡	東根市	平安	集落跡
151	堂の前楯跡	東根市	中世	城館跡
152	津河 C 遺跡	東根市	平・鎌	散布地
153	津河 B 遺跡	東根市	鎌倉	散布地
154	仙台原遺跡	東根市	古墳	古墳

東根市 古墳

古墳

55 小滝 B 遺跡

村山市

縄文

集落跡

110 楯岡城跡

村山市 中世

城館跡

Ⅲ 遺跡の概要

1 遺構の分布

調査は、D~G区の約3,100㎡を対象に行った。検出された主な遺構は、縄文時代の陥穴、奈良・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などである。その分布状況を各区ごとに述べる。

D区には陥穴、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などがある。南北端が重機による攪乱を受けていることもあり、遺構は中央部 35~45-56~67G に集中している。この範囲の外には南と北に溝跡が各 2 条のみである。但し、この集中範囲内でも遺構毎に顕著な分布の違いが見られる。縄文時代の陥穴は 38・39-61G に 1基、竪穴住居跡も 43~45-63・64G に位置する 1 棟のみであるが、掘立柱建物跡は中央部に重複も含め 9 棟が広く分布している。これらの建物跡は南北にある区画施設と思われる溝跡の内部であり、主軸がほぼ一致し、柱穴の掘り方の大きさが一辺 1.0m 前後を測るものがあることから、主体となる建物跡とも考えられる。土坑も多く見られるが、直径約 2.0m を測る大型のものは 40~43-63・64G に 4 基が集中している。溝跡は住居跡と重複している。

E区は陥穴、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などがある。 北側に多くの遺構が集中して、中央部は希薄になる。南 側は重機による攪乱が大半で、明確な遺構は22-65・ 66Gに縄文時代の陥穴が1基のみである。

北側は掘立柱建物跡、土坑、柱穴が 33 ~ 35-77 ~ 80G に分布し、中央は溝跡 2 条だけである。

F区については、攪乱のみで明確な遺構は確認されなかった。

G区は竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、河川跡などがある。北側に遺構が集中し南側は希薄になる。特に竪穴住居跡は北端に集中し12~15-61~64Gに重複も含め6棟分布する。土坑は竪穴住居の南に近接して検出された。南側には、細い溝跡と河川跡が南端に分布するのみである。

以上から、各区で遺構毎の分布に違いが見られ、遺構の多くはD・G区に集中する。D区は掘立柱建物跡が多く、G区は竪穴住居跡が多いという特徴が確認された。これは、G区が竪穴住居を主体とする一般集落の様相を示すのに対し、D区は掘立柱建物を主体とする郡衙関連施設もしくは地方豪族の居館跡の様相を示している。

2 遺物の分布

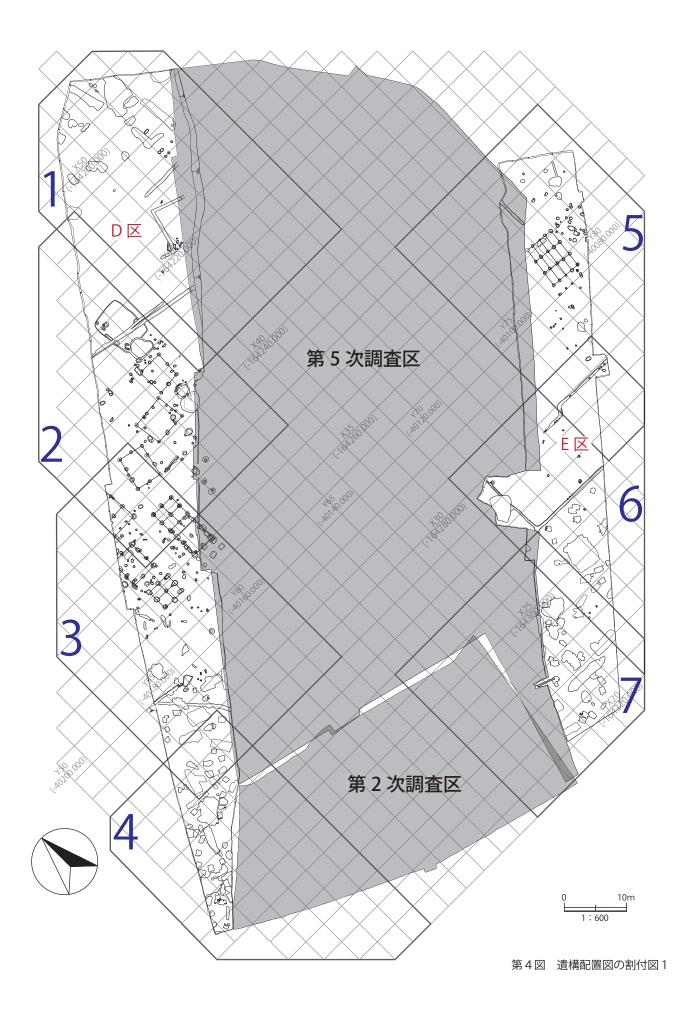
遺物は、整理箱にして17箱出土した。縄文時代の遺物は土器片と石器・石製品が出土したが少数で、奈良・平安時代の土師器、須恵器、黒色土器、石製品などが大半を占める。墨書・刻書土器も14点出土している。土器は破片資料が大半を占め、依存状態は良くない。

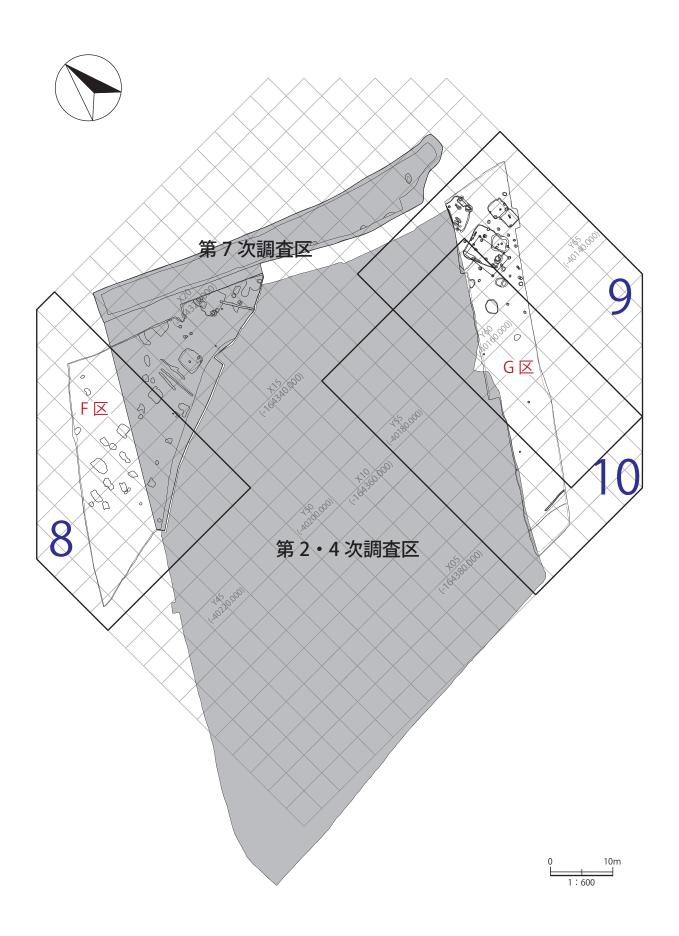
遺構出土の遺物は、遺構の種別によって明確な違いがみられた。D区の竪穴住居跡(ST1818)や大型の土坑(SK1819・1446・2185・1872)、G区の竪穴住居跡(ST381~384・386・478)からはまとまった量の遺物が出土しているが、掘立柱建物跡や溝跡からは少量である。D~F区の攪乱が集中する場所についても遺物の出土は希薄で、削平によるためと考えられる。

遺物の種別による分布状況は、縄文時代の遺物は D 区の包含層からの出土が多く、明確な遺構からは 1 点だけの出土である。そして、奈良・平安時代の遺物は D 区の $43 \sim 45-63\cdot 64$ G と $40\cdot 41-63\cdot 64$ G 及び G 区 $12 \sim 15-62 \sim 64$ G から多く出土し、他は希薄となる。

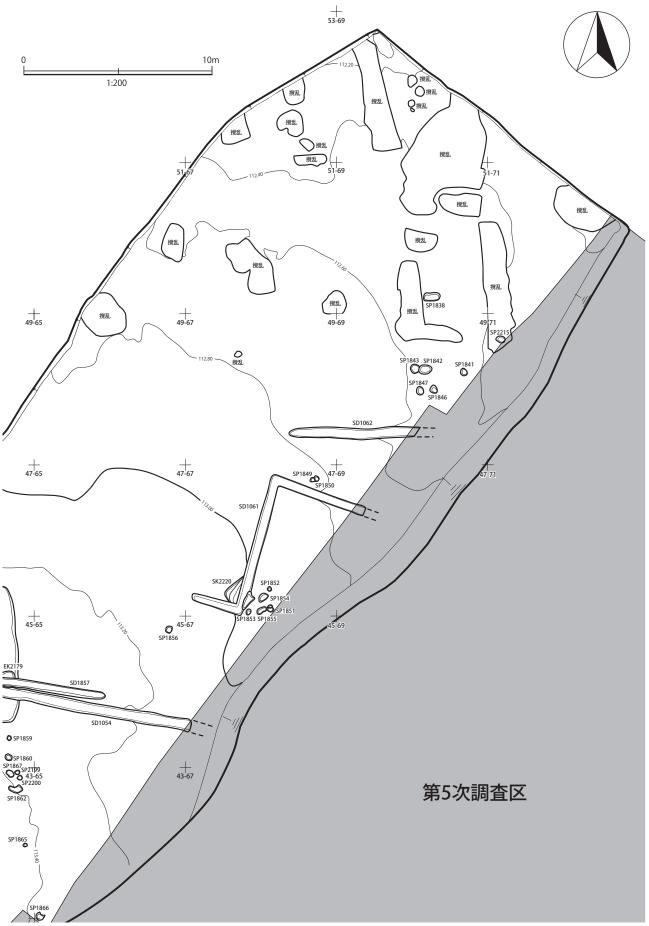
墨書・刻書土器は、D区から9点、G区から5点の計14点出土している。但し、刻書土器は1点のみである。D区は大半が大型の土坑からで、住居跡からは1点のみ、G区は全て住居跡からの出土となる。

以上のように、遺物の分布は遺構に伴うものが大半を 占めることから、ほぼ遺構の分布と同じ様相を示すが、 その出土量は遺構の性格により顕著な違いが認められ る。住居跡と大型の土坑があるD区の中央やや北側と 住居跡が集中しているG区の北側に多くの遺物が分布 し、他は希薄になるという特徴が認められた。



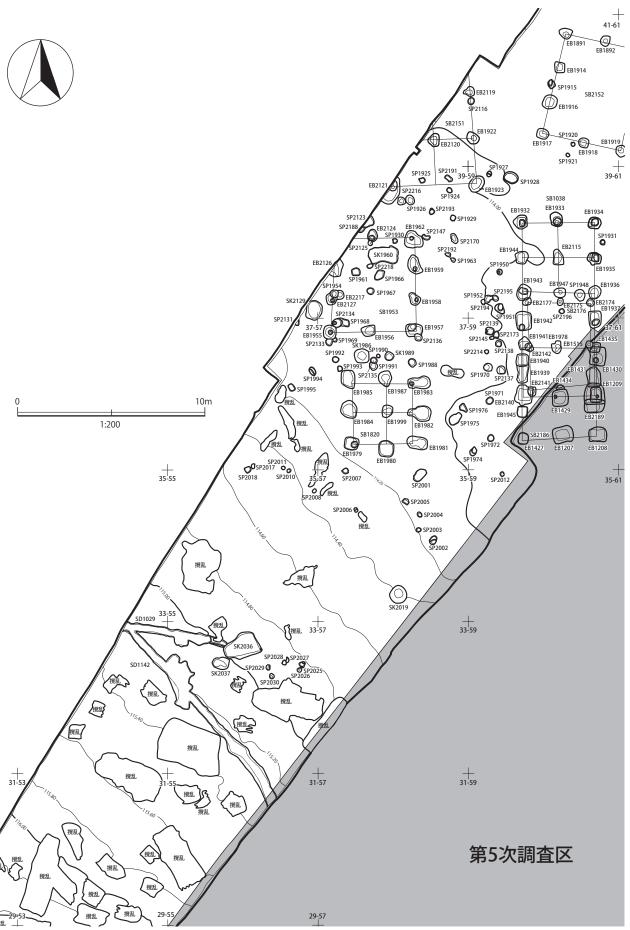


第5図 遺構配置図の割付図2

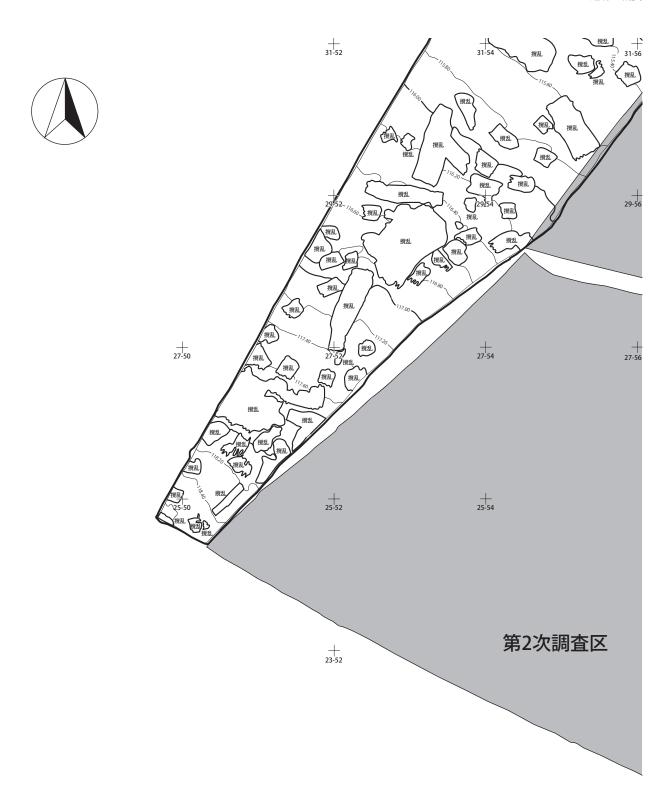


第6図 遺構配置図1



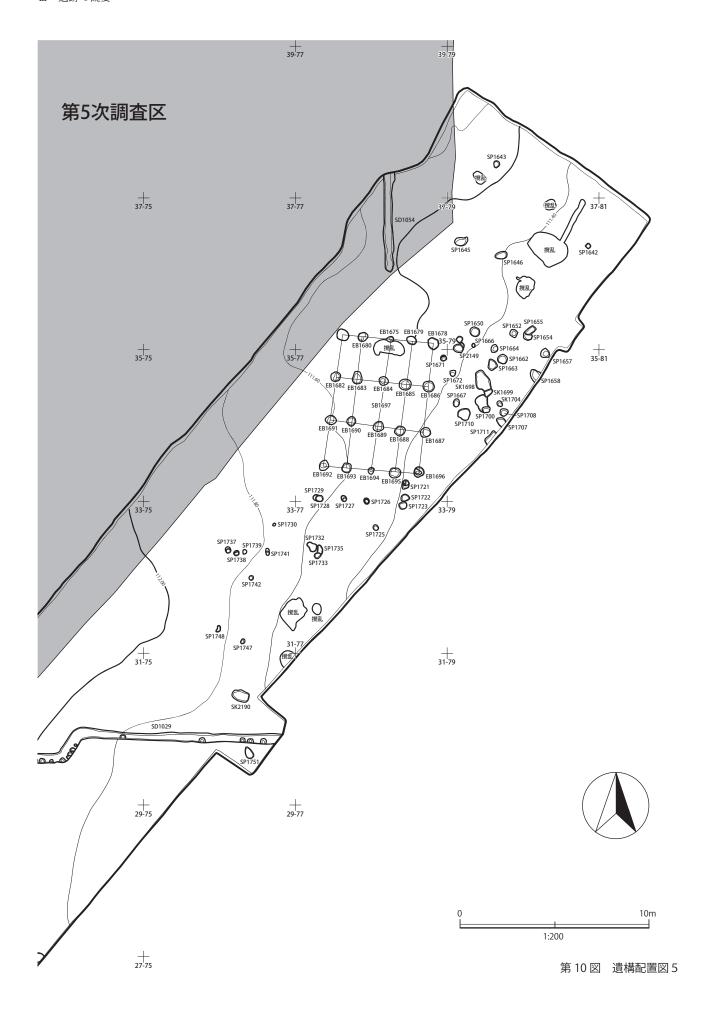


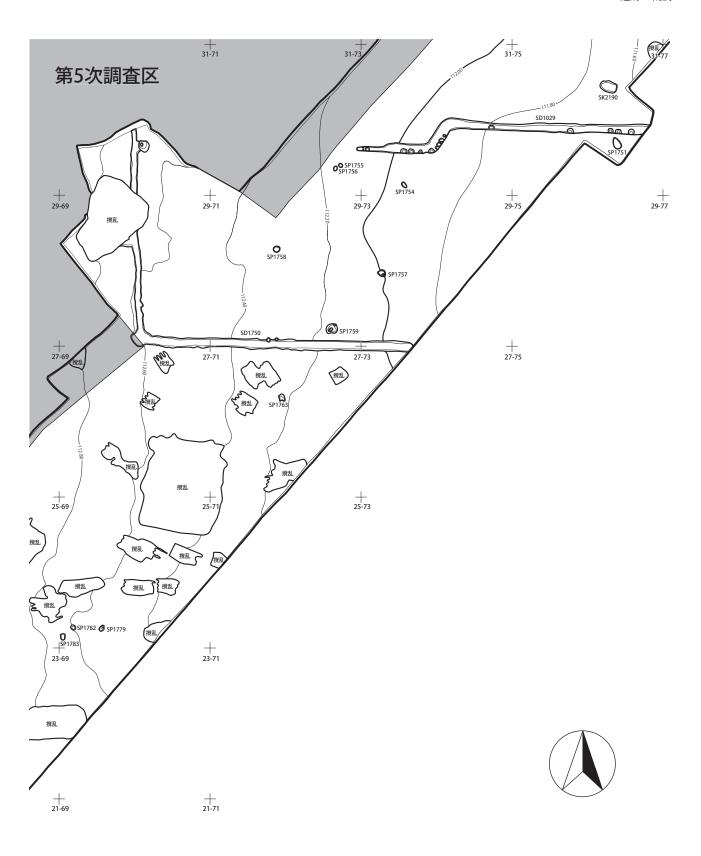
第8図 遺構配置図3





第9図 遺構配置図4

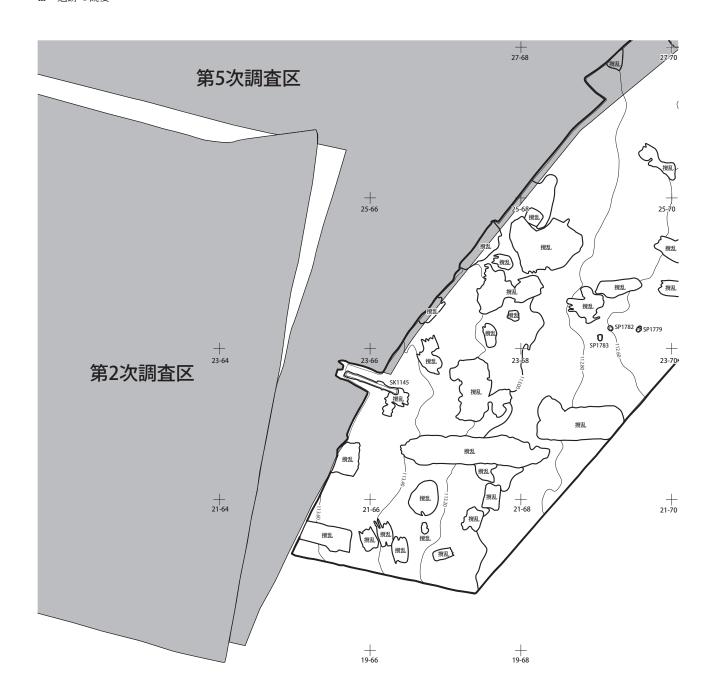






19-6

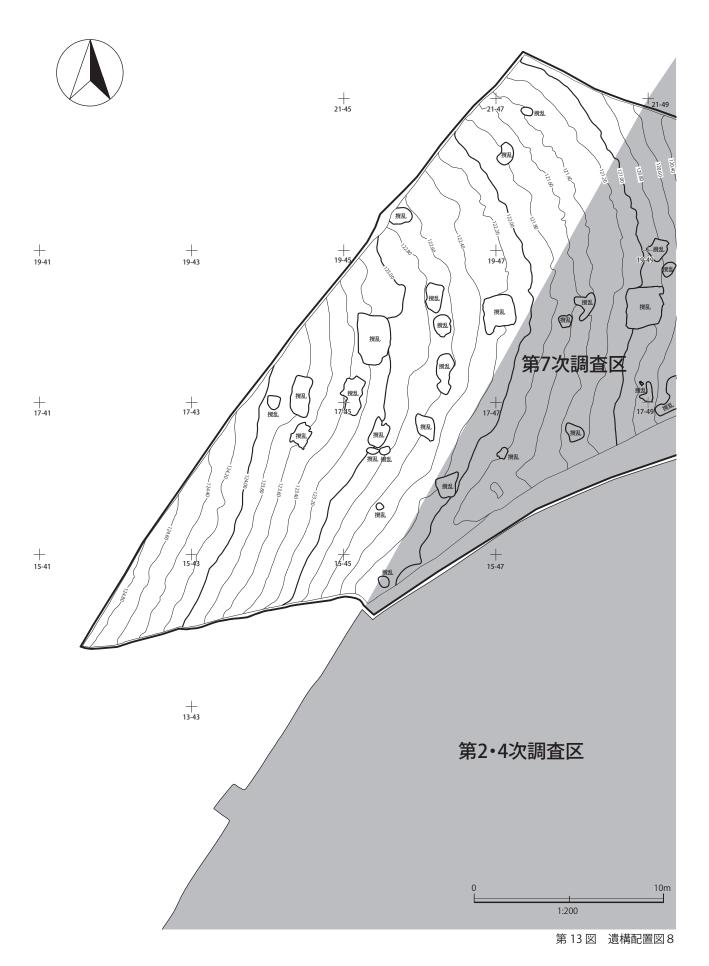
第11図 遺構配置図6







第12図 遺構配置図7







Ⅳ 遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は、陥穴、竪穴住居跡、 掘立柱建物跡、土坑、溝跡などで、出土した遺物は縄文 土器、石器、土師器、須恵器、黒色土器、石製品、金属 製品などである。時代は、縄文時代、平安時代である。 以下に主な遺構と遺物の概略を時代及び遺構毎に述べ る。なお、還元焔で焼成された土器を須恵器、酸化焔に よって焼成された土器を土師器とした。また、土師器の 内面ないし内外面に黒色処理を施す土器は黒色土器とし た。

1 縄文時代

SK1145 陥穴(第 16 図)

E 区南側、22-65・66G で検出された。東端が削平を受けている。全長 3.08 m、幅 30 ~ 40cm、確認面からの深さ 0.96 mを測る。狭くて長い形態の縄文時代の陥穴と考えられる。遺物の出土が無く、詳細な時期は不明。

SK1911 陥穴(第 16 図)

D区中央部 39-61・62G、SB2152の東側で検出された。西側の一部を SP2178 に切られる。全長 3.36 m、幅 $30\sim60$ cm、確認面からの深さ 0.96 mを測る。 SK1145 と同様に狭くて長い形態の縄文時代の陥穴と思われる。遺物の出土が無く、詳細な時期は不明。

縄文土器 (第 16 図 1 ~ 4)

図示できたのは4点のみである。全て包含層からの出土で破片資料である。1~3は縄文早期に属する土器片で、文様は、竹管による太い沈線文が施されるもの(1)、平行沈線と爪型の刺突文が施されるもの(2)、格子状の沈線文が描かれるもの(3)がある。1・2は田戸下層式併行、3は田戸下層式もしくは三戸式併行と考えられる。県内では南陽市の大野平遺跡や村山市の赤石遺跡などで出土例がある。4は地文が縄文LRの口縁部資料で、縄文晩期に属すると思われる。

石器・石製品 (第 16 図 5 ~第 17 図 13)

縄文時代の石器・石製品は未成品も含め9点出土した。 5~9は打製の石器で全て未成品と考えられる。5は石 鏃で下部を欠く。6は石錐、7は石匙、8は石箆、9は 削器である。石箆の左右の刃部に刃潰しがみられる。打 製石器の石材は全て珪質頁岩となる。

10 は磨製石斧の基部、11 は磨石で3面が磨面として使用されているが、特に右側面が顕著である。12 は凹石で表と裏の2面に凹がある。13 は敲石と考えられ、上下に打痕が認められ、タールらしきものが付着する。石材は、10 が粘板岩、12 は凝灰岩、11・13 は安山岩である。7・11 は住居跡、13 は土坑からの出土であるが、後世の流れ込みと考えられる。

2 平安時代

ST1818 竪穴住居 (第 18 ~ 21 図・第 62・63 図)

D区中央やや北側の 43 ~ 45-63・64G で検出された。 南壁を SK1819 に中央付近を SD1054・1857 に切ら れる。平面プランは長辺 7.32 m、短辺 5.74 mを測る 長方形を呈する。確認面から床面までの深さは 20 ~ 30cm を測る。主軸方位は S-4° 28′ 12″-E を測る。 壁は緩やかに立ち上がり、床面は若干の凹凸がみられ固 く締まる。内部施設は、カマド (EL2183) が南西隅に、 貯蔵穴が東西の壁際に 2 基 (EK2179・2184) と北側 に 1 基 (EK2182) 検出された。EL2183 は両袖と燃焼 部が確認できた。カマドの先端部は SK1819 に切られ、 EK2179・2184 は SD1054・1857 に切られる。柱穴は 2 基 (EP2180・2181) 確認された。また、西側床面 の一部に貼り床と思われる黄褐色粘土層が検出された。

出土した遺物は、須恵器には蓋(14)、無台坏、(15~19)有台坏(20)などがあり、14は平笠タイプの蓋、15~19はロクロ整形で底部の切り離しが回転糸切になる無台坏である。15は底部に「万」の墨書があり、18は内外面に火だすき痕が認められる。土師器には無台坏(21~25)、小型の鉢(26~28)、甕(29~37)などがある。無台坏はロクロ整形で底部切り離しは回転糸切となるが、底径に対し器高が高く坏部が内湾ぎみに立ち上がる碗形になるもの(24・25)がある。小型の鉢には、底部に棒状の工具によるナデが施された

もの(26)がある。甕は保存状態が悪く二次焼成を受け内外面が剥落しているものが多い。34は底部切り離しが回転糸切、35は底部に網代の痕がみられる。黒色土器の甕は(38)ロクロ整形で内面に黒色処理とミガキ調整が施される。砥石(39)は細粒凝灰岩製で、4面が砥面として使用されている。各面に砥ぎ痕が明瞭に残り、使い込まれた様子が窺える。

その他、後世の流れ込みと考えられる縄文時代の石匙(8)も出土している。時期はカマド出土の須恵器無台 坏などの特徴から9世紀第2~3四半期頃と考えられる。

ST381・382・386 竪穴住居(第 22 ~ 25 図・第 64 ~ 67 図)

G 区北側 $12 \cdot 13-61 \sim 63$ G で 3 棟が重複して検出された。

ST381 は ST382 を切る竪穴で、平面プランは長辺 2.80 m、短辺 2.50 mを測る隅丸方形を呈する。確認面からの深さは 42cm を測る。主軸方位は S-24° 24′-E を測る。壁は北と西が急角度で立ち上がり、南と東は緩やかに立ち上がる。床面は平坦である。柱穴は 2 基(EP512・513)確認されたが内部施設は無い。ST381は、カマドが無いことと規模が 3m 四方以下であることなど、ST383・384 と類似する。

出土した遺物は、須恵器には無台坏(40~43)、有台皿(44)、横瓶(45)などが、土師器には無台坏(46・47)、甕(48~50)、他に黒色土器(51・52)と砥石(53)がある。坏類はすべてロクロ整形で底部の切り離しは回転糸切である。44は高台径が大きく身が浅い形態で、全体に自然釉が付着する。51の底部には「忌于」と墨書が書かれる。砥石は表と右側面が使用されている。時期は、須恵器や土師器の無台坏などの特徴から9世紀第2四半期頃と思われるが、ST382より新しい。

ST382 は ST381 と ST386 に切られる竪穴で、平面プランは長辺 5.90m、短辺 5.62m を測るほぼ正方形を呈する。確認面からの深さは $24 \sim 34$ cm を測る。主軸方位は、 $S-17^{\circ}$ 24' -E を測る。壁は急角度で立ち上がり、床面は平坦である。内部施設は南壁にカマド(EL482)と西壁の一部に周溝 (ED489) が確認された。EL482は馬蹄形を呈し内側が燃焼部で煙道は認められない。ED489 は長さ 1.7 mで、床面からの深さ 14cm を測

る。柱穴は10基(EP459・460・485~488・490・491・496・503)確認された。柱穴の規模と位置からEP486・488・490・491が主柱穴と考えられる。

出土した遺物は、須恵器は蓋(54)、無台坏(55・ 56)、有台坏(57.58)、土師器は無台坏(59.60)、甕(61 ~67)があり、他に砥石(68)がある。坏類はロクロ 整形で底部切り離しは56が静止糸切となるが、他は回 転糸切である。55の底部には「田」の墨書が書かれて いる。土師器の甕はハケ・ケズリ・ナデ調整が施され るものが多く、底部の切り離しは64が静止糸切、62・ 65 は網代痕が認められる。砥石は両側面が使用され、 全体に2次被熱を受け火ハネ痕がある。その他、縄文時 代の磨石(11)も出土しているが、後世の流れ込みと 考えられる。時期は、床面出土の55・56の特徴から9 世紀第2四半期頃と考えられ、ST381・386よりも古い。 ST386 は ST382 を切る竪穴で、平面プランは長辺 2.62 m、短辺 2.44 mを測る方形を呈する。北西角は調 査区外となる。上部が削平され、確認面からの深さは 10~14cm と浅い。主軸方位は S-17°4′23″-E を 測る。壁は西側が緩やかに立ち上がり、南北は急角度に 立ち上がる。床面は平坦である。内部施設、柱穴ともに 検出されなかった。

出土した遺物は、須恵器の無台坏(69)、土師器の無台坏(70・71・74・75)、底部欠損の坏(72・73)、甕(76~78)、鍋(79)などである。坏類はすべてロクロ整形で底部切り離しは回転糸切となる。70の底部には「東」の墨書が書かれる。甕・鍋はハケ調整が施され、78の底部には網代痕が認められる。時期は、坏類の特徴から9世紀第3・4四半期頃と考えられ、ST382より新しい。ST383・384竪穴住居(第26図・第68図80~84)

G 区北側 13・14-63・64G で 2 棟が重複して検出された。

ST383 は ST384 を切る竪穴で、平面プランは長辺 2.46 m、短辺 2.12 mを測る正方形を呈する。確認面からの深さは 20~24cm を測る。主軸方位は N-3°12′54″-Eを測る。壁は急角度で立ち上がり、床面は平坦である。柱穴は 3 基 (EP470・471・511) 確認された。出土した遺物は、土師器の甕 (80~82) などである。80 は完形の甕、81 は体部外面に墨書がみられる。80 の口唇部は丁寧な作りで、9世紀中頃の特徴がみられる。

切り合いから、ST384 よりも新しい。

ST384 は南側を ST383 に切られる竪穴で、平面プランは長辺 2.80 m、短辺 2.60 mを測る正方形を呈する。確認面からの深さは $20 \sim 28$ cm を測る。主軸方位は N-7°0′54″-E を測る。壁は急角度で立ち上がり、床面は平坦である。内部施設は南西隅に貯蔵穴(EK473)が検出された。EK473 は直径 50cm、深さ約 20cm を測り北西側がフラスコ状に掘られている。また、南東隅には、粘土の塊が検出されている。柱穴は 3 基(EP474 \sim 476)確認された。

出土した遺物は、底部切り離しが回転糸切の須恵器の無台坏(83)と内外面にハケ調整が施され底部に網代痕がある土師器の甕(84)の他に、鋳型と推測される土製品(写真図版50)がある。鋳型と考えられる土製品は、残存している個体から、その形態は隅丸の長方形で箱型と思われるが、U字形の部品もあることから、正確な形は不明である。接合しない3個体から長さ17cm以上、幅10cm以上になると推測される。時期は、9世紀中頃と思われるが、ST383よりも古い。

ST478 竪穴住居 (第 27・28 図・第 68 図 85 ~ 71 図 121)

G区北西隅の14・15-62・63Gで検出された。東側をSK510に切られ、北西側は調査区外になる。平面プランは長辺4.62 m、短辺3.5~4.3 mを測る台形を呈すると思われる。確認面からの深さは10~22cmを測る。主軸方位はS-20°21′47″-Eを測る。壁は急角度で立ち上がり、床面は凹凸がみられる。内部施設は、カマドが南東角(EL477)と南西側(EL483)に検出された。EL477は馬蹄形を呈し内側が燃焼部で煙道は認められない。EL483は袖らしき部分があり、内側が深く掘られている。形態が判然とせず、壊されている様相がみられる。このことから、EL483からEL477に造り替えを行ったとも考えられる。柱穴は3基(EP492~494)確認された。また、EL477周辺から竪穴中央部にかけて貼り床とみられる黄褐色粘土の層が検出された。

出土した遺物は、須恵器は蓋(85)、無台坏(86~90)、有台坏(91)、底部欠損の坏(92・93)、甕(94)、壺(95)などで、85は平笠タイプで摘みが低く作られる。無台坏はロクロ整形で、底部切り離しは回転糸切となるが、底径に比べ器高が高く、体部が内湾ぎみに立ち

上がる碗形となるもの(88)がある。また、91の外面体部には墨痕がみられ、94・95は外面や底部に自然釉が付着する。土師器には無台坏(96~98)、有台坏(99)、底部欠損の坏(100・101)、甕(102~118・120)、小型壺(119)、鍋(121)などがある。坏類の底部切り離しは回転糸切でロクロ整形である。甕の体部はハケ調整が施され、113~117の底部には網代痕が認められる。また、土師器の甕には口縁部が強く外反して、胴径長より口径長が長くなるもの(102~108)と口縁部がくの字状で口径長より胴形長が長くなるもの(110・112)がある。時期は、須恵器の無台坏などの特徴から9世紀第3四半期頃と考えられる。

SB1820 掘立柱建物 (第 29 ~ 31 図)

D区中央南側の35・36-57・58GでSB1953の南に 検出された。9基の柱穴で構成される梁行2間、桁行2 間で中央にも柱をもつ総柱の建物跡である。主軸方位 はN-2°10′30″-Wとなる。建物の規模は東西梁行 3.1 m、南北桁行3.2 mを測り、面積は9.92 ㎡となる。 柱間距離は梁行が西側から1.7 m、1.4 mで、桁行は南 から1.6 m、1.6 mを測る。掘り方の平面形はEB1981 ~1983は114~122×52~78cmの東西に長いほ ぼ長方形、他は66~100×54~80cmを測る正方形 や隅丸方形で、深さは16~36cmである。柱痕跡は径 18~32cmのほぼ円形を呈し、8ヶ所で確認された。 側柱の柱痕跡が掘り方の内側に寄っている特徴がみられる。

SB1953 掘立柱建物(第 32・33 図・第 72 図 122 ~ 124)

D区中央南側の $36 \sim 38-57 \cdot 58$ G で SB1820 の北に検出された。柱穴は 9 基検出された。北西角の柱穴は調査区外になるため、確認できず、EB2126 も東半のみの検出になったが、梁行 2 間、桁行 3 間の南北棟の建物と推定される。主軸方位は $N-0^\circ$ 23' 24'' -W で、建物の規模は東西梁行 4.3 m、南北桁行 4.9 mを測り、面積は 21.07 ㎡となる。柱間距離は南側梁行が西から 2.0 m、2.3 mで北側梁行は確認できた東側のみ 2.1 m、西側桁行は南側から 1.6 m、1.6 mで北側は不明。東側は 1.6 m、1.7 m、1.6 mを測る。掘り方の平面形は $70 \sim 102 \times 50 \sim 90$ cm を測る楕円形や隅丸方形で、深さは $22 \sim 60$ cm であるが、中柱の深さが約 $20 \sim 40$ cm な

のに対し、隅柱が約 60cm と深く掘られている。柱痕跡は全ての柱穴で確認でき、 $25\sim45\times15\sim30$ cm の楕円形を呈する。EB1962 の覆土に焼土粒がみられた。

遺物は、底部の切り離しが回転糸切の須恵器の有台坏(122)、甕の体部破片(123)、土師器の坏(124)などがある。122・124はEB1962、123はEB2126から出土した。時期は、土器の形態や調整技法から9世紀後半と考えられる。

SB2151 掘立柱建物 (第 34・35 図・第 72 図 125)

D区中央西端 $38 \cdot 40$ -- $58 \cdot 59$ G で SB1953 の北に検出された。北西部分は調査区外となる。柱穴は 5 基検出できた。南側の中柱は確認できなかったが、梁行 2 間以上、桁行 2 間以上の中央にも柱を持つ総柱の建物と考えられる。主軸方位は N-2° 23′ 24″ -W となる。建物の規模は東西 4.4 m以上、南北 5.1 m以上を測り、面積は 22.44 ㎡以上になると思われる。柱間距離が確認できたのは、東側桁行のみで南から 2.6 m、2.5 mである。掘り方は、EB2121 が大きく 150×50 cm 以上を測る楕円形と考えられるが、他は $54 \sim 96 \times 50 \sim 70$ cmの楕円形や不整形で、深さは $16 \sim 40$ cm を測る。柱痕跡は 4 ケ所で確認でき、 $15 \sim 20$ cm の円形を呈する。

図示できた遺物は、黒色土器の有台坏(125)で、EB1923から出土した。内面に黒色処理とミガキが施され、摘み出し高台で、底部の切り離しは回転糸切である。 SB2152掘立柱建物(第36・37図)

D区中央の39・40-60・61GでSB2151の東側で検出された。10基の柱穴で構成される東西梁行2間、南北桁行3間の南北棟の建物跡である。主軸方位はN-12°01′33″-Eとなる。建物の規模は東西梁行4.2 m、南北桁行5.4 mを測り、面積は23.22 ㎡となる。柱間距離は梁行が西側から2.2 m、2.1 mで、桁行は西側が南から1.8 m、1.8 mで東側が2.0 m、1.7 m、1.7 mを測る。掘り方の平面形は54~76×46~72cmの楕円形や隅丸方形で、深さは6~32cmである。柱痕跡は6ヶ所で確認でき、15~35×15~20cmの円形や楕円形を呈する。

SB2154 掘立柱建物 (第 38・39 図)

D区中央の40・41-62・63GでSB2152に北東側で 検出された。南北梁行3間、東西の桁行3間の東西棟 の建物跡と考えられ、11基の柱穴が検出された。西側 梁行の北から 2 本目の柱穴は確認できなかった。主軸方位は N-85° 44′ 42″-E となる。建物の規模は南北梁行が東側で 4.5 m、西側で 4.5 m、東西桁行 5.5 mを測り、面積は 24.75 m²となる。柱間距離は東側梁行が南から 1.3 m、1.7 m、1.6 m、桁行は南側が東から 1.5 m、2.0 m、2.0 mで北側は 1.7 m、2.0 m、1.8 mを測る。掘り方の平面形は正方形や楕円形、隅丸方形などで、 $40\sim80\times32\sim58$ cm、深さは $10\sim52$ cm を測る。但し、EB2165 は柱間の軸線から、ずれが認められることから、再検討を要する。柱痕跡は 9 ケ所で確認でき、 $15\sim30\times15\sim40$ cm の円形や楕円形を呈する。また、EB1902・1903・2165 の覆土に焼土粒がみられた。

SB2160 掘立柱建物(第 40・41 図・第 72 図 126)

D区中央やや北側の 41・42-63・64G で検出された。8 基の柱穴で構成される東西梁行 2 間、南北桁行 2 間の南北棟の建物跡である。北西の隅柱 EB2161 は SK2156 に西半分を切られる。主軸方位は N-2°06′54″-E となる。建物の規模は、梁行が南側で 3.8 m、北側で3.9 m、桁行が西側で 4.8 m、東側で 4.5 mを測り面積は 18.14 ㎡となる。柱間距離は、梁行の南側が西から1.8 m、2.0 mで北側が2.0 m、1.9 mとなり、桁行は西側が南から2.3 m、2.5 mで、東側が2.3 m、2.2 mを測る。掘り方の平面形は50~72×46~64cmの円形や楕円形を呈し、深さは12~34cmである。柱痕跡は7ヶ所で確認でき、15~25×10~25cmの円形や楕円形を呈する。

遺物は、EB2158から金属製品(126)が出土した。 残存長 61mmで U 字状の形態となり、厚さは 1.5mm と薄いものである。現存形からは用途不明である。

SB1038・2176・2186 掘立柱建物(第 42 ~ 50 図・第 72 図 127 ~ 131)

D 区中央やや南東側の $35 \sim 38-59 \cdot 60$ G で、 3 棟が 重複して検出された。南東側の約 1/3 の柱穴は第 5 次 調査で検出している。

SB2176 は SB1038 と SB2186 を切る建物跡で、東西梁行 2 間、南北桁行 2 間の南北棟の建物跡であるが、南東角の柱穴は排水溝により削平されたため、確認できた柱穴は 7 基であった。主軸方位は N-1°30′04″-W となる。建物の規模は、梁行が 3.3 m、桁行は、西側が 4.6 m、東側が 4.4 mを測り、面積は 14.85 ㎡と

なる。柱間距離は、南側梁行が西から $1.6\,\mathrm{m}$ 、 $1.7\,\mathrm{m}$ で 北側は $1.8\,\mathrm{m}$ 、 $1.5\,\mathrm{m}$ 、桁行は西側が南から $2.2\,\mathrm{m}$ 、 $2.4\,\mathrm{m}$ 、東側が $2.2\,\mathrm{m}$ 、 $2.2\,\mathrm{m}$ を測る。掘り方の平面形は $36\,\sim\,50\,\times\,24\,\sim\,42\,\mathrm{cm}$ の円形や隅丸方形で、深さは $24\,\sim\,38\,\mathrm{cm}$ を測る。柱痕跡は、 $4\,\mathrm{r}$ 所で確認でき、 $10\,\sim\,40\,\times\,10\,\sim\,35\,\mathrm{cm}$ の円形を呈する。SB2176 は柱穴の規模 から、足場柱穴の可能性もある。

遺物は図示できなかったが、EB2141・2142から須恵器や土師器の破片が出土した。

SB2186 は SB2176 と SB1038 に切られる建物跡で、東西梁行 2 間、南北桁行 3 間の南北棟の建物跡である。主軸方位は N-1°56′24″-W となる。建物の規模は梁行 3.9 m、桁行は西側が 4.9 m、東側が 4.6 mを測り、面積は 18.53 ㎡となる。柱間距離は、梁行の南側が西から 2.1 m、1.8 m、北側が 1.9 m、2.0 m、桁行は西側が南から 1.4 m、2.0 m、1.5 m、東側が 1.4 m、1.9 m、1.3 mを測る。掘り方の平面形は 56~110×50~84cm の正方形や長方形を呈し、深さは 12~42cmである。柱痕跡は 4 ケ所で確認でき、20~30×10~25cm の楕円形を呈する。

SB1038 は SB2186 を切り、SB2176 に切られる建物 跡である。東西梁行2間、南北桁行5間で南側桁行3 間が側柱に、北側桁行2間は中央にも柱をもつ総柱に なる 17 基の柱穴で構成される側柱+総柱の建物跡であ る。主軸方位は N-0° 18′ 14″-W となる。建物の規 模は、梁行が 3.9 m、桁行が 9.2 mを測り、面積 35.88 ㎡ (側柱部分 21.45 ㎡・総柱部分 14.43 ㎡) となる。 柱間距離は、南側梁行が西から 2.0 m、1.9 mで北側が 1.9 m、2.0 mとなり、桁行は西側が南から 1.9 m、1.7 m、 1.9 m、1.9 m、1.8 m、東側は 1.9 m、1.9 m、1.7 m、 1.8 m、1.9 mを測る。掘り方の平面形は60~110× 50~106cmの正方形や長方形を呈し、深さは20~ 66cm である。総柱の柱穴に比べ、側柱の柱穴の規模が 大きく、深く掘られる。また、総柱の中柱は他の柱穴に 比べ、深さは 20cm と浅い。柱痕跡は全ての柱穴で確 認でき、15~30×15~25cmの円形や楕円形を呈す る。この建物と同様と思われる建物が中山町の達磨寺遺 跡の第3次調査で検出されている。総柱建物 SB510 と 隣接する SP514~521 の柱穴を組み合わせる建物であ る。報告書でも一連の建物の可能性が指摘されている。

遺物は、EBから出土した須恵器の甕破片(127)、土師器の無台坏(128)、鍋(129)、黒色土器(130・131)などが図示できた。128・130の底部切り離しは回転糸切で、129の底部には網代痕が認められる。130は底部資料、131は碗型の口縁部資料で内面に黒色処理とミガキが施される。

柱穴の切り合いから SB2186 \rightarrow SB1038 \rightarrow SB2176 の新旧関係が確認できるが、遺物に時期差がみられないことから短期間に建て替えが行われたと考えられる。

SB1697 掘立柱建物 (第 51 ~ 53 図)

E 区北側の 33・35-77・78G で検出された。南北梁 行 3 間、東西桁行 4 間で中央にも柱をもつ総柱の東西 棟の建物跡であるが、北西角の柱穴は確認できなかったため、検出できた柱穴は 19 基である。主軸方位は N-82° 26′ 24″-W となる。建物の規模は東側梁行が 6.9 m、西側が 7.0 m、桁行は南側が 4.9 m、北側が 5.0 mを測り、面積は 34.40 ㎡となる。柱間距離は、梁 行が東側で南から 2.1 m、2.4 m、2.4 m、西側が 2.4 m、2.4 m、2.2 mで、桁行は南側が東から 1.2 m、1.2 m、1.4 m、1.1 m、北側が 1.2 m、1.1、1.5 m、1.2 mを測る。据り方の平面形は 34~62×28~60cmの円形や楕円形などを呈し、深さは 12~26cmである。柱痕跡は 15 ヶ所で確認でき、10~25×10~15cmの円形や 楕円形となる。

EB1690 に残存していた柱材の分析を行ったところ、 材料はヒノキ科で、年代は近現代(Modern)との結果 がでている(第V章 $1\cdot 3$)ことから、新しい時期の建 物跡の可能性もある。

SB469 掘立柱建物 (第 54 図)

G 区北側の $12 \cdot 13$ - $61 \cdot 62$ G で ST381 \cdot 382 と重複して検出された。東西梁行 2 間、南北桁行 2 間の建物跡と考えられる。ST382 を切り、ST381 \cdot 386 に切られると思われ、北西の隅柱と東の中柱が検出されず、見つかった柱穴は 6 基である。主軸方位は N-10° 59′02″-W となる。建物の規模は、梁行の南側が $3.9 \, \text{m}$ 、北側が $4.1 \, \text{m}$ 、桁行の西側が $5.6 \, \text{m}$ 、東側が $5.7 \, \text{m}$ を測り、面積は $22.60 \, \text{m}$ となる。柱間距離は梁行の南側で西から $2.2 \, \text{m}$ 、 $1.7 \, \text{m}$ 、北側は $2.5 \, \text{m}$ 、 $3.1 \, \text{m}$ で、桁行が西側で南から $2.5 \, \text{m}$ 、 $1.6 \, \text{m}$ を測る。掘り方の平面形は $40 \sim 52 \times 30 \sim 42 \, \text{cm}$ の円形や楕円形などを呈し、

深さは $20 \sim 50$ cm である。柱痕跡は 2 ヶ所で確認でき、 $10 \sim 25 \times 15 \sim 30$ cm の楕円形を呈する。

SK2144 土坑(第 38・39 図・第 72 図 132 ~ 137)

D区中央の 40-61G で検出され、SB2154-EB2165 に 南側を切られる土坑である。平面プランは長辺 0.7m 以上、短辺 0.7m の不整形を呈する。確認面からの深さは 10cm を測る。断面形は壁が緩やかに立ち上がり、底が 平坦となるレンズ状となる。 覆土は 4層に分かれ、全体 に焼土粒を混入するが、 3層目には赤褐色の焼土が堆積 している。

遺物は、土師器の甕 (132~134)、黒色土器 (135)、 金属製品 (136・137) がある。133・134 は 2 次焼成 を受け、表裏面が剥落し、135 は内面に黒色処理とミ ガキが施される。136・137 は金属製の紡錘車で、136 は軸が斜めになっている。県内では、山形市の上敷免遺 跡や寒河江市の高瀬山遺跡で出土している。

SK2162 土坑(第 18 ~ 21 図・第 73 図 138)

D区中央やや北側の 43-63G で検出された。SK1819 を切る土坑である。平面プランは長径 0.96 m、短径 0.7 mの楕円形を呈する。確認面からの深さは 20cm を 測る。断面形は壁が急角度で立ち上がり、底面が平坦な 台形状となるが、南東壁が段状になる。覆土は 4 層に分かれ、4 層目には赤褐色の焼土が混入している。

図示できた遺物は、ロクロ整形の土師器の壺(138) の口縁部資料のみである。

SK1819 土坑(第 18 ~ 21 図・第 73 図 139 ~ 75 図 164)

D区中央やや北側 43-63・64G で ST1818 と重複して検出された。北側で ST1818 を切り、南西部分を SK2162 に切られる土坑である。平面プランは長径 3.3 m、短径 3.2 mの円形に近いが、南東部分が張り出す形態で確認面からの深さ 34cm を測る。断面形は壁が急角度で立ち上がり、底面がほぼ平坦となる台形状となるが、南東の張り出し部は階段状になる。覆土は7層に分かれ、黒色シルトと黒褐色シルトが堆積し、1・2・4~6層に焼土を混入し、3・7層に炭化粒を含む。

遺物は、須恵器には無台坏 $(139 \sim 146)$ 、有台坏 $(147 \cdot 148)$ 、坏(149)、甕 $(150 \sim 152)$ 、土師器は無台坏 $(153 \cdot 154)$ 、小型鉢(155)、甕 $(156 \sim 164)$ などがある。 139 は底部に「方」の墨書が書かれ、140 は底部を付

け足している。また、147 は身が深い碗形である。141 ~ 145 は焼成不良、 $143 \cdot 145$ には火だすき痕がみられ、148 は外面の上部に自然釉が付着する。坏類の底部切り離しは、すべて回転糸切となる。

土師器の甕は、口縁部が強く外反する 161、口唇部が内傾し胴径長が口径長より長くなる 158~ 160、口唇が直立し、胴径長より、口縁長が長い 156・157 がある。9世紀中頃の特徴をもつ土器が多くみられる。他に、縄文時代の敲石(13)が出土しているが、後世の流れ込みと考えられる。

SK510 土坑 (第 27・28 図)

G区北側の 15-62G で ST478 と重複して検出された土坑で、ST478 を切り、北東隅を SK517 に切られる。平面プランは長辺 1.8 m、短辺 0.96 mの長方形を呈する。確認面からの深さは 20~ 26cm を測る。壁は急角度で立ち上がり、底面は東側が深く、西側が浅く掘られる階段状となる。覆土は 1 層目が黒色シルト、2 層目は黒褐色シルトで共に黄橙色砂質シルトを含み、1 層目には微量の焼土を混入する。

SK2156 土坑 (第 40・41 図)

D区中央北側の 42-63G で検出された SB2160 の柱 穴を切る土坑である。長辺 1.5 m、短辺 0.7 mを測る隅 丸長方形を呈する。確認面からの深さは 10cm を測る。 断面形は壁が急角度で立ち上がり、底面は平坦となる台 形状となる。覆土は 2 層に分かれ黒色シルトと黄褐色シ ルトが堆積する。

SK1446・2185 土坑 (第 55 図・第 76 図 165 ~ 80 図 229)

D区中央北東側の40-63・64Gで2基が重複して検出された。切り合いが確認できず、1基の土坑として掘り下げたが、北側が張り出す形態から2基と判断し、東側をSK1446、西側をSK2185とした。

SK1446 は東西に長い楕円形を呈する土坑と考えられ、長径 3.2 m、短径 1.3 m、確認面からの深さ 40cm を測る。

SK2185 は、径 2.4 mの円形のプランと考えられ、確認面からの深さは SK1446 と同じ約 40cm であった。 2基とも、覆土に大きな違いは無く、黒褐色や黒色のシルトを主に堆積し、明赤褐色の焼土が 2層目に堆積、炭化粒や焼土粒を 1・3層目に混入する。

SK1446から出土した遺物は、須恵器には無台坏(165 ~ 183)、有台坏(184·185)、坏(186~191)、双 耳坏 (192)、壺 (193·194)、甕 (195~197)、土 師器は、無台坏(198~202)、有台坏(203)、坏(204)、 甕(205・206)、壺(207)、すり鉢(208)、黒色土器 (209~212) などである。 須恵器と土師器の坏類はロ クロ整形で底部の切り離しは回転糸切となるが、200の 底部にはケズリとナデ調整を施す。また、171・172・ 175・176・198 は底部に墨書が、197 は底部にヘラ書 きがある。183は転用硯である。須恵器の無台坏には、 底径に対し器高が低いもの(165~167・172)と底 径に対し器高がやや高くなるもの(168~171)の他 に、190・191のように身が深い碗形のものもみられる。 192の取っ手部分はケズリ調整、193の頸部には波状 文が描かれる。土師器の甕や壺はハケやナデ調整が施さ れ、206~208の底部には網代痕がみられる。黒色土 器は内面に黒色処理とミガキが施される。

SK2185の出土遺物には、須恵器の無台坏(213~221)、甕(222~224)、土師器の無台坏(225)、甕(226~228)、黒色土器(229)などがある。坏類は、ロクロ整形で底部の切り離しは回転糸切である。須恵器の無台坏には、底径に比べ器高が高いもの(213・214)と器高が低いもの(215~217)がある。222~224は外面に平行タタキ痕、内面にアテ痕がみられる。土師器の甕はハケ目調整が施され、227・228の底部には網代痕がある。229は内面に黒色処理とミガキが施される。これらの土坑からは、9世紀中~後半に属する土器が多く出土している。

SK1872 土坑(第 55 図・第 80 図 230 ~ 232)

D区中央東端の 40・41-63・64G で SK2185 と重複して検出された。平面プランは一辺が 2.25 mの隅丸方形を呈し、確認面からの深さは 18cm を測る。断面形は壁が緩やかに立ち上がり、底面がほぼ平坦となるレンズ状となる。覆土は 2 層に分かれ黒褐色シルトと黒色シルトが堆積し、 1 層目に微量の焼土粒を含む。

図示できた遺物は、須恵器の無台坏(230)、土師器の甕(231・232)などである。230は底部の切り離しが回転へラ切である。231・232はケズリやナデ、ヘラナデが施され、内面には指圧痕がみられる。

SK1904 土坑 (第 56 図)

D区中央東側の 39-63G で検出され、西側を SP2219 に切られる。平面プランは長径 1.3 m、短径 1.05 mの 楕円形を呈し、確認面からの深さは 22 ~ 28cm を測る。壁は急角度で立ち上がり、底面は中央部が浅くなる。覆土は 2 層に分かれるが、2 層目は壁の崩落土で、黄橙色砂質シルトを含む黒色シルトが堆積する。

SK2019 土坑 (第 56 図)

D区 33-58G で検出された。平面プランは直径約 0.9 mを測る円形を呈し、確認面からの深さは 20cm を測る。断面形は壁が緩やかに立ち上がり、底面が弧を描くレンズ状になる。 覆土は 2 層に分かれ、灰白色の微細な砂粒を含む黒色シルトと黒褐色シルトが堆積する。

SK2036 土坑(第 56 図・第 81 図 233 ~ 235)

D区南側 32-56G で SK2037 の北側に検出された。平面プランは長辺が $1.9 \,\mathrm{m}$ 、短辺が $0.6 \sim 1.1 \,\mathrm{m}$ を測る台形状を呈する。断面形は壁が緩やかに立ち上がり、底面は平坦となる台形状を呈するが、南側が浅くなる。確認面からの深さは $4 \sim 12 \,\mathrm{cm}$ を測る。覆土は $3 \,\mathrm{m}$ 信任分かれ、浅黄橙色の砂質シルトを含む黒色や黒褐色シルトが堆積する。また、 $2 \,\mathrm{m}$ 層目には焼土粒が混入する。

図示できた遺物は、9世紀後半に属すると思われる土師器の無台坏(233~235)3点で、ロクロ整形で底部切り離しは回転糸切となる。

SK2037 土坑 (第 56 図)

D区南側の 32-56G で SK2036 南側に検出された土坑である。平面プランは長径 $0.86~\mathrm{m}$ 、短径 $0.64~\mathrm{m}$ のほぼ楕円形を呈し、深さは $5\sim10\mathrm{cm}$ を測る。壁が急角度で立ち上がり、底面は段状になり東側が浅くなる。覆土は 1 層で黄橙色の砂質シルトを多量に含む黒褐色シルトが堆積する。

SK2129 土坑 (第 56 図・第 81 図 236)

D区中央南西端の37-56Gで検出された土坑で、北西端が調査区外になる。平面プランは。長辺1.0 m、短辺0.9 mの隅丸方形を呈し、確認面からの深さは20cmを測る。断面形は、壁が急角度で立ち上がり底面が緩やかな弧を描く形態となる。覆土は4層に分かれ、黒色シルトに明褐色や灰黄褐色のシルト土が混じる。

図示できた遺物は、土師器の鍋(236)と思われる口 縁部資料である。外面はナデとハケ、内面がハケ調整を 施される。

SK2164 土坑 (第 57 図)

D区中央の西側 42-61G で検出された SP2168 を切る 土坑である。平面プランは長辺 0.6 m、短辺 0.5 mの長 方形を呈し、確認面からの深さは 18cm を測る。断面 形は壁が急角度で立ち上り、底面が弧を描く U 字状に なる。覆土は 2 層に分かれ、黒色シルトが堆積し、 2 層 目には明黄褐色の砂質土をブロックで含む。

SK391 土坑 (第 57 図)

G区の中央北西の 12-60G で検出された。西側が調査 区外となる。径 1.2 mを測る円形の土坑と考えられる。 確認面からの深さは 30cm で、覆土は2層に分かれ、1 層目には明黄褐色の砂質シルト、2層目には黒褐色シルトが混じる。

SK392 土坑 (第 57 図・第 81 図 237・238)

G区中央北西の 12-61G、SK391 の東側で検出された。 平面プランが楕円形の長径 0.45 m、短径 0.34 mで確認面からの深さが 15cm と小規模な土坑である。明褐色や褐色の焼土が堆積し、土器の破片が含まれる。底面が焼けていないことから、土器焼成の焼土を捨てたと考えられる。

図示できた遺物は、土師器の甕(237・238)2点で、口縁部から体部の破片資料である。口縁部はナデ、体部はハケ調整となるが、238は内面の口縁部にもハケ調整が施されている。

SK395 土坑 (第 57 図・第 81 図 239)

G区中央北側 11-61G で検出された。平面プランは長径 1.35 m、短径 0.92 mの楕円形を呈し、確認面からの深さは 12cm を測る。断面形は壁が緩やかに立ち上がり底面は弧を描くレンズ状になる。覆土は 2層に分かれ、黄褐色シルトを含む黒色シルトにブロック状の黒色と黒褐色シルトの混じり土が堆積する。

図示できた遺物は、須恵器の無台坏(239)の底部資料1点のみである。外面に媒が付着し、底部の切り離しはヘラ切で、乾燥時に付いた材の痕が認められる。

SK396 土坑 (第 57 図・第 81 図 240)

G区中央の11-60・61Gで検出された。平面プランは、 長径2.4 m、短径1.9 mの楕円形を呈し、確認面からの 深さは35cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面 は凹凸が認められる。覆土は、2層に分かれ焼土を混入 する黒色シルトと黒褐色シルトが堆積する。 図示できた遺物は、須恵器の無台坏(240)で、ロクロ整形で底部切り離しは回転糸切となる。

SD1029 溝跡 (第 58 図)

今回の調査では D 区の 32-54・55G と E 区の 29-73 ~ 76G で検出された。第 5 次調査の結果から、部分的 に途切れるが、5 次調査区及び D・E 区を横断する一連 の溝と考えられ、総延長は 91.5 m以上になる。

E区では東西方向に全長 16.0 m検出されたが、東から約 10mのところで、南にクランク状に屈曲する。西は調査区内で途切れるが、東は調査区外に延びる。幅は30~58cm、確認面からの深さは10~20cmを測る。壁は急角度の立ち上がり、底面は部分的に凹凸がみられる。D区では、東西方向に全長5.5 mが検出された。西側は調査区外で東側はSK2036によって切られる。幅20~34cmで確認面からの深さは5~10cmと浅い。断面形は、壁が急角度で立ち上がり底面は平坦な台形状になる。覆土は2層に分かれ、1層目に黒色シルト、2層目に黄橙色のシルトが堆積する。

この溝跡は、建物群を囲む南の区画施設跡と思われる。 **SD1142 溝跡**(第 58 図・第 81 図 241)

D区の南側 30~32-54~56Gで検出された第5次 調査区に続く北西から南東方向の溝跡である。西側は SD1029と合流し調査区外へ延び、東側は5次調査区で 検出された溝と繋がる。

D区では全長 $12.2 \, \text{m}$ 、幅 $40 \sim 70 \, \text{cm}$ 、確認面からの深さは $8 \sim 10 \, \text{cm}$ と浅い。断面形は、壁の立ち上がりが緩やかで、底面は弧を描くレンズ状となる。覆土は $2 \in \mathbb{R}$ 居に分かれ、黒色シルトと明黄褐色シルトが堆積する。

図示できた遺物は、ケズリとハケ調整が施される土師 器の甕(241)の底部資料のみである。

SD1054・1857 溝跡 (第 59 図・第 81 図 242 ~ 244) D区 43・44-62 ~ 66G で重複して検出された。

SD1054 は、SD1857 と ST1818 を切る溝跡で東側は第5次調査区に延び、西側は調査区外に延びる。今回のD区では全長19.0 m検出された。幅58~64cm、確認面からの深さ16~30cmを測る。断面形は壁がほぼ垂直に立ち上がり、底面が平坦となる口状となる。覆土は2層に分かれ、黒褐色シルトが堆積し、2層目には黄橙色の砂質シルトが混じる。

遺物は、須恵器の双耳坏の取っ手部分(242)が出土

した。242 はヘラ削りで整形され、2 次焼成を受けている。

SD1857 は、ST1818 を切り、SD1054 に切られる溝跡で、西側は調査区外に延び、東側は 43-65G で途切れるが、北側で検出された SD1061 と一連の溝とも考えられる。全長 7.1 mで幅 $30 \sim 45$ cm、確認面からの深さ $25 \sim 40$ cm を測る。断面形は、壁がほぼ垂直に立ち上がり、底面が平坦となる口状となる。覆土は 3 層に分かれ、黒褐色シルトと黒色シルトが堆積する。

図示できた遺物は、ロクロ整形で、底部の切り離しが 回転糸切の須恵器の無台坏(243・244)である。

溝跡の土層断面から、溝跡 SD1857 を SD1061 に造り替えたと思われる。この溝跡は南側に検出された建物跡群を囲む、区画施設跡と考えられる。

SD1061 溝跡 (第 60 図・第 81 図 245)

D 区北側 $45 \cdot 46$ - $67 \sim 69$ G で検出され SK2220 を切る溝跡である。東側は 5 次調査区で検出された溝跡に繋がる。クランク状に屈曲する溝跡で、D 区では全長 14.5 m検出され、幅 $40 \sim 50$ cm、確認面からの深さ $20 \sim 42$ cm を測る。断面形は、壁がほぼ直角に立ち上がり、底面は平坦となる口状となる。覆土は黒色シルトが堆積し、1 層目に黒褐色シルト、2 層目に黄橙色砂質シルトが混じり 2 層に分かれる。

南側にある SD1857 と一連の溝跡の可能性が高く、 建物跡群を囲む区画施設跡と考えられる。

図示できた遺物は、摘みが宝珠形の蓋(245)で、天 井部は回転へラ削り調整が施される。

SD1062 溝跡 (第60図)

D区北側 47-68 ~ 70G で検出された。東側は 5 次調査区で検出された溝と繋がる。D区では全長 6.7 m検出され、幅50cm、確認面からの深さ8cmを測る。断面形は、壁が緩やかに立ち上がり、底面は弧を描く形態となる。覆土は 1 層で、黒色シルトに黄橙砂質シルトを含む。

SD1750 溝跡 (第 61 図・第 81 図 246)

E 区中央南側 $27 \sim 29-70 \sim 73$ G で検出された。東西から南北に L 字状に曲がり、屈曲部が広く掘られる溝跡で東側と北側が調査区外に延びる。確認できた全長は 25.5 m で幅 $25 \sim 45$ cm、確認面からの深さは $6 \sim 18$ cm を測る。覆土は 2 層で、黄橙色砂質シルトを含む

黒褐色シルトと褐灰色シルトが堆積する。建物跡群を囲む区画施設跡と考えられる。

図示できた遺物は、底部切り離しが回転糸切の土師器 の甕(246)底部資料のみである。

SP 出土遺物 (第 81 図 247 ~ 251)

柱穴と思われる遺構から出土した主な遺物である。出 土遺構番号は図に記した。

須恵器の無台坏(247・249)と土師器の無台坏(248・250・251)である。すべてロクロ整形で底部切り離しは回転糸切である。249は底部に墨書がある。

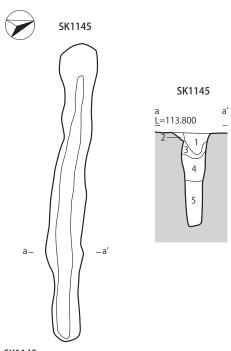
遺構外出土の遺物 (第82 図 252 ~ 84 図 296)

遺構外のグリッドで取り上げたものや出土地点不明の 遺物で、図示できた遺物を掲載した。

須恵器には蓋(252)、無台坏(253~271)、有台 坏(272)、甕(273~278)、土師器は、無台坏(279 ~ 285)、有台坏(286)、甕(288)、小型鉢(287)、 甕(289~291)など、黒色土器は有台坏(292)、壺 (293)、他に、陶器(294)、石製品(295)、金属製品 (296) などである。252 は平笠タイプの蓋、253 は底 径がやや大きく、器高が高い、体部が直線上に立ち上が る無台坏である。235~271は須恵器無台坏の底部資 料である。ロクロ整形で底部切り離しはすべて回転糸切 である。268は内面底部が転用硯として使用されている。 273 は須恵器甕の口縁部資料である。また、277・278 は底部にケズリとナデ調整が施される。土師器の無台坏 279 は底部の切り離しが回転へラ切で、器形から8世 紀末頃と思われる。また、280は253と形態が類似し ている。土師器の坏の底部資料 281~285 は、すべて ロクロ整形で底部切り離しは回転糸切となる。

287 は口縁部が短く、直立する形態の小型鉢である。 292 は低い柱状高台で底部切り離しは回転糸切、293 は底部に網代痕がみられ、媒が付着する。294 は陶器 で内外面に白色釉がかけられる。砥石 295 は一面のみ 使用されている。296 は刀子と思われたが、鑢の可能 性がある金属製品である。

遺構外の遺物で、279 は8世紀末、294 と296 は近世のものと推測されるが、他は概ね9世紀の範疇と考えられる。

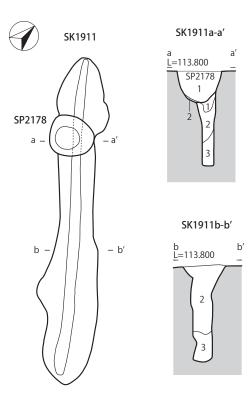


SK1145

- 1. 2.5YR2/1 黒色シルト(しまりなし。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色シルトを

 少量含む。)

 3. 10YR3/1 黒褐色シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色シルトを)
- 点状に微量含む。)
- 4. 2.5YR2/1 黒色シルト(10YR4/3 にぶい黄褐色シルトを 点状に含む。)
- 5. 5YR3/1 オリーブ黒色粘質シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色 シルトを斑状に多量含む。)



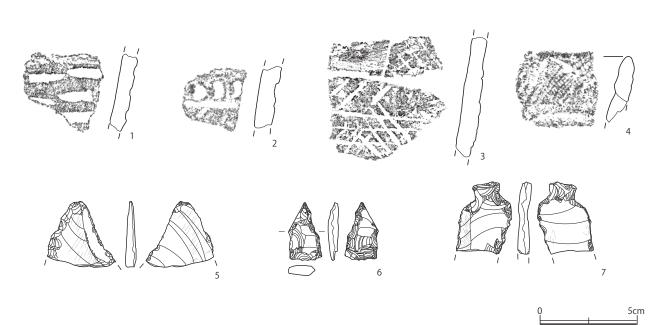
SK1911

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/4 にぶい黄橙色シルトを粒状に多
- 1. 10YR2/1 無色シルト (10YR5/4 にふい 異権色シルトを植状に多量含む。固くしまる。)
 2. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR にぶい 黄褐色シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)
 3. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR5/4 にぶい 黄褐色シルトを斑状ブロック状に多量含む。しまる)

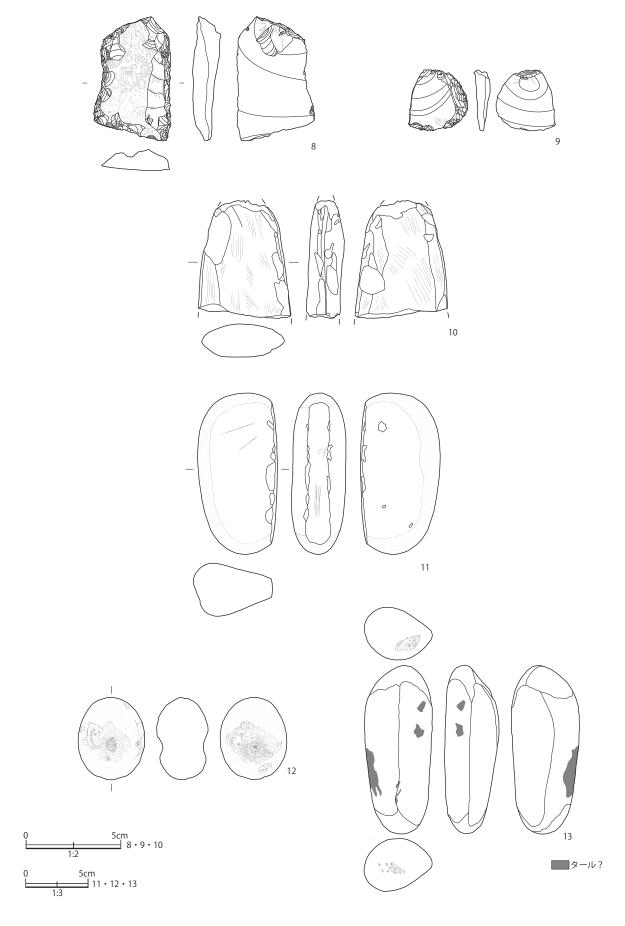
SP2178

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/6 褐色シルトを点状に微量含む。 固くしまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR4/6 褐色シルトを点状、ブロック 状に多量含む。)

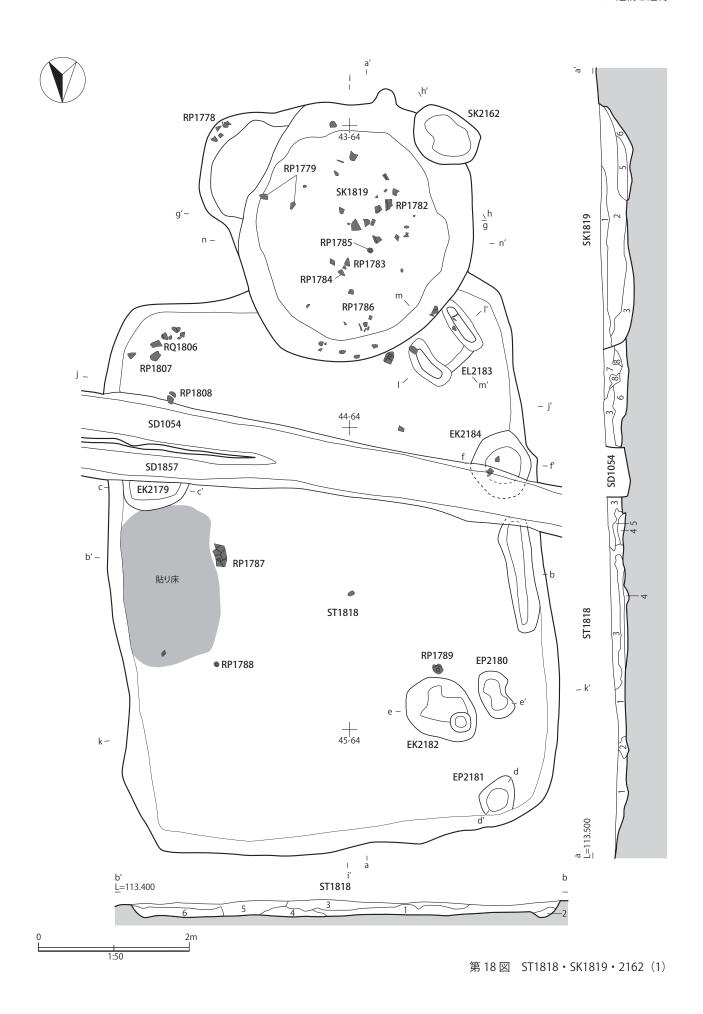


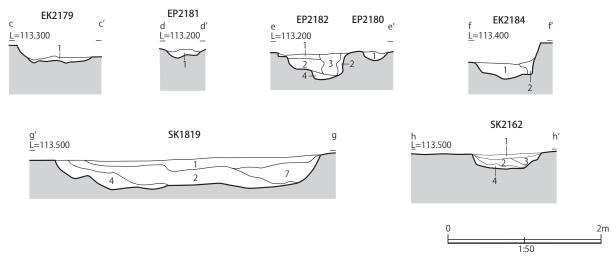


第 16 図 SK1145・1911・縄文時代の遺物(1)



第17図 縄文時代の遺物(2)





ST1818

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/6 褐色シルトをブロック状に少量含む。しまりなし。) 2. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/6 褐色シルトを粒状に少量含む。しまりなし)
- 3. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色粘質シルトをブロック状に少量含む。5YR5/6 明赤褐色焼土を粒状に微量含む。しまる。) 4. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを斑状に多量含む。5YR4/8 赤褐色焼土を粒状に微量含む。しまる。) 5. 10YR2/1 黒色シルト(5YR5/8 明赤褐色焼土と 5YR4/8 赤褐色焼土を帯状に多量含む。しまる。)

- 6. 10YR3/4 暗褐色粘質シルト(5YR5/6 明赤褐色焼土、10YR2/1 黒色シルトを帯状に含む。10YR7/8 黄橙色粘土をブロック状に微量含む。 固くしまる。)
- 7. 10YR2/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)
- 8. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色シルト、5YR5/6 明赤褐色焼土、10YR4/1 褐灰色シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)

1. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。10YR8/3 浅黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)

ST1818-EP2181

1.10YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)

ST1818-EP2182

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR5/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。10YR8/8 黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。固くしまる。)
- 3. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。) 4. 10YR2/1 黒色シルト (10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

ST1818-EP2180

1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを斑状に少量含む。固くしまる。)

ST1818-EK2184

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/6 褐色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)

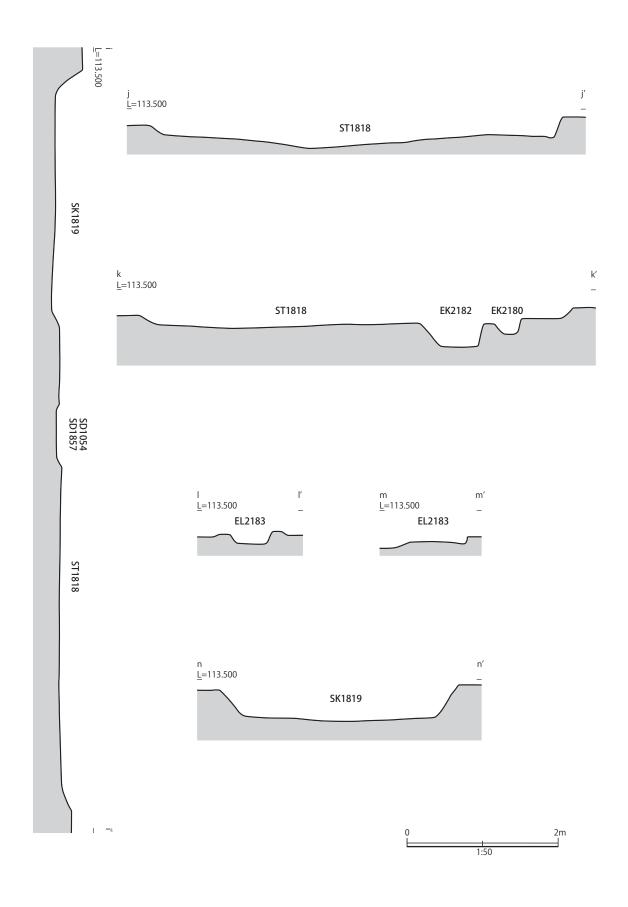
SK1819

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(5YR5/6 明赤褐色焼土と 10YR4/4 褐色シルトを点状に微量含む。固くしまる。) 2. 7.5YR3/1 黒褐色シルト(5YR5/6 明赤褐色焼土と 10YR6/6 明黄褐色シルトを粒状に多量含む。固くしまる。)
- 3. 10YR2/2 黒褐色シルト (7.5YR3/3 暗褐色シルトと 7.5YR3/1 黒褐色シルトを斑状に含み、炭化粒も微量含む。固くしまる。)
- 4. 10YR2/1 黒色シルト (5YR4/6 赤褐色焼土と炭化粒を点状に少量含み、5YR6/8 橙色焼土をブロックで含む。固くしまる。)
- 5. 5YR2/1 黒褐色シルト (5YR4/6 赤褐色焼土を多量含み、5YR6/6 明黄褐色焼土も大ブロックで含む。固くしまる。)
- 6.7.5YR1.7/1 黒色シルト (5YR4/6 赤褐色焼土を点状に微量含み、10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に含む。固くしまる。) 7.10YR3/2 黒褐色シルト (5YR4/6 赤褐色焼土と 10YR4/4 褐色シルトを斑状に多量含み、炭化粒を点状に少量含む。固くしまる。)

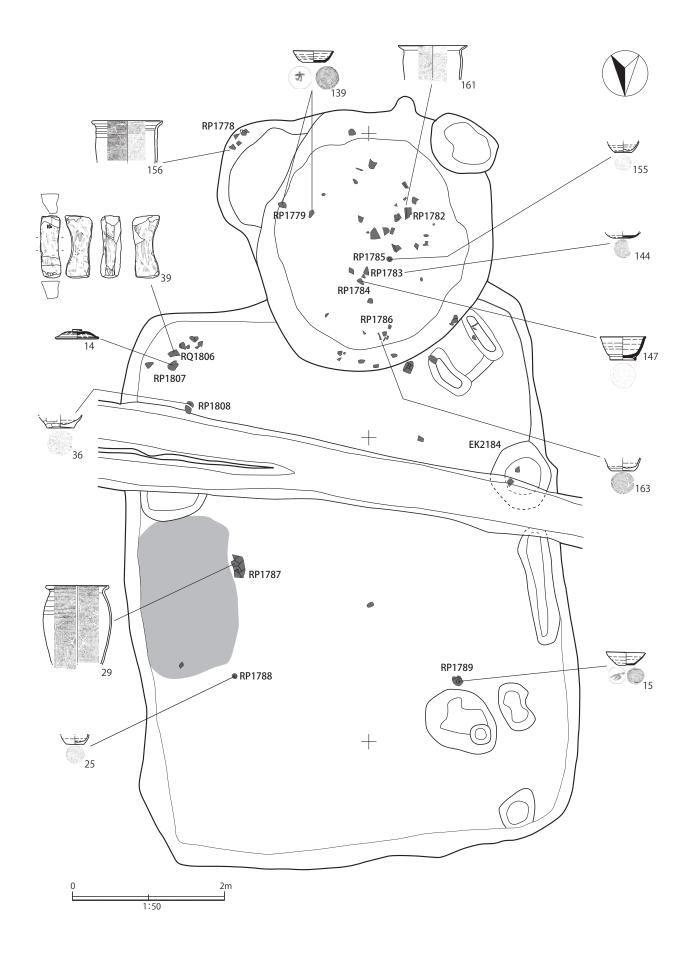
SK2162

- 1. 7.5YR2/2 黒褐色シルト (7.5YR4/6 褐色粘質シルトをブロック状に微量含む。しまる。)
- 2. 7.5YR2/1 黒色シルト (7.5YR4/6 褐色粘質シルトをブロック状に微量含む。しまる。)
- 3. 7.5YR2/1 黒色シルト(10YR8/8 黄橙色粘質シルト、7.5YR4/6 褐色粘質シルトを斑状に微量含む。しまる。)
- 4. 10YR8/8 黄橙色粘質シルト (7.5YR2/1 黒色シルトを斑状に多量含む。5YR4/8 赤褐色焼土を斑状に少量含む。固くしまる。)

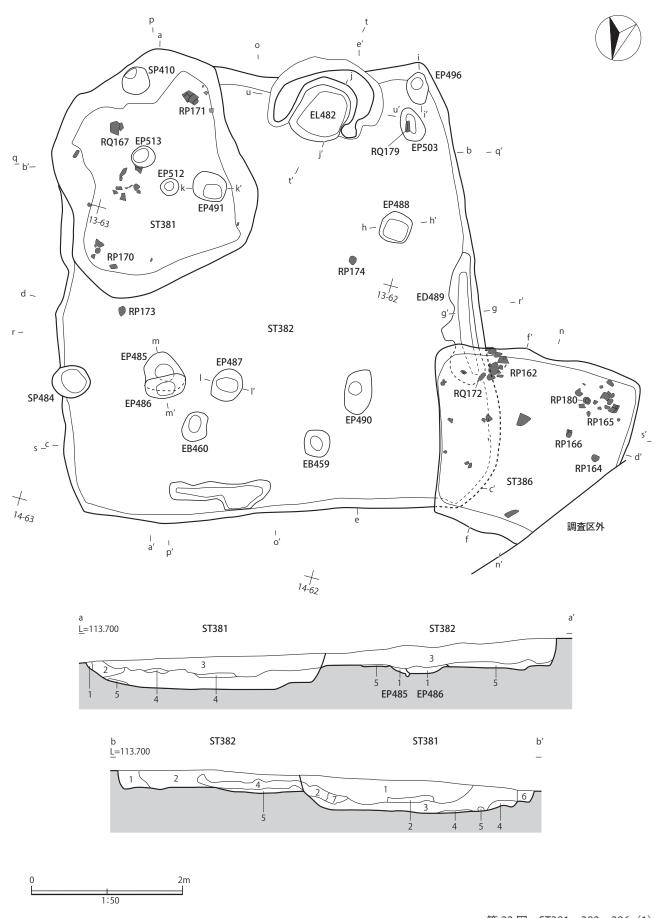
第19図 ST1818・SK1819・2162 (2)



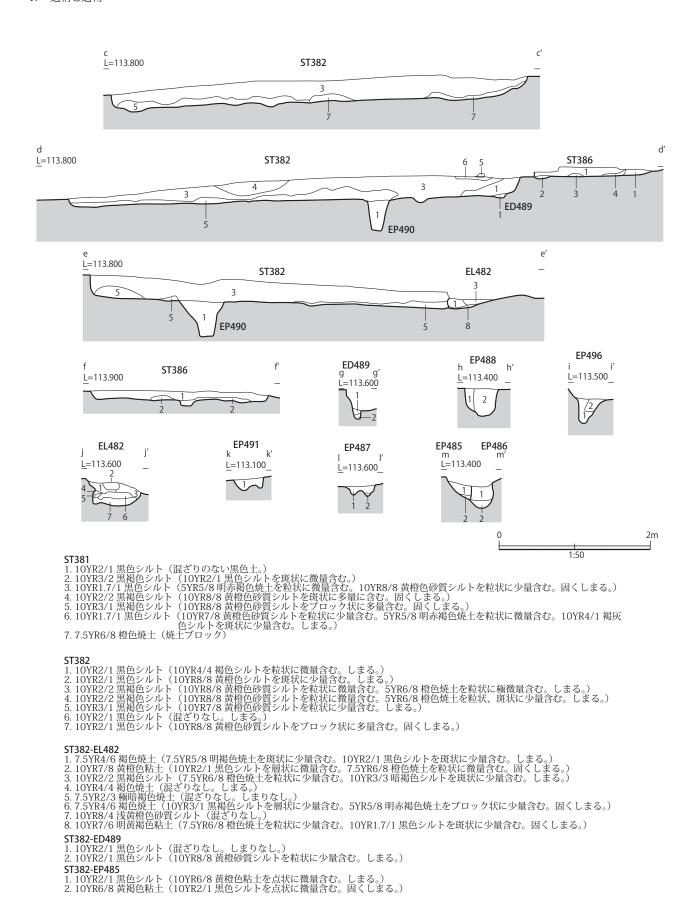
第 20 図 ST1818・SK1819・2162 (3)



第 21 図 ST1818・SK1819・2162 遺物分布図

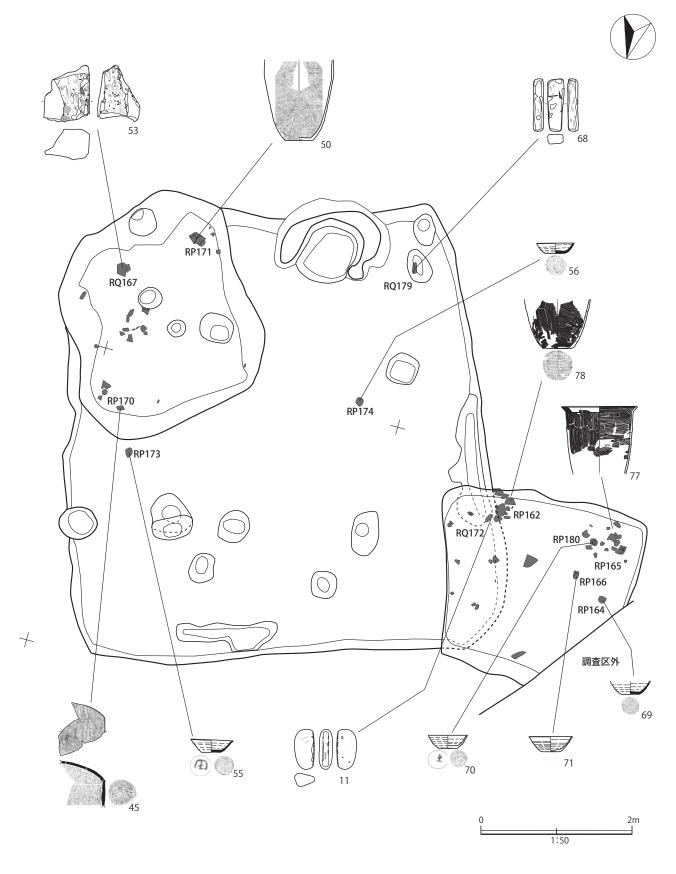


第 22 図 ST381・382・386 (1)

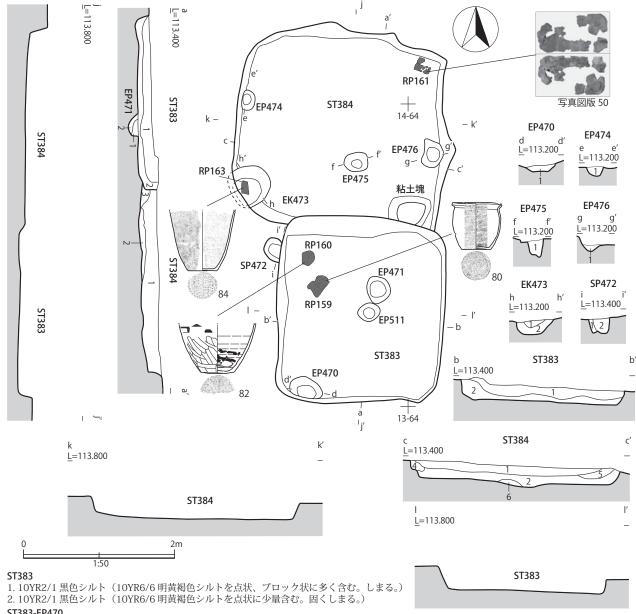


ST382-EP486 2. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR6/8 黄褐色粘土を点状に微量含む。しまる。) 2. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR6/8 黄褐色粘土をブロック状に多量含む。しまる。) 31302-cr46/ 1. 10VR1.7/1 黒色シルト(10VR5/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。) 2. 10VR3/1 黒褐色シルト(10VR8/8 黄橙砂質シルトをブロック状に多量含む。固くしまる。) ST382-EP488 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。) 2. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。) **ST382-EP490** 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR8/6 黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。) **ST382-EP491** 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。) **ST382-EP496** 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトと 5YR4/6 赤褐色焼土を点状に少量含む。しまる。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。しまる。) ST386 1. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR7/8 黄橙色シルトを粒状、ブロック状に少量含む。しまる。) 2. 10YR2/3 黒褐色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。) 3. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色シルトを粒状に少量含む。しまる。) 4. 10YR8/8 黄橙色粘土(7.5YR6/8 橙色焼土を微量含む。) <u>L</u>=113.500 ST386 o' L=113.500 ST382 p L=113.500 p' ST381 EP485 EP486 ST382 q'q <u>L</u>=113.500 ST382 ST381 <u>L</u>=113.500 ED489 ST382 s <u>L</u>=113.500 ST386 ST382 EB459 ť u^{\prime} <u>L</u>=113.500 <u>L</u>=113.500 **EL482** EL482 2m 第24図 ST381・382・386 (3)

41



第 25 図 ST381・382・386 遺物分布図



ST383-EP470 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR7/8 黄橙色シルトを粒状に少量含む。しまりなし。)

- 1. 10YR1.7/1 黒色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。固くしまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを粒状、斑状に多く含む。固くしまる。)

ST384

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。しまる。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトと 2.5YR5/6 明赤褐色シルトを点状に少量含む。しまる。) 3. 10YR2/2 黒褐色粘質シルト(10YR6/6 明黄褐色粘質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

- 4. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを粒状に少量含む。しまる。) 5. 10YR2/2 黒褐色粘質シルト (10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)
- 6. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。2.5YR5/6 明赤褐色シルトを斑状に多量含む。しまる。)

ST384-EP474

1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR5/8 黄褐色シルトを粒状に微量含む。しまる。)

ST384-EP475

1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトをブロック、粒状に少量含む。しまる。)

ST384-EP476

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを粒状、斑状に少量含む。しまる。)

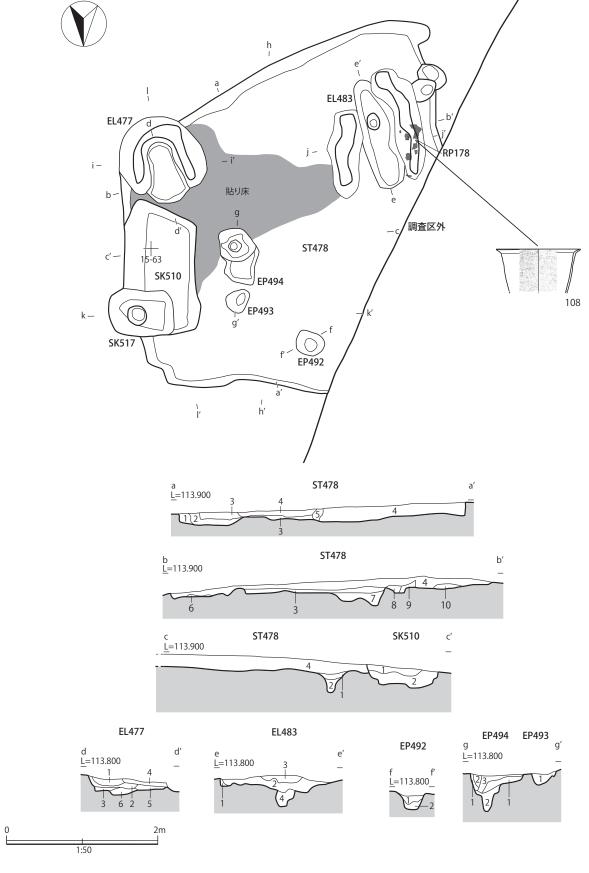
ST384-EK473

- 1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR3/1 黒褐色シルトを斑状に少量含む。1 に含まれる砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

SP472

- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト (混ざりのない黒色土。しまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト (5YR5/8 明赤褐色焼土を粒、帯状に少量含む。しまる。)

第 26 図 ST383・384



第 27 図 ST478、SK510(1)

ST478

- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR7/8 黄橙色シルトを斑状に多量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/2 黒色シルト (10YR4/6 褐色シルトを斑状、帯状に少量含む。しまる。) 3. 10YR2/1 黒色シルト (10YR4/6 褐色シルトをブロック状に少量含む。しまる。)
- 4. 10YR2/1 黒色シルト (10YR8/8 黄橙色砂粒を全体に微量含む。しまる。)
- 5. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR5/6 黄褐色砂質シルトを粒状に多量含む。しまりなし。)
- 6. 10YR2/1 黒色シルト(4 の土に 5YR4/8 赤褐色焼土を粒状に微量含む。10YR4/2 灰黄褐色シルトを斑状に少量含む。しまる。) 7. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR4/3 にぶい黄褐色シルトを点状、斑状に少量含む。しまる。)
- 8. 10YR3/2 黒褐色シルト (4の土を斑状に少量含む。しまりなし。)
- 9. 10YR3/3 暗褐色シルト(4の土をブロック状に少量含む。しまりなし。)
- 10.10YR2/3 黒褐色シルト (4 の土を斑状に含み、小礫も含む。しまる。)

- 1. 7.5YR5/6 明褐色焼土(7.5YR8/6 浅黄橙色粘土を斑状に微量含む。10YR2/1 黒色シルトを斑状に微量含む。しまる。)
- 2. 7.5YR5/8 明褐色焼土 (10YR1.7/1 黒色シルトを斑状に少量含む。しまりなし。)
- 3.7.5YR4/6 褐色焼土(混ざりなし。しまりなし。) 4.10YR2/2 黒褐色シルト(10YR8/4 浅黄橙色粘土を微量含む。しまりなし。)
- 5. 7.5YR5/6 明褐色焼土 (5YR6/8 橙色焼土を粒状に少量含む。しまりなし。)
- 6. 10YR1.7/1 黒色シルト (混ざりなし。)

- 1. 10YR3/1 黒褐色シルト(10YR8/8 黄橙色シルトを斑状に少量含む。しまりなし。) 2. 10YR4/6 褐色焼土(10YR2/1 黒色シルトを斑状に微量含む。5YR6/8 橙色焼土を斑状に少量含む。しまる。)
- 2. 101R4/6 何世就上(101R2/1 黒色ンルトを現場に興風自己。31R06 程色派上で3. 7.5YR5/6 明褐色焼土(5YR6/8 橙色焼土を斑状に少量含む。固くしまる。)4. 10YR3/2 黒褐色シルト(7.5YR5/8 明褐色焼土を粒状に少量含む。しまりなし。)

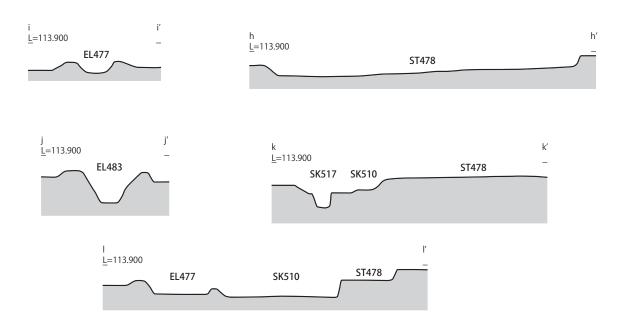
- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR3/4 暗褐色シルトを斑状に少量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR8/8 黄橙色シルト(10YR2/2 黒褐色シルトを斑状に少量含む。7.5YR6/8 橙色焼土を粒状に極微量含む。しまりなし。)

1. 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR8/8 黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)

EP494

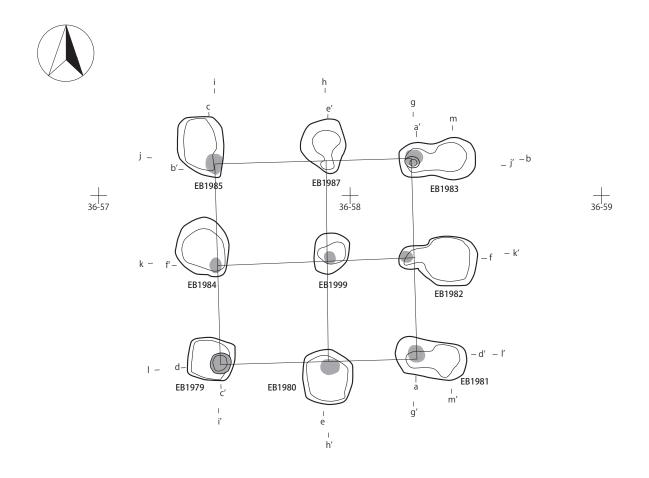
- 1. 10YR3/4 暗褐色シルト (10YR8/6 黄橙色シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR4/6 褐色焼土 (10YR8/3 浅黄橙色粘土をブロック状に少量含む。しまりなし。)
- 3. 10YR3/1 黒褐色シルト(混ざりなし。しまりなし。)

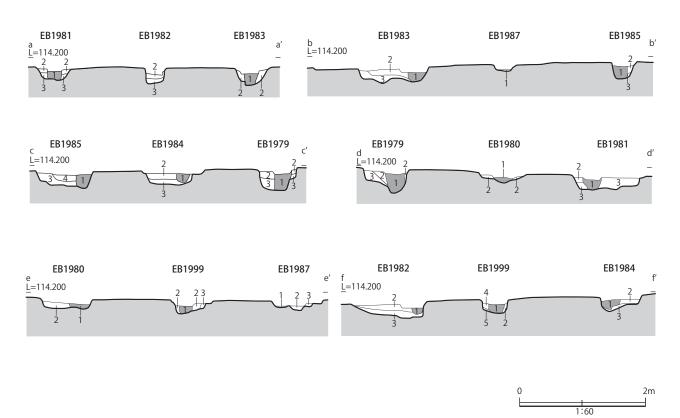
- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(5YR4/8 赤褐色焼土を粒状に微量含む。10YR8/7 黄橙砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR7/8 黄橙砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)





第 28 図 ST478、SK510 (2)





第 29 図 SB1820 (1)

SB1820a-a'

EB1981

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを斑状に多量含む。 しまる。)
- 3. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に少量含む。 しまる。)

EB1982

- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを小ブロックで少量 含む。固くしまる。)
- 3. 2.5YR2/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを斑状に少量含む。 10YR4/4 褐色シルト質粘土をブロック状に少量 含む。固くしまる。)

EB1983

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/4 褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に多量含む。)

SB1820d-d'

EB1979

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。 しまりなし。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に少量含む。 しまる。)
- 3. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状小ブロックで 多量含む。固くしまる。)

EB1980

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。 しまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状、斑状に多量含む。固くしまる。)

EB1981

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。 しまりなし。)
- 2.10YR2/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを斑状に多量含む。 しまる。)
- 3.10YR2/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に少量含む。 しまる。)

SB1820b-b'

EB1983

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトを点状に微量含む。 しまりなし。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトを点状に多量含む。) 3. 10YR2/1 黒色シルト(10R6/6 明黄褐色シルトと 10YR4/4 褐色 シルトを斑状、点状に多量含む。しまる。)

B1987

1. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR4/4 褐色シルトを粒状に含む。固く しまる。)

EB1985

- 1. 2.5YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルト質粘土を点状に微量 含む。しまりなし。)
- 2.10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルト質粘土を点状に少量含む。 しまる。)
- 3.10YR2/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトと 10YR5/6 黄褐色シルト 質粘土を点状に少量含む。しまる。)

SB1820e-e'

EB1980

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。 しまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトを粒状、斑状に多量 含む。固くしまる。)

FB199

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に微量含む。 しまりなし。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黒褐色シルトを粒状に少量含む。 しまる。)
- 3. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトを斑状に多量含む。 固くしまる。)

EB1987

- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR4/4 褐色シルトを粒状に含む。固く しまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (7.5 YR4/1 褐灰色シルトを斑状に含む。 しまる。)
- 3. 10YR2/1 黒色シルト(7.5YR4/1 褐灰色シルトを点状に少量含む。 しまる。)

SB1820c-c'

EB1985

- 1. 2.5YR2/1 黒色シルト(10YR5/6 黄褐色シルト質粘土を点状に微量 含む。しまりなし。)
- 3.10YR2/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトと 10YR5/6 黄褐色シルト質粘土を点状に少量含む。しまる。)
- 4.10YR2/1 黒色シルト(10YR5/6 黄褐色粘土を大ブロックで多量に含む。 固くしまる。)

FB1984

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。 しまりなし。)
- 2. 10YR2/2 黄褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを小ブロックで少量 含む。しまる。)
- 3. 10YR5/6 黄褐色シルト (10YR2/2 黒褐色シルトを帯状に多量混入する。固くしまる。)

EB1979

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。 しまりなし。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に少量含む。 しまる。)
- 3. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状小ブロックで 多量含む。固くしまる。)

SB1820f-f'

- EB1982
- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。) 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを小ブロックで
- 少量含む。固くしまる。) 3. 2.5YR2/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを斑状に、10YR 4/4 褐色シルト質粘土をブロック状に少量含 む。固くしまる。)

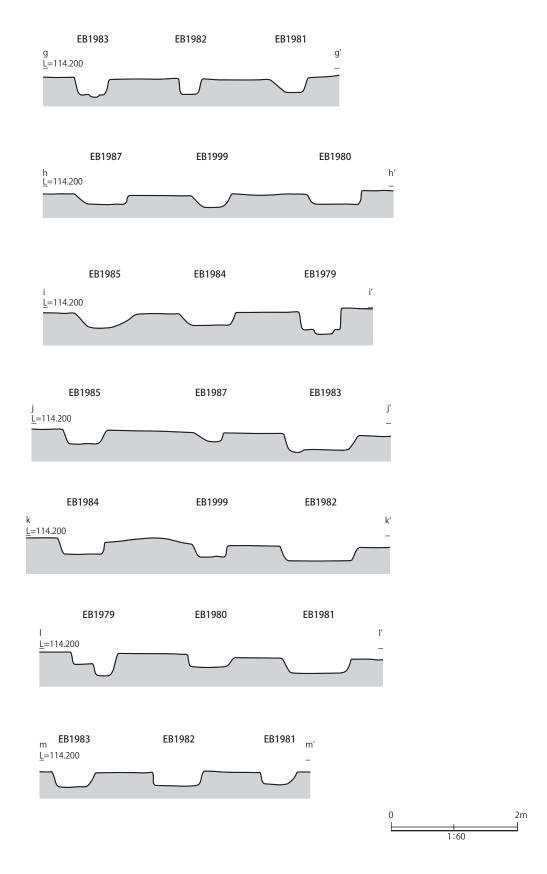
EB1999

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に微量含む。 しまりなし。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黒褐色シルトを粒状に少量含む。 しまる。)
- 4. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に微量含む。 しまる。)
- 5. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトを点状に少量含む。 しまる。)

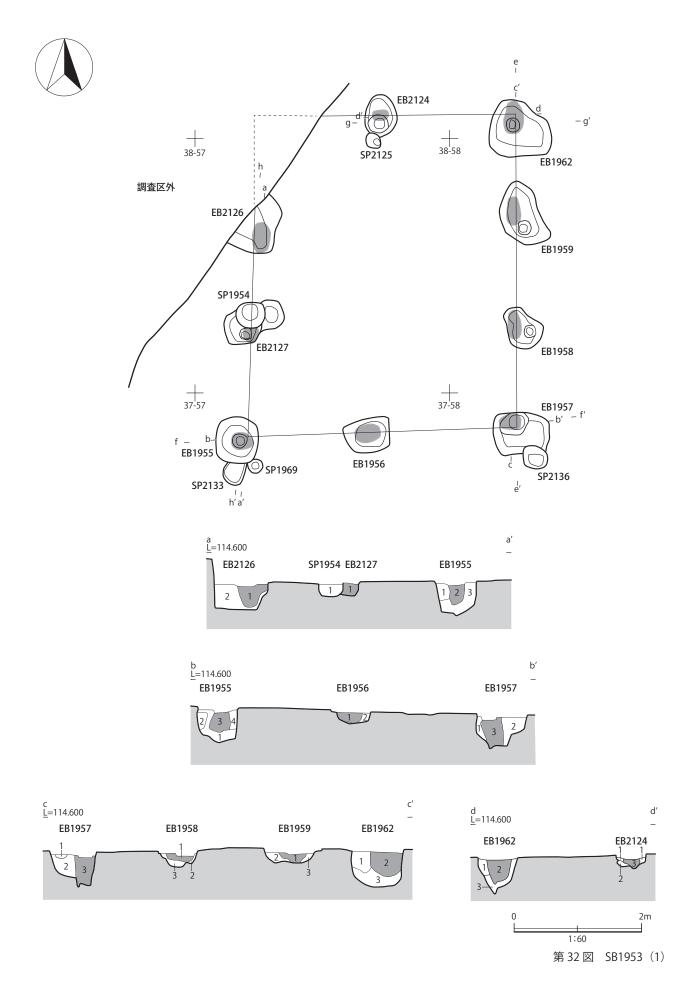
EB1984

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。 しまりなし。)
- 2. 10YR2/2 黄褐色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトを小ブロックで少量含む。しまる。)
- 3. 10YR5/6 黄褐色シルト(10YR2/2 黒褐色シルトを帯状に多量含む。 固くしまる。)

第30図 SB1820 (2)



第31図 SB1820 (3)



SB1953a-a'

EB2126

- 1. 7.5YR2/2 黒褐色シルト(7.5YR6/6 橙色シルトをブロック状に含む。 しまりなし。)
- 2. 7.5YR7/6 橙色シルト (7.5YR2/1 黒色シルトを少量粒状に含む。 しまる。)

EB2127

1.7.5YR1.7/1 黒色シルト (7.5YR7/6 明褐色シルトを微量含む。 しまりなし。)

SP1954

1.7.5YR1.7/1 黒色シルト (7.5YR6/6 橙色砂質シルトを微量含む。 固くしまる。)

EB1955

- 1. 10YR2/1 黒色砂質シルト(10YR4/6 褐色シルトを微量含む。しまる。)
- 2. 10YR3/1 黒褐色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを粒状に含む。 しまりなし。)
- 3. 7.5YR1.7/1 黒色シルト (7.5YR4/6 褐色シルトを微量含む。しまりなし。)

SB1953b-b'

EB1955

- 1. 10YR2/1 黒色砂質シルト(10YR7/6 明黄褐色シルトを粒状に少量 含む。しまりなし。)
- 2. 10YR3/1 黒褐色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを粒状に含む。 しまる。)
- 3. 7.5YR1.7/1 黒色シルト (7.5YR4/6 褐色シルトを微量含む。しまりなし。)
- 4. 7.5YR3/1 黒褐色シルト(7.5YR6/8 橙色シルトをブロック状に少量 含む。しまる。)

EB1956

- 1.7.5YR3/1 黒褐色シルト(7.5YR5/6 明褐色砂質シルトを帯状に多量 含む。しまりなし。)
- 2. 5YR3/1 黒褐色シルト(7.5YR5/6 明褐色砂土をブロック状に多量含 む。しまる。)
- 1.7.5YR1.7/1 黒色壌土(10YR5/4 黄褐色シルトをブロック状に含む。 しまりなし。)
- 2. 10YR3/1 黒褐色シルト(10YR5/6 黒褐色シルトをブロック状に含む。しまりなし。)
- 3. 10YR1.7/1 黒色シルト(7.5YR4/1 褐灰色砂質土を粒状に含む。しまりなし。)

SB1953c-c' EB1957

- 1. 10YR3/1 黒褐色シルト(10YR5/6 黄褐色粘土をブロック状に含む。 しまりなし。)
- しまりなし。) 2. 10YR3/1 黒褐色シルト(10YR5/6 黒褐色シルトをブロック状に含む。しまりなし。)
- 3. 10YR1.7/1 黒色シルト(7.5YR4/1 褐灰色砂質土を粒状に含む。しまりなし。)

EB1958

- 1. 5YR3/1 黒褐色壌土(7.5YR5/6 明褐色シルトを粒状に含む。固くしまる。)
- 2. 7.5YR2/1 黒色シルト(7.5YR5/6 明褐色シルトを帯状に含む。固くしまる。)
- 3. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に含む。固くしまる。)

FR1959

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(7.5YR5/6 明褐色砂土を多量含む。しまりなし。)
- 2. 7.5YR5/6 明褐色シルト(7.5YR3/1 黒褐色砂土を多量含む。しまりなし。)
- 3. 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト(7.5YR3/1 黒褐色シルトを多量含む。 しまりなし。)

EB1962

- 1. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト(10YR3/1 黒褐色シルトを斑状に少量 含む。7.5YR6/8 橙色砂質シルトをブ ロック状に微量含む。固くしまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト (5YR5/6 明赤褐色焼土を粒状に微量含む。)
- 3. 10YR3/1 黒褐色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状に少量 含む。固くしまる。)

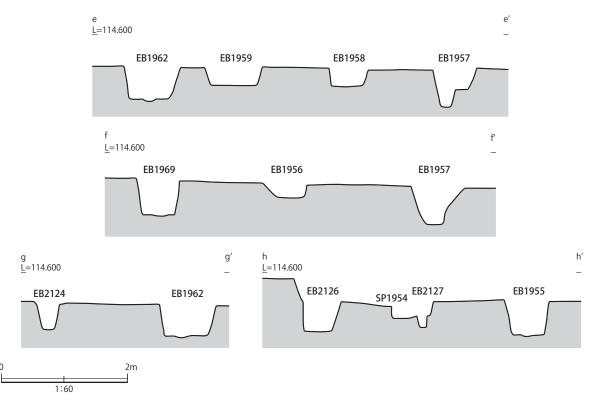
SB1953d-d'

EB196

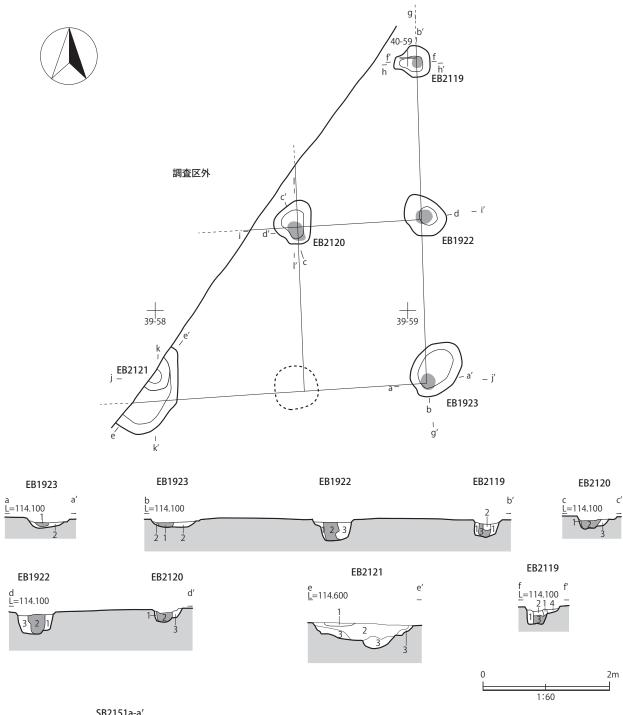
- 1. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト(10YR3/1 黒褐色シルトを斑状に少量 含む。7.5YR6/8 橙色砂質シルトをブ ロック状に微量含む。固くしまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト (5YR5/6 明赤褐色焼土を粒状に微量含む。)
- 3. 10YR3/1 黒褐色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状に少量 含む。固くしまる。)

EB2124

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR8/8 黄橙砂質シルトを粒状に微量含む。 しまりなし。)
- 2. 10YR3/1 黒褐色シルト (10YR8/8 黄橙砂質シルトを斑状に多量含む。 固くしまる。)
- 3. 10YR2/2 黒褐色シルト(混ざりのない黒色土。しまりなし。)



第33図 SB1953 (2)



- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR7/8 黄橙色砂粒を微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)

SB2151b-b'

EB1923

- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR7/8 黄橙色砂粒を微量含む。しまりなし。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)
- 2. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトをブロック状、帯状に少量含む。しまりなし。) 3. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR5/6 黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)

EB2119

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状、帯状に少量含む。しまる。) 2. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR5/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまる。) 3. 10YR2/1 黒色シルト(10YR3/2 黒褐色シルトが粒状に微量混じる。草の根なども少量含む。しまりなし。)

第34図 SB2151 (1)

SB2151c-c'

EB2120

- 1. 10YR7/8 黄橙色砂質シルト (10YR2/1 黒色シルトを斑状に多量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR7/6 明黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。) 3. 10YR2/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂粒、5YR5/8 明赤褐色砂粒を全体に少量含む。しまる。)

SB2151d-d'

EB1922

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。) 2. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトをブロック状帯状に少量含む。しまりなし。) 3. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR5/6 黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)

EB2120

- 1. 10YR7/8 黄橙色砂質シルト(10YR2/1 黒色シルトを斑状に多量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR7/6 明黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。)
- 3. 10YR2/1 黒色シルト (10YR7/8 黄橙色砂粒、5YR5/8 明赤褐色砂粒を全体に少量含む。しまる。)

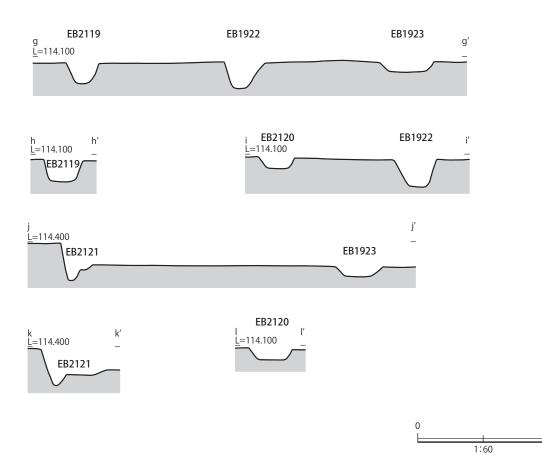
EB2121

- 1. 5YR4/8 赤褐色粘質シルト(炭化物を少量含む。固くしまる。) 2. 7.5YR1.7/1 黒色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトをブロック状に少量含む。7.5YR5/8 明褐色焼土を ブロック状に微量含む。しまる。)
- 3. 10YR8/8 黄橙色砂質シルト (7.5YR2/1 黒色シルトを斑状に少量含む。固くしまる。)

SB2151f-f'

EB2119

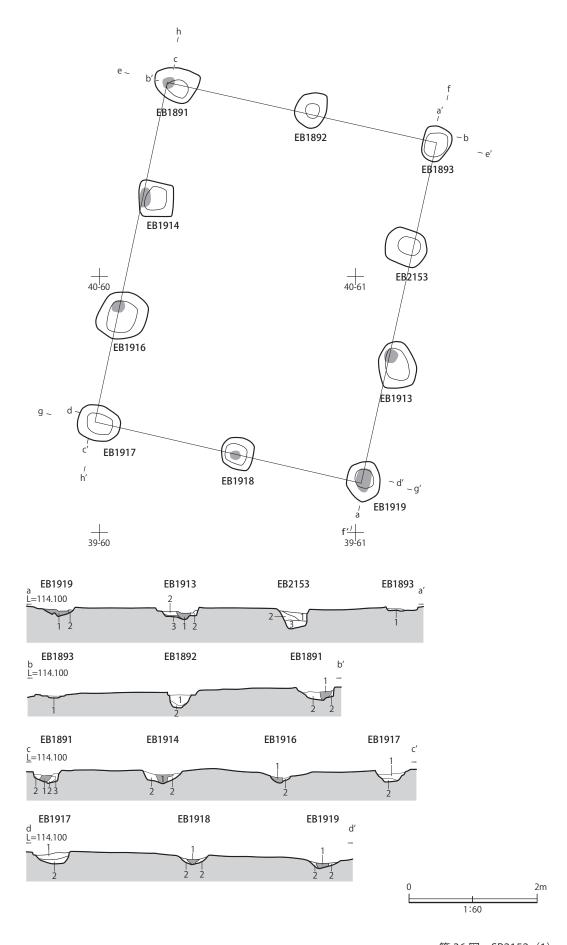
- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状、帯状に少量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR5/8 黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまる。) 3. 10YR2/1 黒色シルト(10YR3/2 黒褐色シルトが粒状に微量混じる。草の根なども少量含む。しまりなし。)
- 4. 10YR5/6 黄褐色シルト(10YR2/1 黒色シルトを帯状に微量含む。固くしまる。)



第35図 SB2151 (2)

2m





第 36 図 SB2152 (1)

SB2152a-a'

FR1919

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (草の根含む。やわらかいがしまる。)
- 2. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト (10YR5/4 黄褐色粘土を帯状に多量含む。固くしまる)

- 1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR3/1 黒褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)
- 3. 10YR5/6 黄褐色粘質シルト (10YR3/1 黒褐色シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

EB2153

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/2 灰黄色シルトを点状に微量含む。しまる。)
- 2. 7.5YR3/3 暗褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトをブロック状に含む。しまる。)
- 3. 7.5YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを斑状に少量含む。しまる。)

FB1893

1. 10YR3/2 黒褐色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)

SB2152b-b'

EB1893

- -- : -- : 1.10YR3/2 黒褐色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトを粒状に少量含む。固くしまる。) EB1892
- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトを点状、粒状に少量含む。しまる。) 2. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト(10YR1.7/1 黒色シルトを斑状に少量含む。固くしまる。)

EB1891

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色シルトをブロック状に多量含む。しまる。)

SB2151c-c'

EB1891

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトをブロック状に多量含む。しまる。)
- 3. 10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 (10YR2/1 黒色シルトを斑状に少量含む。固くしまる。)

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。) 2. 10YR3/1 黒褐色シルト(10YR4/4 褐色シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトを点状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトを粒状に少量含む。しまる。)

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に少量含む。固くしまる。)
- 2. 10YR3/2 黒褐色シルト (10YR5/6 黄褐色粘質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

SB2152d-d⁴

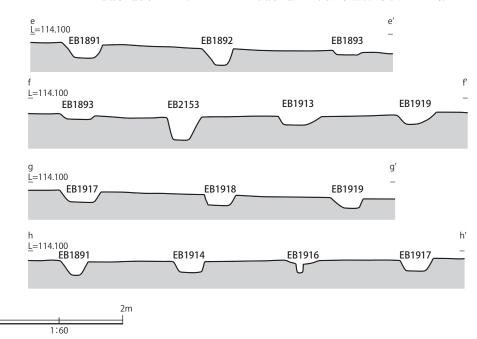
EB1917

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に少量含む。固くしまる。)
- 2. 10YR3/2 黒褐色シルト (10YR5/6 黄褐色粘質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

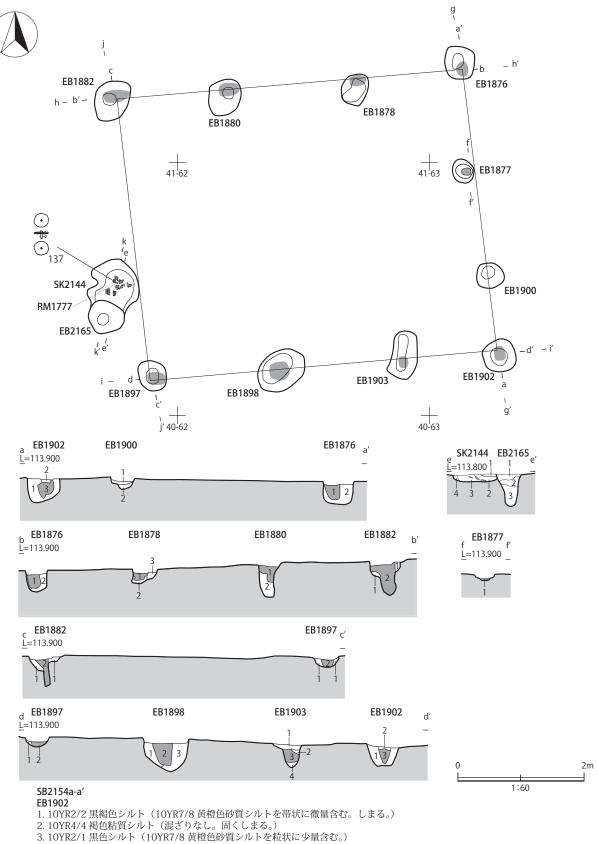
FR1918

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/1 褐灰色シルトを点状に微量含む。しまりなし。) 2. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR4/4 褐色シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(草の根含む。しまる。)
- 2. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色粘土を帯状に多量含む。固くしまる。)



第37図 SB2152 (2)



EB1900

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。) 2. 10YR3/1 黒褐色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)

- 1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト (1に混じる黄褐色シルトを粒状に多量含む。固くしまる。)

第38図 SB2154、SK2144(1)

SB2154b-b'

EB1876

- 1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト(1に混じる黄褐色シルトを粒状に多量含む。固くしまる。)

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (混ざりのない黒色土。しまりなし。)
- 2. 10YR4/6 褐色シルト(10YR2/1 黒色シルトを斑状に少量含む。固くしまる。) 3. 10YR4/6 褐色シルト(10YR1.7/1 黒色シルトを斑状に少量含む。固くしまる。)

EB1880

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(7.5YR5/8 暗褐色シルト、10YR8/8 黄橙色シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR3/1 黒褐色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを斑、粒状に多量含む。固くしまる。)

EB1882

- 1.10YR2/1 黒色シルト(10YR3/4 暗褐色シルトを斑状に少量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

SB2154c-c'

FB1882

- 1.10YR2/1 黒色シルト (10YR3/4 暗褐色シルトを斑状に少量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR8/8 黄橙色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

FR1897

- 7. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/8 黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。) 2. 10YR2/2 黒褐色粘質シルト(10YR3/4 暗褐色のグライ化した土を帯状に少量含む。固くしまる。)

SB2154d-d'

EB1897

- 1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色粘質シルト(10YR3/4 暗褐色のグライ化した土を帯状に少量含む。固くしまる。)

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)
- 1. 10 NZ/1 黒色シルト (10 IR/1) 異色出版 リンルトを述べた 歌風 日 3. 0 VR2/1 黒色シルト (混ざりのない 黒色土。 しまりなし。)
 3. 10 VR2/1 黒色シルト (10 VR8/8 黄橙色砂質シルトをブロック状に少量含む。 固くしまる。)

FB1903

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(5YR5/8 明赤褐色焼土を粒状に微量含む。しまる。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。) 3. 10YR2/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトと 10YR5/6 黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)
- 4. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト(10YR2/2 黒褐色シルトを帯状に多量含む。固くしまる。)

EB1902

- 1. 10YR2/1 黒色シルト (5YR5/8 明赤褐色焼土を粒状に微量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR7/8 黄橙色砂質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)
- 3. 10YR4/4 褐色粘質シルト (10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

EB2165

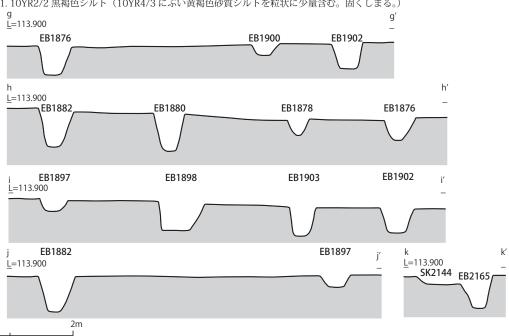
- 1.10YR2/2 黒褐色シルト (2.5YR4/6 赤褐色焼土を点状に微量、10YR5/6 黄褐色粘土を帯状に含む。固くしまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR3/3 暗褐色砂質シルトを斑状に多量含む。しまる。) 3. 10YR5/6 黄褐色細砂(10YR2/2 黒褐色シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

- 1.7.5YR4/3 褐色シルト (10YR2/2 黒褐色シルトをブロック状に、2.5YR4/6 赤褐色粘土を点状に含む。固くしまる。)
- 2. 10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土(10YR2/2 黒褐色シルトをブロック状に、2.5YR4/6 赤褐色焼土を点状に含む。固くしまる。) 3. 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土(5YR4/8 赤褐色焼土を点状、ブロック状に少量含む。固くしまる。)
- 4. 7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト (10YR4/4 褐色微細砂粒を少量含む。固くしまる。)

SB2154f-f' EB1877

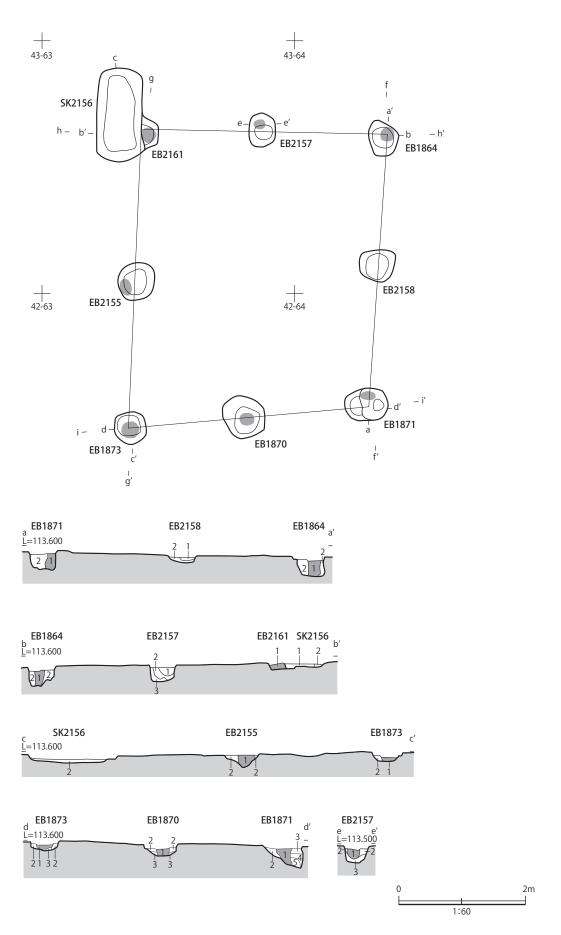
1:60

1. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)



第39図 SB2154、SK2144 (2)





第40図 SB2160、SK2156(1)

SB2160a-a'

FB1871

- 1. 10YR3/3 暗褐色シルト(10YR4/6 褐色シルトを点状に少量含む。 しまる。)
- 2. 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR4/6 褐色シルトを斑状に多量含む。 固くしまる。)

FB2158

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルト質粘土を点状に微量含 む。しまる。)
- 2. 10YR4/4 褐色シルト質粘土 (10YR2/1 黒色シルトを斑状に多量含 む。しまる。)

EB1864

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトを点状に少量含む。
- 2. 10YR4/4 褐色粘質シルト (10YR2/1 黒色シルトを帯状に多量含む。 しまる。)

SB2160b-b'

EB1864

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトを点状に少量含む。 しまる。)
- 2. 10YR4/4 褐色粘質シルト (10YR2/1 黒色シルトを帯状に多量含 む。しまる。)

- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR4/4 褐色シルトを斑状に含む。し まる。)
- 2. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/4 褐色シルトを点状に少量含む。 しまる。)
- 3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質粘土 (10YR1.7/1 黒色シルトを斑 状に多量含む。固くしまる。)

EB2161

1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色シルトを点状に少 量含む。しまりなし。)

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/6 黄褐色シルトをブロック状に含む。 しまる。)
- 2. 10YR5/6 黄褐色シルト (10YR2/1 黒色シルトを斑状に含む。しま る。)

SB2160c-c'

SK2156

2. 10YR5/6 黄褐色シルト (10YR2/1 黒色シルトを斑状に含む。しま

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/4 褐色シルト質粘土をブロック状 に少量含む。しまる。)
- 2.7.5YR2/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルト質粘土を粒状、斑状に 多量含む。しまる。)

- 1.7.5YR1.7/1 黒色シルト(10YR5/4 にぶい黄褐色シルトを点状に微 量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色シルトを粒状に多量 混入する。しまる。)

SB2160d-d'

FB1873

- 1.7.5YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色シルトを点状に
- 微量含む。しまる。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/4 にぶい黄褐色シルトを粒状に多 量含む。しまる。)
- 3. 10YR2/3 黒褐色シルト(10YR4/4 褐色シルトを斑状に多量含む。 しまる。)

EB1870

- 1. 7.5YR2/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトを点状に微量含む。 しまりなし。)
- 2. 10YR2/3 黒褐色土(10YR4/6 褐色シルトを粒状に少量含む。し まる。)
- 3. 10YR2/3 黒褐色シルト (10YR4/6 褐色シルトを斑状に多量混入 する。しまる。)

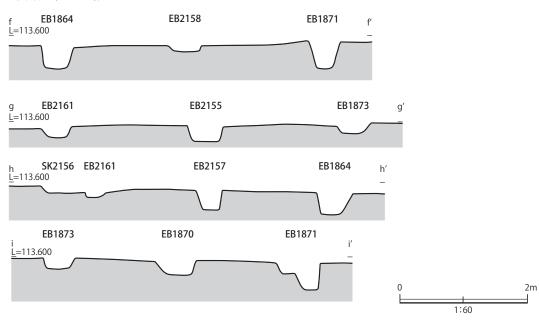
EB1871

- 1. 10YR3/3 暗褐色シルト(10YR4/6 褐色シルトを点状に少量含む。 しまる。)
- 2. 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR4/6 褐色シルトを斑状に多量含む。 固くしまる。)
- 3. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/6 褐色シルトを点状に微量含む。し まる。)
- 4. 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR4/4 褐色シルトを粒状に少量含む。 しまる。)
- 5. 10YR2/3 黒褐色シルト (10YR3/3 暗褐色シルトをブロック状に 少量含む。しまる。)

SB2160e-e

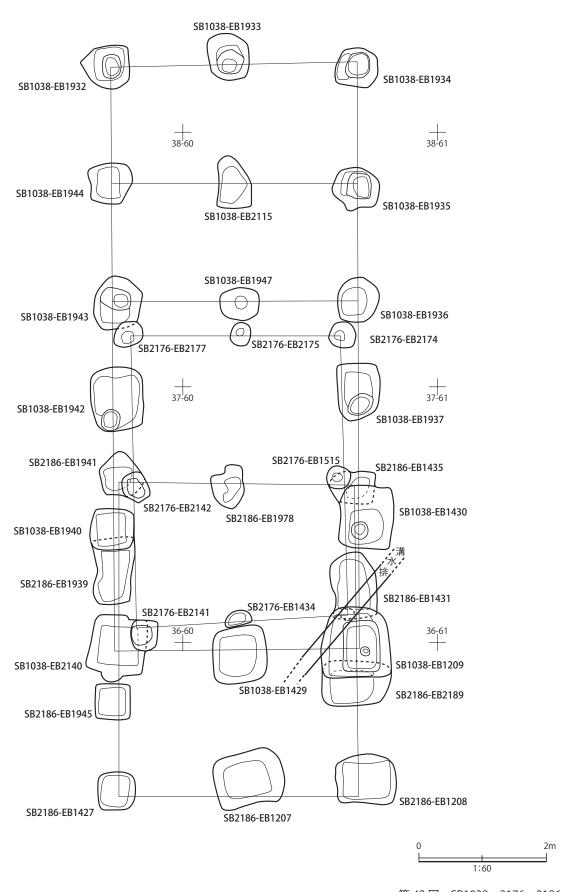
EB2157

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/6 褐色シルトを点状に微量含む。し まりなし。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR4/4 褐色シルトをブロック状に少量 含む。しまる。)
- 3. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR4/6 褐色シルトを帯状、斑状に多量 含む。固くしまる。)



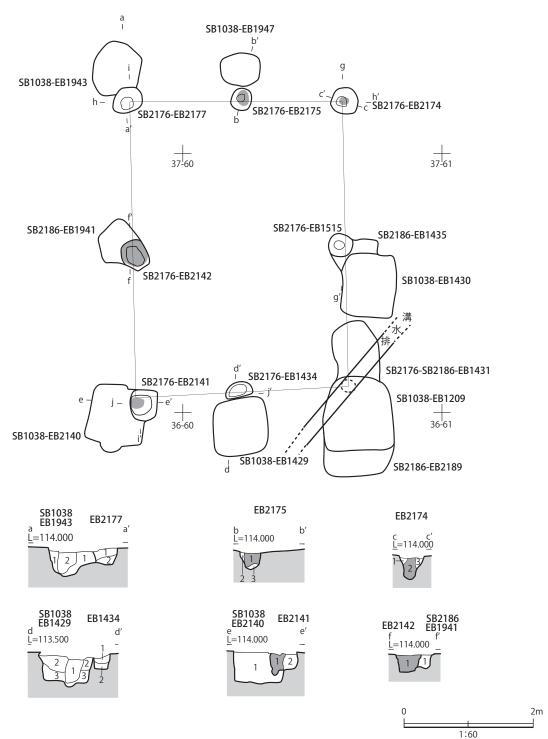
第 41 図 SB2160、SK2156(2)





第 42 図 SB1038・2176・2186





SB2176a-a'

EB2177

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。) 2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト(10YR8/4 浅黄橙色砂質シルト 10YR7/8 黄橙色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。) SB1038-EB1943
- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状、マダラ状に多量含む。固くしまる。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)

SB2176b-b'

EB2175

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR6/6 黄褐色シルトを粒状に少量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを斑状に含む。しまる。) 3. 10YR1.7/1 黒色シル(10YR6/6 黄褐色シルトをブロック状に多量含む。しまる。)

第43図 SB2176(1)

SB2176c-c'

EB2174

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(混ざりのない黒色土。しまりなし。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを粒状に全体に含む。しまりなし。)
- 3, 10YR2/1 黒色シルト (10YR8/8 黄橙色砂質シルトを斑状に多く含む。しまる。)

SB2176d-d'

EB1434

- 1.7.5YR2/1黒色シルト(固く締まり、粘性強い。)
- 2.7.5YR2/1黒色シルト(10YR5/8黒色シルトを斑状に含む。固く締まり、粘性有り。)

SB1038-EB1429

- 1. 10YR1.7/1黒色シルト(しまりなし。) 2. 7.5YR2/1黒色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを含む。しまる。) 3. 10YR5/8黄褐色粘質シルト(7.5YR2/1黒色シルトを斑状に含む。しまる。)

SB2176e-e'

EB2141

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR3/3 暗褐色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)

SB1038-EB2140

1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを斑状、ブロック状に多量含む。固くしまる。)

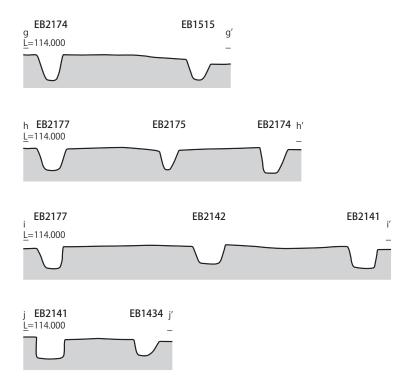
SB2176f-f'

EB2142

1. 10YR3/3 暗褐色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを粒状、ブロック状に微量含む。しまりなし。)

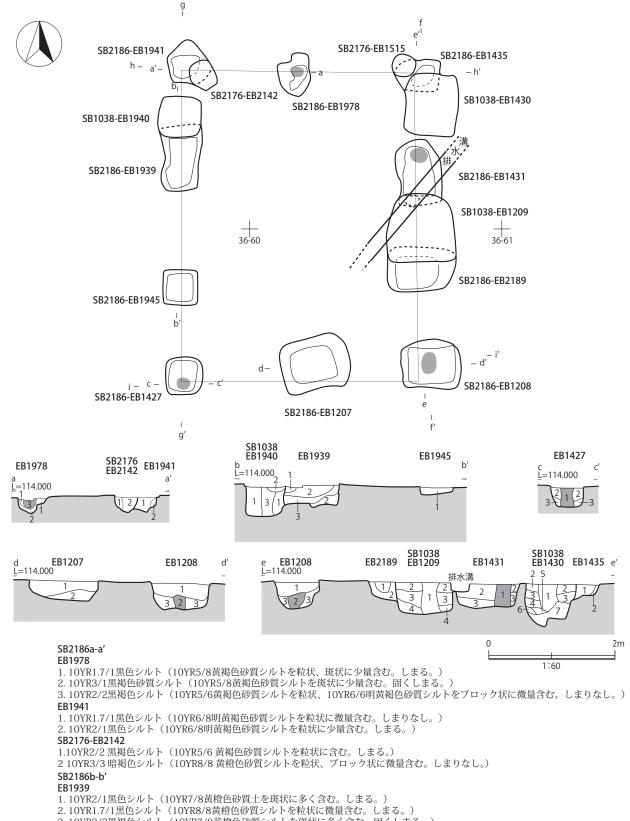
SB2186-EB1941

1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)





第 44 図 SB2176 (2)



3. 10YR2/2黒褐色シルト(10YR7/8黄橙色砂質シルトを斑状に多く含む。固くしまる。)

EB1945

1.10YR1.7/1黒色シルト(混ざりのない黒色土。しまりなし。)

SB1038-EB1940

- 3B103-EB13-40 1. 10YR8/8黄橙砂質シルト(10YR2/1黒色シルトを斑状に混入し、7.5YR6/8橙色焼土を粒状に微量含む。固くしまる。) 2. 10YR2/2黒褐色シルト(10YR7/8黄橙色砂質シルトを粒状に少量含む。固くしまる。) 3. 10YR1.7/1黒色シルト(7.5YR6/8橙色焼土、10YR6/8明黄褐色砂質土を粒状に微量含む。しまりなし。)

第45図 SB2186 (1)

SB2186c-c'

FB1427

- 1. 10YR2/1黒色シルト(しまりなし。)
- 2. 7.5YR1.7/1黒色シルト (10YR5/8黄褐色粘土をブロック状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
- 3. 7.5YR1.7/1黒色シルト(10YR5/8黄褐色シルトを多く混入する。固くしまり、粘性有り。)

SB2186d-d'

FB1207

- 1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトをブロック状に多く混入する。固くしまり、粘性有り。)
- 2. 7.5YR2/2黒褐色シルト (10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)

EB1208

- 7.5YR2/2黒褐色シルト (10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に少量含む。固くしまり、粘性有り。)
 7.5YR3/1黒褐色シルト (しまりなし、やわらかい。)
 10YR2/1黒色シルト (10YR5/8黄褐色粘質シルトを少量含む。やや固くしまる。)

SB2186e-e'

EB1208

- 1. 7.5YR2/2黒褐色シルト (10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に少量含む。固くしまり、粘性有り。)
- 2. 7.5YR3/1黒褐色シルト(しまりなし、やわらかい。)
- 3. 10YR2/1黒色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを少量含む。やや固くしまる。)

- 1.7.5YR2/2黒褐色シルト (10YR8/6黄橙色粘質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)
- 2. 10YR2/1黒色シルト (10YR8/8黄橙色粘質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

- EB1431 1. 10YR2/1黒色シルト(しまりなし、やわらかい。)
- 2. 7.5YR2/1黒色シルト (10YR5/8黄褐色粘土をブロック状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
- 3. 10YR4/1褐灰色シルト (10YR5/8黄褐色シルトを多く混入する。固くしまり、粘性有り。)

FB1435

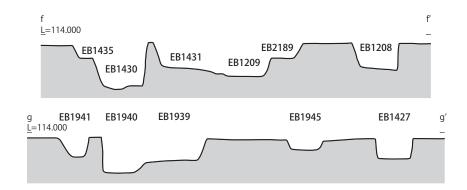
- 1. 10YR2/1黒色シルト (固くしまる、粘性有り。)
- 2. 10YR2/1黒色シルト (10YR5/8黄褐色シルトを斑状に含む。固くしまり、粘性有り。)

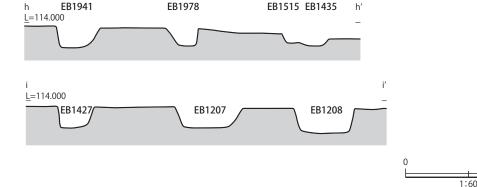
SB1038-EB1209

- 1.7.5YR3/1黒褐色シルト(しまりなし、やわらかい。)
- 2.7.5YR2/2黒褐色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
- 3. 10YR2/1黒色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
- 4. 10YR2/3黒褐色粘質シルト (10YR5/8黄褐色粘質シルトをブロック状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)

SB1038-EB1430

- 1. 10YR2/1黒色シルト (しまりなし、やわらかい。) 2. 5Y2/2オリーブ黒色シルト (固くしまり、粘性有り。) 3. 5Y2/2オリーブ黒色シルト (10YR5/8黄褐色シルトを多く含む。固くしまり、粘性有り。)
- 4.10YR4/2灰褐色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に含む。固くしまり、粘性有り。)
- 5.10YR4/3にぶい黄褐色シルト (10YR5/8黄褐色シルトを多く含む。固くしまり、粘性有り。)
- 6. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(固く締まり、粘性有り。)
- 7. 10YR5/8黄褐色粘土 (10YR4/2灰褐色シルトを斑状に含む。固く締まり、粘性有り。)

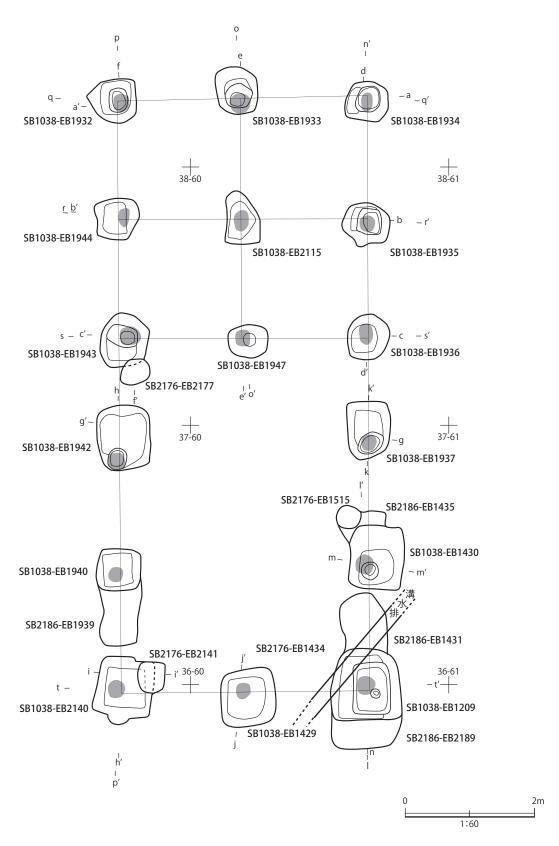




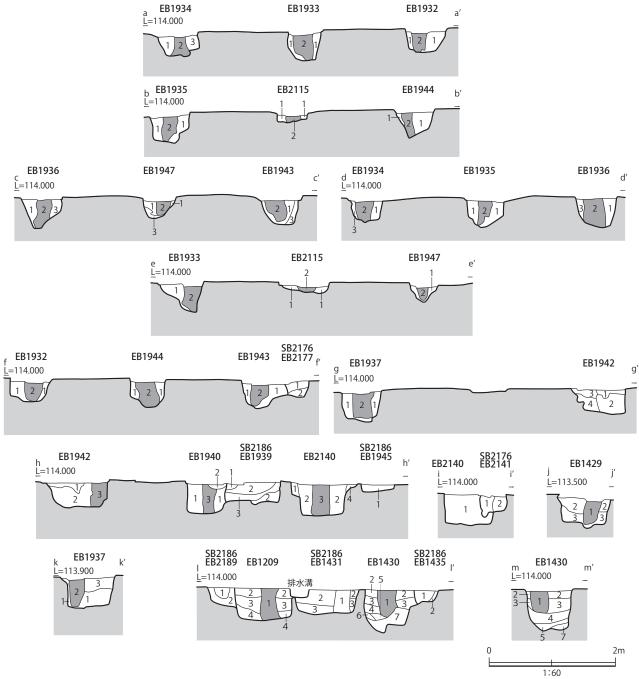
第 46 図 SB2186 (2)

2m





第 47 図 SB1038 (1)



EB1934

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。) 2. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを大ブロック状に少量含む。しまる。)
- 3. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR8/8 黄橙砂質シルトをブロック状に少量含む。固くしまる。) FR1933

1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。) 2. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)

EB1932

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色砂質シルトがブロック状に少量含む。固くしまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR7/8 黄橙砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)

- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR6/6 明黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)

- 1.10YR3/1 黒褐色シルト(10YR5/6 黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。) 2.10YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。しまりなし。)

EB1944

- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状に多量含む。しまる。)
- 2. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色微細砂粒を微量含む。しまりなし。)

第48図 SB1038 (2)

EB1936

- 1. 10YR3/1 黒褐色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを斑状に多量含む。しまる。) 2. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまりなし。)
- 3. 10YR2/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトをブロック状に少量含む。しまる。)

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/8 黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
- 3. 10YR7/8 黄橙色砂質シルト(10YR3/1 黒褐色シルトを斑状に多量含む。しまる。)

FR1943

- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状、マダラ状に多量含む。固くしまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
- 3. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR7/8 黄橙砂質シルトをブロック状に多量含む。しまる。)

SB2176-EB2177

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト (10YR8/4 浅黄橙色砂質シルト、10YR7/8 黄橙色砂質シルトを斑状に少量含む。しまる。)

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。) 2. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)
- 3. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトを粒状に少量含む。しまりなし。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを帯状に多量含む。しまる。)

- 2. 107RL71 ※日本の (107R8/8 黄橙白砂質シルトを光状に微量含む。しまりなし。) 4. 107R1.7/1 黒色シルト(107R8/8 黄橙白砂質シルトを斑状に参量含む。固くしまる。)

- 1. 10YR8/8黄橙砂質シルト (砂質シルトと黒色土が斑状に混ざる。) 2. 10YR2/2黒褐色シルト (10YR7/8黄橙色砂質シルトを粒状に少量含む。固くしまる。)
- 3. 10YR1.7/1黒色シルト (7.5YR6/8橙色焼土、10YR6/8明黄褐色砂質土を粒状に微量含む。しまりなし。)

- 1. 10YR2/1黒色シルト (10YR7/8黄橙色砂質土を斑状に多く含む。しまる。)
- 2. 10YR1.7/1黒色シルト (10YR8/8黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまる。)
- 3. 10YR2/2黒褐色シルト(10YR7/8黄橙色砂質シルトを斑状に多く含む。固くしまる。)

EB2140

- 1. 10YR1.7/1黒色シルト(混ざりのない黒色土。しまりなし。)
- 2. 10YR2/1黒色シルト(10YR8/8黄榜色砂質シルトをがポプロック状に多量含む。固くしまる。) 3. 10YR2/2黒褐色シルト(10YR6/8明黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む。5YR3/6暗赤褐色焼土を粒状に微量含む。 しまりなし。)
- 4. 10YR1.7/1黒色シルト(混ざりのない黒色土。しまる。)

SB2186-EB1945

1. 10YR1.7/1黒色シルト(混ざりのない黒色土。しまりなし。)

SB2176-EB2141

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR7/8 黄橙色砂質シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR3/3 暗褐色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)

- 1. 10YR1.7/1黒色シルト(しまりなし。) 2. 7.5YR2/1黒色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを含む。しまる。)
- 3. 10YR5/8黄褐色粘質シルト (7.5YR2/1黒色シルトを斑状に含む。しまる。)

SB2186-FB2189

- 1.7.5YR2/2黒褐色シルト(10YR8/6黄橙色粘質シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)
- 2. 10YR2/1黒色シルト (10YR8/8黄橙色粘質シルトを粒状に少量含む。しまる。)

- 1.7.5YR3/1黒褐色シルト(しまりなし、やわらかい。)
- 2.7.5YR2/2黒褐色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
- 3. 10YR2/1黒色シルト (10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
- 4.10YR2/3黒褐色粘質シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトをブロック状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)

- 1. 10YR2/1黒色シルト(しまりなし、やわらかい。)
- 2. 7.5YR2/1黒色シルト (10YR5/8黄褐色粘土をブロック状に多く含む。固くしまり、粘性有り。)
- 3. 10YR4/1褐灰色シルト (10YR5/8黄褐色シルトを多く混入する。固くしまり、粘性有り。)

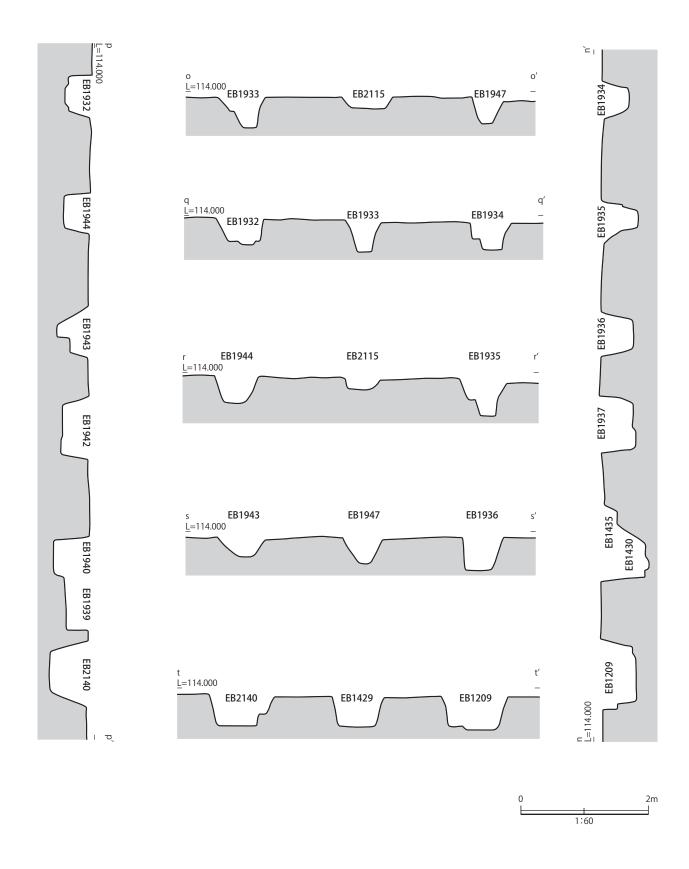
FB1430

- 1. 10YR2/1黒色シルト (しまりなし、やわらかい。)
 2. 5Y2/2オリーブ黒色シルト (固くしまり、粘性有り。)
 3. 5Y2/2オリーブ黒色シルト (10YR5/8黄褐色シルトを多く含む。固くしまり、粘性有り。)
- 4. 10YR4/2灰褐色シルト(10YR5/8黄褐色粘質シルトを斑状に含む。固くしまり、粘性有り。)
- 5. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト (10YR5/8黄褐色シルトを多く含む。固くしまり、粘性有り。) 6. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト (固く締まり、粘性有り。)
- 7. 10YR5/8黄褐色粘土 (10YR4/2灰褐色シルトを斑状に含む。固く締まり、粘性有り。)

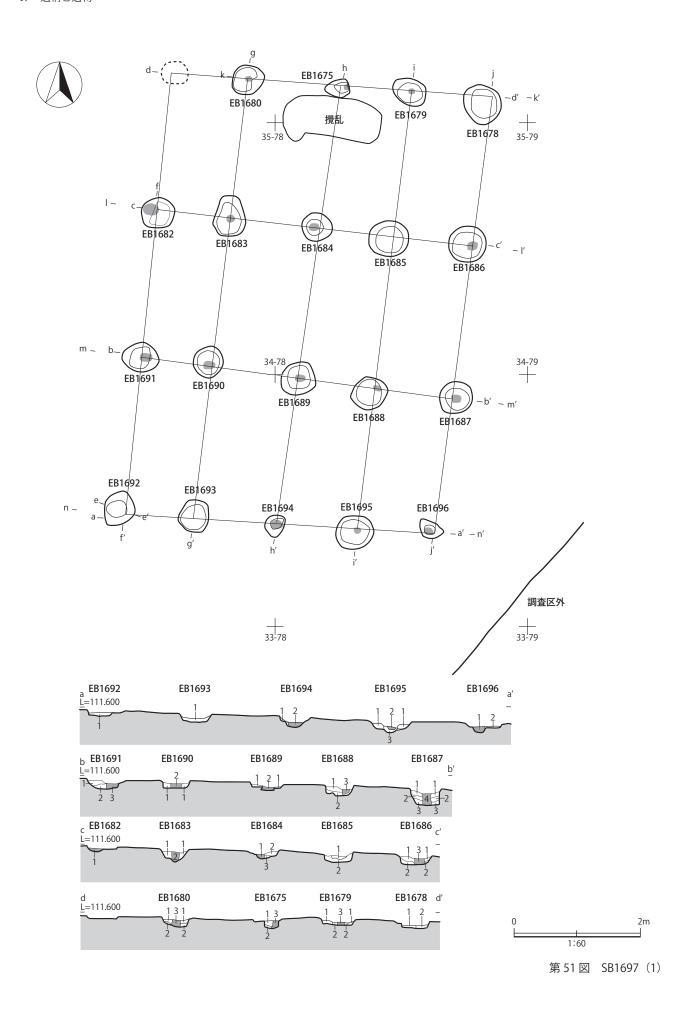
SR2186-FR1435

- 1. 10YR2/1黒色シルト (固くしまる、粘性有り。) 2. 10YR2/1黒色シルト (10YR5/8黄褐色シルトを斑状に含む。固くしまり、粘性有り。)

第49図 SB1038 (3)



第50図 SB1038 (4)



SB1697a-a'

FB1692

1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/1 褐灰色シルトを斑状に少量含む。 10YR5/6 黄褐色シルトを斑状に微量含む。 しまる。)

EB1693

1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/1 褐灰色シルトを斑状に少量含む。 10YR5/6 黄褐色シルトを斑状に微量含む。 しまる。)

FB1694

- 1. 10YR4/4 褐色シルト(10YR2/1 黒色シルトを斑状に少量含む。 10YR8/8 黄橙色粘質シルトをブロック状に 微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR3/1 黒褐色シルト (10YR3/2 黒褐色シルトを帯状に微量含む。 7.5YR4/6 褐色木片が粒状で微量に含む)

EB1695

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR7/8 黄橙色砂質シルトをブロック状
- に微量含む。しまりなし。) 2. 10YR2/1 黒色粘土(土のグライ化が見られる。10YR6/4 にぶい黄 橙砂質シルトを斑状に少量含む。固くしまる。)
- 3. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR7/8 黄橙色砂質シルトを斑状に少量 含む。7.5YR4/6 褐色土を粒状に 5% 含む。 しまる。)

FB1696

- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR8/8 黄橙色砂質シルトをブロック状 に微量含む。10YR3/1 黒褐色シルトを斑状 に微量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを帯状に多量 含む。しまる。)

SB1697b-b'

EB1691

- 1. 10YR2/2 黒褐色グライ土(10YR5/6 黄褐色砂質シルトを帯状に少 量含む。固くしまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR4/6 褐色砂質シルトを粒状に微量含む。 固くしまる。)
- 3. 10YR1.7/1 黒色シルト (混ざりのない黒色土。しまりなし。)

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/6 褐色シルトをブロック状に微量含 む。しまりなし。)
- 2. 10YR1.7/1 黒色グライ土(5YR3/6 暗赤褐色木片を多く含む。しま る。)

EB1689

- 1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトをブロック、粒状に
- 少量含む。しまりなし。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR3/1 黒褐色シルトを斑状に微量含む。 しまる。)

FB1688

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質シルトをブロック状
- に少量含む。しまりなし。) 2. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR5/8 黄褐色砂質シルトと黒色シルト が層状に堆積する。固くしまる。)
- 3. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/8 明黄褐色シルトを帯状に少量含む。 しまる。)

EB1687

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/6 褐色砂質シルトをブロック状に少 量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR3/4 暗褐色シルト(10YR3/1 黒褐色シルトを斑状に少量含む。 しまりなし。)
- 3. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/6 黄褐色砂質シルトを粒状に少量 . 含む。しまりなし。)
- 4. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/8 黄褐色シルトをブロック状に少量 含む。しまりなし。)

SB1697c-c'

FB1682

1. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR4/6 褐色シルトを粒状に少量含む。し まりなし。)

EB1683

- 1. 10YR1.7/1 黒色グライ土(10YR6/8 明黄褐色シルトをブロック状に 少量含む。固くしまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/8 黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む。 しまる。)

EB1684

- 1.10YR4/6 褐色グライ土(10YR1.7/1 黒色グライ土を帯状に少量含む。 しまる。)
- 2. 10YR2/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む。 しまりなし。)
- 3. 10YR1.7/1 黒色グライ土 (混ざりのない層。固くしまる。)

EB1685

- 1. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト(10YR2/1 黒色シルト、7.5YR4/6 褐 色砂質シルトを斑状に少量含む。固く しまる。)
- 2. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR1.7/1 褐色シルトを斑状に少量含む。 しまる。)

FB1686

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/6 褐色シルトを粒状に少量含む。し まりなし。)
- 2. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト (10YR2/1 黒色シルトを帯状に少量含む。 しまる。)
- 3. 10YR2/2 黒褐色シルト(10YR3/4 暗褐色木片を多量含む。しまりな

SB1697d-d'

EB1680

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトをブロック粒状に少 量含む。しまりなし。)
- 2. 10YR6/8 明黄褐色シルト (10YR3/2 黒褐色シルトを斑状に少量含む。 しまりなし。)
- 3. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトを斑状に、10YR7/8 黄橙 色シルトを粒状に微量含む。しまりなし。)

EB1675

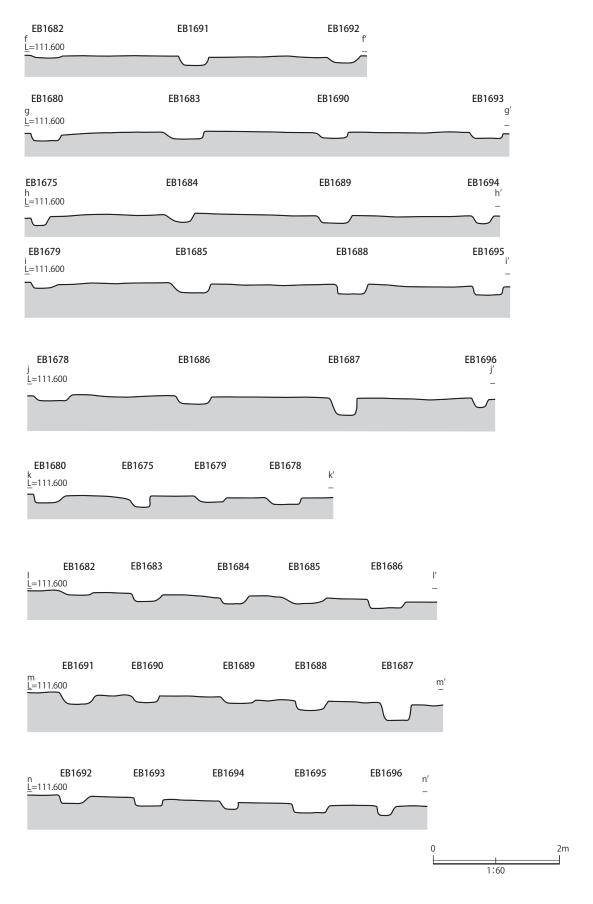
- 1. 10YR4/6 褐色シルト (10YR3/1 黒褐色シルトを斑状に少量含む。し まりなし。)
- 2. 10YR3/1 黒褐色シルト (10YR6/8 明黄褐色シルトを斑状に少量含む。 しまりなし。)
- 3. 10YR4/8 明黄褐色シルト (10YR2/2 黒褐色シルトを斑状に少量含む。 しまりなし。)

EB1679

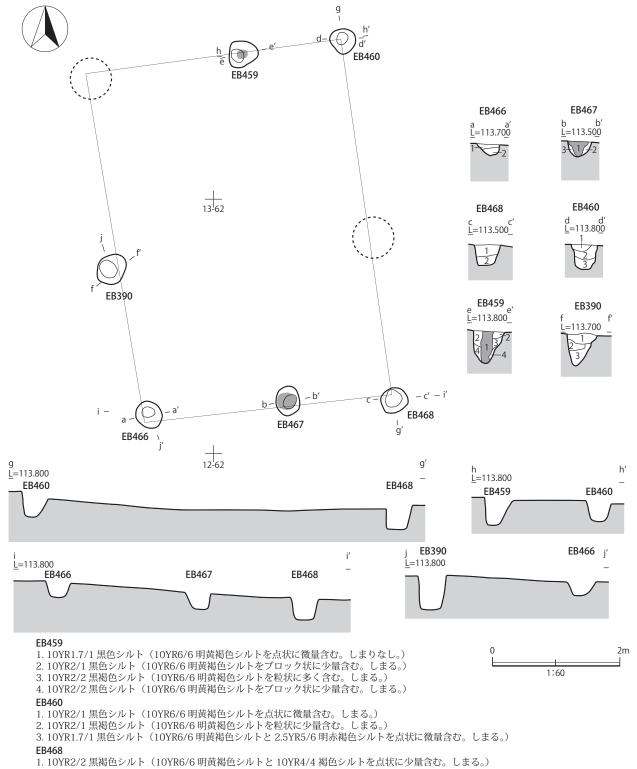
- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色シルトを粒状に少量含む。 しまりなし。)
- 2. 10YR3/4 暗褐色シルト (10YR5/8 黄褐色シルトを粒状に少量含む。 しまりなし。)
- 3. 10YR3/3 暗褐色グライ土(10YR4/8 赤褐色木片を多量含む。固くし まる。)

EB1678

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR5/8 黄褐色シルトを粒状に少量含む。し まりなし。)
- 2. 10YR1.7/1 黒色粘質シルト (10YR17/8 黄橙色砂質シルトを粒状に少 量含む。固くしまる。)



第53図 SB1697 (3)



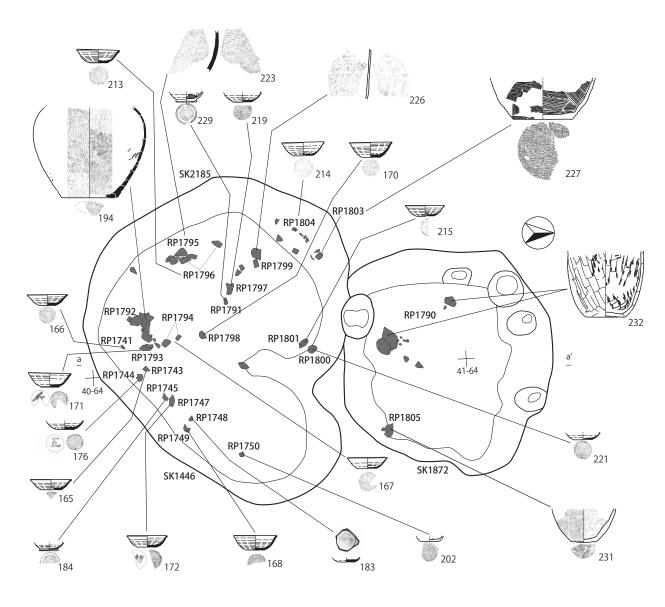
2. 10YR6/6 明黄褐色シルト (10YR2/2 黒褐色シルトを斑状に多量含む。しまる。)

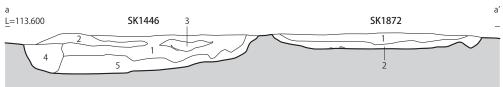
- 1. 10YR2/1 黒色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。しまる。)
- 2.10YR2/2 黒褐色シルト (10YR6/6 明黄褐色シルトをブロックで含む。しまる。) 3.10YR2/2 黒褐色シルト (10YR4/4 褐色シルトを斑状に少量含む。しまる。)

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトをブロック状に含む。しまる。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトを帯状に多量含む。しまる。)

- 1. 10YR2/1 黒色シルト(2.5YR5/6 明黄褐色シルトを点状に微量含む。しまる。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトと 10YR6/6 明黄褐色シルトを斑状、点状に多く含む。しまる。) 3. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR6/6 明黄褐色シルトを点状に少量含む。しまる。)

第54図 SB469





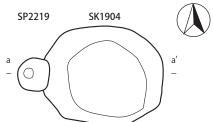
- 5K1446 1. 10YR2/2 黒褐色シルト(5YR5/6 明赤褐色焼土を点状に微量含み、10YR5/3 にぶい黄褐色シルトを微量混入する。しまる。) 2. 5YR5/6 明赤褐色焼土(7.5YR4/2 灰褐色シルト質粘土と 1 の土を斑状に多量含む。固くしまる。) 3. 7.5YR3/1 黒褐色シルト(10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土を帯状に多量含み、炭化粒を点状に微量含む。固くしまる。) 4. 10YR2/1 黒色シルト(10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土を点状に少量含む。しまる。) 5. 7.5YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土を斑状に多量含む。しまる。)

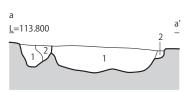
SK1872

- 3.10YR2/2 黒褐色シルト(5YR4/6 赤褐色焼土を点状に微量含む。しまる。) 2.7.5YR2/1 黒色シルト(10YR4/4 褐色シルトを点状、ブロック状に少量含む。固くしまる。)



第 55 図 SK1446 · 1872 · 2185

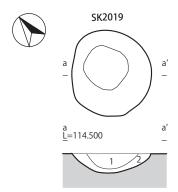




SK1904

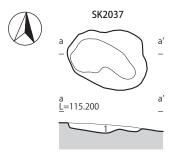
- 1.7.5YR1.7/1 黒色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトをブ ロック状に微量含む。しまる。) 2.7.5YR3/1 黒褐色シルト(混ざりなし。しまりなし。)
- SP2219
- 1.7.5YR3/1 黒褐色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを粒 状に微量含む。しまる。) 2. 10YR3/2 黒褐色シルト (10YR8/8 黄橙色粘質シルトを斑

状に少量含む。しまる。)



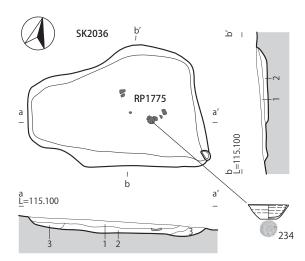
SK2019

- 1.7.5YR2/1 黒色シルト (7.5YR8/1 灰白色極微細砂粒を全体
- に多量含む。しまる。) 2. 7.5YR3/1 黒褐色シルト(7.5YR8/1 灰白色極微細砂粒を全体に少量含む。固くしまる。)



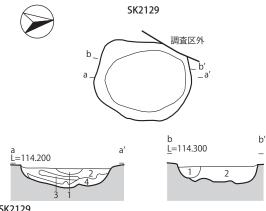
SK2037

1.7.5YR3/2 黒褐色シルト(7.5YR7/8 黄橙色砂質シルト を斑状に多量含む。しまる。)



- 1.7.5YR1.7/1 黒色シルト (10YR2/3 浅黄橙色砂質シルトを斑状に少量 含む。しまりなし。)
- 2. 7.5YR3/1 黒褐色シルト (10YR8/3 浅黄橙色砂質シルトを全体に斑状 で多量含む。5YR4/8 赤褐色焼土を極微量含む。 しまる。)
- 3. 7.5YR1.7/1 黒色シルト (7.5YR8/6 浅黄橙色砂質シルトを斑状に多量含 む。固くしまる。)

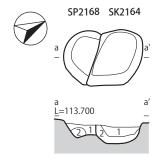




SK2129

- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色シルトを 点状に微量含む。しまる。)
- 2. 5YR2/1 黒色シルト (7.5YR5/6 明褐色シルトを微量点状 に含む。しまる。)
- 3. 7.5YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/2 灰黄褐色シルトを帯状 に含む。しまる。)
- 4. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR4/2 灰黄褐色シルトを帯状に 10YR6/6 明黄褐色シルトをブロッ ク状に混入する。しまる。)

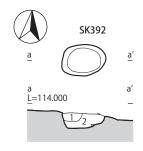
第56図 SK1904、SP2219、SK2019・2036・2037・2129



SK2164

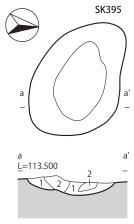
1.7.5YR2/1 黒色シルト(混ざりのない黒色土。しまる。) 2.7.5YR2/1 黒色シルト(10YR6/8 明黄褐色砂質土をブロッ ク状に少量含む。しまる。)

- 1.7.5YR3/1 黒褐色シルト (5YR5/8 明赤褐色の砂粒を微量
- 含む。しまる。) 2. 10YR8/8 黄橙色粘質シルト(7.5YR3/1 黒褐色シルトを斑 状に多量含む。しまる。)



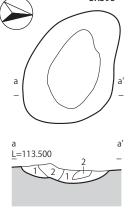
SK392

- 1.7.5YR5/8 明褐色焼土(10YR2/1 黒色シルトが層状に 微量混じる。しまる。)
- 2. 7.5YR4/6 褐色焼土(10YR3/1 黒褐色シルトを斑状に 少量含む。しまる。)



SK395

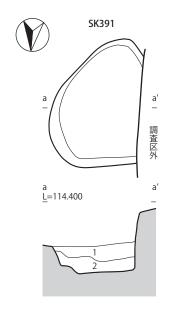
- 1. 10YR2/1 黒色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルト、10YR3/4 暗褐色シルトを斑状に多量に含む。しまる。) 2. 10YR2/1 黒色シルト(10YR2/2 黒褐色シルトを斑状に少量含む。
- しまる。)



SK396

a <u>L</u>=113.900

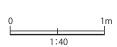
- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト(10YR4/6 褐色砂質シルトを粒状、ブロック状に 微量含む。5YR4/8 赤褐色焼土を粒状に微量含む。 しまる。)
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト (10YR4/6 褐色シルトを斑状に多量、10YR3/1 黒 褐色シルトを斑状に少量、5YR4/8 赤褐色焼土を粒 状に微量含む。しまる。)



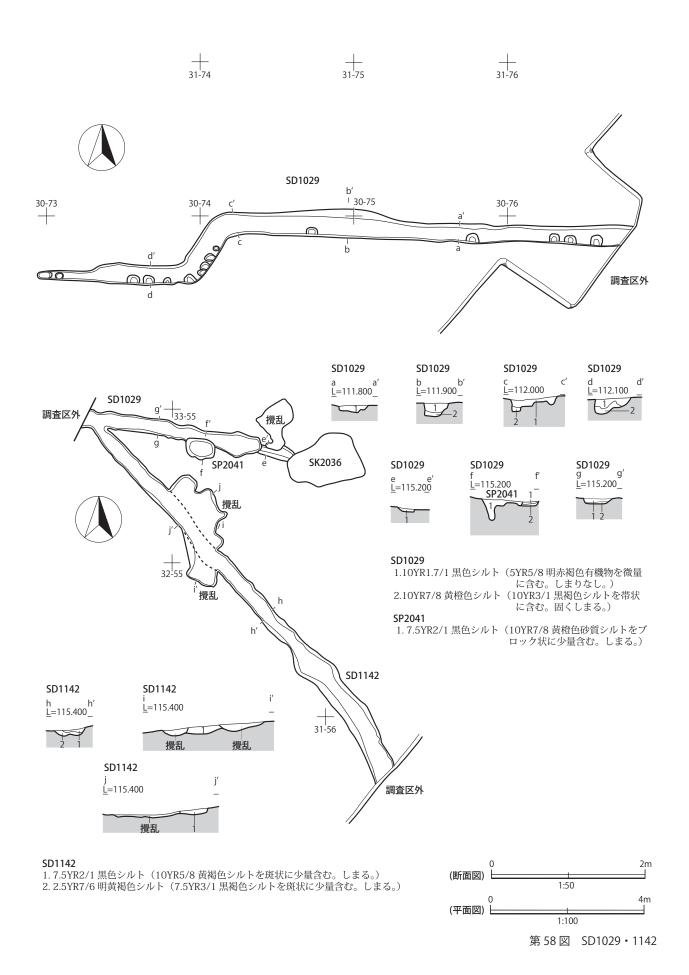
SK391

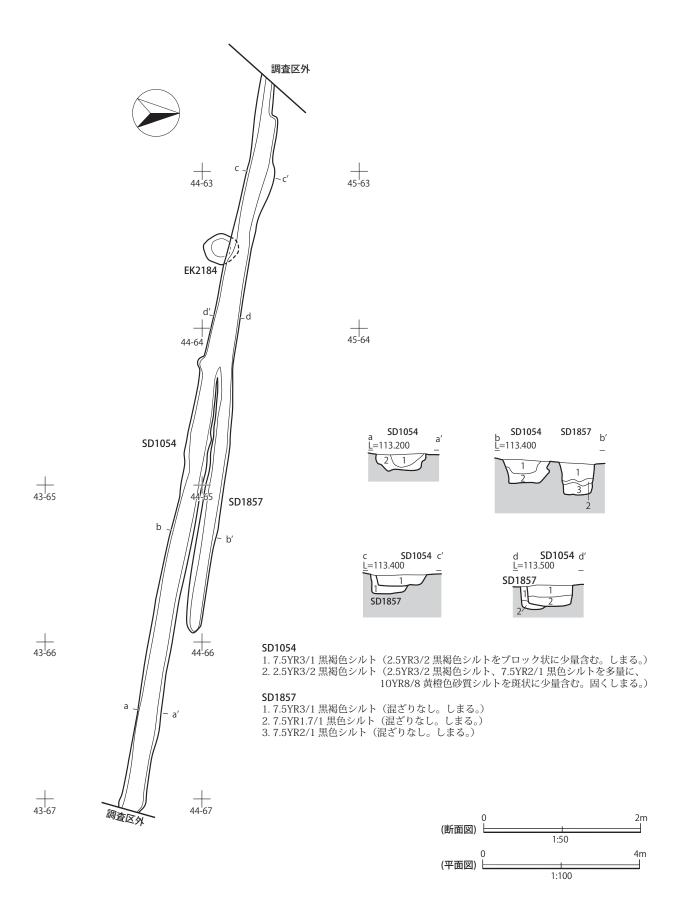
- 1. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質シルトを粒状、 斑状に微量含む。しまる。) 2. 10YR1.7/1 黒色シルト (10YR3/2 黒褐色シルトを斑状に少量
- 含む。しまる。)

SK396

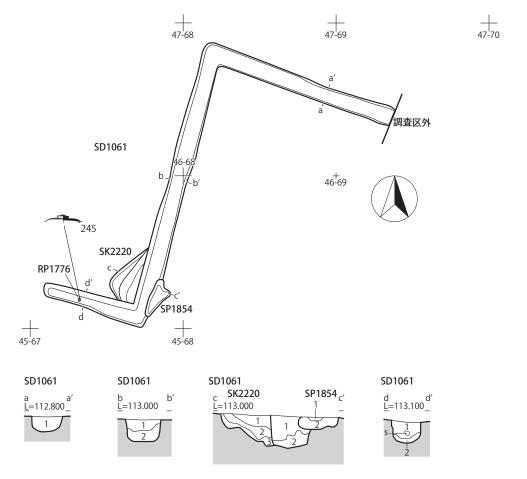


第 57 図 SK2164、SP2168、SK391・392・395・396





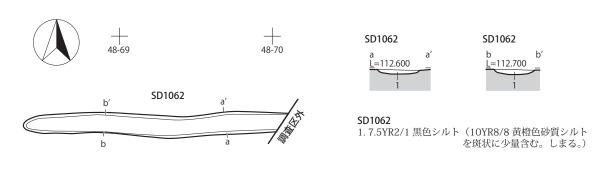
第59図 SD1054·1857

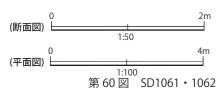


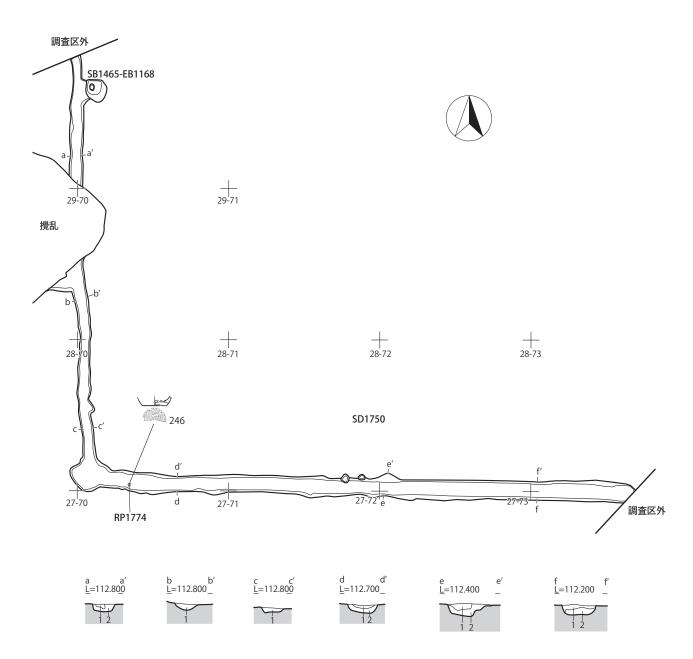
1.7.5YR2/1 黒色シルト(2.5YR3/2 黒褐色シルトをブロック状に微量含む。しまりなし。) 2.7.5YR1.7/1 黒色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを斑状に微量含む。しまる。)

- 1.7.5YR2/1 黒色シルト(混ざりのない黒色土。しまる。) 2.7.5YR1.7/1 黒色シルト(混ざりのない黒色土。しまる。) 3.2.5YR3/2 黒褐色シルト(10YR8/8 黄橙色シルトをブロック状に微量含む。7.5YR1.7/1 黒色シルトを斑状に少量含む。しまる。)

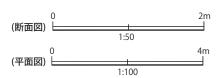
- 1. 7.5YR2/1 黒色シルト(混ざりのない黒色土。しまりなし。) 2. 2.5YR3/2 黒褐色シルト(2.5YR3/2 黒褐色シルト、10YR8/8 黄橙色砂質シルト、7.5YR2/1 黒色シルトを斑状に多量含む。固くしまる。)



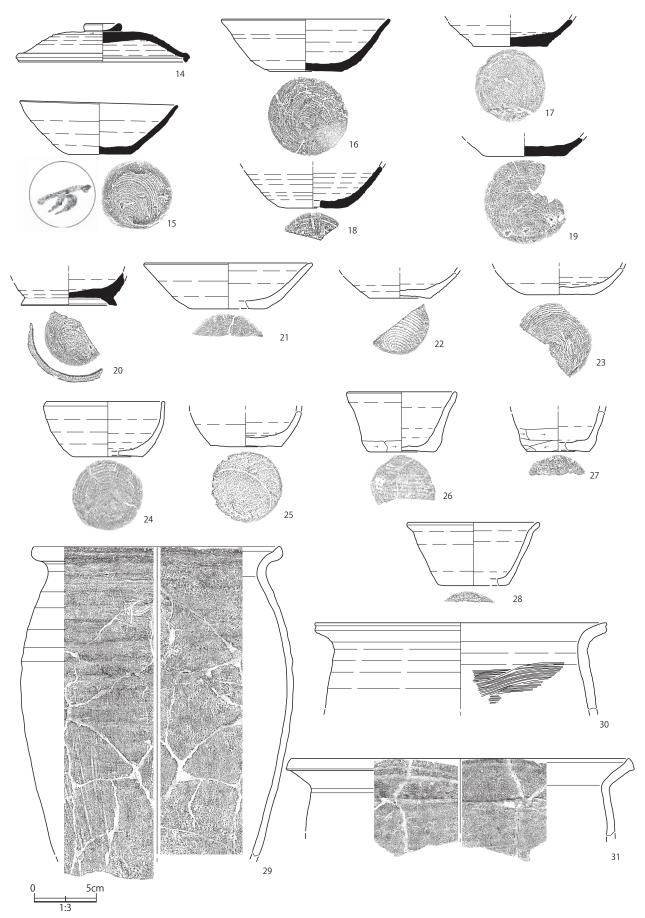




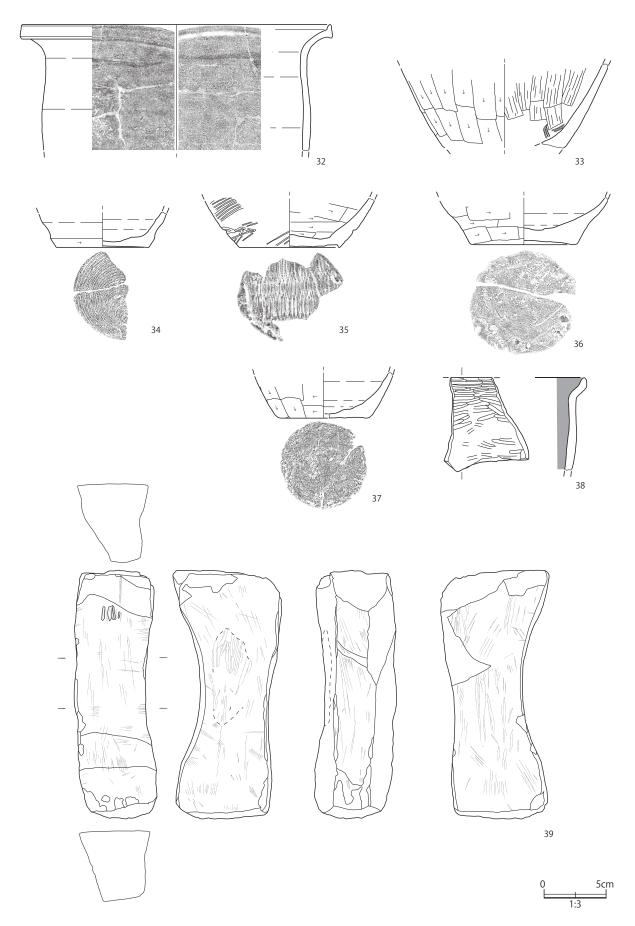
SD1750 1. 7.5YR3/1 黒褐色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを小ブロック状に微量含む。しまりなし。) 2. 7.5YR4/1 褐灰色シルト(10YR8/8 黄橙色砂質シルトを大ブロック状に多量含む。しまる。)



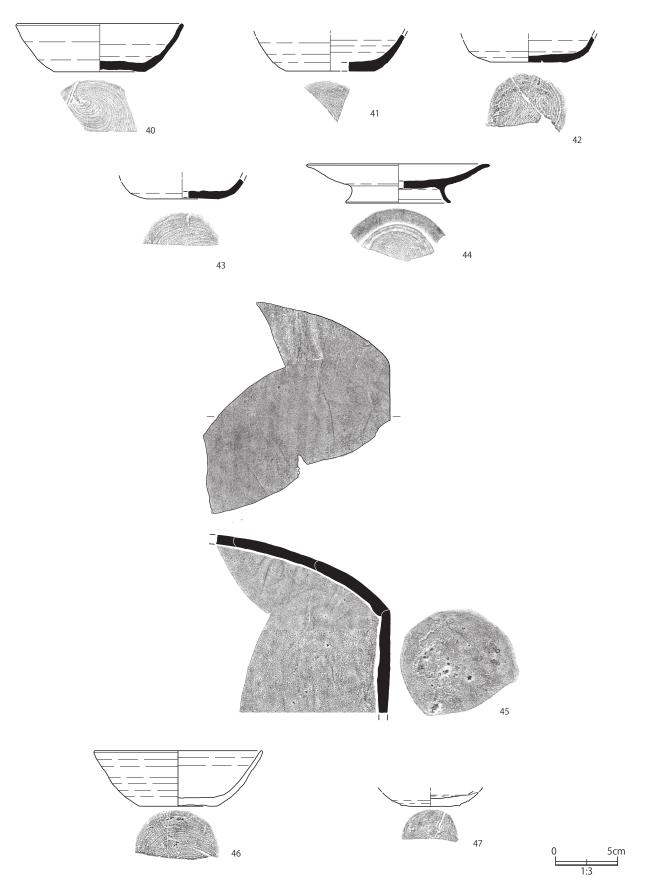
第61図 SD1750



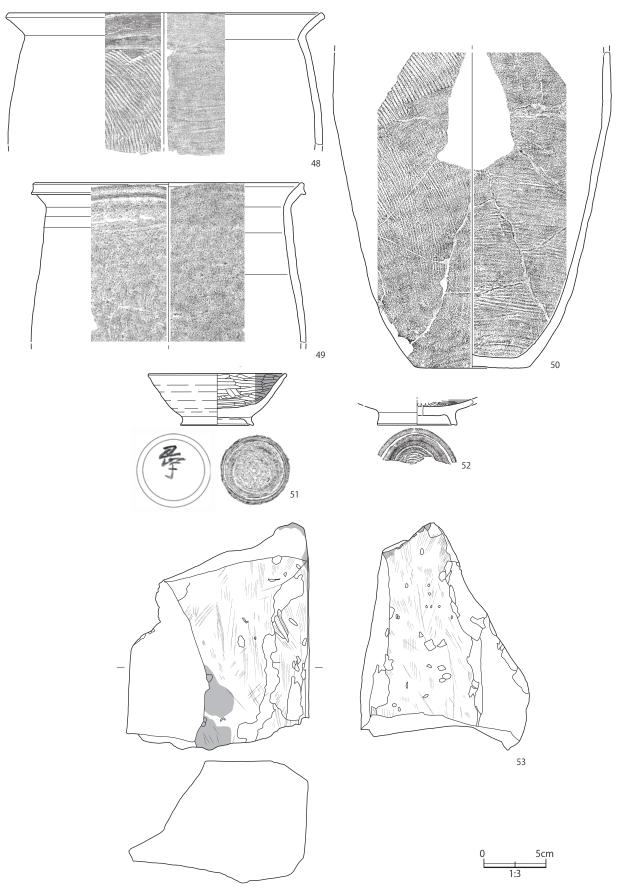
第 62 図 ST1818 出土遺物(1)



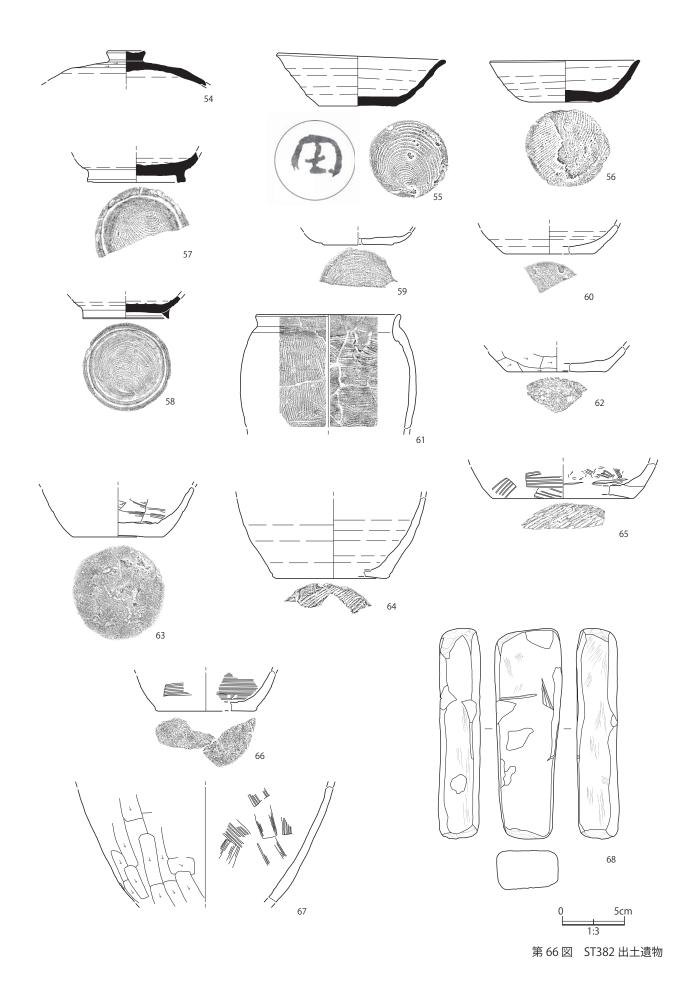
第63図 ST1818出土遺物 (2)



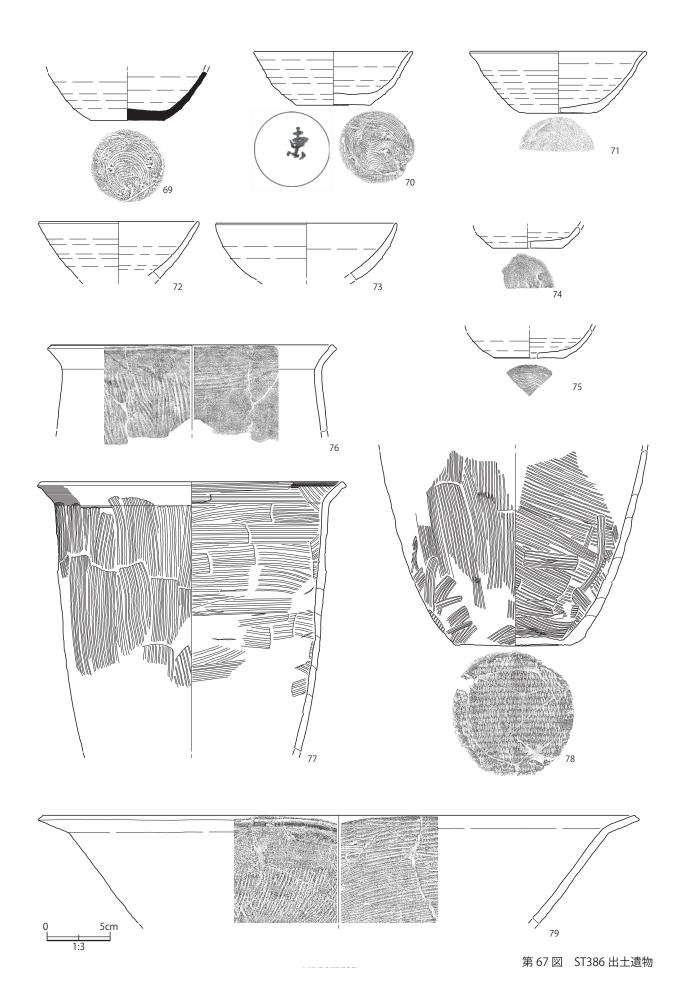
第 64 図 ST381 出土遺物 (1)

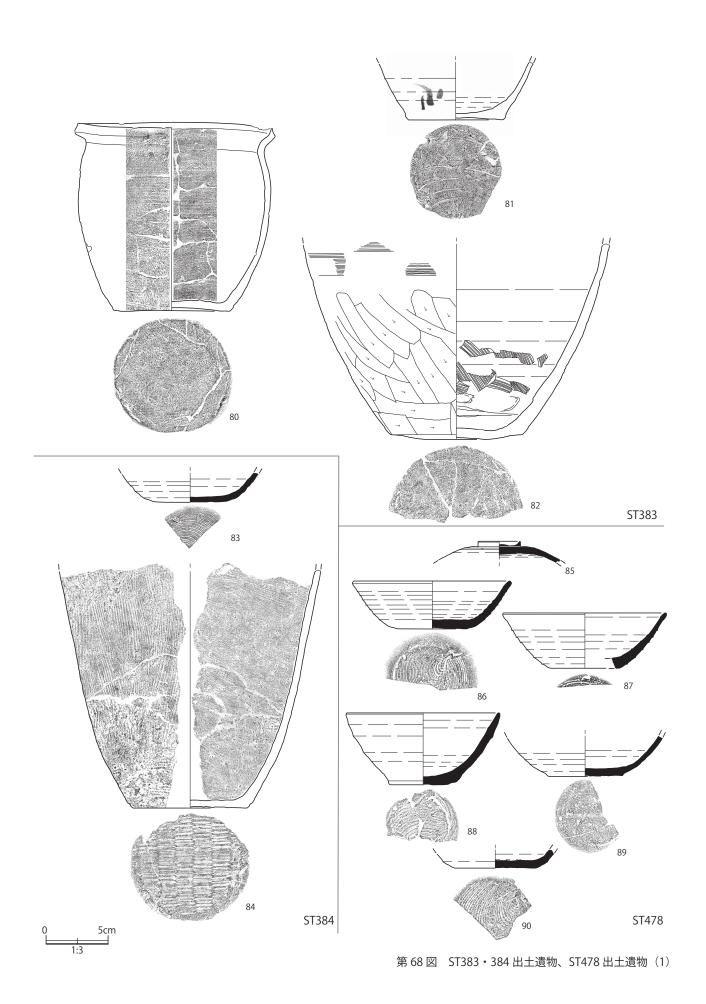


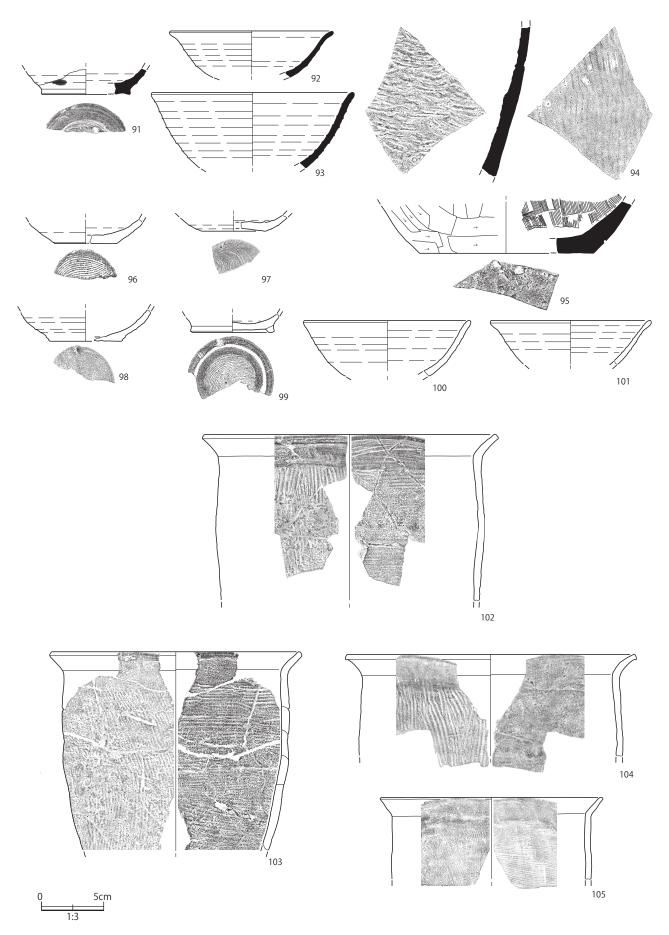
第 65 図 ST381 出土遺物 (2)



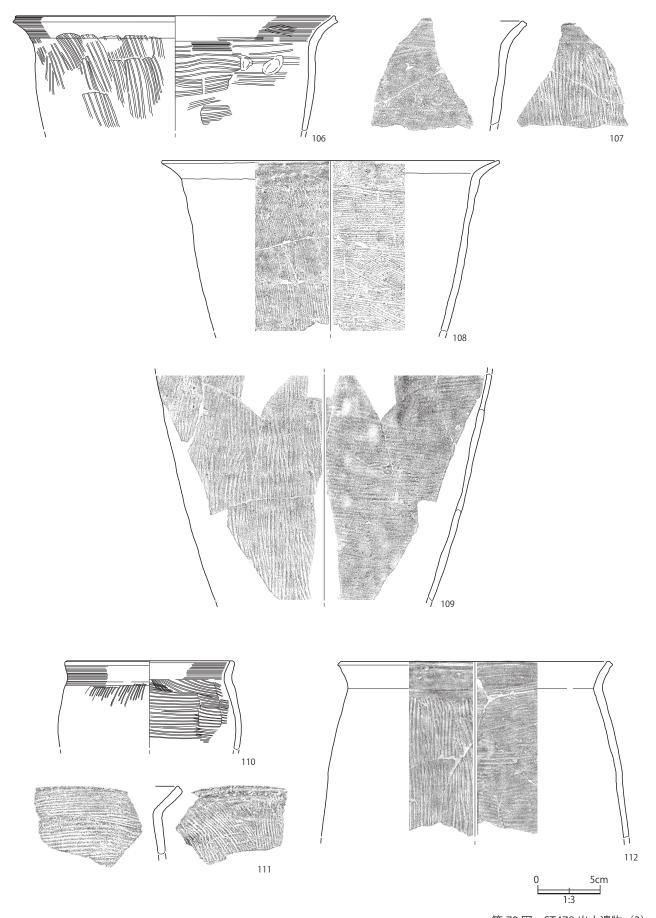
83



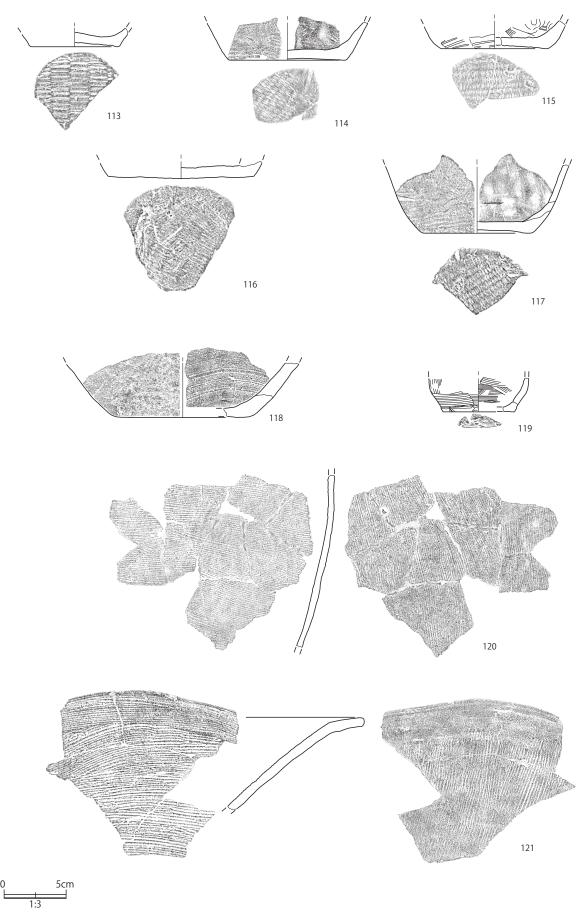




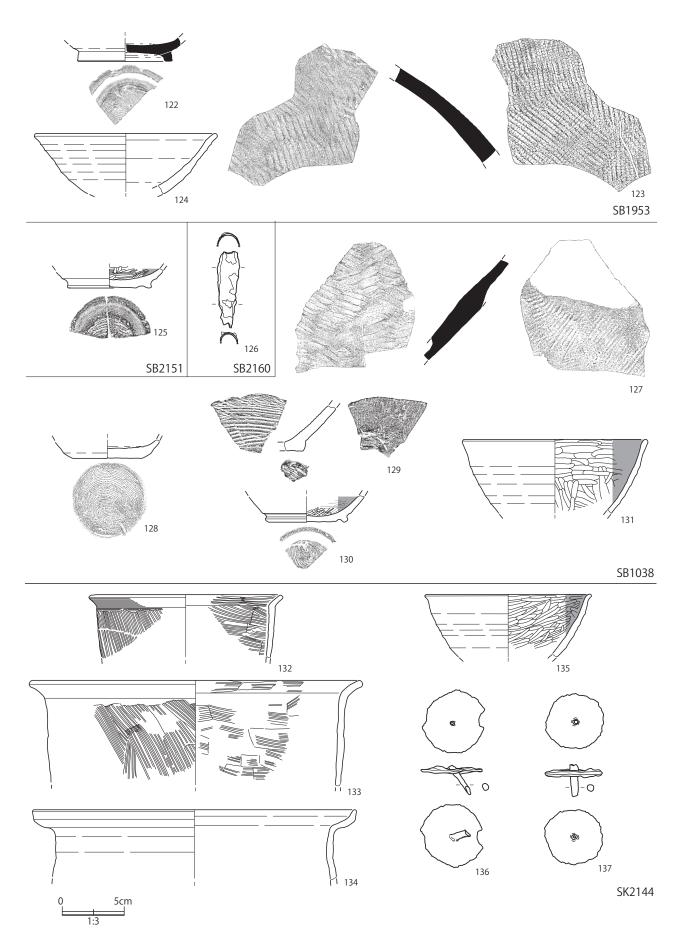
第 69 図 ST478 出土遺物 (2)



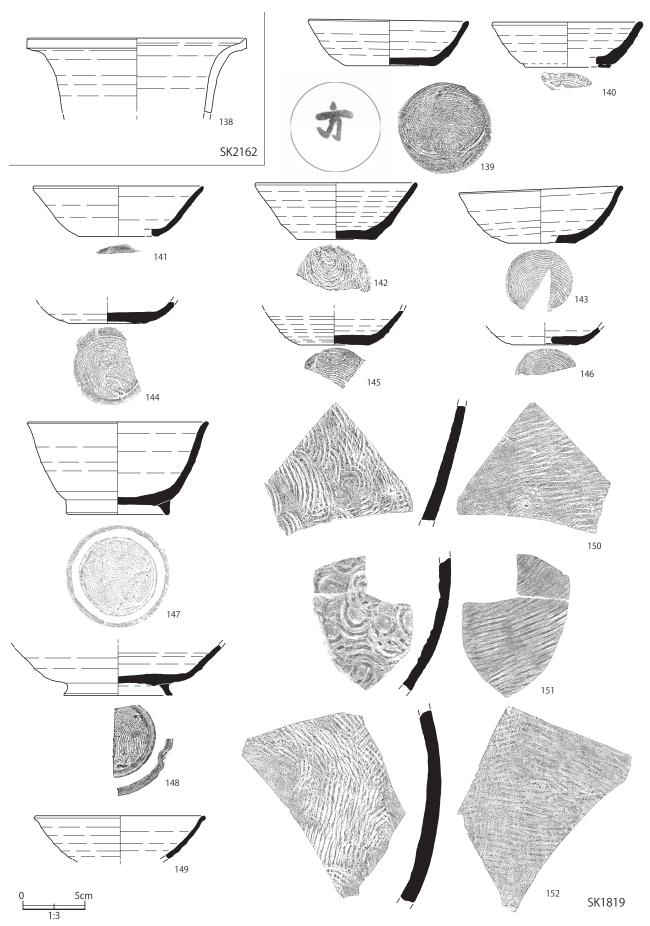
第 70 図 ST478 出土遺物 (3)



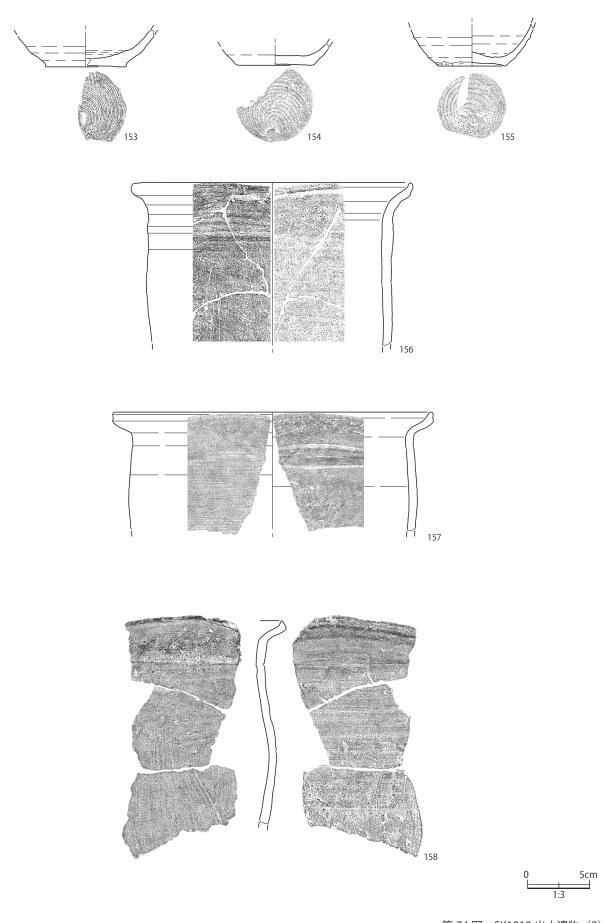
第71図 ST478 出土遺物 (4)



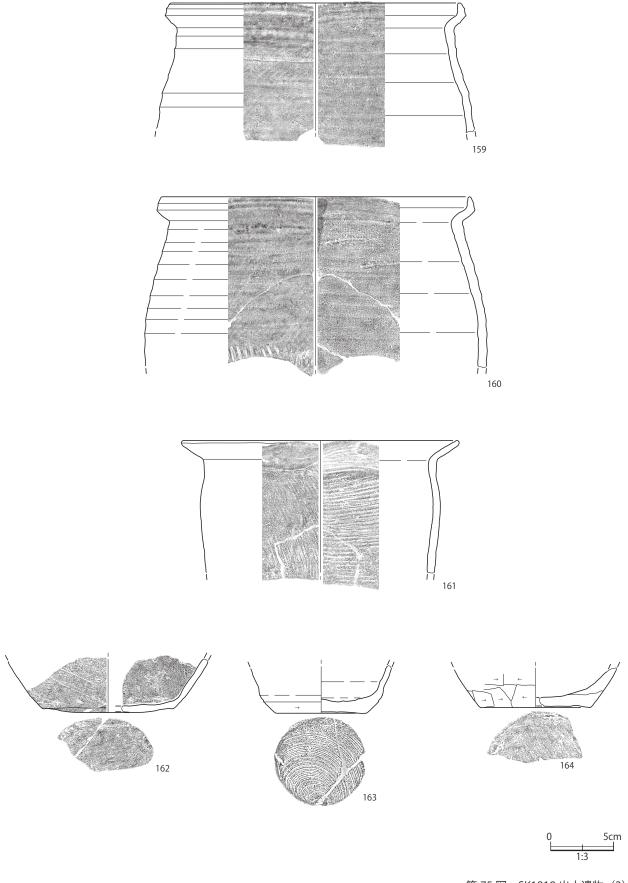
第72図 SB1953・2151・2160・1038、SK2144 出土遺物



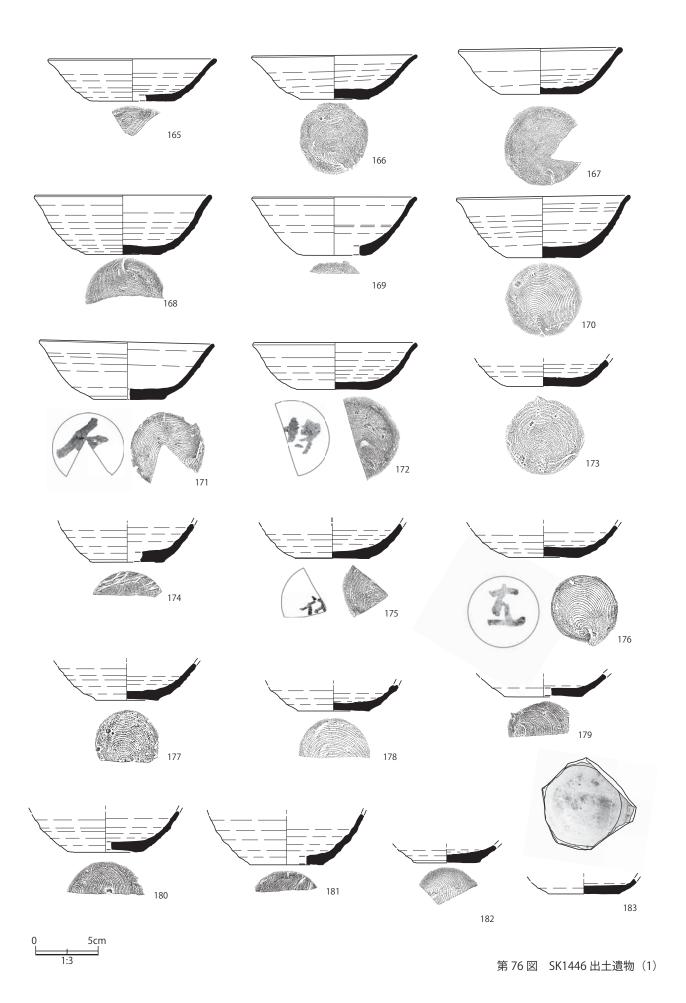
第73 図 SK2162 出土遺物、SK1819 出土遺物(1)



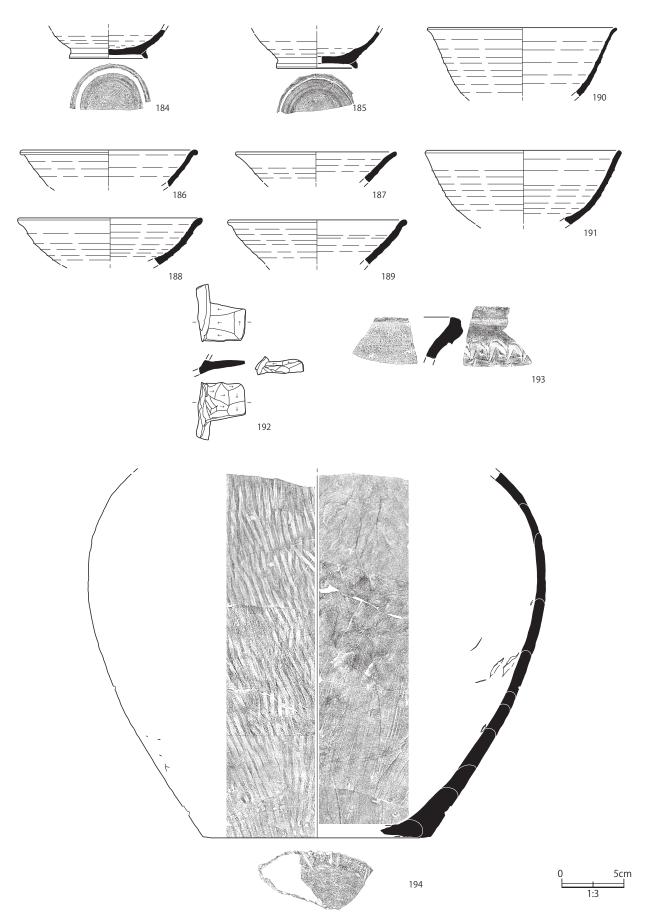
第74図 SK1819出土遺物 (2)



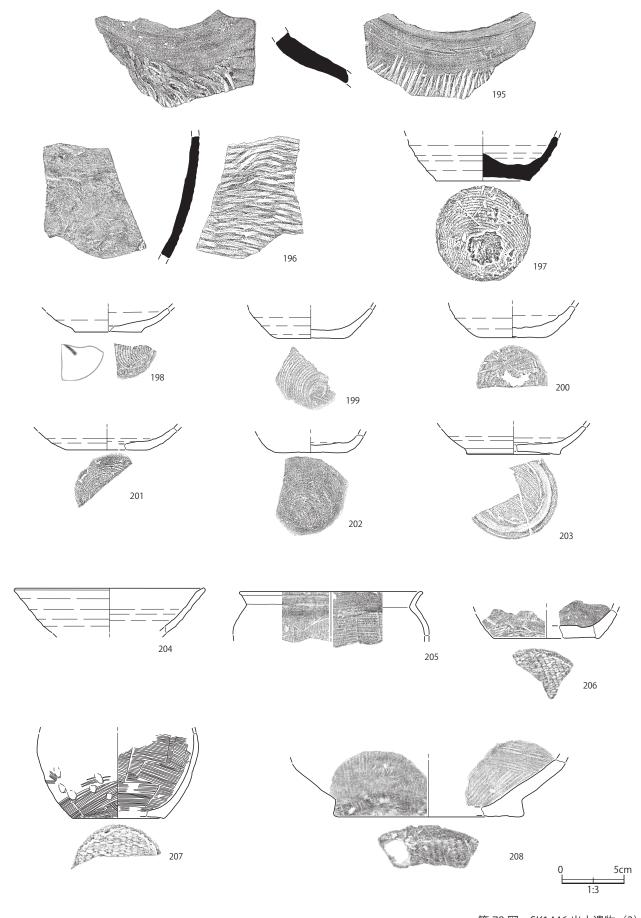
第 75 図 SK1819 出土遺物(3)



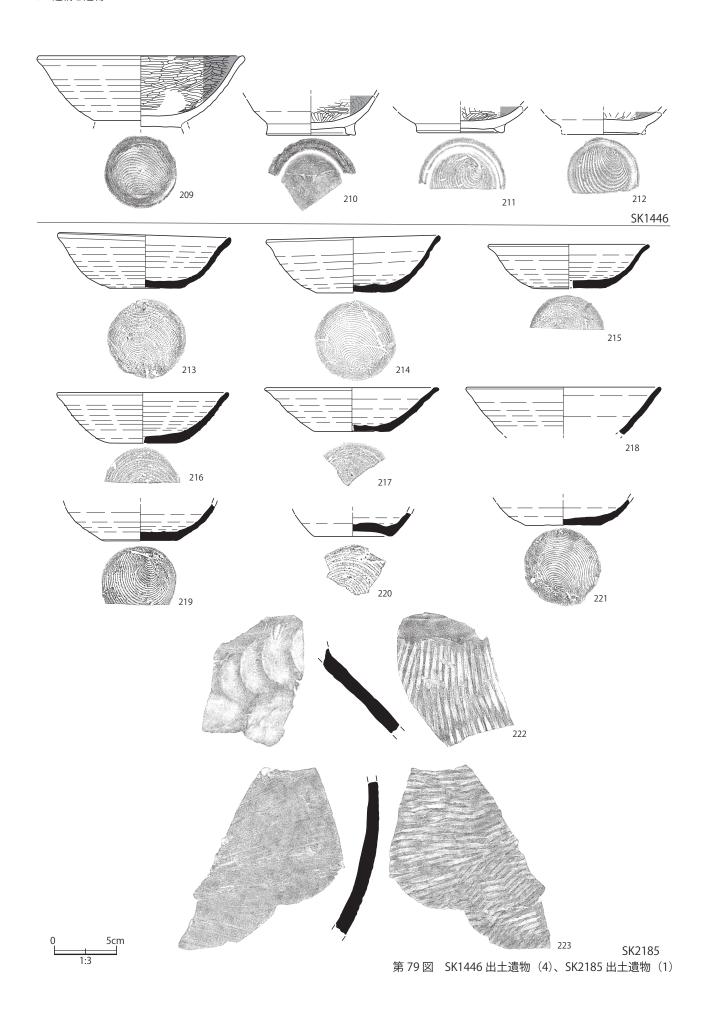
93

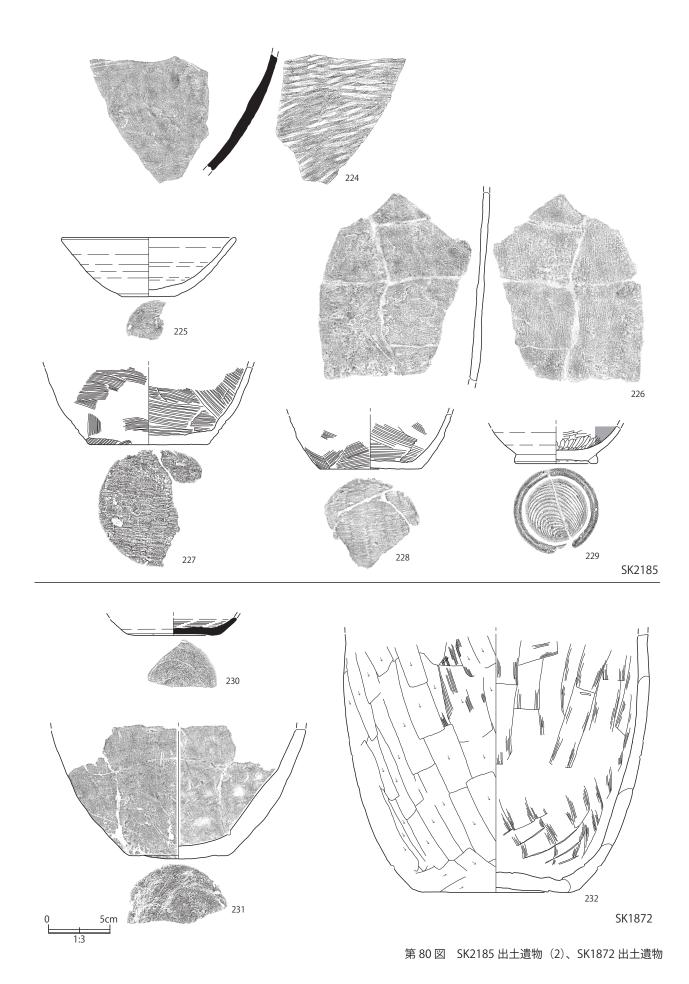


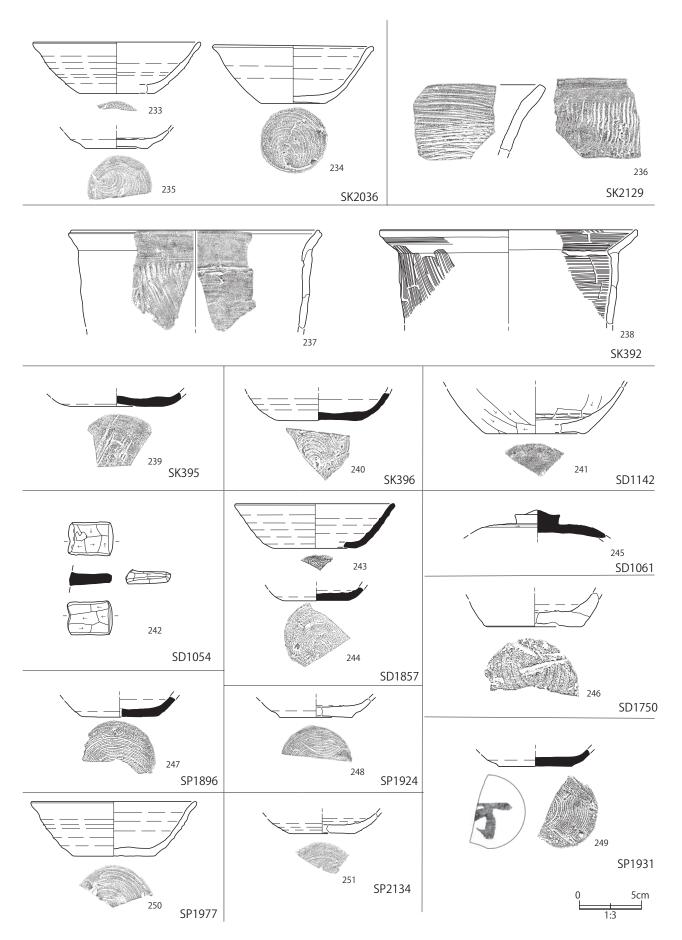
第77図 SK1446 出土遺物(2)



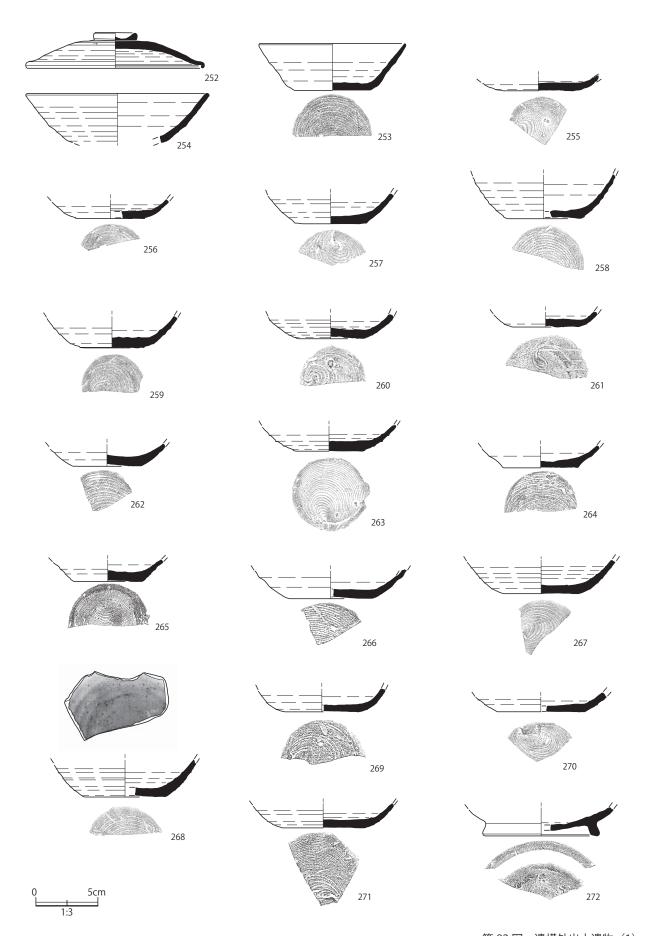
第 78 図 SK1446 出土遺物 (3)



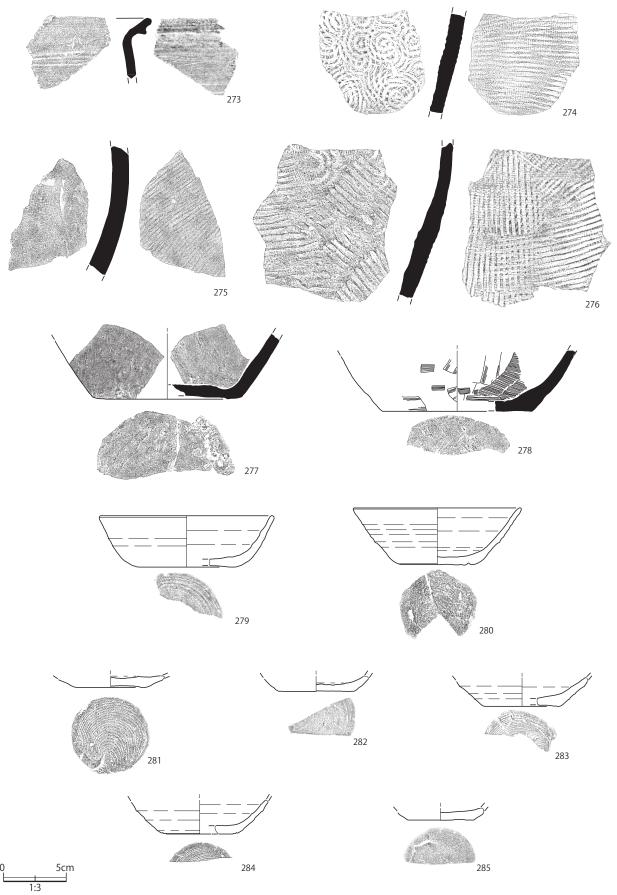




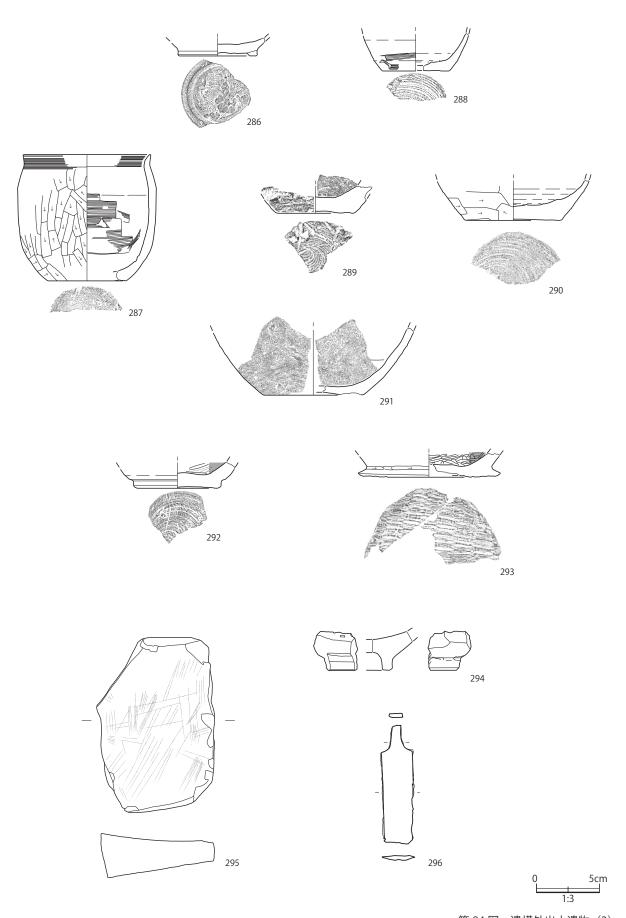
第81図 SK2036・2129・392・395・396、SD1142・1054・1857・1061・1750、SP 出土遺物



第82図 遺構外出土遺物(1)



第83図 遺構外出土遺物(2)



第84図 遺構外出土遺物(3)

※掘立柱建物観察表注

位置:検出グリッド 長軸・短軸・深さ:() は残存値

規模: 梁と桁の長さから算出 略図縮尺: 1/200 構造: 柱配置からの間取り 柱間寸法: m

柱痕跡:柱材の位置・あたり

表 2 掘立柱建物観察表

遺構番号 SB1820

図版番号 第29~31図

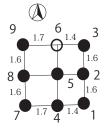
位 置 35・36-58・59

主軸方位 N-2°10′30″-W

規 模 9.92 ㎡

構 造 2×2間(総柱)

備考



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
INU	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB 1981	長方形	\circ	114	60	26
2	EB 1982	不整形	0	122	78	28
3	EB 1983	長方形	0	122	52	30
4	EB 1980	隅丸方形	0	88	80	20
5	EB 1999	隅丸方形	0	66	54	22
6	EB 1987	不整形	×	88	72	16
7	EB 1979	正方形	0	74	68	36
8	EB 1984	隅丸方形	0	100	88	24
9	EB 1985	長方形	0	92	74	28

遺構番号 SB1953

図版番号 第 32 · 33 図

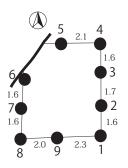
位 置 36~38-58•59

主軸方位 N-0°23′24″-W

規 模 21.07 m²

構 造 2×3間

備 考



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB 1957	長方形	0	90	64	56
2	EB 1958	不整形	0	70	52	28
3	EB 1959	不整形	0	102	60	22
4	EB 1962	不整形	0	96	90	60
5	EB 2124	楕円形	0	(64)	50	24
6	EB 2126	不明	0	98		42
7	EB 2127	隅丸方形	0	(62)	60	22
8	EB 1955	正方形	0	72	68	60
9	EB 1956	長方形	0	72	54	22

遺構番号 SB2151

図版番号 第 34 · 35 図

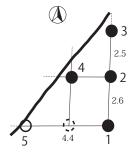
位 置 38~40-58~60

主軸方位 N-2°23′09″-W

規 模 22.44 ㎡以上

構 造 2×2間以上(総柱)

備考



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB 1923	楕円形	0	96	70	16
2	EB 1922	隅丸方形	0	70	56	36
3	EB 2119	不整形	0	54	50	28
4	EB 2120	不整形	0	70	58	22
5	EB 2121	楕円形?	×	(150)	(50)	40

遺構番号 SB2152

図版番号 第36・37 図

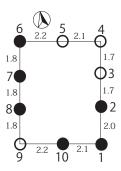
位 置 39・40-60~62

主軸方位 N-12°01′33″-E

規 模 23.22 ㎡

構 造 2×3間

備 考



	15.11.	15	- 15		1-41	Nort 2 -
No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB 1919	楕円形	0	64	52	14
2	EB 1913	楕円形	0	72	56	18
3	EB 2153	隅丸方形	X	66	54	32
4	EB 1893	隅丸方形	X	54	46	6
5	EB 1892	不整形	×	54	48	26
6	EB 1891	不整形	0	68	54	20
7	EB 1914	正方形	0	54	56	22
8	EB 1916	不整形	0	76	72	18
9	EB 1917	楕円形	X	66	56	20
10	EB 1918	隅丸方形	0	50	50	14

遺構番号 SB2154

図版番号 第38・39図

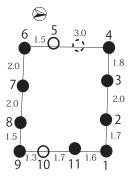
位 置 36~38-58•59

主軸方向 N-85° 44′ 42″ -E

規 模 24.75 ㎡

構 造 3×3間

備考



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB 1876	正方形		52	48	36
2	EB 1878	楕円形	0	50	42	24
3	EB 1880	隅丸方形	0	62	52	54
4	EB 1882	隅丸方形	0	68	54	58
5	EB 2165	楕円形	×	55	50	50
6	EB 1897	正方形	0	48	44	18
7	EB 1898	楕円形	0	80	58	52
8	EB 1903	長方形	0	74	42	38
9	EB 1902	正方形	0	50	50	32
10	EB 1900	円形	×	40	42	20
11	EB 1877	楕円形	0	40	32	6

遺構番号 SB2160

図版番号 第 40·41 図

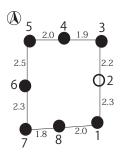
置 41・42-64・65

主軸方位 N-2°06′54″-E

規 模 18.14 ㎡

構 造 2×2間

備 考 SB2160→SK2156



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB 1871	楕円形	0	68	50	34
2	EB 2158	隅丸方形	X	56	50	12
3	EB 1864	不整形	0	60	54	30
4	EB 2157	隅丸方形	0	54	46	24
5	EB 2161	正方形	0	50	48	10
6	EB 2155	円形	0	60	60	22
7	EB 1873	円形	0	50	50	16
8	EB 1870	楕円形		72	64	20

遺構番号 SB2176

図版番号 第42・43・44 図

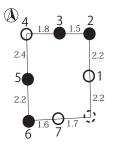
位 置 36・37-60・61

主軸方位 N-1°30′04″-W

規 模 14.85 ㎡

構 造 2×2間

備 考 SB2186→SB1038→SB2176



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB 1515	円形	×	36	36	29
2	EB 2174	円形	0	40	42	38
3	EB 2175	隅丸方形	0	38	32	26
4	EB 2177	楕円形	X	50	40	26
5	EB 2142	長方形	0	46	40	28
6	EB 2141	隅丸方形	0	48	42	36
7	EB 1434	楕円形	×	42	24	24

遺構番号 SB2186

図版番号 第 42 · 45 · 46 図

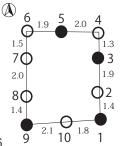
位 置 35・36-60・61

主軸方位 N-1°56′24″-W

規 模 18.53 ㎡

構 造 2×3間

備 考 SB2186→SB1038→SB2176



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB 1208	長方形	0	94	80	42
2	EB 2189	長方形	×	106	(70)	(30)
3	EB 1431	長方形	0	(104)	70	40
4	EB 1435	長方形	×	(70)	(52)	20
5	EB 1978	不整形	0	72	50	26
6	EB 1941	不整形	×	(68)	66	28
7	EB 1939	長方形	×	(104)	62	38
8	EB 1945	正方形	×	56	56	12
9	EB 1427	正方形	0	60	60	32
10	EB 1207	長方形	×	110	84	30

遺構番号 SB1038

図版番号 第 42・47 ~ 50 図

位 置 35~38-60・61

主軸方位 N-0° 18′ 14″-W

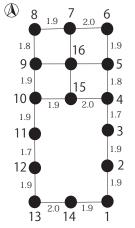
規 模 35.88 ㎡

(側柱 21.45 ㎡・総柱 14.43 ㎡)

構 造 2×5間

(側柱3間+総柱2間)

備 考 SB2186→SB1038→SB2176



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB 1209	正方形	0	110	106	52
2	EB 1430	長方形	0	96	82	66
3	EB 1937	長方形	0	90	66	54
4	EB 1936	円形	0	70	64	50
5	EB 1935	長方形	0	70	60	48
6	EB 1934	正方形	0	64	60	42
7	EB 1933	隅丸方形	0	74	62	48
8	EB 1932	不整形	0	70	70	40
9	EB 1944	不整形	0	66	64	48
10	EB 1943	隅丸方形	0	82	70	46
11	EB 1942	長方形	0	100	82	42
12	EB 1940	正方形	0	68	66	52
13	EB 2140	正方形	0	90	88	52
14	EB 1429	正方形	0	88	84	52
15	EB 1947	隅丸方形	0	60	50	46
16	EB 2115	不整形	0	82	52	20

遺構番号 SB1697

図版番号 第51~53図

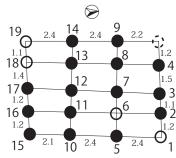
位 置 33~35-77•78

主軸方位 N-82° 26′ 24″ -W 19

規 模 34.40 ㎡

構 造 3×4間(総柱)

備 考



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
110	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB 1678	楕円形	×	62	60	12
2	EB 1679	楕円形	0	53	40	10
3	EB 1675	不整形	0	40	28	16
4	EB 1680	隅丸方形	0	52	46	16
5	EB 1686	円形	0	60	56	16
6	EB 1685	楕円形	×	48	44	14
7	EB 1684	円形	0	50	44	14
8	EB 1683	長方形	0	64	50	20
9	EB 1682	隅丸方形	0	50	50	10
10	EB 1687	円形	0	56	50	26
11	EB 1688	隅丸方形	0	54	50	16
12	EB 1689	隅丸方形	0	52	50	12
13	EB 1690	円形	0	50	48	12
14	EB 1691	楕円形	0	60	48	14
15	EB 1696	不整形	0	38	28	14
16	EB 1695	隅丸方形	0	60	52	18
17	EB 1694	不整形	0	34	30	16
18	EB 1693	正方形	×	50	46	16
19	EB 1692	楕円形	×	50	48	12

遺構番号 SB469

図版番号 第54図

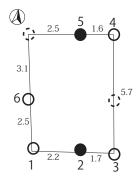
位 置 12・13-62・63

主軸方位 N-10°59′02″-W

規 模 22.60 ㎡

構 造 2×2間

備考



No	柱穴	柱穴	柱	長軸	短軸	深さ
NO	番号	平面形	痕跡	cm	cm	cm
1	EB 466	円形	×	46	40	20
2	EB 647	楕円形	0	46	36	24
3	EB 468	隅丸方形	X	40	36	32
4	EB 460	不整形	×	40	38	38
5	EB 459	不整形	0	46	30	50
6	EB 390	楕円形	×	52	42	50

表 3 遺物観察表

挿図	遺物	種別	器種		計測値	(mm)		_	調整・文様	出土 登録		備考	
番号	番号	(里力)	40年	口径	底径	器高	器厚			地点	番号		
	1	縄文	深鉢				8		- 体部 - 沈線(太)	XO		早期 (田戸下層式併行)	
	2	縄文	深鉢				9.5	部位	- 体部 - 平行沈線・ 爪形状刺突文	XO		早期 (田戸下層式併行)	
	3	縄文	深鉢				9		- 体部 - 格子状沈線文	XO		早期(田戸下層式 c 戸式 併行)・尖底	
16	4	縄文	深鉢				9		- 口縁部 - 縄文 LR	XO		晩期	
	5	石器	石鏃カ	長 (37)	幅 33	厚 4	重量 50g		- 種文 LK - 珪質頁岩	XO		下部欠損 未製品	
	6	石器	石錐カ	長 30	幅 18	厚 5	重量 2.5g	石材	- 珪質頁岩	D区 50-72G		未製品	
	7	石器	石匙	長 (37)	幅 27	厚 6	重量 6.5g	石材	- 珪質頁岩	D区 ST1818		未製品	
	8	石器	石箆	長 65	幅 40.5	厚 11	重量 35.5g	石材	- 珪質頁岩	XO		未製品 左右の刃部に刃潰し	
	9	石器	削器	長 32	幅 31	厚 8	重量 6.5g	石材	- 珪質頁岩	D区 XO		未製品	
17	10	石器	磨製石斧	長 (62)	幅 44	厚 13	重量 74.5g	石材	- 粘板岩	XO		基部	
17	11	石製品	磨石	長 127	幅 63	厚 42	重量 518.5g	石材	- 安山岩	G区 ST382	RQ172	磨面3面	
	12	石製品	凹石	長 65	幅 53	厚 40	重量 132.0g	石材	- 凝灰岩	XO		表裏に凹	
	13	石製品	敲石カ	長 133	幅 54	厚 33	重量 402.5g		- 安山岩	D区 SK1819		上下に敲痕 タール?付着	
	14	須恵器	蓋	(132)		30	4	外面内面	- ロクロ - ロクロ - 回転へラ削り	D区 ST1818	RP1807		
	15	須恵器	無台坏	126	52	41	5	内面	- 回転ヘラ削り - ロクロ - ロクロ - 回転糸切	D区 ST1818	RP1789	底部墨書「万ヵ」	
	16	須恵器	無台坏	134	62	42	4	外面内面	- ロクロ - ロクロ - 回転糸切	D区 ST1818- EL2183		焼成不良	
	17	須恵器	無台坏		60		4	外面内面	- ロクロ - ロクロ	D区 ST1818-		焼成不良	
	18	須恵器	無台坏		(52)		4	外面内面	- 回転糸切 - ロクロ - ロクロ	EL2183 D区 ST1818		焼成不良 内外面火だすき痕	
	19	須恵器	無台坏		64		4	外面内面	- 回転糸切 - ロクロ - ロクロ	D区 ST1818			
	20	須恵器	有台坏		76		7	外面内面	- 回転糸切 - ロクロ - ロクロ	D区 ST1818			
	21	土師器	無台坏	(134)	62	36	5	外面	<u>- 回転糸切・高台</u> - ロクロ - ロクロ	D区 ST1818			
		土師器	無台坏		(50)		4	外面	- 不明 - ロクロ - ロクロ	D区			
62									- 回転糸切 - ロクロ	ST1818			
	23	土師器	無台坏		60		5	底部	- ロクロ - <u>回転糸切</u> - ロクロ	D区 ST1818			
	24	土師器	無台坏	97	54	44	4	内面	- ロクロ - ロクロ - 回転糸切	D区 ST1818			
	25	土師器	無台坏		56		4	内面	- ロクロ - ロクロ - 回転糸切・ナデ	D区 ST1818	RP1788	二次焼成有 外面剥落 内面媒付着	
	26	土師器	小型鉢	(88)	50	48	5	内面	- 回転糸切・ナデ - ロクロ・ケズリ・ナデ - ロクロ - ケズリ・棒状T具のナデ	D区 ST1818		外面下部ヘラケズリ	
	27	土師器	小型鉢?		(50)		5	内面	- ケズリ・棒状工具のナデ - ロクロ・ケズリ - ロクロ - ケズリ?	D区 ST1818			
	28	土師器	小型鉢	(105)	(54)	51	4	外面 内面	- ロクロ - ロクロ	D区 ST1818			
	29	土師器	甕	(200)			5	外面	<u>- 不明</u> - ハケ・ケズリ・ナデ	D区	RP1787	二次焼成?	
	30	土師器	雑裝	228			7	外面	- ナデ - ロクロ - ロクロ・ハケ	ST1818 D区 ST1818-		内外面剥落	
	31	土師器	甕	(268)			6	外面	- ナデ	EL2183 D区		二次焼成有	
	01		256	(200)				内面	- ナデ	ST1818		内外面剥落	

挿図	遺物	種別	聖稀		計測値	(mm)			国 東 、	出土	登録	備考
番号	番号	性力」	器種	口径	底径	器高	器厚	_	調整・文様	地点	番号	湘名
	32	土師器	甕	246			6		- ロクロ - ロクロ	D区 ST1818		
	33	土師器	甕				5	外面 -	- ケズリ	D区 ST1818-		
			五						- ハケ・ヘラナデ	EL2183		
	34	土師器	甕		(73)		5		- ロクロ・ケズリ - ロクロ	D⊠		外面下部回転ヘラケス
								底部 外面 ·	- 回転糸切 - ハケ	ST1818		IJ
	35	土師器	甕		80		6	内面-	- ケズリ	D区 ST1818		
63								底部 外面 .	<u>- 網代</u> - ケズリ?			二加热出去
	36	土師器	甕		84		7		- ロクロ - ケズリ	D区 ST1818	RP1808	二次焼成有 内外面剥落
								外面	- ケズリ	D区		
	37	土師器	甕		70		6		- ロクロ - ケズリ・ナデ	ST1818		
	38	黒色土器	甕				6	外面-	- ロクロ	D区		内面黑色処理
				長	幅	厚	重量		ミガキ	ST1818 D区		二次焼成有
	39	石製品	砥石	196	57	62	1230.0g		- 細粒凝灰岩	ST1818	RQ1806	砥面4面
	40	須恵器	無台坏	(133)	(72)	39	5		- ロクロ - ロクロ	G⊠ ST381		
									- <u>回転糸切</u> - ロクロ	ST382		
	41	須恵器	無台坏		(70)		4	内面-	ロクロ	G⊠ ST381		
								底部 · 外面 ·	<u>- 回転糸切</u> - ロクロ			
	42	須恵器	無台坏		(60)		3		ロクロ	G 区 ST381		
								外面-	- <u>回転糸切</u> - ロクロ	G 🗵		
64	43	須恵器	無台坏		(58)		4		- ロクロ - 回転糸切	ST381 ST382		
	4.4	海市即	±4m	(1.40)	(0.4)	2.1	4	外面.	- ロクロ - ロクロ	G ⊠		ヘルトウ砂動
	44	須恵器	有台皿	(146)	(84)	31	4	底部-	- 回転糸切・高台	ST381		全体に自然釉
	45	須恵器	横瓶				8		- ロクロ - ロクロ	G 区 ST381	RP170	外面一部自然釉
	46	土師器	無台坏	(134)	(62)	44	3	外面.	- ロクロ - ロクロ	G 🗵		
	40	工印作的	無口利	(134)	(02)	44		底部-	- 回転糸切	ST381		
	47	土師器	無台坏		(47)		4		- ロクロ - ロクロ	G 🗵		
									- <u>回転糸切</u> - ハケ・ナデ	ST381		
	48	土師器	甕	(253)			6	内面.	- ハケ・ナデ	ST381		内面の一部に媒付着
	49	土師器	甕	(216)			6	内面.	- ロクロ・ケズリ - ナデ	G 区 ST381		
	50	土師器	甕		92		6	外面 内面 .	- ハケ - ハケ・ナデ	$G\boxtimes$	RP171	二次燒成有
			20					底部.		ST381		外面媒付着
65	51	黒色土器	有台坏	(110)	58	41	4		- ミガキ	G区 ST381		内面黒色処理 底部墨書「忌于」
								底部 外面	<u>- 高台</u> - ロクロ			区印室目「心1」
	52	黒色土器	有台坏		(62)		4	内面.	- ミガキ	G⊠ ST381		内面黑色処理
	53	石製品	砥石	長	幅	厚	重量		<u>- 回転糸切・高台</u> - 凝灰岩	G 🗵	RQ167	剥離は自然剥離
		11 夜吅	143/11	181	134	96	2670.0g		- ⁽	ST381	KQ107	砥面2面
	54	須恵器	蓋				5	内面.	- ロクロ	G⊠ ST382		
									<u>- 回転ヘラ削り</u> - ロクロ	G ⊠		
	55	須恵器	無台坏	134	63	39	3		- ロクロ - 回転糸切	ST382	RP173	底部墨書「田」
		t-t-lann						外面.	- ロクロ	G 🗵		外面口縁の一部に自然
	56	須恵器	無台坏	118	63	33	4		- ロクロ - 静止糸切	ST382	RP174	釉
	57	須恵器	有台坏		(76)		5	外面.	- ロクロ - ロクロ	G 🗵		
		从心间	H II NI.		(70)			底部-	- 回転糸切・高台	ST382		
66	58	須恵器	有台坏		68		4		- ロクロ - ロクロ	G ⊠ ST382-		
								底部-	- <u>回転糸切・高台</u> - ロクロ	EL482		
	59	土師器	無台坏		(58)		3		- ロクロ	G区 ST382		
									<u>- 回転糸切</u> - ロクロ			
	60	土師器	無台坏		(70)		5	内面	- ロクロ	G⊠ ST382		
	61	土師器	甕	115			5	外面.	<u>- 回転糸切</u> - ハケ・ナデ	G 🗵		
			Ter.	110			J		- ハケ・ナデ - ケズリ	ST382 G区		
	62	土師器	甕		(78)		5	内面.	- 不明	ST382-		内面剥落?
								底部-	- 網代?	EL482		

挿図	遺物	種別	器種		計測値	(mm)		ー 調整・文様	出土	登録	備考
番号	番号	作主力リ	伯奇作里	口径	底径	器高	器厚	响走 * 大似	地点	番号	畑つ
		Lernn	-tet					外面 - ケズリ・ナデ	G 🗵		
	63	土師器	甕		72		6	内面 - ヘラナデ 底部 - ケズリ・ナデ	ST382		
								外面 - ロクロ	G 🗵		
	64	土師器	甕		90		6	内面 - ロクロ 底部 - 静止糸切	ST382- EL482		二次焼成有
								外面 - ハケ	G 🗵		
	65	土師器	甕		(112)		7	内面 - ハケ	ST382		内面指圧痕
66								<u>底部 - 網代</u> 外面 - ハケ			
	66	土師器	甕?		(80)		6	内面 - ハケ	G ⊠		
								底部 - 不明	ST382		
	67	L. fat BB	रुक्ष				6	外面 - ケズリ	G 🗵		
	67	土師器	甕				O	内面 - ハケ・ナデ	ST382- EL482		
		一一	nt T	長	幅	厚	重量	了## 如此点在场层出	G 🗵	DO170	全体に二次被熱
	68	石製品	砥石	168	54	31	287.0g	石材 - 粗粒白色凝灰岩	ST382- EP503	RQ179	砥面2面?
		(-1-1-111						外面 - ロクロ	G 🗵		1 1 111111
	69	須恵器	無台坏		57		4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	ST386	RP164	内面の一部に媒付着
								外面 - ロクロ	G 🗵		
	70	土師器	無台坏	(124)	58	42	4	内面 - ロクロ 京郊 - 回転名切	ST386	RP180	底部墨書「東カ」
								<u>底部 - 回転糸切</u> 外面 - ロクロ	G 区		
	71	土師器	無台坏	(138)	(60)	48	3	内面 - ロクロ	ST386	RP166	
		LATER	1.7	(100)			4	<u>底部 - 回転糸切</u> 外面 - ロクロ	G 🗵		二次焼成有
		土師器	坏	(126)			4	内面 - ロクロ	ST386		外面媒付着
	73	土師器	坏	140			7	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	G 区 ST386		二次焼成有
67		LATON	her to the		(5.4)			外面 - ロクロ	G 🗵		
	74	土師器	無台坏		(54)		4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	ST386		
								外面 - ロクロ	G 🗵		
	75	土師器	無台坏		(54)		3	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	ST386		
	76	土師器	甕	(225)			6	外面 - ハケ	G 🗵		二次焼成有
								<u>内面 - ハケ</u> 外面 - ハケ・ナデ	ST386 G 区		内外面媒付着 二次焼成有
	77	土師器	甕	(242)			5	内面 - ハケ・ナデ	ST386	RP165	外面媒付着
	78	土師器	甕		92		6	外面 - ハケ 内面 - ハケ	G⊠	RP162	外面媒付着
			ъt		32		0	底部 - 網代	ST386	NI 102	/ 四州11年
	79	土師器	鍋	(468)			7	外面 - ハケ・ナデ 内面 - ハケ	G ⊠ ST386		内外面媒付着
								外面 - ハケ・ケズリ・ナデ	G⊠		
	80	土師器	甕	154	93	150	5	内面 - ハケ・ナデ	ST383	RP159	
								<u>底部 - ヘラ削り・ナデ</u> 外面 - ロクロ	C F		
	81	土師器	甕		76		4	内面 - ロクロ	G ⊠ ST383		体部墨書「□」 外面下部ケズリ→ナデ
								<u>底部 - ヘラ削り</u> 外面 - ケズリ			
	82	土師器	甕		104		7	内面 - ハケ・ナデ	G 区 ST383	RP160	
								<u>底部 - ケズリ</u> 外面 - ロクロ			
	83	須恵器	無台坏		(58)		4	内面 - ロクロ	G ⊠ ST384		
								<u>底部 - 回転糸切</u> 外面 - ハケ	31304		
	84	土師器	甕		92		5	内面 - ハケ	G ⊠	RP163	二次焼成有
								<u>底部 - 網代</u> 外面 - ロクロ	ST384		
68	85	須恵器	蓋				3	<u> 内面 - ロクロ</u>	G 区		切り離し回転糸切
								天井 - 回転ヘラ削り	ST478		
	86	須恵器	無台坏	(126)	(60)	38	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	G⊠		口縁・体部歪み
		>>\C\0.00	жы-т	(120)	(00)			底部 - 回転糸切	ST478		Holor Haller
	87	須恵器	無台坏	(130)	(56)	44	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	G 🗵		
	01	A STATE OF	**** [] *1.	(130)	(50)	44	4	底部 - 回転糸切	ST478		
	00	活声职	無公叔	(121)	(F.C)	E 7	_	外面 - ロクロ	G⊠		焼成不良
	88	須恵器	無台坏	(121)	(56)	57	5	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	ST478		二次焼成有 外面媒付着
		/5 ± 10	fort / - Corr					外面 - ロクロ	G 🗵		内外面体部と外面上記
	89	須恵器	無台坏		59		4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	ST478- EL483		に 自然釉
								外面 - ロクロ	G 🗵		
	90	須恵器	無台坏		(62)		5	内面 - ロクロ	ST478		外面に媒付着
								<u>底部 - 回転糸切</u> 外面 - ロクロ			
00	91	須恵器	有台坏		69		4	内面 - ロクロ	G ⊠ ST478		体部墨痕
69		/r-+		(4 1				底部 - 回転糸切・高台 外面 - ロクロ	G 区		der although
	92	須恵器	坏	(130)			4	内面 - ロクロ	ST478		内面に媒付着

挿図	遺物	種別	器種		計測値	(mm)		- 調整・文様	出土	登録	備考
番号	番号	作主力リ	伯內代里	口径	底径	器高	器厚		地点	番号	VH25
	93	須恵器	坏	(160)			4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	G 区 ST478		
	94	須恵器	甕				10	外面 - 平行タタキ	G 区 ST478-		外面自然釉
		/K/2/100	EL				10	内面 - 平行アテ	EL477		7 P.III 12 300/11
	95	須恵器	壺		(138)		9	外面 - ケズリ 内面 - ハケ・ナデ	G ⊠ ST478-		外面及び底部自然釉
								<u>底部 - ケズリ・ナデ?</u> 外面 - ロクロ	EL477		
	96	土師器	無台坏		(50)		5	内面 - ロクロ	G区 ST478		
								<u>底部 - 回転糸切</u> 外面 - ロクロ	G 区		
	97	土師器	無台坏		(52)		4	内面 - ロクロ	ST478-		
								<u>底部 - 回転糸切</u> 外面 - ロクロ	EL477 G⊠		
	98	土師器	無台坏		(58)		4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	ST478- EL477		
69		Limina						外面 - ロクロ	G 🗵		
00	99	土師器	有台坏		63		3	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・高台	ST478		
	100	土師器	坏	(130)			4	外面 - ロクロ	G 🗵		
								<u>内面 - ロクロ</u> 外面 - ロクロ	ST478 D区		二次焼成有
	101	土師器	坏	(128)			4	内面 - ロクロ	ST478- EL477		内面媒付着
		Laring	- Tet	(0.0.1)				外面 - ハケ・ナデ	G 🗵		
	102	土師器	甕	(234)			5	内面 - ハケ・ナデ	ST478- EL483		
	102	_L.63380	salari	(100)				外面 - ハケ	G 🗵		二次焼成あり
	103	土師器	甕	(199)			6	内面 - ハケ	ST478- EL477		外面剥落 内面口縁部に媒付着
	104	土師器	甕	(228)			5	外面 - ハケ・ナデ	G 区 ST478-		二次焼成有
			EL	(220)				内面 - ハケ	EL477		内面剥落
	105	土師器	甕	(176)			5	外面 - ハケ・ナデ 内面 - ハケ・ナデ	G⊠ ST478		
	106	上征思	ster	(2.5.2)			5	外面 - ハケ・ナデ	G区 ST478-		カボルドロ右
	106	土師器	甕	(253)			o	内面 - ハケ・ナデ	EL483		内面に指圧痕
	107	土師器	甕				6	外面 - ハケ・ナデ	G ⊠ ST478-		
		тънги						内面 - ハケ・ナデ	EL477		
	108	土師器	甕	(268)			5	外面 - ハケ	G ⊠ ST478-	RP178	
								内面 - ハケ	EL483 G 区		
70	109	土師器	甕				4	外面 - ハケ	ST478-		内外面媒付着
	100		250				•	内面 - ハケ・ナデ	EL483 EP494		13/11/08/13-13
	110	1. 60:00	visi	(100)			4	外面 - ハケ・ナデ	G 🗵		二次燒成有
	110	土師器	甕	(130)			4	内面 - ハケ・ナデ	ST478- EL483		内面媒付着
	111	土師器	甕				7	外面 - ハケ	G 区 ST478-		
			EL .					内面 - ハケ	EL483		
	112	土師器	甕	(216)			5	外面 - ハケ・ナデ	G 区 ST478-		内外面媒付着
								内面 - ハケ・ナデ 外面 - ハケ	EL483		
	113	土師器	甕		(70)		5	内面 - 不明	G⊠ ST478		外面下部に媒付着
								底部 - 網代 外面 - ハケ・ナデ?			
	114	土師器	甕		(92)		6	内面 - ナデ?	G⊠ ST478		内面に指圧痕
								<u>底面 - 網代</u> 外面 - ハケ	G 🗵		
	115	土師器	甕		(84)		8	内面 - ハケ	ST478- EL477		内面に指圧痕
	116	土師器	甕		(114)		8	<u>底部 - 網代</u> 底部 - 網代	G 🗵		内面底指圧痕
71		, пп	26		(- + +)			外面 - ハケ	ST478 G⊠		
71	117	土師器	甕?		(88)		5	内面 - 指圧痕	G ≥ ST478		二次焼成有 媒付着
								<u>底面 - 網代</u> 外面 - ケズリ	D区		二次焼成有
	118	土師器	甕		(136)		10	内面 - ハケ	ST478- EL483		外面剥離
	110	L Action	.l. mil ==		(5.0)		,	外面 - ハケ	G 🗵		
	119	土師器	小型壺		(56)		5	内面 - ハケ 底部 - 網代	ST478- EL477		
	120	土師器	甕				5	外面 - ハケ 内面 - ハケ	G 区 ST478		
		土師器	鍋				7	外面 - ハケ・ナデ	G 🗵		
	121						,	内面 - ハケ	ST478		
	121	шини						外面 - ロクロ	D区		

挿図	遺物	種別	器種		計測値	(mm)		- 調整・文様	出土	登録	備考
番号	番号	性力」		口径	底径	器高	器厚	一 調発・又様	地点	番号	1佣名
	123	須恵器	雍				12	外面 - 格子状タタキ 内面 - 平行アテ	D ⊠ SB1953- EB2126		
	124	土師器	坏	(145)			5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D ⊠ SB1953- EB1962		
	125	黒色土器	有台坏		(66)		4	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SB2151- EB1923		内面黒色処理
	126	金属製品	不明	残存長 61	幅 (16)	厚 1.5	重量 5.0g		D 区 SB2160- EB2158		
	127	須恵器	雍				14	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ	D区 SB1038- EB1944		
	128	土師器	無台坏		58		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D ⊠ SB1038- EB1932		
72	129	土師器	鍋				8	外面 - ハケ・ナデ 内面 - ハケ 底部 - 網代	D ⊠ SB1038- EB1940		
	130	黒色土器	有台坏		(65)		5	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切・高台	D ⊠ SB1038- EB1942		内面黑色処理
	131	黒色土器	坏	(148)			4	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ	D ⊠ SB1038- EB1938		内面黒色処理
	132	土師器	甕	150			4	外面 - ハケ・ナデ 内面 - ハケ	D ⊠ SK2144		
	133	土師器	甕	(264)			5	外面 - ハケ 内面 - ハケ	D区 SK2144		二次燒成有
	134	土師器	甕	256			5	外面 - ロクロ	D区		二次焼成有
	135	黒色土器	坏	(132)			5	内面 - ロクロ 外面 - ロクロ	SK2144 D 区		表裏面剥落 内面黒色処理
				直径	軸径	残存長	重量	内面 - ミガキ	SK2144 D 区		T JM/MC/C-I
		金属製品	紡錘車	(49) 直径	5 × 4 軸径		14.2g 重量		SK2144 D 区		
	137	金属製品	紡錘車	47	6	26	22.3g	<i>47 - 4-</i>	SK2144	RM1777	
	138	土師器	壺	173			6	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D ⊠ SK2162		
	139	須恵器	無台坏	128	71	36	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819	RP1779	底部墨書「方」
	140	須恵器	無台坏	(120)	(66)	36	6	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819		底部付け替えあり
	141	須恵器	無台坏	(136)	(64)	40	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819		焼成不良
	142	須恵器	無台坏	(128)	(62)	45	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819		焼成不良
	143	須恵器	無台坏	130	52	43	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819		焼成不良 内外面に火だすき
73	144	須恵器	無台坏		63		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D⊠ SK1819	RP1783	焼成不良
	145	須恵器	無台坏		(56)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	D区 SK1819		焼成不良 内外面火だすき痕
	146	須恵器	無台坏		52		4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	D区 SK1819		
-	147	須恵器	有台坏	(144)	80	73	4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・高台 外面 - ロクロ	D区 SK1819	RP1784	
		須恵器	有台坏		(86)		5	内面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・高台 外面 - ロクロ	D区 SK1819		外面上部自然釉
	149	須恵器	坏	136			3	内面 - ロクロ	SK1819		
	150	須恵器	甕				9	外面 - 平行タタキ・ナデ 内面 - 青海波文	D区 SK1819		
	151	須恵器	甕				8	外面 - 平行タタキ 内面 - 青海波文	D区 SK1819		焼成不良
	152	須恵器	獲				10	外面 - 平行タタキ 内面 - 平行アテ 外面 - ロクロ	D区 SK1819		
74	153	土師器	無台坏		(64)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1819		

挿図	遺物	1£ nil	0014		計測値	(mm)		≘田市ケ → → → → → →	出土	登録	/#± +±/
番号	番号	種別	器種	口径	底径	器高	器厚	- 調整・文様	地点	番号	備考
	154	土師器	無台坏		62		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D⊠ SK1819		
	155	土師器	小型鉢		54		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D ⊠ SK1819	RP1785	外面下部へラ削り
74	156	土師器	甕	220			8	外面 - ロクロ・ケズリ 内面 - ロクロ・ナデ	D区 SK1819	RP1778	
	157	土師器	甕	(256)			6	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ 外面 - ハケ・ナデ	D区 SK1819 D区		外面頸部媒付着
		土師器	甕				6	内面 - ケズリ・ナデ 外面 - ロクロ	SK1819 D 🗵		
		土師器	甕 一	224			5 7	<u>内面 - ロクロ</u> 外面 - ロクロ・タタキ	SK1819 D⊠		二加热出去
		土師器	甕	242			6	内面 - ロクロ 外面 - ハケ・ナデ	SK1819 D区	RP1782	二次焼成有
75		土師器	甕	214	(102)		5	内面 - ハケ 外面 - ケズリ 内面 - ハケ・ナデ	SK1819 D ⊠ SK1819	101702	二次焼成有 外面剥落
	163	土師器	雅瓦		72		4	底面 - 網代? 外面 - ロクロ・ハケ 内面 - ロクロ・ケズリ	D ⊠ SK1819	RP1786	二次燒成有
	164	土師器	甕		(86)		7	底部 - 回転糸切 外面 - ケズリ・ナデ 内面 - ナデ	D区 SK1819		
	165	須恵器	無台坏	(132)	(64)	33	3	底部 - ヘラケズリ 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D ⊠ SK1446	RP1743	焼成不良
	166	須恵器	無台坏	130	55	34	3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1446	RP1741	口唇部に自然釉
	167	須恵器	無台坏	130	62	36	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D ⊠ SK1446	RP1794	焼成不良
	168	須恵器	無台坏	(140)	(60)	47	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D⊠ SK1446	RP1749	底部の一部焼成不
	169	須恵器	無台坏	(130)	(56)	46	3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D ⊠ SK1446		外面上部に自然和
	170	須恵器	無台坏	137	57	48	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D ⊠ SK1446	RP1798	
	171	須恵器	無台坏	136	56	46	3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D ⊠ SK1446	RP1793	底部墨書「□」
	172	須恵器	無台坏	(130)	60	37	3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1446	RP1747	焼成不良 底部指圧痕 底部墨書「得」
76	173	須恵器	無台坏		58		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1446		体部焼成不良
	174	須恵器	無台坏		(56)		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D ⊠ SK1446		焼成不良
	175	須恵器	無台坏		(58)		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D ⊠ SK1446		底部墨書「□」
	176	須恵器	無台坏		56		3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	D ⊠ SK1446	RP1744	底部墨書「左」
	177	須恵器	無台坏		50		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	D ⊠ SK1446		
	178	須恵器	無台坏		(57)		3	内面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	D ⊠ SK1446		
	179	須恵器	無台坏		(60)		5	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	D⊠ SK1446		
	180	須恵器	無台坏		(60)		4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	D ⊠ SK1446		
	181	須恵器	無台坏		(60)		4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	D ⊠ SK1446		焼成不良
	182	須恵器	無台坏		(50)		4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1446		

———— 挿図	遺物	1£01	0014		計測値	(mm)		=田恵 · ☆+学	出土		(井 北
番号	番号	種別	器種	口径	底径	器高	器厚	- 調整・文様	地点	番号	備考
76	183	須恵器	無台坏		56		3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1446	RP1748	焼成不良 内面底部転用硯
	184	須恵器	有台坏		62		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SK1446	RP1745	外面自然釉
	185	須恵器	有台坏		64		3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SK1446		外面自然釉
	186	須恵器	坏	(142)			3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK1446		
	187	須恵器	坏	(128)			4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK1446		口唇部に自然釉
	188	須恵器	坏	(147)			4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK1446		外面口唇部に自然釉
77	189	須恵器	坏	(143)			4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK1446		
	190	須恵器	坏	(148)			3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK1446		外面自然釉
	191	須恵器	坏	(156)			4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK1446		
	192	須恵器	双耳坏				3	体部 - ロクロ 取手 - ケズリ	D区 SK1446		
	193	須恵器	壺				7	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ	D区 SK1446		外面:波状文 内外面自然釉 二次焼成有
	194	須恵器	壺		(181)		8	外面 - 平行タタキ 内面 - アテ・ヘラナデ 底部 - ナデ ?	D区 SK1446	RP1792	
	195	須恵器	甕				10	外面 - ロクロ・平行タタキ 内面 - ロクロ・青海波文	D区 SK1446		
	196	須恵器	甕?				7	外面 - 平行タタキ 内面 - ハケ・アテ・ナデ	D区 SK1446		
	197	須恵器	雍		76		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1446		底部へラ書「×」 内面底部火脹れ 外面自然釉
	198	土師器	無台坏		(53)		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1446		底部墨書「□」
	199	土師器	無台坏		(56)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1446		
	200	土師器	無台坏		(54)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - ケズリ・ナデ	D区 SK1446		
78	201	土師器	無台坏		(66)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK1446		
	202	土師器	無台坏		57		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切?	D区 SK1446	RP1750	
	203	土師器	有台坏		(75)		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SK1446・ XO		
	204	土師器	坏	(151)			4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK1446		二次焼成有
	205	土師器	小型甕	146			4	外面 - ハケ・ナデ 内面 - ハケ・ナデ	D区 SK1446		
	206	土師器	甕		(84)		7	外面 - ハケ・ナデ 内面 - ナデ 底部 - 網代	D区 SK1446		
	207	土師器	壺		(72)		4	外面 - ハケ 内面 - ハケ 底部 - 網代	D区 SK1446		外面剥落 外面指圧痕
	208	土師器	すり鉢?		(151)		9	外面 - ハケ 内面 - ハケ 底部 - 網代 ?	D区 SK1446		
	209	黒色土器	有台坏	(165)			4	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SK1446		内面黒色処理 高台剥落
	210	黒色土器	有台坏		(71)		4	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SK1446		内面黑色処理
79	211	黒色土器	有台坏		(70)		5	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SK1446		内面黑色処理
	212	黒色土器	有台坏		(64)		5	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SK1446		内面黒色処理 高台一部欠損
	213	須恵器	無台坏	138	58	42	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D 区 SK2185	RP1796	

挿図	遺物	1≠n:I	001=		計測値	(mm)		=m##1*4	出土	登録	<i>!</i> ;++ →√
番号	番号	種別	器種	口径	底径	器高	器厚	- 調整・文様	地点	番号	備考
	214	須恵器	無台坏	138	61	43	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D 区 SK2185	RP1804	焼成不良
	215	須恵器	無台坏	(128)	(59)	36	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D ⊠ SK2185	RP1801	焼成不良
	216	須恵器	無台坏	(134)	(54)	39	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK2185		
	217	須恵器	無台坏	(138)	(60)	35	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK2185		
79	218	須恵器	坏	(154)			4	底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	(SK1446) D 区 SK2185		焼成不良
	219	須恵器	無台坏		59		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D 区 SK2185	RP1797	
	220	須恵器	無台坏		61		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK2185		外面自然釉
	221	須恵器	無台坏		60		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK2185	RP1800	
	222	須恵器	甕				9	底部 - 回転糸切 外面 - 平行タタキ・ナデ 内面 - アテ	D 区 SK2185		
	223	須恵器	甕				11	外面 - 平行タタキ 内面 - アテ・ナデ	D区 SK2185	RP1795	
	224	須恵器	甕				9	外面 - 平行タタキ 内面 - アテ・ナデ	D 区 SK2185		
	225	土師器	無台坏	(140)	(48)	47	5	外面 - ファ・ファ 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D 区 SK2185		
	226	土師器	甕				5	外面 - ハケ 内面 - ハケ	D区 SK2185	RP1799	内面剥落
	227	土師器	甕		(93)		6	外面 - ハケ 内面 - ハケ 底部 - 網代	D区 SK2185	RP1803	
80	228	土師器	甕		(82)		5	外面 - ハケ 内面 - ハケ 底部 - 網代	D区 SK2185		内面底部指圧痕
	229	黒色土器	有台坏		68		4	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切・高台	D区 SK2185	RP1791	内面黒色処理
	230	須恵器	無台坏		(70)		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	D区 SK1872		焼成不良
	231	土師器	甕		(82)		11	外面 - ケズリ 内面 - ナデ 底部 - ケズリ・ナデ	D区 SK1872	RP1805	内面下部指圧痕
	232	土師器	甕		133		10	外面 - ケズリ・ナデ 内面 - ハケ・ヘラナデ 底部 - ケズリ・ナデ	D区 SK1872	RP1790	内面に指圧痕
	233	土師器	無台坏	(132)	(58)	41	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	D区 SK2036		
	234	土師器	無台坏	128	52	46	3	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SK2036	RP1775	
	235	土師器	無台坏		(50)		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D ⊠ SK2036		
	236	土師器	鍋?				8	内面 - ハケ・ナデ 外面 - ハケ	D区 SK2129		
	237	土師器	甕?	(196)			5	外面 - ハケ・ナデ 内面 - ハケ・ナデ	G ⊠ SK392		
	238	土師器	甕	(205)			5	内面 - ハク・ケテ 外面 - ハケ・ナデ 内面 - ハケ	G ⊠ SK392		
81	239	須恵器	無台坏		(76)		5	外面 - ハク 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - ヘラ切	G ⊠ SK395		底部に乾燥材痕 外面に媒付着
	240	須恵器	無台坏		(60)		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	G ⊠ SK396		
	241	土師器	甕		(78)		3	外面 - ケズリ 内面 - ハケ?	D区 SD1142		
	242	須恵器	双耳坏				8	底部 - ナデ? 取手 - ケズリ	D ⊠ SD1054		取手のみ二次焼成有
	243	須恵器	無台坏	(127)	(66)	36	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D ⊠ SD1857		外面剥落

 挿図	遺物	4€ Dil	0014		計測値	(mm)		=n =by -+-++	出土		/#= 1 /2
番号	番号	種別	器種	口径	底径	器高	器厚	ー 調整・文様	地点	番号	備考
	244	須恵器	無台坏		(53)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SD1857		
	245	須恵器	蓋				7	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 天井 - 回転へラ削り	D区 SD1061	RP1776	
	246	土師器	甕		(76)		8	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	E⊠ SD1750	RP1774	二次焼成有
81	247	須恵器	無台坏		(62)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SP1896		
	248	土師器	無台坏		(56)		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 SP1924		
	249	須恵器	無台坏		(58)		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	D区 SP1931		底部墨書「万ヵ」
	250	土師器	無台坏	(132)	(64)	44	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	D⊠ SP1977		
	251	土師器	無台坏		(52)		4	内面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	D区 SP2134		
	252	須恵器	蓋	(142)		28	5	内面 - ロクロ 天井 - 回転へラ削り 外面 - ロクロ	XO		天井部回転へラ削り
		須恵器	無台坏	(117)	(60)	38	5	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	G ⊠ 15-63G G ⊠		
		須恵器	坏	(146)	(50)		4	内面 - ロクロ 外面 - ロクロ 中面 - ロクロ	13-61G		
		須恵器	無台坏		(56)		4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	XO		
		須恵器	無台坏		(54)		3	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	XO YO		
		須恵器	無台坏		(56)		4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	XO G区		外面底部に媒付着
		須恵器	無台坏		(50)		4	底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	13-62G G 区		/ 門底印作 旅口
		須恵器	無台坏		54		5	底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	13-63G G区		
							4	底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	13-62G		
82		須恵器	無台坏		(56)		4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ	XO G ⊠		
		須恵器	無台坏		(58)		4	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ 中西 - ロクロ	12-62G		
		須恵器	無台坏		(58)		3	内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	XO		
		須恵品	無台坏		55		6	内面 - ロクロ <u>底部 - 回転糸切</u> 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	XO		
		須恵器	無台坏		(66)		4	底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	XO		
		須恵器	無台坏		(62)		3	底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	G ⊠ 12-61G		底部に媒付着
		須恵器	無台坏		(66)		5	底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	XO		内面底部転用硯ヵ
	269	須恵器	無台坏		(62)		4	底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ	XO		
	270	須恵器	無台坏		(70)		5	底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	XO		
	271	須恵器	無台坏		(68)		4	底部 - 回転糸切 外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	XO		
								EAHL HITA/N 21			

挿図	遺物	47.7.1	2247		計測値	(mm)		-m+t- 1.14	出土	 登録	
番号	番号	種別	器種 -	口径	底径	器高	器厚	ー 調整・文様	地点	番号	備考
82	272	須恵器	有台坏		(93)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 高台	XO		
	273	須恵器	甕				6	外面 - ロクロ・ナデ 内面 - ロクロ・ナデ・カキメ?	XO		
	274	須恵器	甕				11	外面 - 格子風平行タタキ 内面 - 青海波文	XO		
	275	須恵器	甕				13	外面 - 平行タタキ 内面 - アテ	E 区 29-76G		
	276	須恵器	甕				14	外面 - 格子風平行タタキ・ハケ 内面 - 平行アテ・ハケ・ナデ	XO		
	277	須恵器	甕		(116)		10	外面 - ケズリ・ナデ 内面 - ハケ・ナデ 底部 - ケズリ・ナデ	G 区 13-62G		
	278	須恵器	甕		(118)		8	外面 - ハケ・ナデ 内面 - ハケ 底部 - ケズリ・ナデ	E⊠ 29-77G		
	279	土師器	無台坏	(113)	(80)	41	5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転ヘラ切	XO		
83	280	土師器	無台坏	(132)	56	45	4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	D区 38-58G		
	281	土師器	無台坏		62		7	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	XO		
	282	土師器	無台坏		(60)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	G⊠ 12-61G		
	283	土師器	無台坏		(60)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	G⊠ 14-61G		
	284	土師器	無台坏		(56)		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	G⊠ 13-61G		
	285	土師器	無台坏		(50)		5	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	XO		二次焼成有 外面剥落
	286	土師器	有台坏		(62)		4	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切・高台	G⊠ 15-63G		
	287	土師器	甕	(100)	(62)	99	6	外面 - ケズリ・ナデ 内面 - ハケ・ナデ 底部 - ケズリ	G区 12-61G		
	288	土師器	小型鉢		52		4	外面 - ロクロ・ハケ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	G⊠ 12-62G		
	289	土師器	甕		(60)		14	外面 - ロクロ 内面 - ロクロ・ケズリ 底部 - 回転糸切	G⊠ 13-61G		外面剥落
	290	土師器	甕		(74)		6	外面 - ロクロ・ケズリ 内面 - ロクロ 底部 - 回転糸切	ХО		
84	291	土師器	甕		(78)		7	外面 - ナデ・ハケ 内面 - ハケ? 底部 - 不明	ХО		底面剥落
	292	黒色土器	有台坏		(64)		9	外面 - ロクロ 内面 - ミガキ 底部 - 回転糸切・高台	ХО		内面黒色処理 底部に媒付着?
	293	黒色土器	壺?		(106)		8	外面 - ケズリ 内面 - ミガキ 底部 - 網代	ХО		内面黒色処理 底部の一部に媒付着
	294	陶器	碗?				12	外面 - 釉 内面 - 釉 底部 - 高台	XO		
	295	石製品	砥石	長 136	幅 91	厚 23	重量 590.0g	石材 - 凝灰質砂岩	ХО		砥面1面
	296	金属製品	刀子 or 鑢	全長 (93)	幅 24	厚 3	重量 21.8g		XO		

V 理化学分析

1 放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

遺構の年代を検討するため、住居内から出土した生材・ 炭化材の放射性炭素年代測定を実施する。

(1) 試料

試料は、遺構から出土した生材 1点・炭化材 3点の 計4点(試料番号1~4)である。試料番号1は、平安 時代の掘立柱建物跡の柱穴 (E 区 SB1697-EB1690) から 出土した生材で、分割状を呈する小片であり、樹皮は残っ ていない。残存する中での最外年輪を含む 2-3 年分を採 取して測定試料とする。試料番号2~4は、平安時代 の遺構から出土した炭化材である。試料番号2は竪穴 住居跡 (D区 ST1818) から出土した柾目板状を呈する炭 化材であり、樹皮は残っていない。残存する中での最外 年輪を含む5-6年分を測定試料とする。試料番号3は 竪穴住居跡 (G区 ST381Y) から出土した端部に樹芯が残 る分割状を呈する炭化材で、樹皮は残っていない。 存する中での最外年輪を含む2年分を測定試料とする。 試料番号 4 は土坑 (D区 SK1819F) から出土した分割状 を呈する炭化材で、樹皮は残っていない。残存する中で の最外年輪を含む 2-3 年分を測定試料とする。

(2) 分析方法

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HC 1 により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC 1 によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅(II) と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500 $^{\circ}$ (30 %)850 $^{\circ}$ (2 時間)で加熱する。

液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に 13C/12C の測定も行うため、この値を用いて δ 13C を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma;68%) に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0 (Copyright 1986-2014M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線 強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い(14C の半減期 5730 ± 40 年)を較 正することである。暦年較正に関しては、本来 10 年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表している。

暦年較正は、測定誤差 σ 、2 σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が 68.3%の確率で存在する範囲、2 σ は真の値が 95.4%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、2 σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(3) 結果

放射性炭素年代測定および暦年較正結果を表 4、第 85 図 に 示 す。 試料番号 1(E 区 SB1697-EB1630) は、試料中に含まれる炭素濃度が、標準現代炭素以上 (pMC=103.83 \pm 0.27%) であることから、Modern と表記し、暦年較正も実施していない。同位体効果の補正を行った年代値 (補正年代) は、試料番号 2(D 区 ST1818) が 1,250 \pm 20BP、試料番号 3(G 区 ST381Y) が 1,210 \pm 20BP、試料番号 4(D 区 SK1819F) が 1,210 \pm 20BP を示す。また、測定誤差を σ として計算させた暦年較正結果は、資料番号 2 が calAD693-772、試料番号 3 が calAD771-867、試料番号 4 が calAD772-868 を示す。

(4) 考察

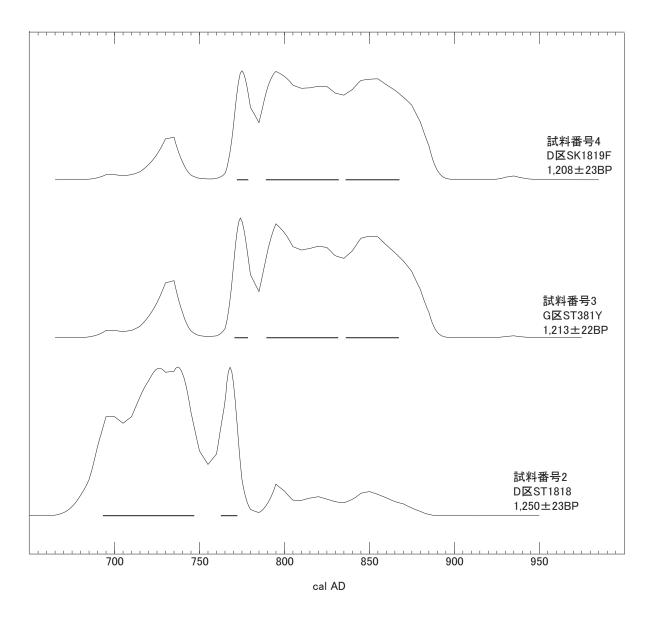
表 4 放射性炭素年代測定結果

E区 SB1697-EB1690 は、平安時代の掘立柱建物跡を構成する柱穴である。出土した生材の年代測定結果は、Modern であり、新しい時期の可能性がある。新しい時期の木材が柱穴内に混入した可能性があるため出土状況なども含めて検討する必要がある。

D区ST1818とG区ST381Yは平安時代の竪穴住居跡、 D区SK1819Fは平安時代の土坑であり、出土した炭化材の補正年代は、D区ST1818が1,250±20BP、G区ST381YとD区SK1819Fが1,210±20BPであった。 暦年較正結果と相対比を参考にすれば、G区ST381YとD区SK1819Fは8世紀後半~9世紀前半頃、D区ST1818はそれよりも若干古い7世紀末~8世紀中頃の年代が推定される。発掘調査所見ではこれらの遺構について平安時代とされているが、本分析調査の結果もこれに調和するものである。

試料番号	種類	年代測定	δ 13C	補正年代				暦年較正	∃結果			Cada Na
遺構	性短	BP	(‰)	(暦年較正用)	誤差		cal BC/AD			cal BP	相対比	Code No.
試料番号 1 E 区	生材	Modern	-24.55 ± 0.27	Modern	σ			-			-	IAAA-142800
SB1697-EB1690	17.74	Wodern	-24.55 ± 0.27	Wioderii	2 σ			-			-	11111-142000
					σ	cal AD	693 - cal AD	747	cal BP	1,257 - 1,203	0.842	
試料番号2				$1,250 \pm 20$	0	cal AD	763 - cal AD	772	cal BP	1,187 - 1,178	0.158	
D区	炭化材	$1,280 \pm 20$	-26.60 ± 0.26	$(1,250 \pm 20)$ $(1,250 \pm 23)$		cal AD	678 - cal AD	778	cal BP	1,272 - 1,172	0.891	IAAA-142801
ST1818				(1,230 ± 23)	2 σ	cal AD	791 - cal AD	827	cal BP	1,159 - 1,123	0.062	
						cal AD	839 - cal AD	863	cal BP	1,111 - 1,087	0.047	
						cal AD	771 - cal AD	779	cal BP	1,179 - 1,171	0.108	
試料番号3				$1,210 \pm 20$	σ	cal AD	789 - cal AD	832	cal BP	1,161 - 1,118	0.513	
G 区	炭化材	$1,220 \pm 20$	-25.26 ± 0.25	$(1,210 \pm 20)$ $(1,213 \pm 22)$		cal AD	836 - cal AD	867	cal BP	1,114 - 1,083	0.379	IAAA-142802
ST381Y				(1,213 ± 22)	2 σ	cal AD	721 - cal AD	740	cal BP	1,229 - 1,210	0.076	
					2.0	cal AD	767 - cal AD	885	cal BP	1,183 - 1,065	0.924	
						cal AD	772 - cal AD	779	cal BP	1,178 - 1,171	0.080	
試料番号 4				$1,210 \pm 20$	σ	cal AD	789 - cal AD	832	cal BP	1,161 - 1,118	0.530	
D区	炭化材	$1,240 \pm 20$	-26.82 ± 0.27	$(1,210 \pm 20)$ $(1,208 \pm 23)$		cal AD	836 - cal AD	868	cal BP	1,114 - 1,082	0.390	IAAA-142803
SK1819F				(1,200 ± 23)	2 σ	cal AD	724 - cal AD	739	cal BP	1,226 - 1,211	0.048	
					20	cal AD	764 - cal AD	887	cal BP	1,183 - 1,063	0.952	

- 1) 試料は、全て酸処理-アルカリ処理-酸処理の前処理を実施している。
- 2) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。
- 3) BP 年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 4) 付記した誤差は、測定誤差σ (測定値の 68%が入る範囲) を年代値に換算した値。
- 5) 暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0(Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer)を使用した。
- 6) 暦年の計算には、補正年代に()で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
- 7) 年代値は、1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、 暦年較正用年代値は 1 桁目を丸めていない。
- 8) 統計的に真の値が入る確率は σ は 68.3%、2 σ は 95.4% である
- 9) 相対比は、 σ 、2 σ のそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。



第 85 図 暦年較正結果 (1 σ)

2 テフラ分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

遺構の年代を検討するため、住居内から出土した土壌 のテフラ分析を実施する。

(1) 試料

試料は、遺構覆土から採取された火山灰様試料 2 点である (試料番号 5、6)。試料番号 5 は平安時代の竪穴住居跡 (G区 ST382)から採取された、黒褐色を呈する砂まじりシルトである。試料番号 6 も平安時代の竪穴住居跡 (H区 ST448)から採取された、にぶい黄褐色を呈する砂まじりシルトである。

(2) 分析方法

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あ

るいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気 泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維 束状のものとする。

屈折率の測定は、処理後に得られた砂分から摘出した 火山ガラスを対象として、古澤 (1995) の MAIOT を使 用した温度変化法を用いる。

(3) 結果

結果を表5に記す。スコリアおよび軽石はいずれの 試料からも検出されなかった。火山ガラスは試料番号5 からは極めて微量検出された。

試料番号 5 は、無色透明の軽石型火山ガラス、バブル型火山ガラスが混在する。砂粒の主体は、無色透明~白色の石英、長石が多く、有色鉱物として、角閃石が多く、ついで斜方輝石および不透明鉱物が微量混在している。石英は、無色透明で算盤玉状の形態を示すものが多く認められる。岩片は、最大径約 2.5mm の頁岩などが認められる。

試料6は、無色透明の軽石型火山ガラスが混在する。砂粒の状況は、試料5とほぼ同じであるが、混在している岩片は極めて微量で、その粒径も小さいため、同定は困難である。

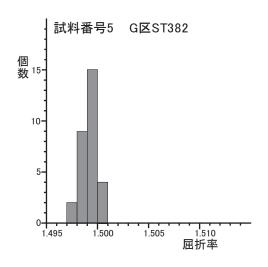
火山ガラス屈折結果を第86図に示す。試料番号5 は n=1.497-1.500の狭い低屈折率のレンジを示し、 n1.499前後での集中度が高い。試料6は n=1.506-1.509の屈折率のレンジを示す。

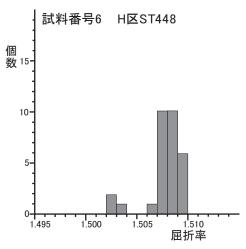
表 5 テフラ分析結果

試料 No.	遺構名	スコリア		火山ガラス	軽石	備考
武朴 NO.	退佣石	量	量	色調・形態	量	1佣名
No.5	G ⊠ ST382	_	(+)	cl • pm,cl • pw	_	砂粒の主体は、無色透明〜白色の石英および長石が多く、有色鉱物として、角 関石が多く、ついで斜方輝石および不透明鉱物が微量混在している。石英は、 無色透明の算盤玉状の形態を示すものが認められる。 岩片は、最大径 2.3mm の頁岩などが認められる。
No.6	H ⊠ ST448	_	+++	cl • pm,cl >> pw		砂粒の状況は、上記とほぼ同じであるが、混在している岩片は極めて微量であり、その粒径も小さく、岩片の同定は困難である。

凡例 -: 含まれない。(+): きわめて微量。++」+: 中量。

cl:無色透明。bw:バブル型。pm:軽石型





第86図 火山ガラス屈折率

(4) 考察

試料からは火山ガラスが検出された。以下、試料につ いてテフラの対比を行う。竪穴住居跡 G 区 ST382 覆土 中から採取された、試料番号5から検出された極めて 微量の火山ガラスは、清水遺跡の地理的位置、過去の本 遺跡の分析事例、低屈折率で狭いレンジを示す火山ガラ スであり、無色透明の算盤玉状を示す石英、新鮮な角 閃石を含むことから考えると、肘折尾花沢テフラ (Hj-O: 町田・新井,2003) に由来すると考えられる。Hj-0は、 山形県最上郡大蔵村にある肘折カルデラを給源とし、暦 年で約1.1~1.2万年前に噴出したテフラである。なお、 試料番号5からは火山ガラスが極めて微量検出された のみであり、発掘調査所見では竪穴住居跡 G 区 ST382 の年代が平安時代とされることから、検出されたテフラ は一次降下堆積物ではなく、周囲の土壌中に、拡散して 含まれていた Hi-O の火山ガラスが、竪穴住居跡の埋没 過程において覆土中に混入した可能性が考えられる。

試料番号6から検出された火山ガラスは、その形態および色調、屈折率、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状(町田ほか(1981;1984)、Arai et al.(1986)、町田・新井(2003)など)との比較から、十和田火山から噴火した十和田 a テフラ(To-a)に対比されると考えられる。To-a は、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火砕流堆積物と降下軽石からなるテフラとして火砕流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている。(町田ほか、1981)。また、その噴出年代については、早川・小山(1998)による詳細な調査によれば、西暦915年とされている。

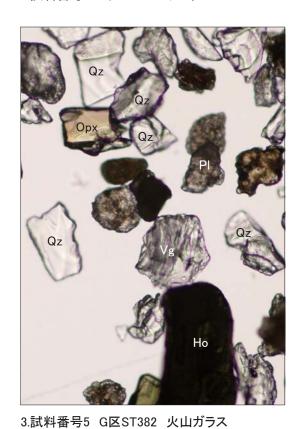
なお、本試料から中量検出されていることから、To-a は竪穴住居跡埋没過程において降下堆積したものと考えられる。その場合、竪穴住居跡 H 区 ST448 の構築年代は 915 年以前と考えられ、H 区 ST448 の年代を平安時代とする発掘調査所見と矛盾しない。



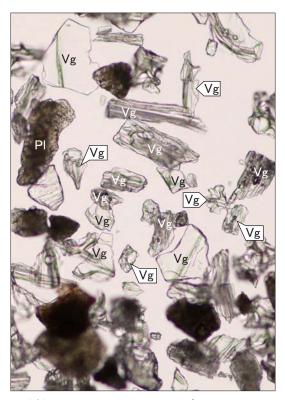
1.試料番号5 G区ST382 テフラ



2.試料番号6 H区ST448 テフラ



Opx:斜方輝石. Ho:角閃石. Vg:火山ガラス. Qz:石英. Pl:斜長石. Lf:岩片.



4.試料番号6 H区ST448 火山ガラス

2.0mm	0.5mm	0.2mm
1	2	3 4

第87図 テフラ

3 樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、遺跡での木材利用を検討するため、出土した生材・炭化材の樹種同定を実施する。

(1) 試料

試料は、遺構から出土した生材 1 点と炭化材 4 点の計 5 点 (試料番号 $1 \sim 4 \cdot 7$) である。このうち、試料番号 $1 \sim 4$ は、年代測定試料と同じ試料から分割した破片である。試料番号 7 は平安時代の土坑 (D 区 SK1446F)から出土した炭化材である。

(2) 分析方法

生材は、剃刀を用いて木片から木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作成し、ガム・クロラール(抱水クロラール,アラビアゴム粉末,グリセリン,蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材は、自然乾燥させた後、3断面の割断面を作製して実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。各試料の観察で確認された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

(3) 結果

樹種同定結果を表6に示す。木材・炭化材は、針葉樹1分類群(ヒノキ科)と広葉樹4分類群(ハンノキ属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・ケヤキ・カエデ属)に同定された。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・ヒノキ科 (Cupressaceae)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管 の早材部から晩材部への移行は緩やか〜やや急で、晩材 部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ハンノキ属(Alnus) カバノキ科

散孔材で、道管は単独または 2-4 個が放射方向に複合 して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に 配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節(Quercus subgen. Quercus sect. Prinus) ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・ヤマグワ(Morus australis Poiret) クワ科クワ属 環孔材で、孔圏部は 3-5 列、孔圏外への移行は緩やか で、晩材部では単独または 2-4 個が複合して斜方向に配 列し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿 孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん 肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6 細胞幅、1-50 細胞高。

・カエデ属 (Acer) カエデ科

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、 単独および 2-3 個が複合して散在し、年輪界に向かって 径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列~交 互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組 織は同性、1-5 細胞幅、1-30 細胞高。木繊維が木口面 において不規則な紋様をなす。

(4) 考察

平安時代の掘立柱建物跡の柱穴 (SB1697-EB1690) から出土した生材はヒノキ科に、平安時代の住居跡および土坑から出土した炭化材はコナラ節、ヤマグワ、ハンノキ属、カエデ属に同定された。針葉樹のヒノキ科には、ヒノキ、サワラ、アスナロ等の有用材が含まれ、これらの樹種は一般的に木理が通直で割裂性と耐水性が高い。広葉樹のコナラ節は、二次林などに生育する落葉高木で、木材は重硬で強度が高い。ヤマグワは、河畔等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度が高い。カンノキ属は、湿地等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度と耐朽性が高い。ハンノキ属は、湿地等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度が高い部類に入る。カエデ属は、河畔や二次林等に

生育する落葉高木で、木材は重硬で強度が高い。

住居跡から出土した炭化材は、コナラ節とヤマグワが 確認されることから、強度が高い木材の利用が推定され る。一方、土坑から出土した炭化材はハンノキ属とカエ デ属であり、強度が高い木材である点は住居跡と同様で ある。

表 6 樹種同定結果

試料番号	遺構・位置	遺構の種類	状態	木取り	種類	備考
1	SB1697-EB1690	掘立柱建物跡	生木	分割状	ヒノキ科	年代測定と同一固体
2	ST1818	竪穴住居跡	炭化材	柾目状	コナラ属コナラ亜属コナラ節	年代測定と同一固体
3	ST381Y	竪穴住居跡	炭化材	芯持材	ヤマグワ	年代測定と同一固体
4	SK1819F	土坑	炭化材	分割状	ハンノキ属	年代測定と同一固体
7	SK1446F	土坑	炭化材	破片	カエデ属	年代測定と同一固体

引用文献

Arai,F. · Machida,H. · Okumura,K. · Miyauchi,T. · Soda,T. · Yamagata,K,1986,Catalog for late quaternary marker-

tephras in Japan II — Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido — .Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21,223-250.

古澤 明,1995、火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. 地質学雑誌,101,123-133.

早川由紀夫・小山真人、1998、日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日一十和田湖と白頭山一.火山、43,403-407.

林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載 I.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載 V. 木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

町田 洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.

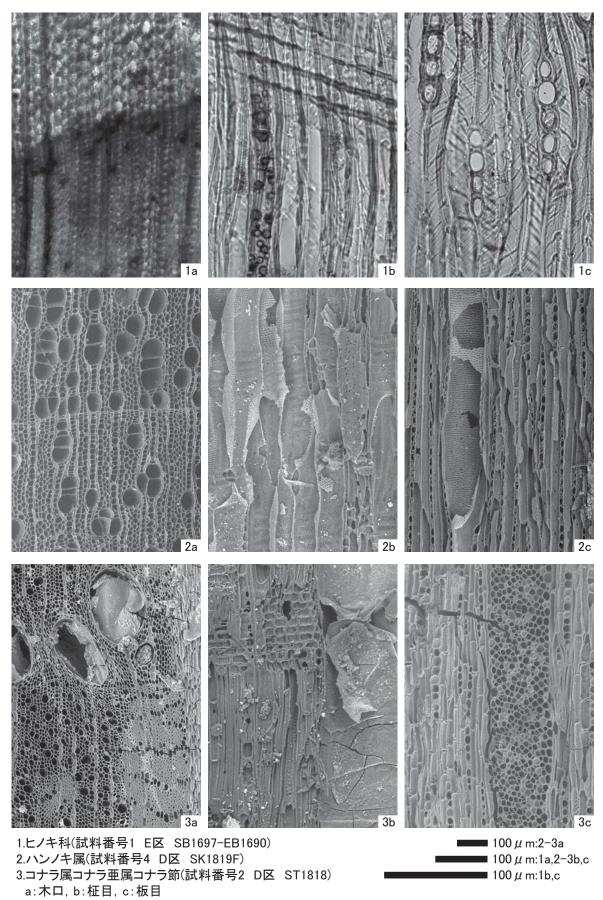
町田 洋・新井房夫・森脇 広,1981,日本海を渡ってきたテフラ.科学,51,562-569.

町田 洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦,1984,テフラと日本考古学一考古学研究と関連するテフラのカタログー.渡辺直経(編)古文化財に関する保存科学と人文・自然科学.同朋舎,865-928.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編),2006, 針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .

島地 謙·伊東隆夫,1982, 図説木材組織. 地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998, 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



第88図 生材・炭化材(1)

a:木口, b:柾目, c:板目

第89図 生材・炭化材(2)

VI まとめと考察

1 調査のまとめ

今回の調査は、東北中央自動車道(東根~尾花沢間) に接続する一般県道村山大石田線村山北1インターチェンジ設置工事に伴う緊急発掘調査として実施した。

清水遺跡は、村山市を蛇行して流れる最上川右岸に立地する南北約 1.3km、東西 $150 \sim 380$ mを測る広大な遺跡で、標高は $111 \sim 124$ mを測る。調査は、事業にかかる範囲の約 3,100 ㎡について行った。以下に、調査で得られた成果を述べる。

調査では、縄文時代と平安時代の遺構が検出され、遺物は縄文時代の土器や石器、平安時代の土器、石製品、 金属製品など整理箱で17箱が出土した。

縄文時代の遺構は陥穴 SK1145・1911 の 2 基が検出された。遺物の出土が無く詳細な時期は不明である。

土器は、早期と晩期に属する破片資料で早期のものは 田戸下層式併行と考えられる。打製石器は、石鏃、石錐、 石匙、石箆、削器があるが、調整途中に破損したと思わ れ、全て未成品である。磨製の石器は石斧、磨石、叩石、 凹石である。確認された遺構が陥穴のみであり、住居跡 や貯蔵穴などの生活遺構が無いこと、遺物も土器の破片 数点しか出土しなかったことから、縄文時代のこの地域 は、狩などを行う狩猟域であったと考えられる。

平安時代の遺構は、竪穴住居跡 7 棟、掘立柱建物跡 11 棟、土坑、区画施設と思われる溝跡などである。

遺構は、竪穴住居跡と掘立柱建物跡の分布状況に顕著な違いがみられた。竪穴住居跡は D 区には 1 棟のみで G 区北に 6 棟が集中する。対して、掘立柱建物跡は、E 区北側と G 区北側に各 1 棟のみで、D 区中央部の 35~39-57~63G に 9 棟が集中する。D 区は掘立柱建物跡を主に、G 区は竪穴住居を主としている様相を示す。土坑は遺物を多量に含むものが D 区の 40~43-63・64G に分布し、区画施設(SD1061・1054・1857・1029・1750)は D・E 区に分布し、建物跡群を囲む。

次に、各遺構についてであるが、竪穴住居は規模が 4 m× 4 m以上の ST1818・382・478 と、3 m× 3 m以

下の ST381・383・384・386 の 2 タイプの住居跡がある。前者は、すべて南壁にカマドが構築される。後者はカマドが無く、出土遺物に ST381 の砥石や ST384 の鋳型?、粘土塊などがあり、小規模な作りであるが、確認面からの深さは深いものが多い。出土遺物から住居跡の主となる時期は9世紀第2~3四半期頃と考えられる。区画施設の溝との切り合いから、掘立柱建物跡群よりも先行ないしは一部併行すると考えられる。

理化学分析の結果で、住居跡や土坑から出土した炭化材の年代が、7世紀末から9世紀前半頃までの年代範囲を示し、出土土器からの年代と若干の相違が認められる。しかし、木材の ¹⁴C 年代が示すのは、その部分の年輪が形成された年代であり、最外年輪より内側の部位であれば、その年代は伐採の年代よりも古い年代となることから、今回の試料は材の内側であったことが推測される。

掘立柱建物跡群の各建物の構造は、SB1820が2×2間の総柱、SB2160・2176・469は2×2間、SB2151は2×2間以上、SB1953・2152・2186は2×3間、SB2154は3×3間、SB1697は3×4間の総柱、SB1038は2×5間(側柱3間と総柱2間)で、SB1697と469を除く9棟は区画施設の内側にあたるD区中央に分布する。SB1820・1953・2151・1038・2186・2160・2176は主軸方位が東西3°の傾きに納まり、東側の区画施設の軸とほぼ一致する。これらは、南北の区画施設と直行するように建てられ、配置に計画性が窺える。そして、SB2186・1038・2176の重複から最低3時期の建て替えがあったと捉えられる。

区画施設は、過年度の調査結果も鑑みると SD1054 の北東を角として、北側で SD1061 \rightarrow SD1054、 SD1857 \rightarrow SD1054、 南側で SD1750 \rightarrow SD1029 と、 2時期以上の造りかえが考えられ、その範囲は東西 84 m以上、南北は約52 \sim 76 mの範囲となる。但し、 SD1061 と SD1875 は溝の規模や位置関係から一連であった可能性もある。

土坑には大型のものがあり、9世紀に属する土器が出 土しているが、9世紀中葉から後半頃の土器が多くみら れた。

遺物出土の分布状況は、遺構の分布とほぼ一致するが、出土量には遺構毎に違いがみられた。建物跡や溝跡では少なく、竪穴住居跡や大型の土坑から多く出土した。但し、保存状態が悪く破片資料が多い。須恵器よりも、土師器が多数を占める。供膳具では無台坏が多く、蓋と有台坏は少ない。貯蔵具では、甕に比べて壺や鍋が少ない傾向がみられた。他に、砥石や鋳型?などもある。また、墨書・刻書土器が14点、転用硯が2点出土した。墨書「万」・「方」・「左」の文字は県内では鶴岡市の西谷地遺跡で出土している。土器は8世紀末から9世紀末に属するものが出土しているが、9世紀中葉から後半のものが多い。

これらから、清水遺跡は縄文時代と平安時代の複合遺跡で、住居や建物などの主たる時期は9世紀第2四半期から第4四半期と考えられる。そして、集落や建物群の範囲は、さらに東西に広がると推測される。

2 遺跡の性格と年代

今回の調査では市道南側のG区では、規模が違う竪穴住居があり、鋳型と思われる土製品や粘土塊が出土している。一方、市道北側のD・E区には区画施設とそれに囲まれる掘立柱建物群が検出され、一般的な集落とは明らかな違いがある。そこで、その性格と存続時期について若干の考察を加える。但し、本遺跡の中心となる本道部分(A~C区)の調査後の整理が行われていないことから、あくまでも、今回の調査結果からの推察である。

竪穴住居跡は前述のとおり、カマドが構築され大きな規模の ST1818・382・478 とカマドが無く小さい規模の ST381・383・384・386 がある。前者は住居跡と思われるが、後者は出土遺物や規模から通常の住居跡に比べ異質である。規模が 3 m四方以下で、出土遺物には ST381 の砥石、ST384 の鋳型や粘土塊などがあることから察すると、工房跡の可能性が考えられる。第 2 次の調査区から鉄製の紡錘車が出土していることからもそれが窺えるのではないか。そして、各住居の時期であるが、出土した土器の特徴などから 9 世紀第 2 四半期 に属するのは ST381・382、9 世紀第 2 ~ 3 四半期が ST1818・383・384、9 世紀第 3 四半期が ST478、9 世紀第 3・4 四半期が ST386 と考えられる。住居跡と

工房跡に明確な時期差が認められないことから、建て替えを行い、ほぼ同時期に存続していたと思われ、その主たる時期は9世紀第2~3四半期と考えられる。

次にD区で検出された掘立柱建物跡群である。第5次調査の結果と今調査の結果から、区画施設の範囲は東西84 m以上、南北は約52~76 mになる。その区画施設に囲まれる建物は、今回の調査区内では9棟である。そのうち、SB2152 と SB2154 を除く7棟の主軸方位は東西3°以内に納まることや、東側の区画施設の軸とほぼ一致することなど、南北の区画施設と直行するように計画的に建てられている様相がみられる。また、7棟のうち SB2160 と SB2176 を除く5棟は柱穴の規模が、長軸70cm、短軸60cmを超える大きい柱穴であり古い建物の要素が認められる。建物群は、建物間の切り合いから SB2186 \rightarrow SB1038 \rightarrow SB2176 と建て替えられているので3時期、区画施設は凹凸がある区画から方形の区画へと作り替えられた様相を示し、最低2時期の変遷があったと思われる。

以上から、重複はあるが SB1820・1953・2151・1038・2186 が 第 Ⅰ 期、SB2176・2160 は 第 Ⅱ 期、SB2152・2154 は第Ⅲ期と考えられ、区画施設も建物の変遷と並行して作り替えられていったと推測される。

そこで、建物群の性格であるが、建物の規模は2×2間と2×3間のものが大半を占め、大きいものでも2×5間の側柱+総柱であることから推察すると、居住するための建物というよりも物資などの保管や貯蔵のための倉庫であろうと思われる。そして、その存続時期であるが、今回の調査で柱穴と区画施設から出土した遺物は、破片資料のみで、時期を特定できる遺物が無かった。しかし、掘り方の規模が大きく、深い柱穴となる古代の建物の特徴をもち、出土した破片資料は器形や調整技法から9世紀代の範疇に収まる。さらに、9世紀中葉と思われる ST1818 住居跡を区画施設跡 SD1875・1054 が切っていることなどから、建物群と区画施設の存続時期は9世紀第3~4四半期頃であり、10世紀には廃絶されていたと思われる。短期間に建物や区画施設の造り替えが行われていたと推測される。

清水遺跡から北へ約 16km の地点の大石田町駒籠には8世紀後半から9世紀後葉の古代出羽の水駅と考えられる野後駅推定地がある。また、南西方向約 3km に

は西原 C 遺跡、南へ約 11km の東根市郡山地区には郡 山遺跡と共に古代の村山郡衙ではと推測されている遺跡 が所在することから、本遺跡は、これら水駅や郡衙に関 連する施設(倉庫)とも考えられる。また、この地域の 地方豪族の居館跡の可能性もあると思われる。

今後、集落跡や施設跡の中心となる第2・5次調査の整理によって検討が加えられ、住居群や建物群の時期や変遷、性格などの詳細が明らかになるであろう。

引用・参考文献

山形県企画調整部土地対策課 1979 『IV 土壌』「土地分類基本調査 尾花沢」p.41 山形県企画調整部土地対策課 1981 「土地分類基本調査 楯岡」 山形県教育委員会 p.203 村山市史編さん委員会編 1981 『村山市史 別巻一 原始・古代』 村山市山形県 1982 『山形県史 第1巻 原始・古代・中世編』

伊豆田忠悦 1990 「村山市」『山形県の地名 日本歴史地名大系 6』p.475 ~ 485 平凡社

村山市 1991 『村山市史 原始・古代・中世編』

村山市史編さん委員会編 1994 『村山市史 近世編』 村山市

小関広明 1995 「村山市」 『角川 日本地名大辞典 6 山形県 $p.963 \sim 969$

山形県教育委員会 1996 『山形県中世城館遺跡調査報告書』 第2集(村山地域)

村山市教育委員会 1996 『西原 C 遺跡発掘調査報告書』

財団法人山形県埋蔵文化財センター 1996『西谷地遺跡第 3 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 33 集 阿部明彦他 1999 「山形県の古代土器編年」『第 25 回古代城柵官衙遺跡検討会資料』 第 25 回古代城柵官衙検討会事務局 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2004『高瀬山遺跡(1 期)第 1 ~ 4 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第 121 集

財団法人山形県埋蔵文化財センター 2004 『達磨寺遺跡第 3 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 127 集 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2007 『上敷免遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 159 集 神津良子 2008 『決定版 村山ふるさと大百科』 株式会社郷戸出版社

東北芸術工科大学 2010 『河川流域の縄文景観』p.43

山形県教育委員会 2011 「Ⅱ 調査の概要」『分布調査報告書(37)』山形県埋蔵文化財調査報告書第214集件表に表している。 2011 『サレオエアジョンスのグレン・

佐藤敏春 2011 『村山市再発見~その姿と心~』

財団法人山形県埋蔵文化財センター 2011 『作野遺跡第 2 次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 194 集 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2012 『作野遺跡第 3 次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 205 集 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター調査報告書 2013 『年報 平成 24 年度』

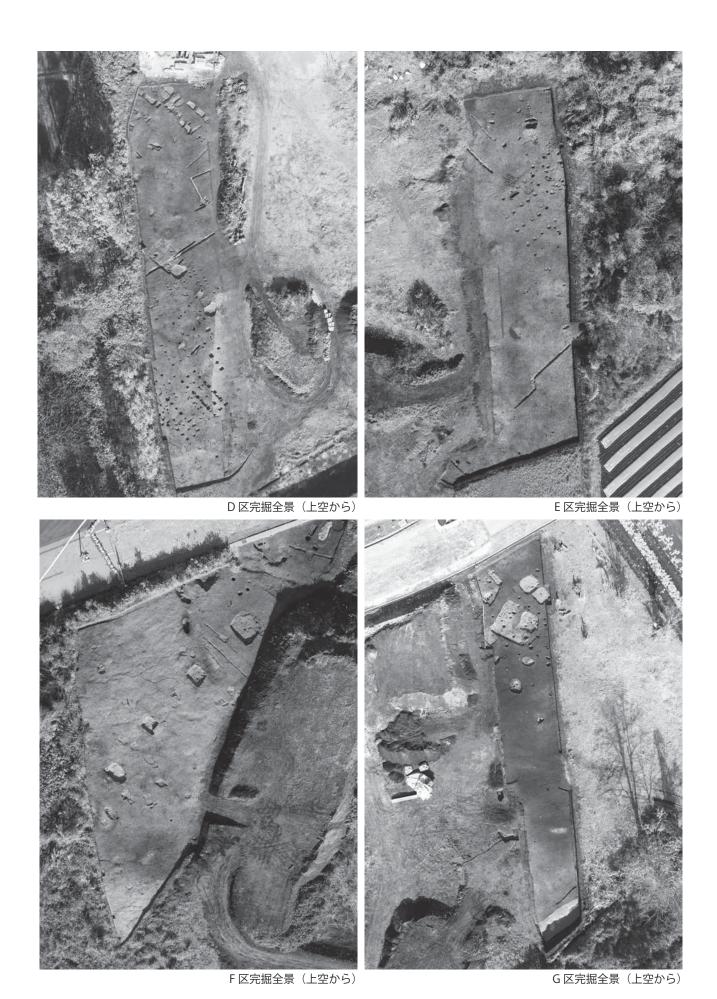
公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 2015b 『田向2遺跡第1・2次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第 218 集

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 2015a 『清水西遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 220 集 ニューサイエンス社 2015 『月刊 考古学ジャーナル』 1月号 (365 号)

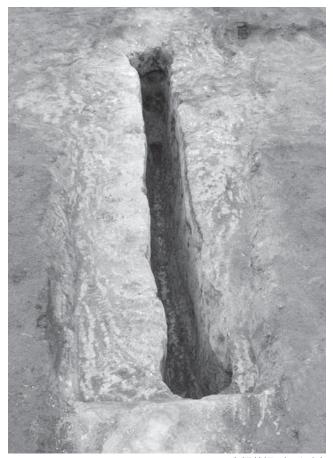
写真図版



調査区全景(南から)



写真図版 2



SK1145 完掘状況 (西から)



SK1911 完掘状況 (東から)



SK1145 土層断面(東から)



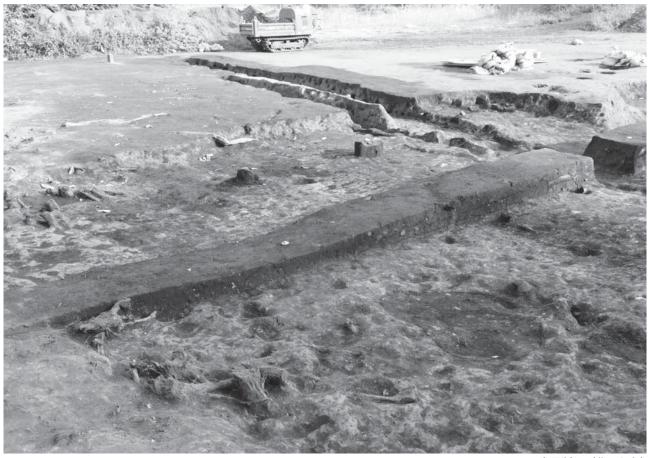
SK1911 土層断面 a-a' (東から)



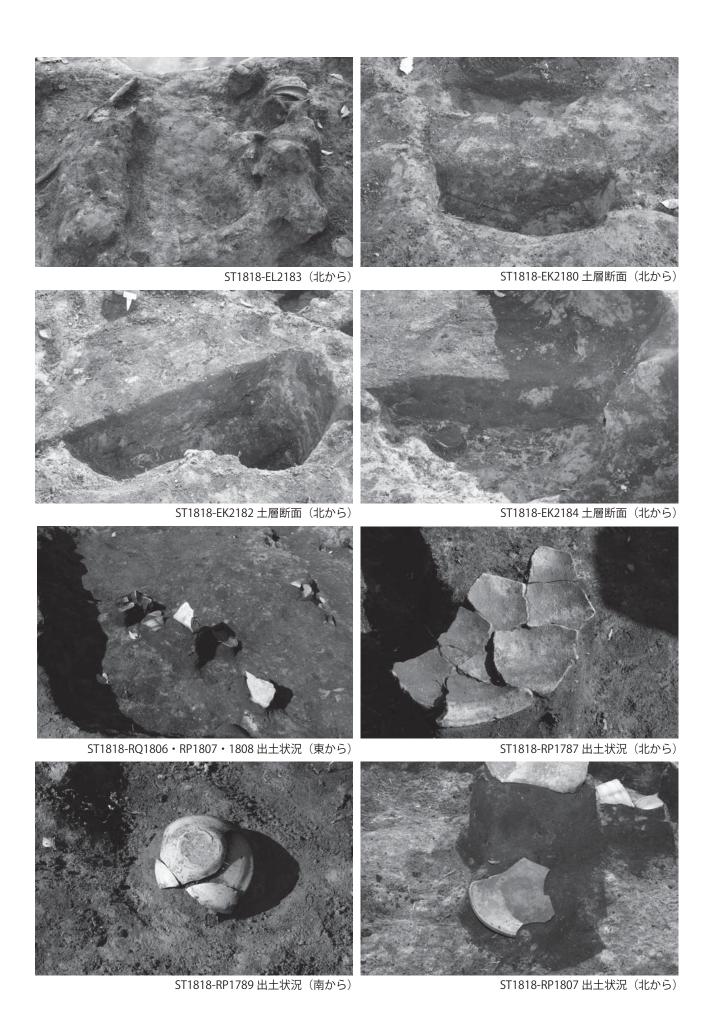
SK1911 土層断面 b-b' (東から)



ST1818 完掘状況 (北から)



ST1818 土層断面(北西から)





ST381・382 完掘状況(北から)



ST381 土層断面 a-a' (東から)



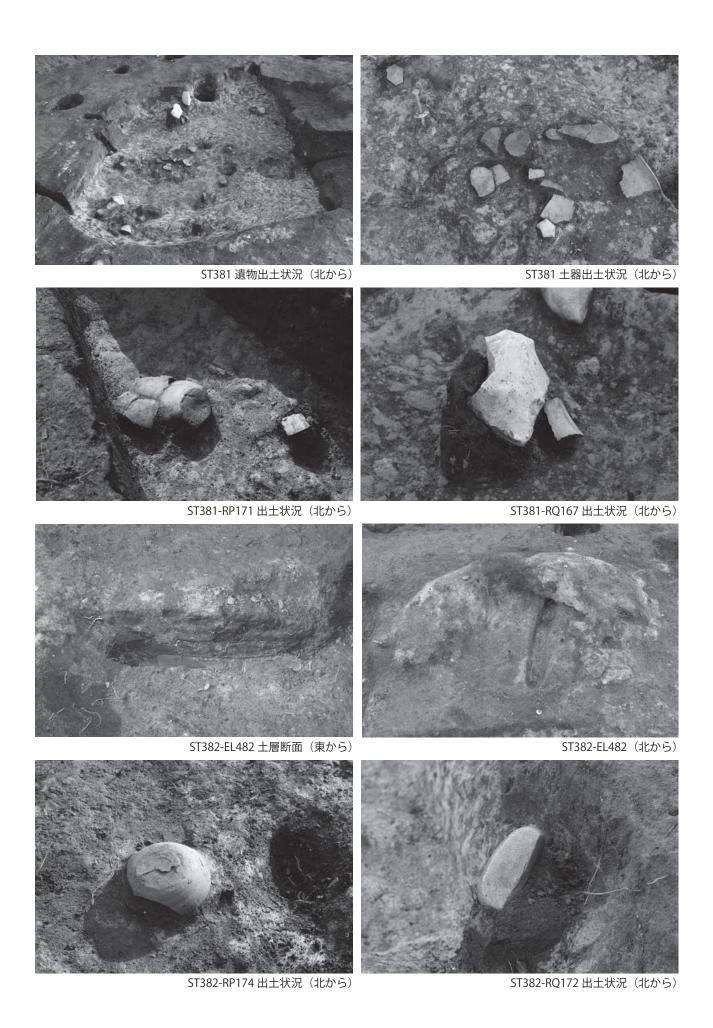
ST382 土層断面 d-d' (北から)



ST381・382 土層断面(南東から)



ST381・382 土層断面(南から)





ST383・384 完掘状況(南から)



ST383 土層断面(東から)



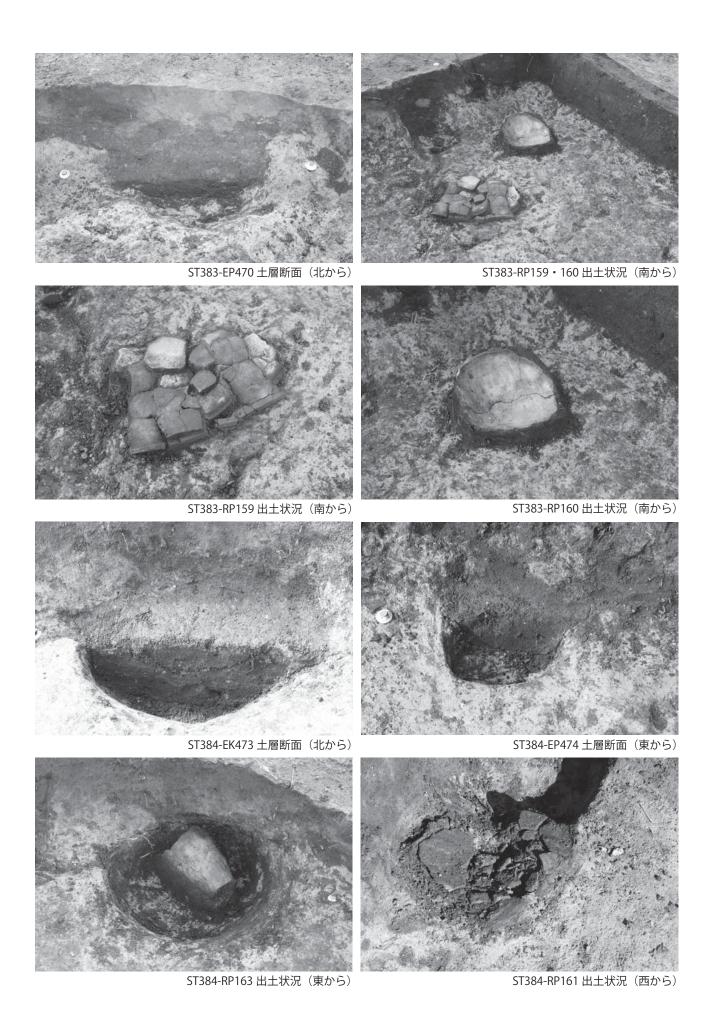
ST383 完掘状況(南から)



ST384 土層断面(東から)



ST384 完掘状況(北から)





ST386 遺物出土状況(北から)



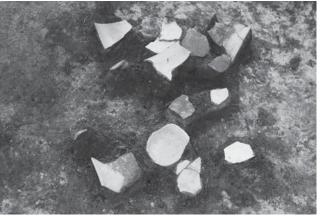
ST386 土層断面(南から)



ST386-RP162 遺物出土状況(東から)



ST386-RP164 遺物出土状況(北から)



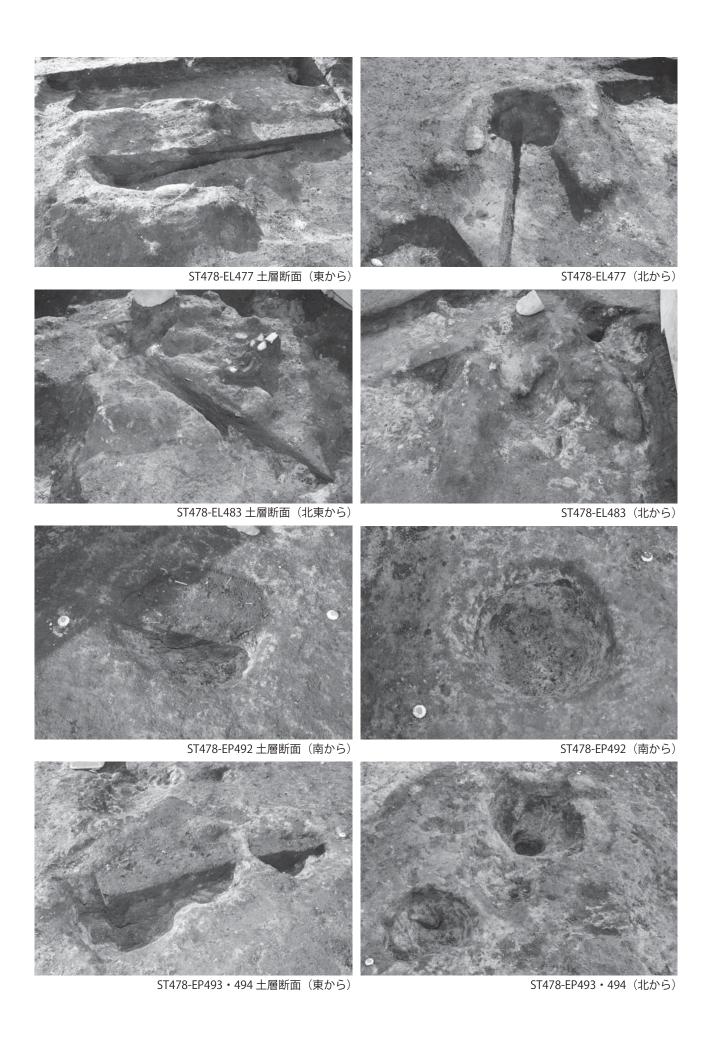
ST386-RP165・180 遺物出土状況(東から)

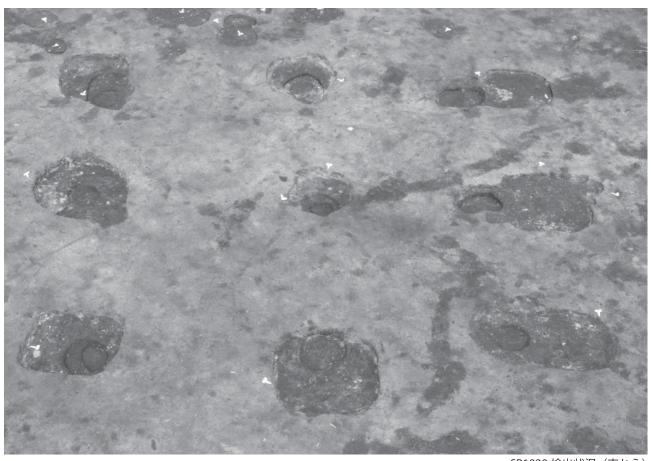


ST478 土層断面(北から)



____ ST478 完掘状況(北から)





SB1820 検出状況(南から)



SB1820 完掘状況(南から)



____ SB1953 検出状況(南から)



SB1953-EB1955 土層断面(南西から)



SB1953-EB1956 土層断面(北から)



SB1953-EB1957 土層断面(北から)



SB1953-EB1958 土層断面(西から)



SB1953-EB1959 土層断面(西から)



SB1953-EB1962 土層断面(東から)



SB1953-EB2124 土層断面(南から)



SP1954・2128、SB1953-EB2127 土層断面(西から)



SB1953 完掘状況(南から)



SB2151 完掘状況 (南から)



SB2151-EB1922 土層断面(東から)



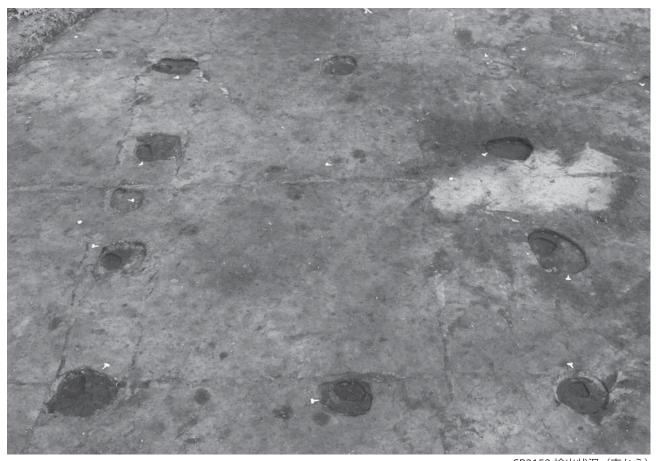
SB2151-EB2119 土層断面(東から)



SB2151-EB2120 土層断面(西から)



SB2151-EB2121 土層断面(東から)



SB2152 検出状況(南から)



SB2152-EB1891 土層断面(南東から)



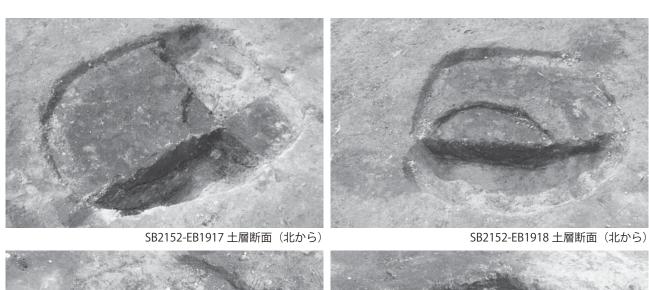
SB2152-EB1892 土層断面(北から)



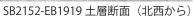
SB2152-EB1913 土層断面(西から)



SB2152-EB1914 土層断面(西から)









SB2152-EB2153 土層断面(西から)



SB2152 完掘状況(南から)



SB2154 検出状況(西から)



SB2154-EB1876 土層断面(西から)



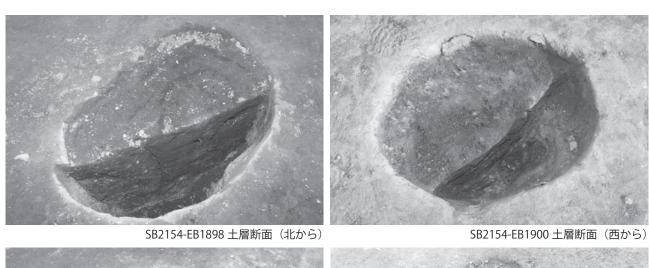
SB2154-EB1878 土層断面(北から)

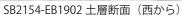


SB2154-EB1880 土層断面(北から)



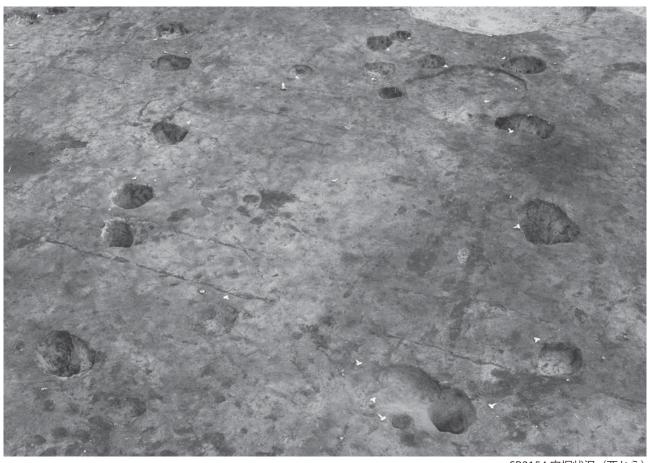
SB2154-EB1882 土層断面(南から)







SB2154-EB1903 土層断面(北から)



SB2154 完掘状況 (西から)



SB2160 検出状況(南から)



SB2160-EB1864 土層断面(北から)



SB2160-EB1870 土層断面(南から)



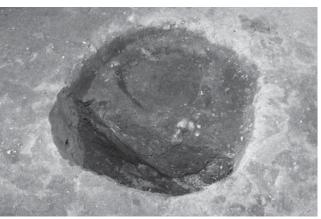
SB2160-EB1871 土層断面(北から)



SB2160-EB1873 土層断面(北から)



SB2160-EB2155 土層断面(西から)



SB2160-EB2157 土層断面(南から)



SB2160-EB2158 土層断面(東から)



SK2156、SB2160-EB2161 土層断面(南東から)



SB2160 完掘状況(南から)



SB1038・2176・2186 精査状況(南から)



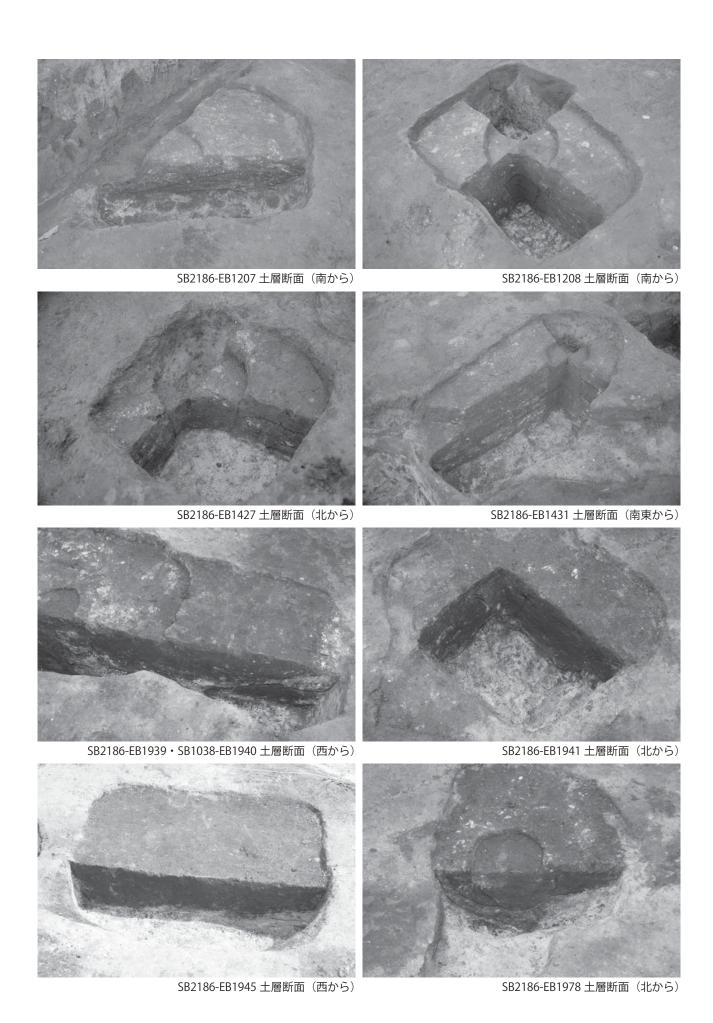
SB2176-EB2141・SB1038-EB2140 土層断面(北から)

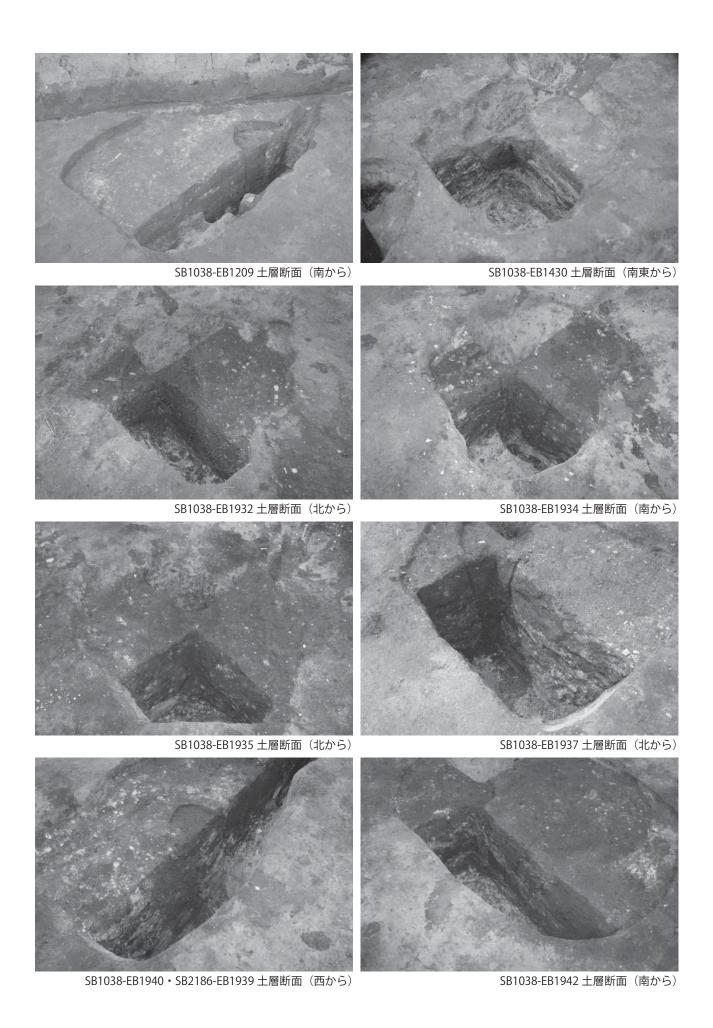


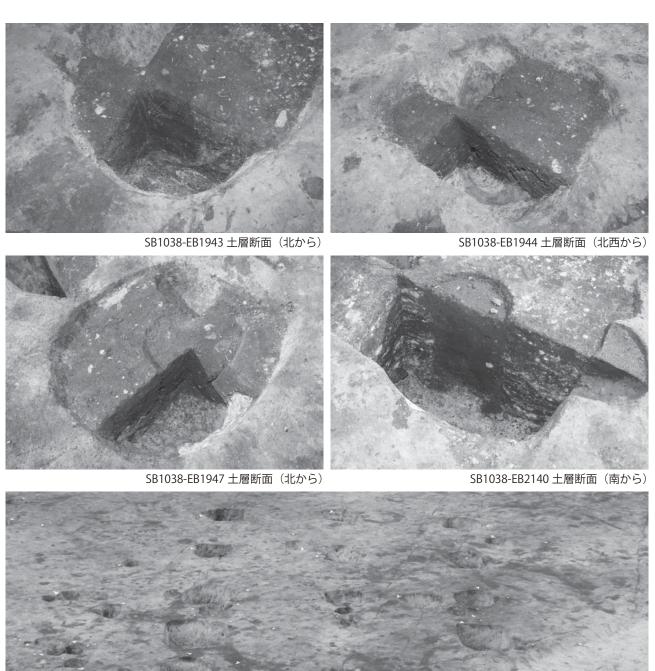
SB2176-EB2142 土層断面(南から)



SB2176-EB2177・SB1038-EB1943 土層断面(南から)









SB1038・2176・2186 完掘状況(南から)



SB1697 検出状況 (西から)



SB1697-EB1683 土層断面(北から)



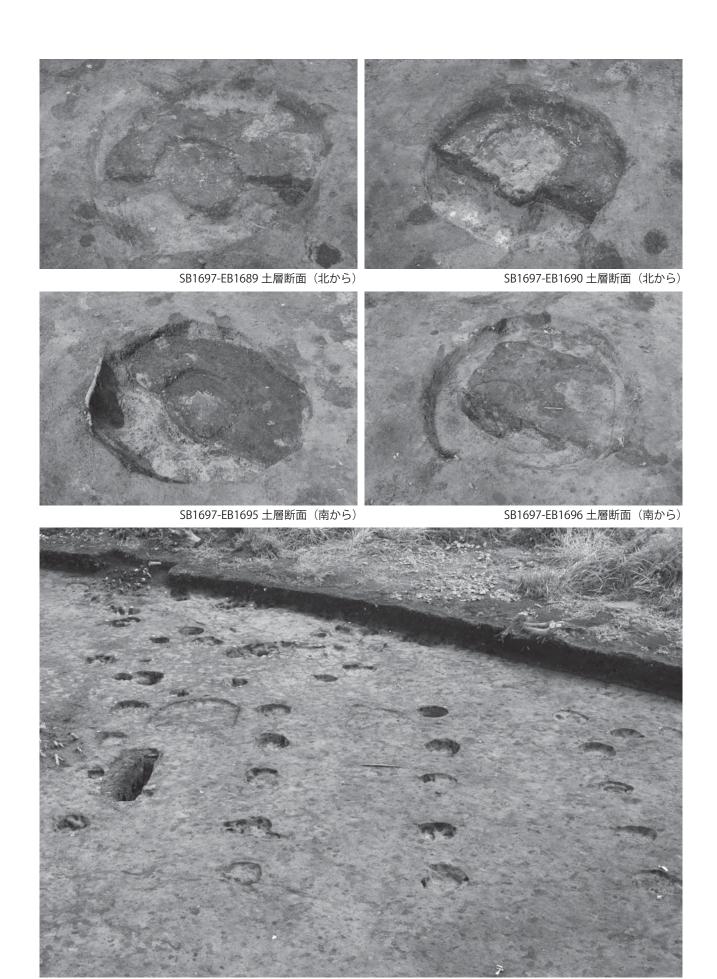
SB1697-EB1684 土層断面(北から)



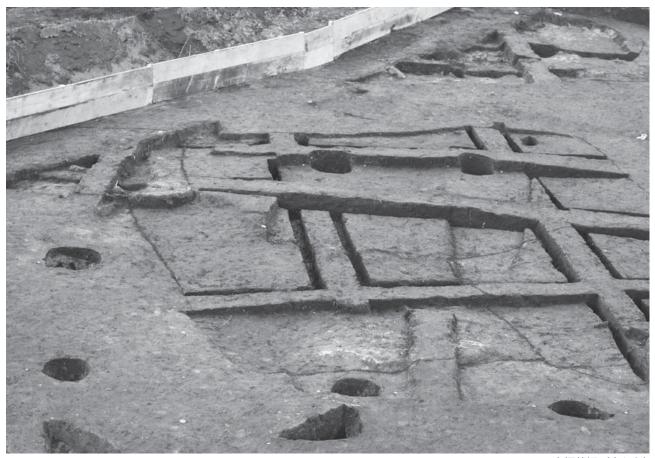
SB1697-EB1686 土層断面(北から)



SB1697-EB1687 土層断面(北から)



SB1697 完掘状況 (西から)



SB469 完掘状況(南から)



SB469-EB390 土層断面(東から)



SB469-EB459 土層断面(南から)



SB469-EB467 土層断面(南から)



SB469-EB468 土層断面(南から)



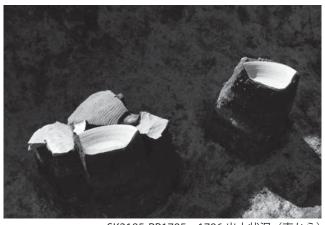
SK1446・2185 遺物出土状況(南西から)



SK1446 土層断面(東から)



SK1446-RP1792 出土状況(北から)



SK2185-RP1795・1796 出土状況(東から)



SK2185-RP1804 出土状況(西から)



SK1872 遺物出土状況(西から)



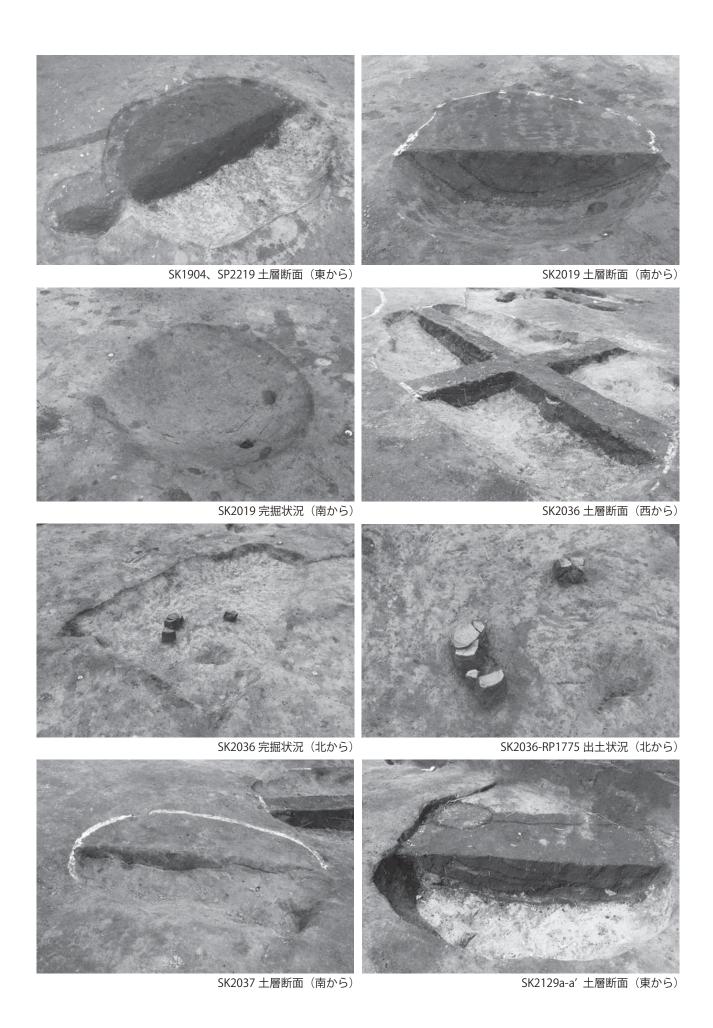
SK1872 土層断面(東から)

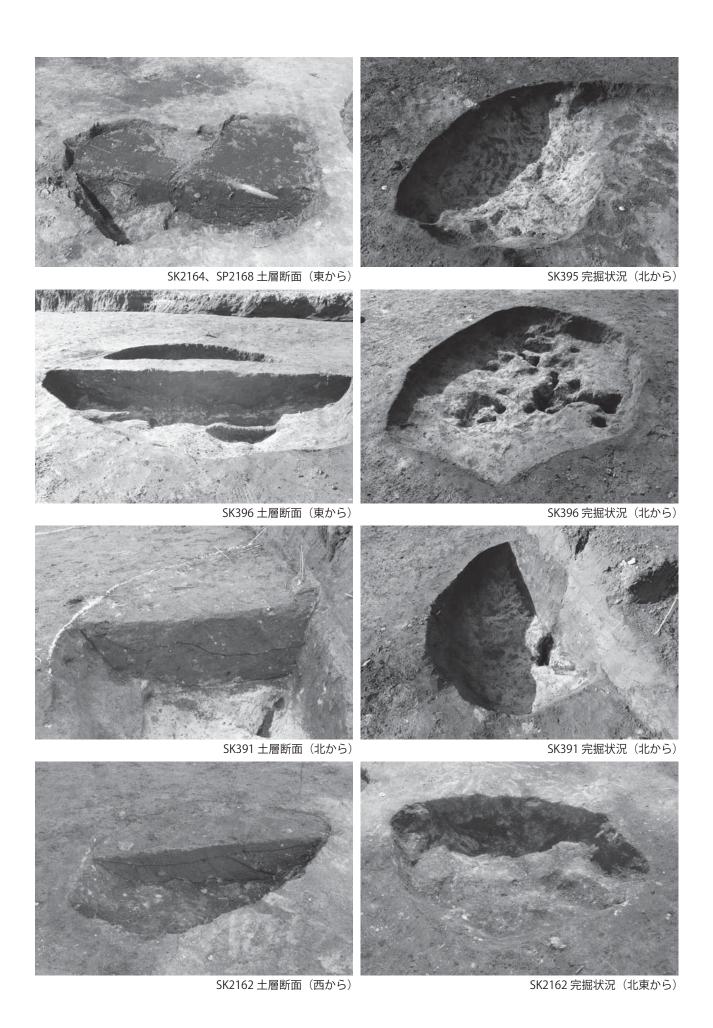


SK1872-RP1790 出土状況(東から)



SK1872-RP1805 出土状況(北から)







SK1819 完掘状況 (西から)



SK1819 土層断面(南から)



SK1819-RP1782 出土状況(北から)



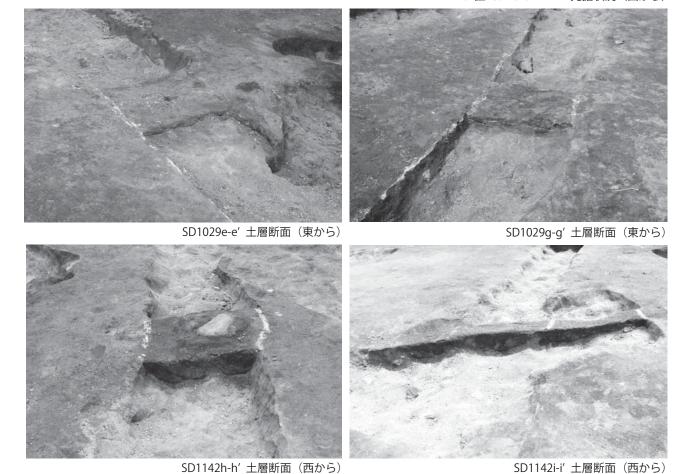
SK1819-RP1783 ~ 1785 出土状況(西から)



SK1819-RP1779 出土状況(南から)



D区-SD1029・1142 完掘状況(西から)





E区-SD1029 完掘状況(南から)



SD1029a-a' 土層断面(東から)



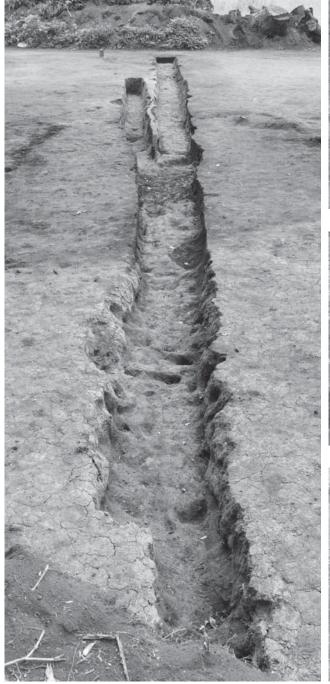
SD1029b-b' 土層断面 (東から)



SD1029c-c' 土層断面(東から)



SD1029d-d' 土層断面 (東から)



SD1054a-a' 土層断面(東から)



SD1054b-b' 土層断面(東から)



SD1054・1857 完掘状況(西から)



SD1054・1857c-c' 土層断面(東から)



SD1857b-b' 土層断面(東から)

SD1054・1857d-d' 土層断面(東から)



SD1061 完掘状況(北から)



SD1061a-a' 土層断面(東から)



SD1061c-c' 土層断面(南から)



SD1061d-d' 土層断面(東から)



SD1061-RP1776 出土状況(東から)



SD1062 完掘状況 (東から)



SD1062a-a' 土層断面(東から)



SD1062b-b' 土層断面(東から)



SD1750 完掘状況(北西から)



SD1750a-a' 土層断面 (東から)



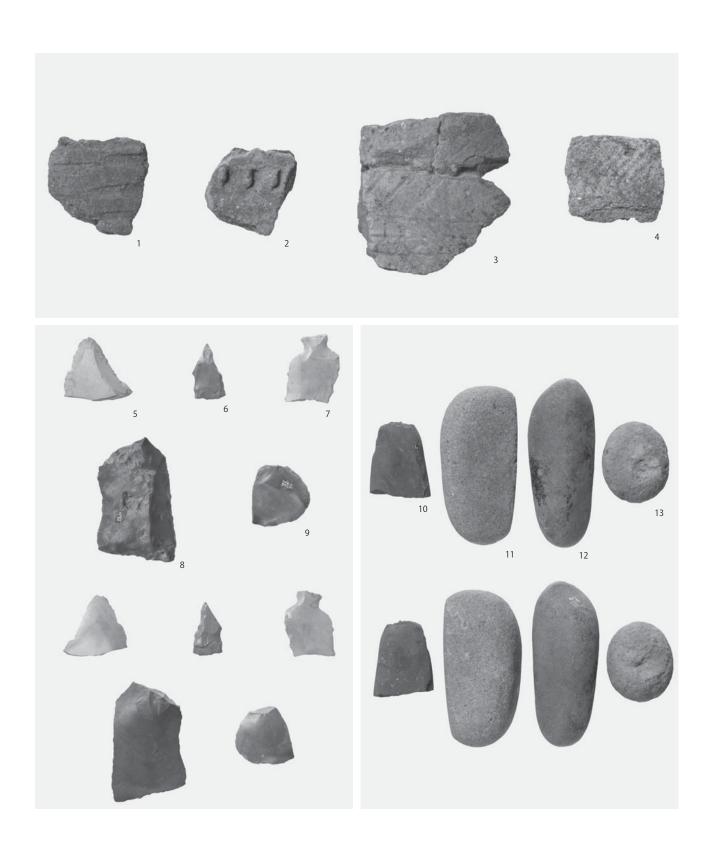
SD1750d-d' 土層断面(東から)



SD1750f-f' 土層断面(東から)



SD1750-RP1774 出土状況(東から)



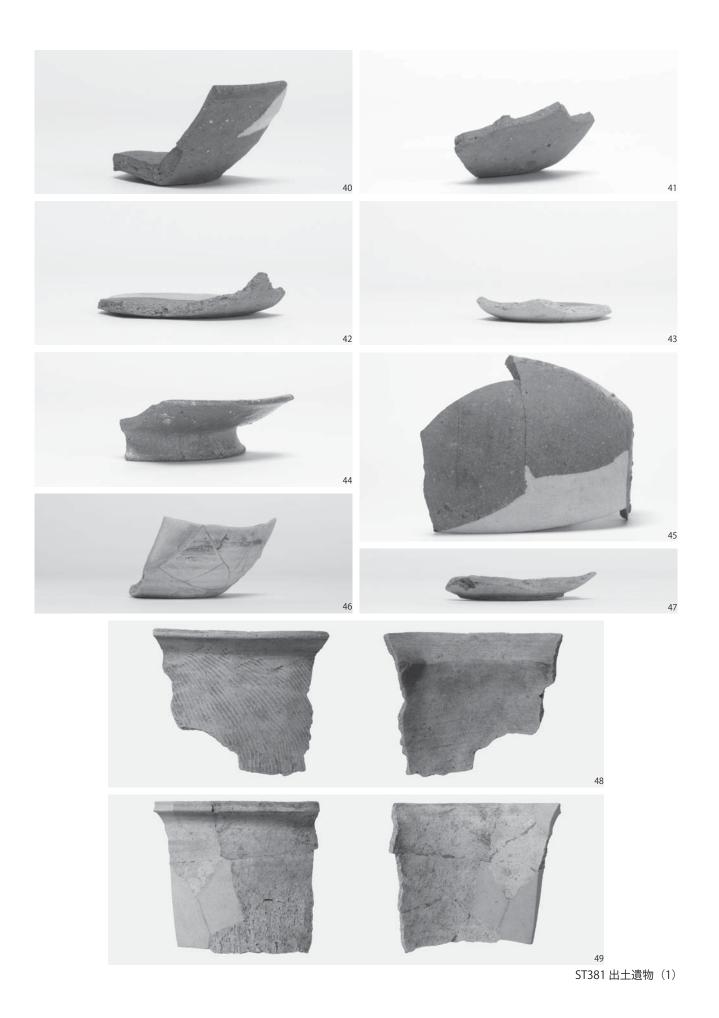
縄文時代の遺物



ST1818 出土遺物(1)



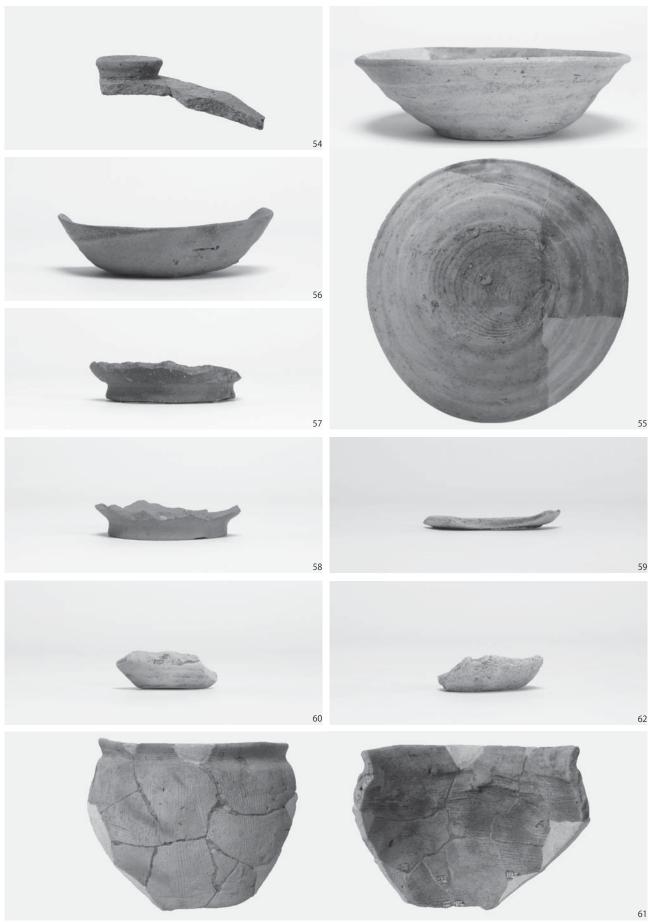
ST1818 出土遺物(2)



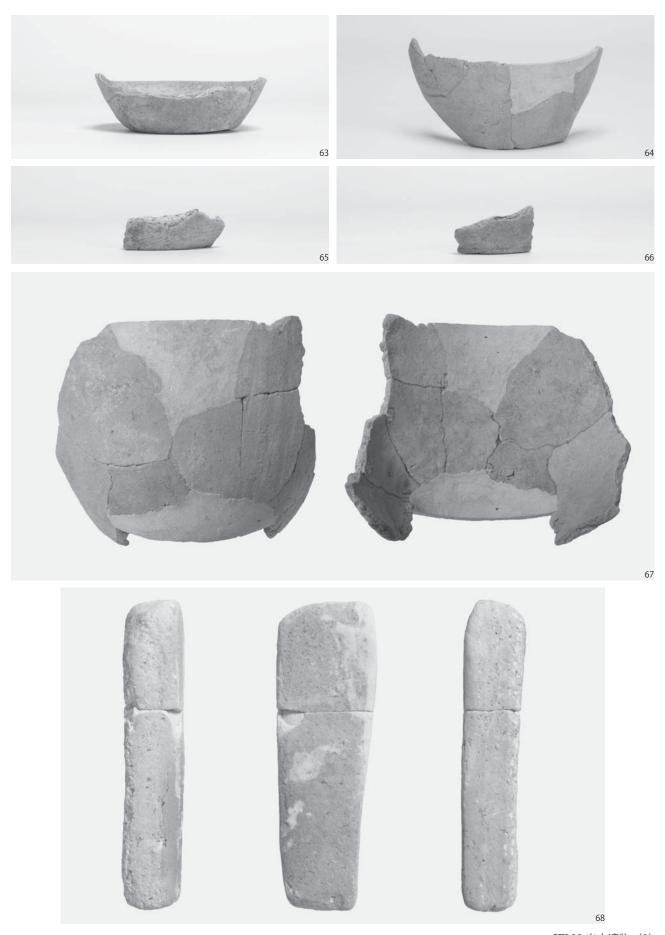
写真図版 44



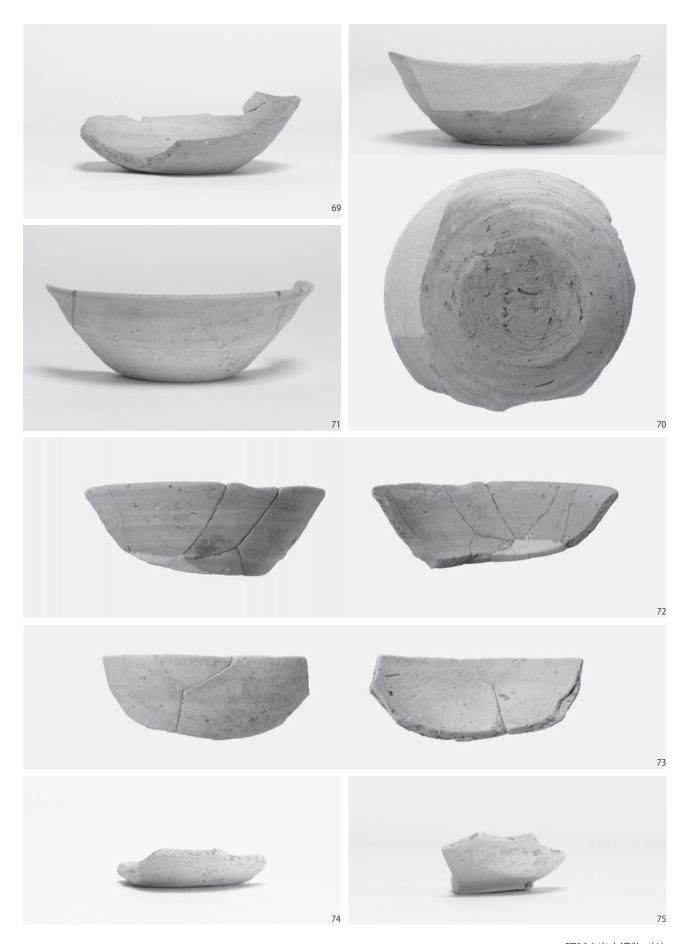
ST381 出土遺物(2)



ST382 出土遺物(1)



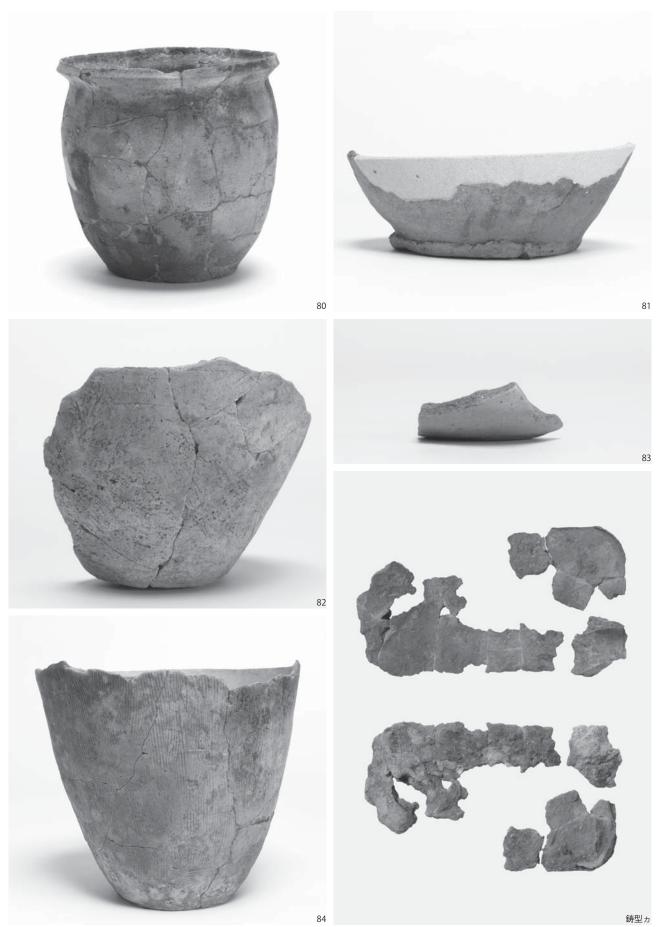
ST382 出土遺物(2)



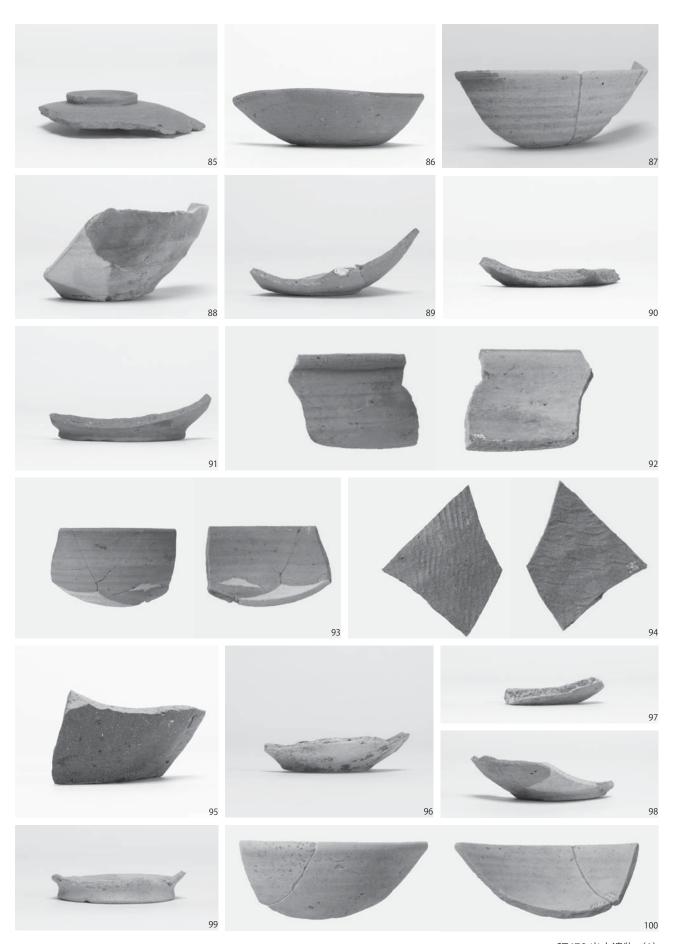
ST386 出土遺物(1)



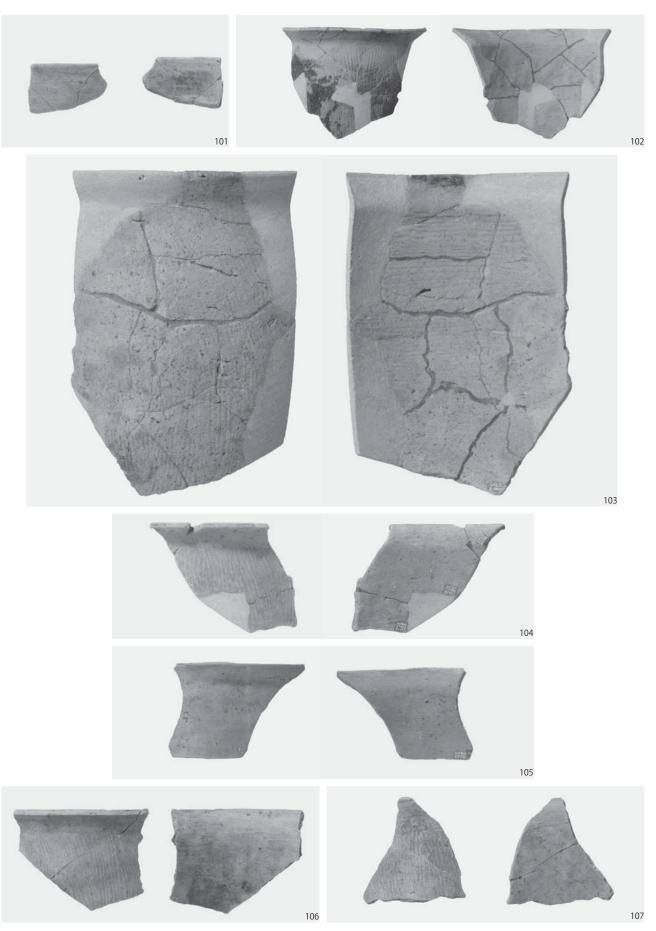
ST386 出土遺物(2)



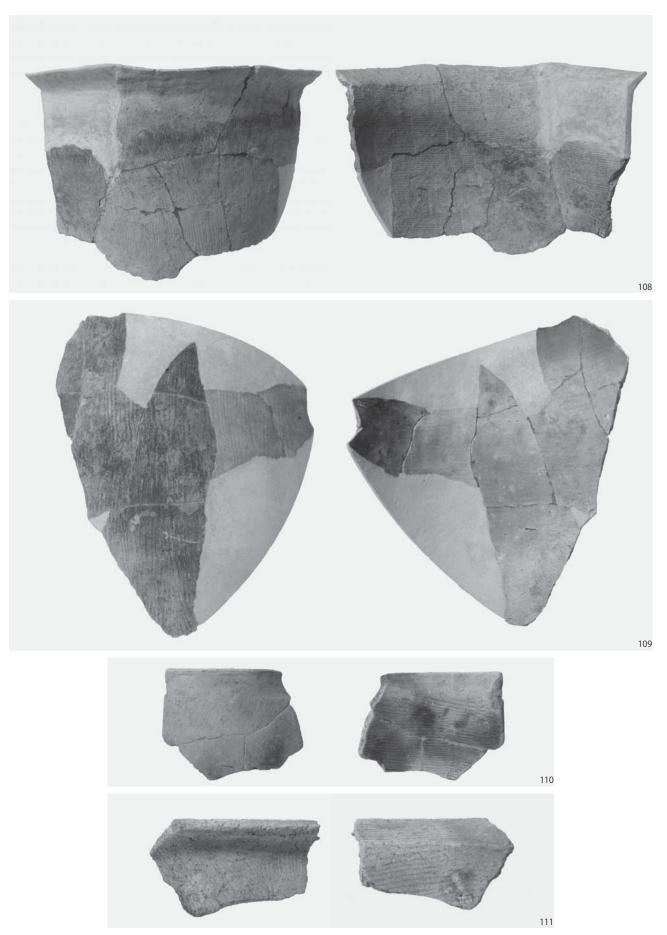
ST383・384 出土遺物



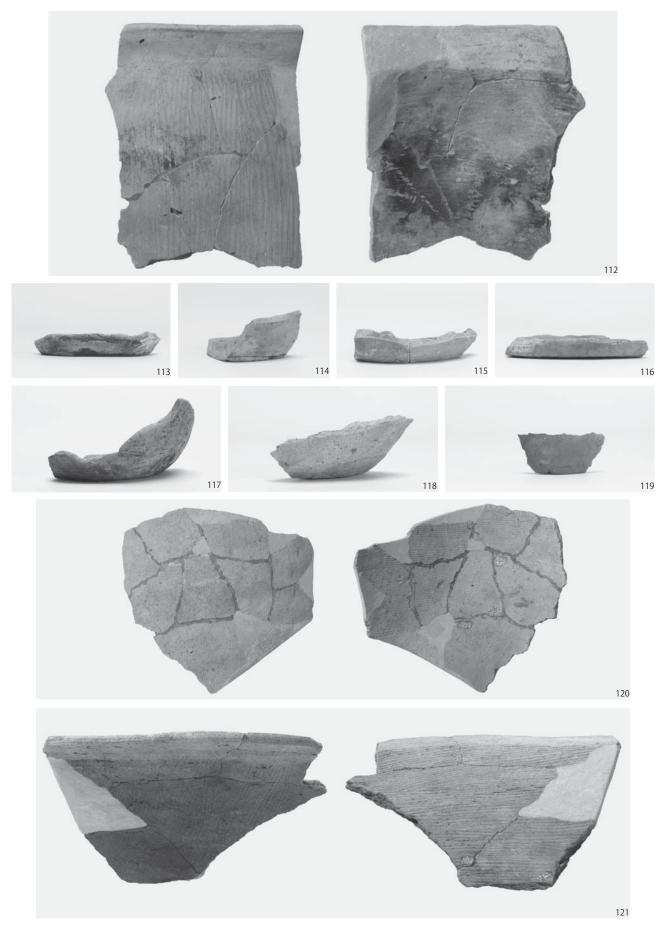
ST478 出土遺物(1)



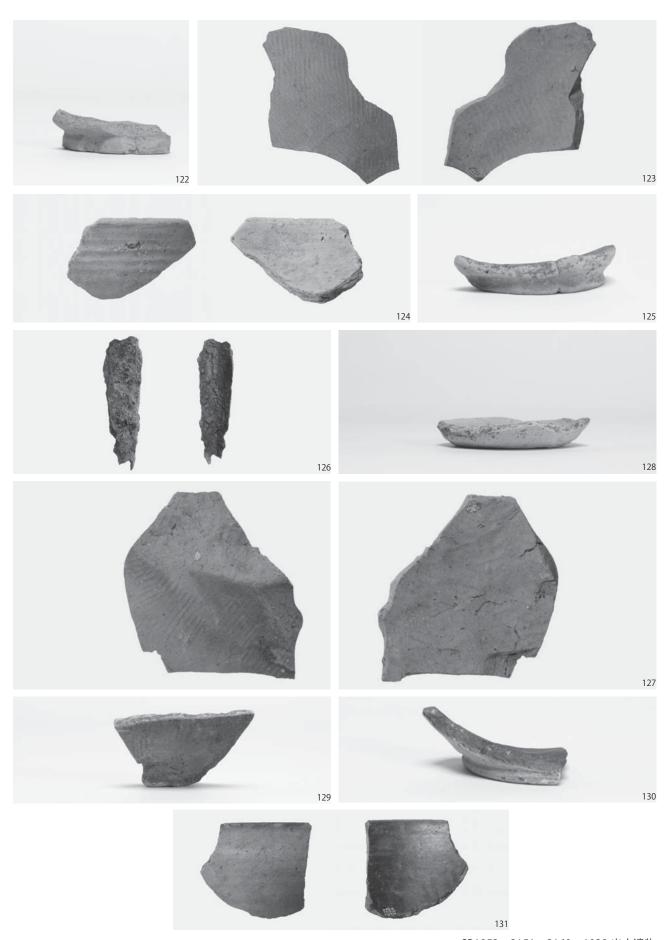
ST478 出土遺物(2)



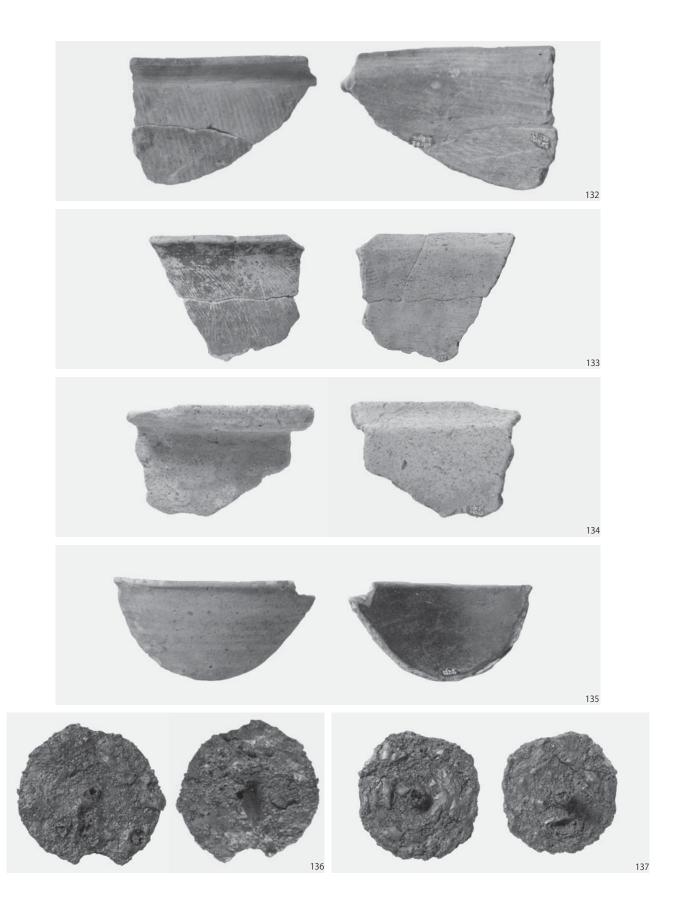
ST478 出土遺物(3)



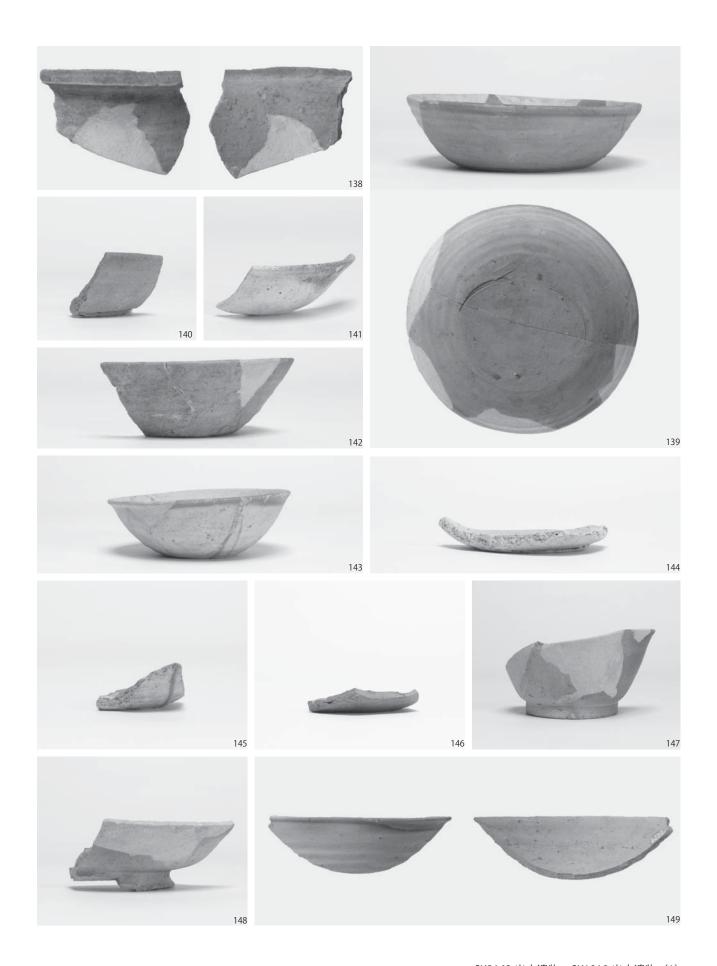
ST478 出土遺物(4)



SB1953・2151・2160・1038 出土遺物



SK2144 出土遺物

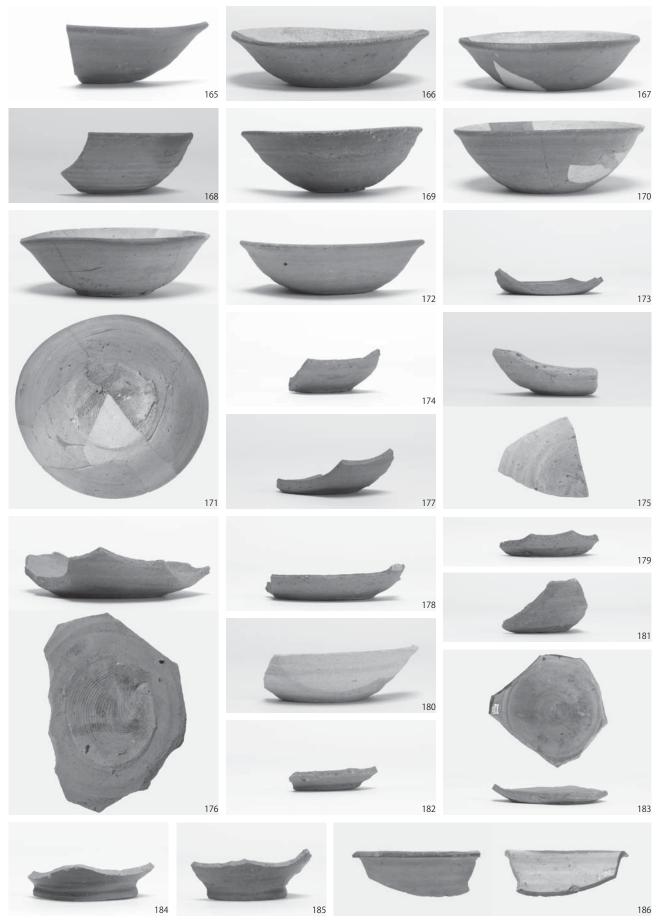


SK2162 出土遺物、SK1819 出土遺物(1)

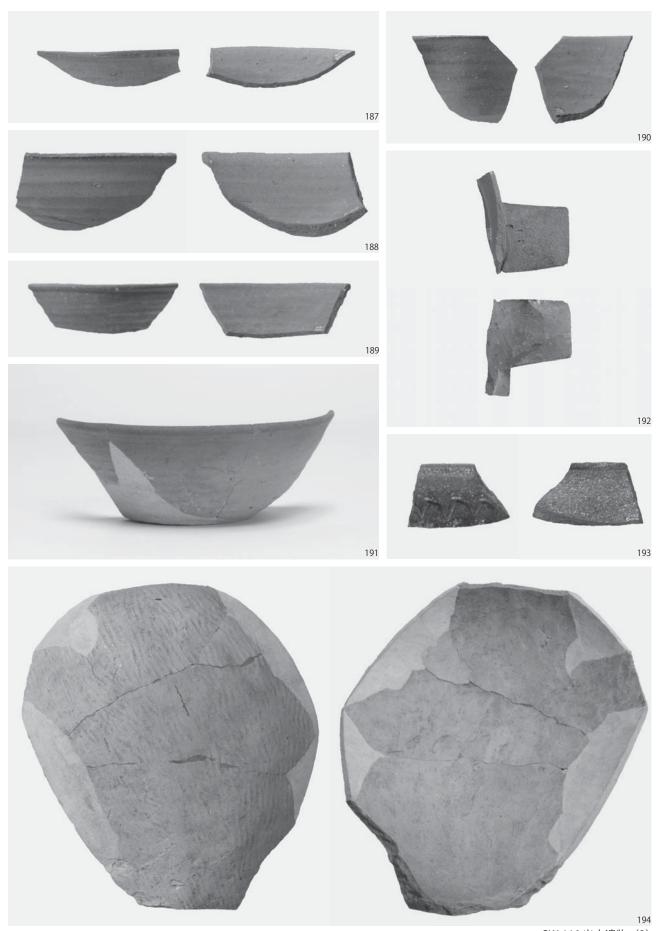


SK1819 出土遺物(2)

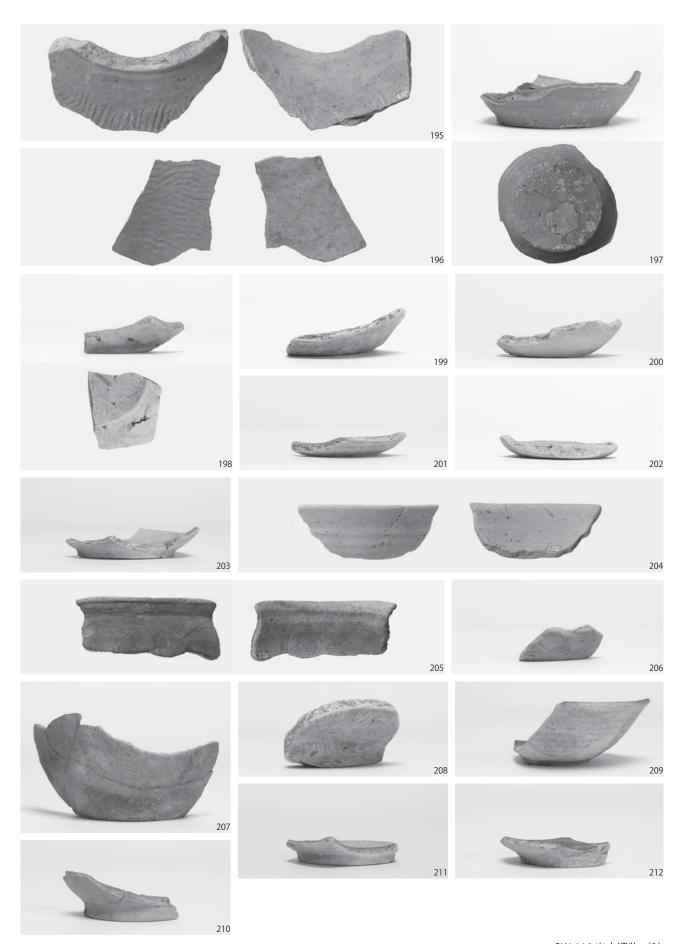




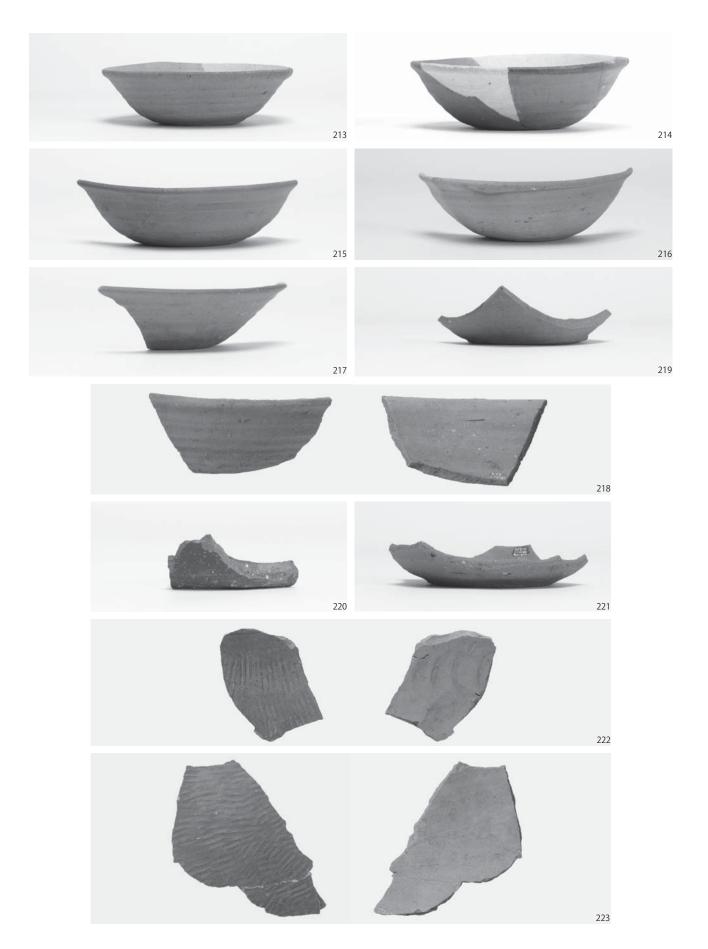
SK1446 出土遺物(1)



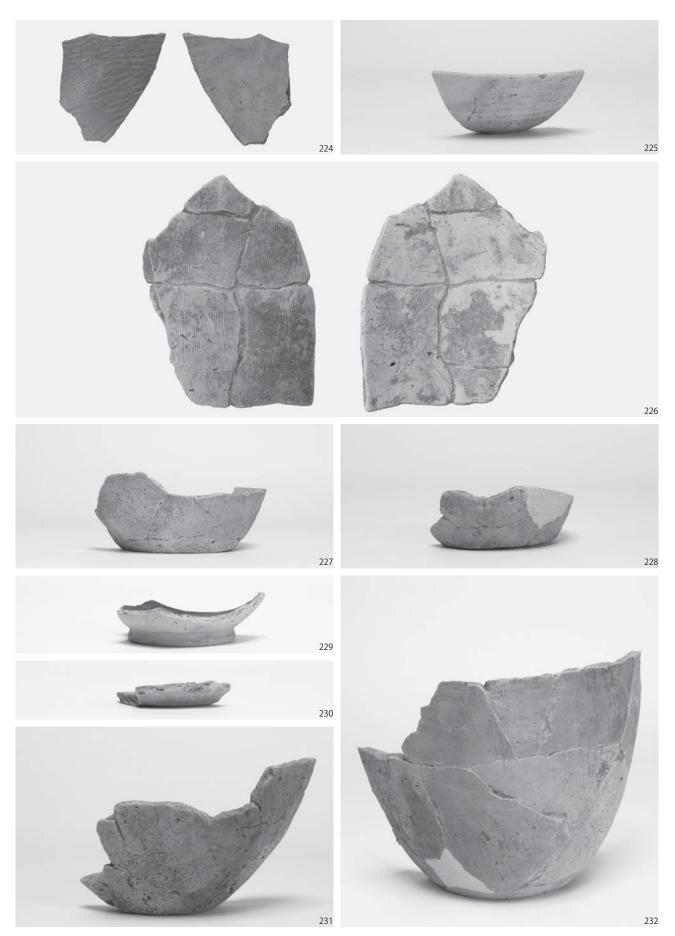
SK1446 出土遺物(2)



SK1446 出土遺物(3)



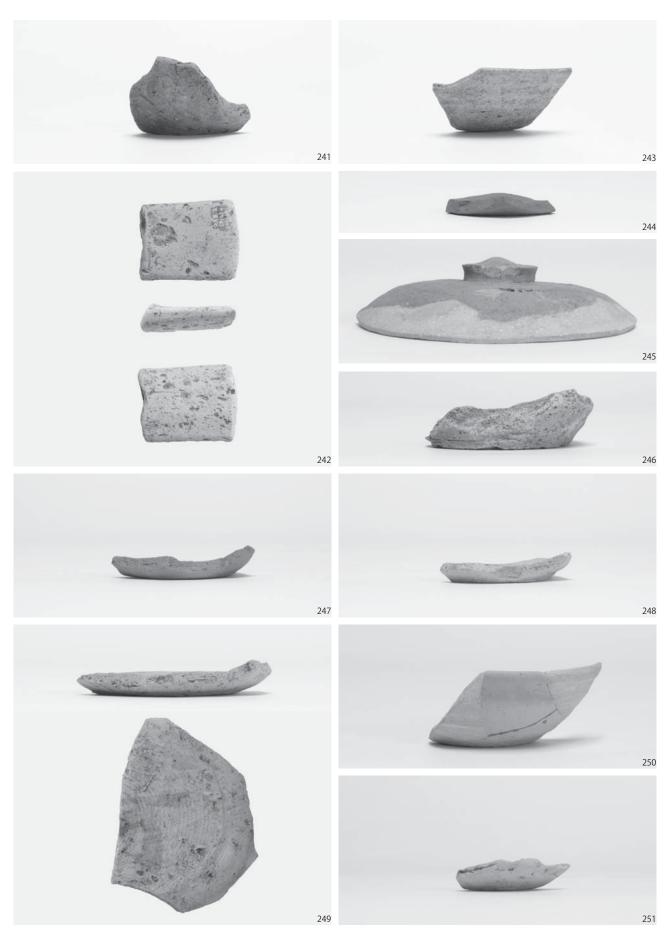
SK2185 出土遺物(1)



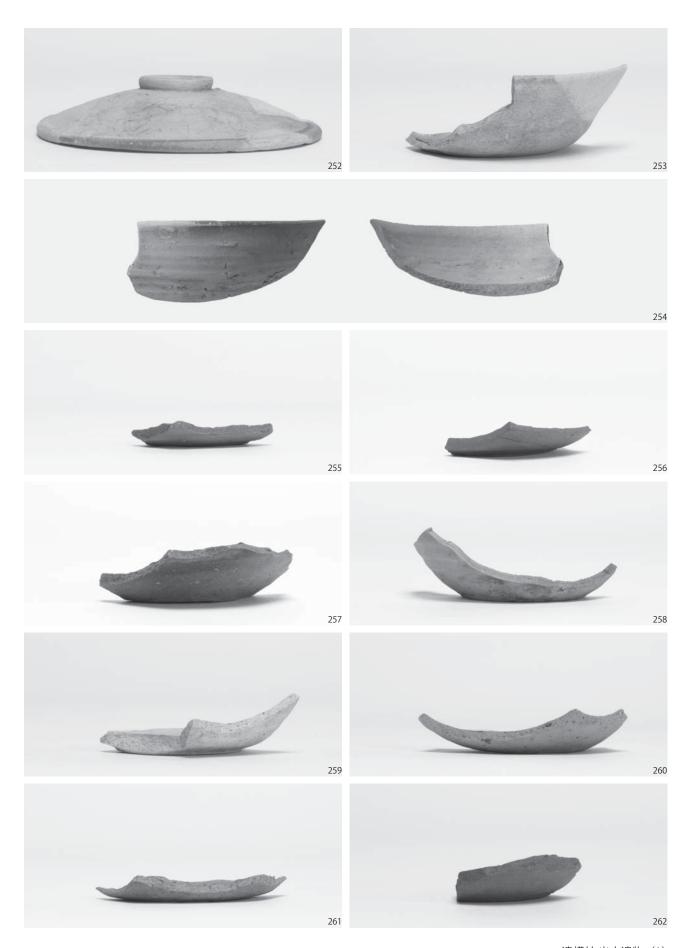
SK2185 出土遺物 (2)、SK1872 出土遺物



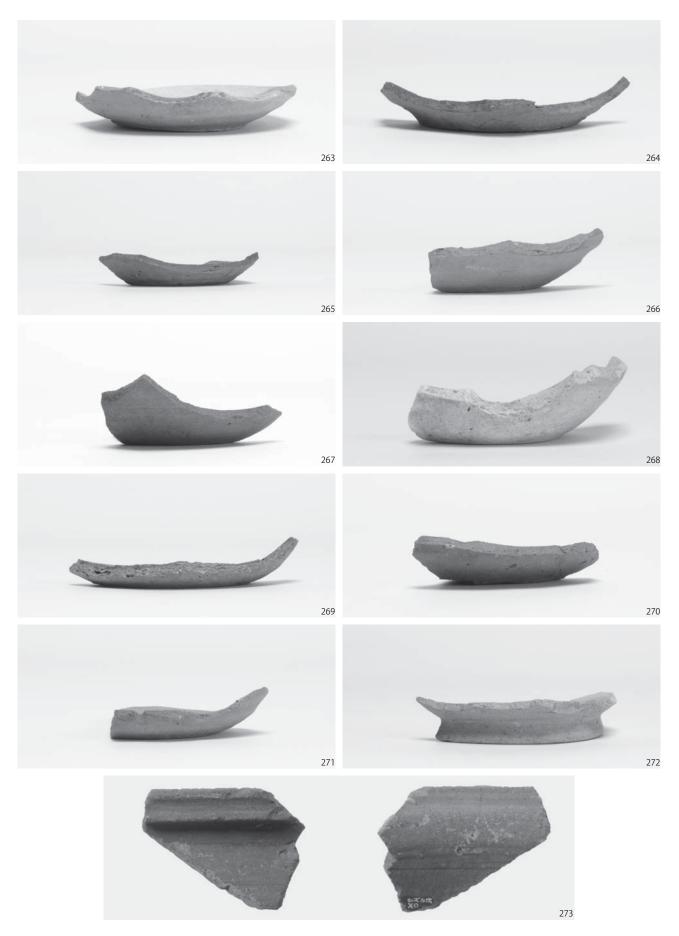
SK2036・2129・392・395・396 出土遺物



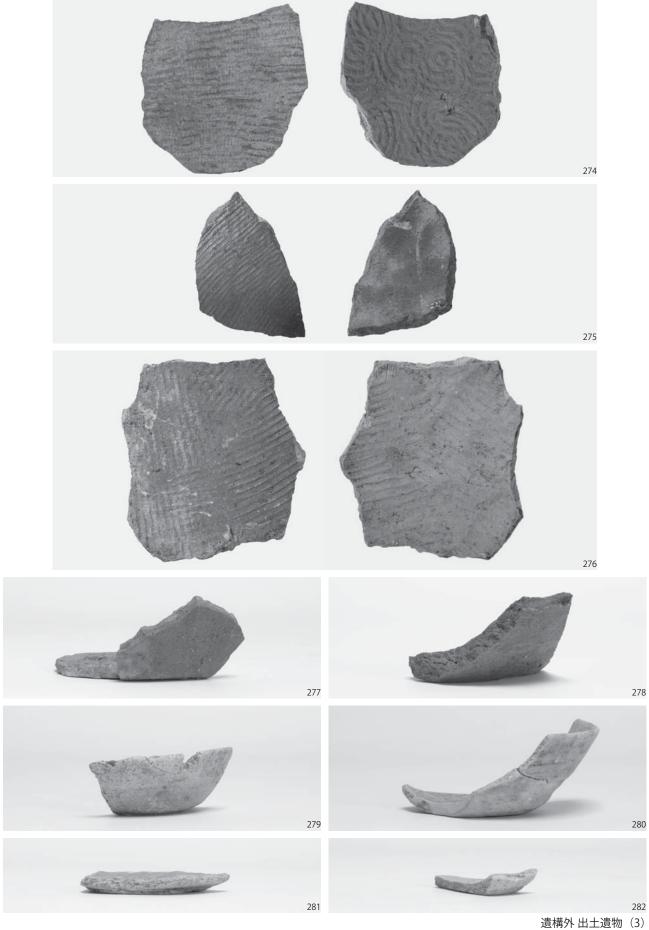
SD1142・1054・1857・1061・1750、SP 出土遺物

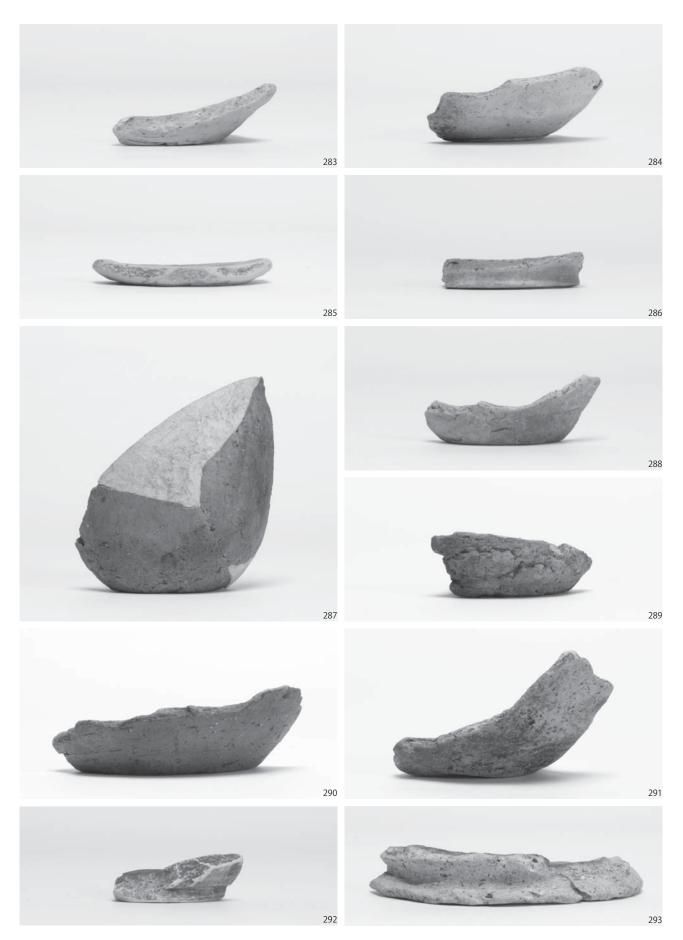


遺構外 出土遺物(1)

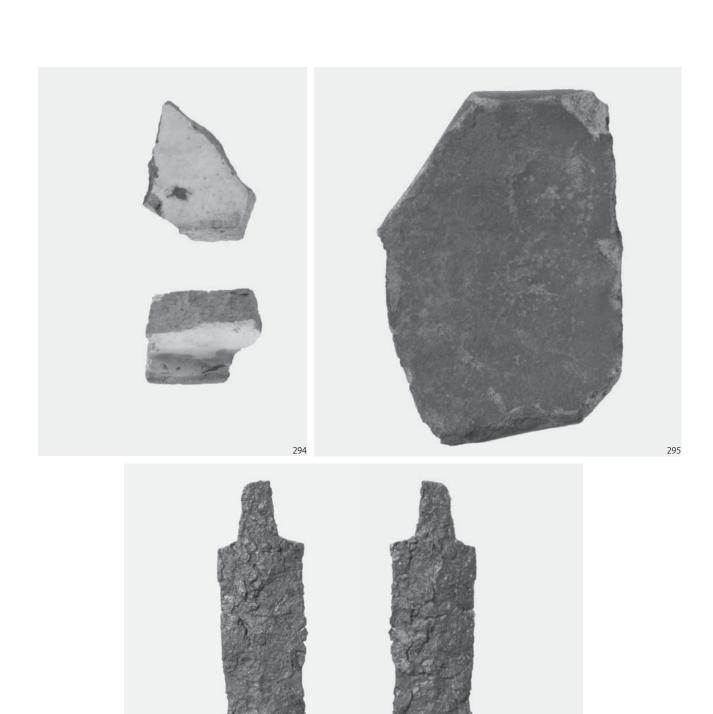


遺構外 出土遺物(2)





遺構外 出土遺物(4)



遺構外 出土遺物(5)

296

報告書抄録

ふりぇ	がな	し	ずいせ	きだい8じに	はっくつちょ	うさ	ほうこ	くし	よ			
書	名	清水遺跡第8次発掘調査報告書										
副書	名											
巻	次											
シリー	ズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書										
シリーズ番号		第 224 集										
編著者名		氏家信行 森谷康平										
編集機関		公益財団法人山形県埋蔵文化財センター										
所 在 地		〒 999-3246 山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地 TEL 023-672-5301										
発行年	月日	20	16年3	3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地			1ード 北緯 遺跡番号 ° ′ ″		"	東経。 ′ ″		発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因	
Lywe to the	やまがたけんな山形県本しおおあさるとします。までします。までします。までします。本では、本では、本では、本では、本では、大いのは、大いのは、大いのは、大いのは、大いのは、大いのは、大いのは、大いの	寸山 とり 取	6208	208—114	38° 31′	10"	140°	22′	23"	20140602	3,100	一般県道村山大石田線村山北1 IC設置工事
所収遺跡名	種別	主	な時代	主	な遺構			É	上な遺	物	特	記事項
しずぃせき 清水遺跡	狩場跡	縄代	文時	陥穴 2			石器 縄文土器				平安時代の竪穴住居 や、区画施設に囲ま れた主軸がほぼ一致 する建物群が検出され	
	集落跡	平代	竪穴住居 安時 掘立柱建物 区画施設 溝 土坑		7 J 11		土師器 須恵器 黒色土器 墨書土器 石製品 金属製品				た。遺物には墨書土 器の他、金属製の紡 錘車も出土している。 (文化財認定箱数:24) * 文化財認定箱数は清水遺跡第7次調査と合算	
要約	縄文時代 が確認さ 竪穴住 ぼ一致し	、平 れた 居に 、計画	安時代。 は工房 画的に西	の遺跡であ	る。縄文時(ものがある。 いる様相を呈	代の陥 建物 する。	穴と平 群は区 郡衙園	安時画施	代の配とを設ま	竪穴住居、排 考えられる濯 たは、地方豪	配立柱建物、 ちに囲まれ、	を測る広大な 土坑、溝など 主軸方向がほ なと推測される。

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 224 集

清水遺跡第8次発掘調査報告書

2016年3月31日発行

発行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター 〒 999 - 3246 山形県上山市中山字壁屋敷 5608番地 電話 023-672-5301

印刷 山形印刷株式会社 〒 990 - 2323 山形県山形市桜田東三丁目7番31号 電話 023 - 622 - 6291

